

令和2年度 昼間スクーリング(前期)の手引

スクーリング受講手続日程		新入生対象	体育実技のみ	
①	受講手続説明会	-	4/6(月)	-
②	受講申込開始日 (ポータルサイト)	3/1(日)		7/10(金)
③	履修登録締切日	3/13(金)		7/24(金)
	受講申込締切日 ※令和2年度の入学生は 2ページ参照	ポータルサイト【24:00まで】 窓口提出の場合【事務取扱時間内厳守】 郵送の場合【必着】		
④	受講資格審査 通知予定日	4/3(金)		8/14(金)
		ポータルサイトに掲載します。		
⑤	振込用紙発送予定日	4/3(金)	4/17(金)	8/14(金)
		発送予定日から5日経過しても通知が届かない場合は会計課に連絡してください。		
⑥	受講辞退手続締切日	4/10(金)		8/21(金)
		窓口提出の場合【事務取扱時間内厳守】 郵送の場合【必着】		
⑦	受講料納入期限	4/17(金)	4/28(火)	8/31(月)
		銀行窓口にて【厳守】 ※納入期限後の振込は認めません。		
⑧	結果通知予定	8月下旬		10月上旬
		ポータルサイトに掲載します。		

開講日程

昼間開講日程	4/7(火)~7/22(水)
補講予定日	7/20(月)
体育実技開講日程	9/15(火)~9/17(木)

開講日程

開講日程

年	月	日	月	火	水	木	金	土	
令和2年	4月				1	2	3	4	
		5	6 受講手續説明会	7 前期 昼1	8 前期 昼1	9 前期 昼1	10 前期 昼1	11	
		12	13	14 前期 昼2	15 前期 昼2	16 前期 昼2	17 前期 昼2	18	
		19	20	21 前期 昼3	22 前期 昼3	23 前期 昼3	24 前期 昼3	25	
		26	27	28 前期 昼4	29 昭和の日	30 前期 昼4	1 前期 昼4	2	
	5月	3 憲法記念日	4 みどりの日	5 こどもの日	6 前期 昼4	7 前期 昼5	8 前期 昼5	9	
		10	11	12 前期 昼5	13 前期 昼5	14 前期 昼6	15 前期 昼6	16	
		17	18	19 前期 昼6	20 前期 昼6	21 前期 昼7	22 前期 昼7	23	
		24	25	26 前期 昼7	27 前期 昼7	28 前期 昼8	29 前期 昼8	30	
		31	1	2 前期 昼8	3 前期 昼8	4 前期 昼9	5 前期 昼9	6	
	6月	7	8	9 前期 昼9	10 前期 昼9	11 前期 昼10	12 前期 昼10	13	
		14	15	16 前期 昼10	17 前期 昼10	18 前期 昼11	19 前期 昼11	20	
		21	22	23 前期 昼11	24 前期 昼11	25 前期 昼12	26 前期 昼12	27	
		28	29	30 前期 昼12	1 前期 昼12	2 前期 昼13	3 前期 昼13	4	
	7月	5	6	7 前期 昼13	8 前期 昼13	9 前期 昼14	10 前期 昼14	11	
		12	13	14 前期 昼14	15 前期 昼14	16 前期 昼15	17 前期 昼15	18	
		19	20 前期 補講日	21 前期 昼15	22 前期 昼15	23 海の日	24 スポーツの日	25	
		26	27	28	29	30	31	1	
	2	3	4	5	6	7	8		
	夏 休 み								
	9月	30	31	1	2	3	4	5	
		6	7	8	9	10	11	12	
		13	14	15 体育実技	16 体育実技	17 体育実技	18	19	
		20	21	22	23	24	25	26	
		27	28	29	30				

…授業日及び補講日

補講は7月20日(月)だけでなく、その他の曜日にも実施することがあります。補講が行われる場合、指定された補講日に出席する必要があります。

また、補講を行う時限は他講座の補講日程の関係上、必ずしも通常と同じ時限で開講されるものとは限りません。以上のことを承知した上で申込みをしてください。

はじめに

面接授業（スクーリング）とは、教員による直接の講義・演習・実技を受講することをいいます。その目的は、教材による在宅学修では十分に学修効果を上げることが困難な科目の一面を補い、教育効果を高めることにあります。このような主旨・目的から、スクーリングは卒業のための必修となっています。

本学の通信教育部では、学生に多くの受講機会が得られるよう、多種多様なスクーリングを開講しています。この『手引』は、その実施要領などをとりまとめて掲載しています。

スクーリングを受講希望する場合には、手続きの前にこの『手引』をよく読み、その指示に従って受講してください。

昼間スクーリングの特色

昼間スクーリングが他のスクーリングと異なる点は、通学課程と同形態の授業を行うことにあります。また、前期・後期と連続して受講することで、より学修効果が高まります。

なお、大学では適正規模の授業を実施し、かつ多くの学生が等しく受講機会を得られるように一人（受講者）当たりの受講制限を設けていますが、このスクーリングもその例外ではありません。

さらにこのスクーリングでは、2年生以上の学生を対象に卒業論文指導講座を設け、その指導の強化充実を図り、より優れた卒業論文となるよう指導します。

【受講の調整について】

スクーリングには、十分な教育効果を得るための適正な受講者数の基準が設定されています。受講申込者数が、適正受講者数でない場合、大学側で受講の調整を行うことがあります。

調整にあたっては、「受講機会の均等」の観点から、各申込者の受講調整履歴、スクーリング受講状況、単位修得状況、在学年数等を総合的に判断し、対象者を確定しますので、あらかじめご了承ください。

なお、講座の適正人数は、おおよそ下表の人数を目安としますが、講座の特性、スクーリングの形態、スクーリング会場の試験時定員数、パソコン台数及び受講学生の履修要件等により、下表によらない場合もあります。

講 座	受講者数の上限	受講者数の下限
外国語科目講座	65名	5名
演習講座	30名	5名
上記以外の講座	100名	10名

〔調整方法等〕

- 1 希望した講座が受講者数の上限を超えた場合、同じ曜日に開講されている同じ科目の講座に振り分けることがあります。
- 2 超過人数の状況により新たに講座を増設（分割）して開講する場合があります。
- 3 上記1・2の方法で対応できない場合、調整対象者は当該講座の受講ができません。
- 4 受講申込者数が下限に満たない場合、開講を取りやめることがあります。
- 5 受講許可講座以外の講座の受講は、認められません。また、一度決定した受講許可講座の追加・変更はできません。

目次

I	受講申込から受講料納入までの流れ	2
II	講座の選定	
1	受講講座の選定	6
2	「教職に関する科目」における新・旧科目について	8
3	「英語」科目のレベル標記について	8
III	時間割	
1	時間割	10
IV	開講講座表及び講座内容（シラバス）	
1	「開講講座表」の見方	12
2	開講講座表・シラバス・使用教材【曜日・時限順】	14
V	受講及び試験	
1	講座受講時の注意点	134
2	スクーリング結果の確認	135
VI	申込講座の許可と不許可	
1	講座振り分け及び受講不許可について	136
VII	受講準備	
1	通学定期券の購入手続	137
VIII	体育実技の受講について	138
IX	胸部X線検査	143
X	各種用紙	
	「為替」送付時の注意事項	146
	昼間スクーリング（前期）受講届	147
	昼間スクーリング（前期）体育実技受講届	149
	「スクーリング」受講講座変更届	151
	受講申込辞退願	153
	体育実技受講申込辞退願	155
	通学定期乗車券発行控	157
XI	付録	159

I 受講申込から受講料納入までの流れ 新入生

※このページは令和2年度入学生を対象とした案内です。それ以外の在学生は4ページを参照してください。

①受講手続説明会※ 4月6日(月)	本冊子を読み、受講手続方法から試験までの流れを確認。受講制限・時間割を確認し、受講講座を選択する。 ※昼間スクーリング受講希望者は必ず参加してください。
-----------------------------	---



②授業開始までの準備	授業期間は15週にわたります。シラバスや時間割をよく読み、受講講座を選択。特に下記の項目を事前に確認すること。 ①開講日程及び時間割 ②使用教材(教科書)の有無 ③準備学修 ④成績評価基準 【要確認】授業期間に出席可能なこと。
-------------------	--



③授業開始 第1週 4月7日(火) ～4月10日(金)	各授業の第1週目は、授業の方法、授業計画、準備学修、テキスト及び成績評価基準等についての説明を行った後、授業を行います。 ※昼間スクーリングは受講者数の関係から受講調整を行うことがあります。以下の内容を必ず確認してください。 【受講調整について】 受講希望者が多い場合、担当教員より受講制限を行うことがあります。この場合、第1週の授業に参加していない学生は、 たとえ受講申込みを行っても、授業を受けることができません 。特に「情報概論」(パソコン台数制限有)、外国語科目、実習科目は制限をかけることが多いため、必ず第1週の授業から出席するようにしてください。 また希望者が少ない講座は開講を取り止めることがあります。あらかじめご理解ご了承ください。(「受講の調整について」参照)
---	--



④履修登録・ 受講申込締切	申込締切：4月10日(金) (窓口提出)18時00分(事務取扱時間)まで 提出先：(郵送)提出締切日 必着 (窓口)教務課窓口提出 事務取扱時間内厳守 ※1 受講届で申し込んだ講座がわかるように必ず申込内容の控えを取り各自で保管してください。 ※2 提出期限を過ぎてからの追加・変更及び辞退はできません。4月10日(金)までに受講予定の全ての講座を決定した上で提出してください。
-------------------------	--



<p>⑤受講許可の確認</p>	<p>ポータルサイト上の「スクーリング・メディア授業情報一覧」にて申し込んだ講座が「申請許可」になっているか確認。</p> <p>必ず以下の内容を確認すること。</p> <p>※1 申込講座・時間割の確認及び担当講師 ※2 充当科目コード 特に外国語科目、各種演習科目は注意（後掲12ページ参照）。</p>
↓	
<p>⑥受講料の振込用紙発送</p>	<p>受講許可者には、スクーリング受講料の振込用紙を郵送します。</p> <p>発送予定日：4月17日（金）</p> <p>発送予定日から5日経過しても振込用紙が届かない場合は会計課へ連絡してください。</p>
↓	
<p>⑦受講料の納入</p>	<p>ポータルサイト及び「振込用紙」に記載された事項を確認の上、受講料を下記の納入期限までに納入してください。</p> <p>受講料納入期限：4月28日（火） 銀行窓口またはATM・インターネットバンキングで 納入（スクーリングの手引手続編16～19ページ参照）</p> <p>※受講料（1講座10,000円、情報概論は13,000円）</p>
↓	
<p>⑧昼間スクーリング（前期） の手続完了</p>	<p>昼間スクーリング（前期）の手続は完了です。 領収書・明細票等は、スクーリング受講中は必ず携行してください。</p>

I 受講申込から受講料納入までの流れ 在学生

※このページは令和2年度以前より在籍している在学生を対象とした案内です。令和2年度入学生は2ページを参照してください。

昼間スクーリングは例年と手続の流れが大きく変わりました。下記を必ず一読し、注意して手続を行って下さい。

大きな変更点は以下のとおりです。

- ・受講手続説明会を新入生のみ対象としました。
- ・受講開始後に設定されていた申込締切日及び受講許可の通知を、受講前に変更しました。
よって、受講後の申込、講座変更は不可となり、受講許可を受けた科目のみ参加できるようになりました。

①授業開始までの準備	授業期間は15週にわたります。シラバスや時間割をよく読み、受講講座を選択してください。特に下記の項目を確認すること。 ①開講日程及び時間割 ②使用教材（教科書）の有無 ③準備学修 ④成績評価基準 ※必ず、全ての授業に参加可能なことを確認して申込をしてください。
-------------------	---



②履修登録・受講申込	申込締切：3月13日（金）（ポータルサイト）締切日24時00分まで ※1 ポータルサイトからの申込のみのため、入力できない場合は事務取扱時間内に、教務課窓口までお越しください。 ※2 申込方法を問わず提出期限を過ぎてからの追加・変更はできません。 【受講調整について】 受講希望者が多い場合、担当教員より受講調整を行うことがあります。受講調整の結果、不許可の講座があった場合でも、原則、申込締切後に別の講座を申し込むことはできません。
-------------------	---



③受講許可の確認	ポータルサイト上の「スクーリング・メディア授業情報一覧」にて申し込んだ講座が「申請許可」になっているか確認。 受講許可公表日：4月3日（金） 特に下記の項目に注意してください。 ※1 申込講座・時間割の確認及び担当講師 ※2 充当科目コード、特に外国語科目・各種演習科目は注意（後掲12ページ参照）
-----------------	--



④受講料の振込用紙発送	<p>受講許可者には、スクーリング受講料の振込用紙を郵送します。 発送予定日：4月3日（金） 発送予定日から、5日経過しても振込用紙が届かない場合は会計課へ連絡してください。</p>
↓	
授業開始 4月7日（火）～	受講許可の下りた講座のみ受講することが出来ます。
許可講座の辞退	受講許可講座を辞退する場合、4月10日（金）までに書面で手続をとる必要があります。
↓	
⑤受講料の納入	<p>ポータルサイト及び「振込用紙」に記載された事項を確認の上、受講料を下記の納入期限までに納入してください。</p> <p>受講料納入期限：4月17日（金）銀行窓口またはATM・インターネットバンキングで納入 ※受講料は1講座10,000円、情報概論のみ13,000円 ※納入期限までに振り込むことが出来ない場合、受講することはできません。 <u>また、納入期限後の許可のない振込は受け付けません。</u></p>
↓	
⑥昼間スクーリング（前期）の手続完了	<p>昼間スクーリング（前期）の手続は完了です。 スクーリング受講中は領収書・明細票等を必ず携帯してください。</p>

Ⅱ 講座の選定

1 受講講座の選定

① 受講対象者及び受講条件

昼間スクーリング（前期）の受講者は、以下の受講条件を必ず守り、申込みをしてください。

1 受講申込対象者 (申込時点において右記の条件を満たすこと)	①年度授業料を納入していること、または所定の締切日までに納入が可能なこと。 ②昼間スクーリング（前期）受講料を納入期日までに納入が可能なこと。 ③昼間スクーリング（前期）の授業日程に出席できること。
2 受講講座数	【申込講座の上限】 14 講座まで 火曜日から金曜日までの各時限から1講座ずつ、最多で14講座まで申し込むことができます。 ※履修登録がされている科目のみ申し込みできます。 ※体育実技は上限に含みません。
3 受講制限	上記1, 2の条件を満たしていても、全ての講座を申し込めるわけではありません。下記の制限により申し込めない講座がありますので、項目を確認し、受講講座を選定してください。

② 受講制限について

すべての方がすべての講座を申し込めるものではありません。自分の学年・学科（専攻）、カリキュラム及びその他の理由により申し込むことができない講座があります。以下、それぞれの受講制限を掲載しますので、必ず確認の上、申込みをしてください。

(1) 配当学年による受講制限

ア 1 学年生

各期の「開講講座表」の「配当学年」欄に「1年」と記載されている講座のみ受講可能です。それ以外の講座は受講できません。

なお、講座によっては特定の学科（専攻）のみ受講を許可する講座があるので、各期の「開講講座表」の「制限・注意」欄で確認してください。

イ 2 学年生

各期の「開講講座表」の「配当学年」欄に「1年」又は「2年」と記載されている講座の受講が可能です。それ以外の講座は受講できません。

なお、講座によっては特定の学科（専攻）のみ受講を許可する講座があるので、各期の「開講講座表」の「制限・注意」欄で確認してください。

ウ 3・4 学年生

配当学年による受講の制限はありませんが、講座によっては特定の学科（専攻）のみ受講を許可する講座があるので、各期の「開講講座表」の「制限・注意」欄で確認してください。

(2) 科目履修生の受講制限

入学時の「履修申請書」で履修登録した科目に該当する講座のみ受講できます。

(3) シラバスによる受講制限

シラバスに、過去のスクーリングと積み重ね不可の記載がある場合、受講できません。

(4) その他の理由による受講制限

以下のいずれかに該当する場合、その講座は受講できません。

ア 既に所定単位を修得している科目及び単位修得方式が確定している科目を充当科目とする講座の受講

イ 履修登録をしていない科目を充当科目とする1講座の受講

ウ 受講の調整による受講制限

一部の講座については、申込希望者が講座の適正人員を超える場合があります。この場合、大学側で受講の調整を行います。

調整により、受講申込講座と異なる講座での受講を許可する場合や、受講不許可となる場合があります。

そのため、**必ずポータルサイト上の「スクーリング・メディア授業情報一覧」にて、許可された講座を受講してください**（受講許可講座と異なる講座の受講は、認められません）。

※受講届提出者は、「受講資格審査結果通知」を確認してください。

2 「教職に関する科目」における新・旧科目について

・平成 23 年度の名称変更について

平成 23 年度に下表の「教職に関する科目」4 科目については、科目名称が変更となり、平成 23 年度 1 学年入学者から学年進行により順次、新科目名での履修となります。

スクーリングの開講にあたっては、同一講座で新・旧両方の科目を充当科目として開講しますので、下表により適用となる充当科目を確認の上、受講申込みをしてください。

旧科目名		新科目名	
T10300	教育の思想	T10200	教育原論
T21400	道德教育の研究	T21300	道德教育の理論と方法
T21600	特別活動の研究	T21500	特別活動論
T30700	教育カウンセリング論	T30600	教育相談
旧科目名での履修対象者		新科目名での履修対象者	
右記以外の学生	入学年度	入学形態	
	平成 23 年度	1 学年入学生	
	平成 24 年度	1 学年入学生 2 学年編入・再入学生 科目履修生	
	平成 25 年度	1 学年入学生 2 学年編入・再入学生 3 学年編入・再入学生 科目履修生	
	平成 26 年度以降	全入学生	

3 「英語」科目のレベル標記について

昼間スクーリングの「英語」では、受講講座選択の参考として、授業内容のレベル（目安）を★で標記しています。受講講座の参考にしてください。

<レベル>★の数が増えるほど、難易度が上がります。

【★☆☆】 ⇔ 【★★☆☆】 ⇔ 【★★★☆☆】 ⇔ 【★★★★】
基礎 初級 中級 上級

※レベル標記はあくまで「目安」です。レベルの感じ方には、個人差があります。

また同一レベル標記でも講座により、難易度が異なる場合もあります。

必ずシラバス全体をよく読んだ上で、各自で判断してください。

※講座受講者の状況により、担当講師の判断で適宜調整を図りますので、あらかじめご了承ください。

Ⅲ 時間割

1 時間割

時限	火曜日		水曜日	
	講座名	担当講師名	講座名	担当講師名
1 時限目 9:00 } 10:30	心理学A	白川 真裕	政治学	関根 二三夫
	心理学B	芳賀 道匡	英語基礎A	和泉 周子
	英語C【初級】	塚田 英博	日本史入門	鍋本 由徳
	スピーチコミュニケーションI	アレックス ブラウン	経済原論 / 経済学原論B	前野 高章
	政治学特殊講義 I・II	佐藤 高尚	財政学総論 / 財政学	川又 祐
		マーケティング	雨宮 史卓	
2 時限目 10:40 } 12:10	心理学C	白川 真裕	英語H【中級】	森 晴代
	英語D【初級】	アレックス ブラウン	英語J【初級】	和泉 周子
	国文学基礎講義	野口 恵子	商法II	南 健悟
	英米文学演習B	塚田 英博	西洋史演習 I・II	藤井 信行
	経済学A	高橋 宏幸	経済学概論B	関谷 喜三郎
	雨宮 史卓			
3 時限目 13:00 } 14:30	英語E【初級】	マイケル ギルロイ	法学A	武田 茂樹
	日本政治史	石川 徳幸	英語K【初級】	北原 安治
	日本史演習 I・II	鍋本 由徳	刑法I	岡西 賢治
	経済原論 / 経済学原論A	陸 亦群	国文学基礎演習	野口 恵子
	国際経済論	前野 高章	英語音声学	森 晴代
	中国経済論	崔 晨	アメリカ経済論	羽田 翔
	雨宮 史卓			
4 時限目 14:40 } 16:10	英語F【初級】	マイケル ギルロイ	文化史A	渡邊 浩史
	科学哲学	江川 晃	憲法	名雪 健二
	国文学特殊講義 I・II	近藤 健史	日本思想史 I	島田 健太郎
	経済史総論A	飯島 正義	東洋史入門	綿貫 哲郎
	金融論	谷川 孝美	考古学入門	浜田 晋介
			東洋史特講 I	高綱 博文
5 時限目 16:20 } 17:50	哲学A	江川 晃	歴史学A	堀井 弘一郎
	英語G【中級】	町田 純子	国語学概論	保科 恵
	中国語 I・II	稲葉 明子	東洋史概説 / 東洋史概論	塚本 剛
	東洋史演習 I・II	高綱 博文		
	経済学概論A	前野 高章		
	小泉 徹			

開講日程

前 期	4 / 7 ~ 7 / 22	補講予定日	7 / 20
-----	----------------	-------	--------

木曜日		金曜日		体育実技	
講座名	担当講師名	講座名	担当講師名	講座名	教員名
文学	尾形 大	英語Q【初級】	大庭 香江	体育実技	高橋 正則
社会学A	服部 慶巨	イギリス文学史Ⅱ	猪野 恵也	【日程】9月15日～17日 【授業時間】9:00～17:30	
英語L【中級】	鈴木 ふうさ子	東洋思想史Ⅰ	本間 直人		
TOEIC A【中級】	町田 純子	西洋史入門	高草木 邦人		
行政学B	関根 二三夫	日本史概説/日本史概論	鍋本 由徳		
情報概論A	中村 典裕	経営学A	山田 敏之		
哲学B	中澤 瞳	経済学B	谷川 孝美		
英語M【中級】	岡田 善明	英語基礎C	大庭 香江		
民法Ⅰ	根本 晋一	フランス語Ⅰ・Ⅱ	大庭 克夫		
国文学演習	近藤 健史	英語学演習	小澤 賢司		
英語文学概説/英米文学概説B	鈴木 ふうさ子	西洋思想史Ⅰ	関谷 雄磨		
情報概論B	荒関 仁志				
法学B	根本 晋一	英語R【初級】	石川 勝		
英語基礎B	中村 則子	政治学原論	吉野 篤		
英語史	真野 一雄	国文学講義V(近代)	榎本 正樹		
史学概論B	高綱 博文	英作文Ⅱ	大庭 香江		
現代教職論	古賀 徹	哲学基礎講読	石井 友人		
歴史学B	渡邊 浩史	哲学C	中澤 瞳		
英語N【中級】	中村 則子	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ	中島 伸		
TOEIC B【初級】	八木 茂那子	国文学概論	山崎 泉		
民法ⅣB	根本 晋一	宗教学概論	合田 秀行		
西洋史特講Ⅰ	青山 由美子	商業史	竹内 真人		
英語科教育法Ⅰ	小澤 賢司	市場調査論	最上 健児		
		経営学B	所 伸之		
文化史B	渡邊 浩史	社会学B	服部 慶巨		
英語P【初級】	八木 茂那子	日本史特講Ⅰ	坂口 太助		
哲学演習B	中澤 瞳	商業政策	花田 哲郎		
経済史総論B	下斗米 秀之	簿記論Ⅰ	青木 隆		
教育の方法・技術論B	古賀 徹				

IV 開講講座表及び講座内容（シラバス）

1 「開講講座表」の見方

「開講講座表」の見方

1	講座コード	スクーリング開講講座を識別するために講座ごとに付された固有のコード番号です。 「受講届」の「講座コード」欄（4桁）には、この講座コードを記入してください。
2	開講講座名	講座の名称です。原則、科目名と同一ですが、「英語」等のように複数開講される講座については、講座名の後ろにアルファベット等の記号を付して各講座を識別します。
3	担当講師名	当該講座を担当する教員の氏名です。
4	開講単位数	受講講座の合格により修得できる単位数です。
5	充当科目（科目コード、科目名）	受講講座の合格により成績評価の対象となる科目コードと科目名です。 スクーリングの開講単位は「講座」であり、その「講座」に対してどの「科目（科目コード）」で受講するか（充当させるのか）を申告します。 多くの講座の充当科目は1講座につき1科目ですが、「英語」や「演習科目」のように受講者の単位修得状況により充当科目の選択が必要な講座もありますので、充当科目の選定は慎重に行ってください。 「受講届」の「充当科目コード」欄（6桁）には、この科目コードを記入してください。
6	併用	「スクーリング併用試験方式」による受講の対象講座か否を記載しています。「スクーリング併用試験方式」による受講ができない講座には、「×印」が記載されています。 昼間スクーリングは「スクーリング併用試験方式」による受講ができないため、全て「×印」が記載されています。
7	制限・注意	配 当 学 年 ここに記載されている学年に達していない場合は受講できません。 学部・学科（専攻）により受講可能な学年が異なる場合は、「受講条件」欄に記載されています。
		受 講 条 件 その他の受講制限及び諸注意等がある場合に記載されています。
8	オープン受講	オープン受講ができない講座には「×印」が記載されています。 記載がない講座はオープン受講申込可です。

2 開講講座表・シラバス・使用教材【曜日・時限順】

【火曜日】

時限	講座コード	開講講座名	担当講師名	単開 位 数講	充 当 科 目		制 限・注 意			受 オ ー プ ン 講		
					科 目 コ ー ド	科 目 名	併 用	配 当 学 年	受 講 条 件			
1 時 限	AB11	心 理 学 A	白川 真裕	2	B12100	心 理 学	×	1年				
	AB12	心 理 学 B	芳賀 道匡	2	B12100	心 理 学	×	1年				
	AB13	英 語 C	塚田 英博	1	C10100	英 語 I	×	1年	・ I～IVのいずれに該当させるのか 充当科目コードを必ず記入してください。	×		
					C10200	英 語 II						
					C10300	英 語 III		2年				
					C10400	英 語 IV						
AB14	スピーチコミュニケーションI	アレックス ブラウン	1	N30900	スピーチコミュニケーションI	×	2年				×	
AB15	政治学特殊講義I・II	佐藤 高尚	2	L311S0	政治学特殊講義I	×	2年	・ I, IIのいずれに該当させるのか 充当科目コードを必ず記入してください。				
				L312S0	政治学特殊講義II							
2 時 限	AB21	心 理 学 C	白川 真裕	2	B12100	心 理 学	×	1年				
	AB22	英 語 D	アレックス ブラウン	1	C10100	英 語 I	×	1年	・ I～IVのいずれに該当させるのか 充当科目コードを必ず記入してください。	×		
					C10200	英 語 II						
					C10300	英 語 III		2年				
					C10400	英 語 IV						
	AB23	国文学基礎講義	野口 恵子	2	M20100	国文学基礎講義	×	条件 参照			・ 文学専攻（国文学）のみ 1学年以上申込可。 ・ 上記以外は2学年以上 申込可。	
	AB24	英米文学演習B	塚田 英博	1	N404S0	英米文学演習I	×	3年			・ 文学専攻（英文学）のみ 申込可。 ・ I～IIIのいずれに該当 させるのか充当科目コード を必ず記入してください。	×
					N405S0	英米文学演習II						
N406S0					英米文学演習III							
AB25	経 済 学 A	高橋 宏幸	2	B11800	経 済 学	×	1年					
AB26	商 学 総 論 A	雨宮 史卓	2	S20100	商 学 総 論	×	条件 参照	・ 商学部のみ1学年以上申 込可。 ・ 上記以外は2学年以上申 込可。				

注意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。
その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

【火曜日】

時限	講座コード	開講講座名	担当講師名	単開 位 数 講	充 当 科 目		制 限 ・ 注 意			受オー プ ン 講
					科 目 コ ー ド	科 目 名	併 用	配 当 学 年	受 講 条 件	
3 時 限	AB31	英 語 E	マイケル ギルロイ	1	C10100	英 語 I	×	1年	・ I～IVのいずれに該当させるのか 充当科目コードを必ず記入してください。	
					C10200	英 語 II				
					C10300	英 語 III				
					C10400	英 語 IV				
	AB32	日本政治史	石川 徳幸	2	L30400	日本政治史	×	2年		×
	AB33	日本史演習 I・II	鍋本 由徳	1	Q401S0	日本史演習 I	×	3年	・ 史学専攻のみ申込可。 ・ I, IIのいずれに該当させるのか 充当科目コードを必ず記入してください。	
					Q402S0	日本史演習 II				
	AB34	経済原論/ 経済学原論 A	陸 亦群	2	R20100	経済原論	×	条件参照	・ 経済学部は1学年以上申込可。 ・ 文理・商学部は2学年以上 申込可。 ・ 政治経済学科は1学年以上 申込可。 ・ 法律学科は2学年以上申 込可。	
L20200					経済学原論					
AB35	国際経済論	前野 高章	2	R31100	国際経済論	×	2年			
AB36	中国経済論	崔 晨	2	R313S0	中国経済論	×	2年			
AB37	広告論	雨宮 史卓	2	S30900	広告論	×	2年			
4 時 限	AB41	英 語 F	マイケル ギルロイ	1	C10100	英 語 I	×	1年	・ I～IVのいずれに該当させるのか 充当科目コードを必ず記入してください。	
					C10200	英 語 II				
					C10300	英 語 III				
					C10400	英 語 IV				
	AB42	科学哲学	江川 晃	2	P31300	科学哲学	×	2年		
AB43	国文学特殊講義 I・II	近藤 健史	2	M311S0	国文学特殊講義 I	×	2年	・ I, IIのいずれに該当させるのか 充当科目コードを必ず記入してください。		
				M312S0	国文学特殊講義 II	×				
AB44	経済史総論 A	飯島 正義	2	R20200	経済史総論	×	条件参照	・ 経済学部は1学年以上申込可。 ・ それ以外は2学年以上申 込可。		
AB45	金融論	谷川 孝美	2	R31800	金融論	×	2年			

注意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。
その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

【火曜日】

時限	講座コード	開講講座名	担当講師名	単開 位 数講	充 当 科 目		制 限・注 意			受オ ー プ ン 講
					科 目 コ ー ド	科 目 名	併 用	配 当 学 年	受 講 条 件	
5 時 限	AB51	哲 学 A	江 川 晃	2	B10700	哲 学	×	1 年		
	AB52	英 語 G	町 田 純 子	1	C10100	英 語 I	×	1 年	・ I～IVのいずれに該当させるのか 充当科目コードを必ず記入してください。	
					C10200	英 語 II				
					C10300	英 語 III		2 年		
					C10400	英 語 IV				
	AB53	中 国 語 I・II	稲 葉 明 子	1	F10100	中 国 語 I	×	1 年	・ I, IIのいずれに該当させるのか 充当科目コードを必ず記入してください。	
					F10200	中 国 語 II				
AB54	東洋史演習 I・II	高 網 博 文	1	Q403S0	東洋史演習 I	×	3 年			
				Q404S0	東洋史演習 II					
AB55	経済学概論 A	前 野 高 章	2	R20300	経 済 学 概 論	×	条 件 参 照	・ 経済学部は1学年以上申込可。 ・ それ以外は2学年以上申込可。		
AB56	商学総論 B	小 泉 徹	2	S20100	商 学 総 論	×	条 件 参 照	・ 商学部のみ1学年以上申込可。 ・ 上記以外は2学年以上申込可。	×	

注意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。
その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔心理学 A〕

白川 真裕

- ◆**授業概要** 本講義では、心をどのようにとらえ、さらに日常生活の上での問題解決に役立てるかといった、心理学の基礎から応用までの主要領域について紹介する。また、それぞれの日常生活の中で、心理学やそれに関連した学問の理論や知見について、考えを巡らせる機会をもってもらう。
- ◆**学修到達目標** 心理学の基礎的・応用的知識を幅広く獲得することを目指す。また、人間の心の働きについて科学的に考える力を身につけることで、人々のさまざまな行動を心理学的な視点から理解し、説明できるようになることを目標とする。
- ◆**授業方法** 授業は主として講義形式で行う。ただ漫然と授業を聴くのではなく、考えながら聴講し、ノートを取りながら積極的に参加をするようつとめること。
- ◆**履修条件** 令和二年度昼間スクーリング(前期)に開講される他の心理学との積み重ねは不可。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容: ガイダンス、心理学のさまざまな分野 事前学修: シラバスの内容をよく確認しておく。 事後学修: 配布資料の内容を確認し、授業の内容をノート等に整理しておく。
2 回	授業内容: 心理学とは 事前学修: 心理学とはなにか、心とはなにかについて自分なりに考えておく。 事後学修: 配布資料の内容を確認し、授業の内容をノート等に整理しておく。
3 回	授業内容: 感覚・知覚 1: さまざまな感覚 事前学修: 人間の持つ感覚にはどのようなものがあるか、またその感覚から人間はどのような情報を得ているのか、自分なりに考えておく。 事後学修: 配布資料の内容を確認し、授業の内容をノート等に整理しておく。
4 回	授業内容: 感覚・知覚 2: 知覚の適応性と錯視 事前学修: 錯視について、自分なりに調べておく。 事後学修: 配布資料の内容を確認し、授業の内容をノート等に整理しておく。
5 回	授業内容: 感覚・知覚 3: かたちの知覚と奥行き知覚 事前学修: 第 3 回・第 4 回の授業の内容を確認しておく。 事後学修: 配布資料の内容を確認し、授業の内容をノート等に整理しておく。
6 回	授業内容: 高次知覚と初期認知 事前学修: 前回の授業の内容を確認しておく。 事後学修: 配布資料の内容を確認し、授業の内容をノート等に整理しておく。
7 回	授業内容: 注意: 注意の理論とメカニズム 事前学修: 自動車等の運転中の通話や歩きスマホがなぜ危険だと考えられるのか、自分なりに考えておく。 事後学修: 配布資料の内容を確認し、授業の内容をノート等に整理しておく。
8 回	授業内容: 記憶 1: 記憶の理論とメカニズム 事前学修: 記憶とはどのようなものか、自分なりに考えておく。 事後学修: 配布資料の内容を確認し、授業の内容をノート等に整理しておく。
9 回	授業内容: 記憶 2: 記憶の種類と特徴 事前学修: 効率よく記憶するために、どのような工夫ができるか(しているか)、自分なりに考えておく。 事後学修: 配布資料の内容を確認し、授業の内容をノート等に整理しておく。
10 回	授業内容: 学習 1: 学習の理論とメカニズム 事前学修: 学習にはどのようなタイプがあるか、自分なりに考えておく。 事後学修: 配布資料の内容を確認し、授業の内容をノート等に整理しておく。
11 回	授業内容: 学習 2: 効率的な学習方法 事前学修: 効率よく学習するために、どのような工夫ができるか(しているか)、自分なりに考えておく。 事後学修: 配布資料の内容を確認し、授業の内容をノート等に整理しておく。
12 回	授業内容: 思考・言語 1: 思考の発達と言語 事前学修: 人間は、普段どのくらい論理的に思考をしているのか、自分なりに考えておく。 事後学修: 配布資料の内容を確認し、授業の内容をノート等に整理しておく。
13 回	授業内容: 思考・言語 2: 人間の思考の特徴 事前学修: 配布資料 3 ページ目の問題を解いておく。 事後学修: 配布資料の内容を確認し、授業の内容をノート等に整理しておく。
14 回	授業内容: 振り返りとまとめ 事前学修: これまでの授業内容を再確認しておく。 事後学修: 試験に備えて授業内容を復習しておく。
15 回	授業内容: 理解度の確認(試験) 事前学修: 試験に備えて授業内容を復習しておく。 事後学修: これまでの授業内容を復習し、自分の回答が適切か確認する。

- ◆**教科書** [当日資料配布]
- ◆**参考書** 丸沼『心理学』鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃 第 5 版 東京大学出版会 2015
丸沼『心理学の基礎』山田一成・谷口明子 八千代出版 2014
- ◆**成績評価基準** 試験(80%)、授業参画度(20%)により総合的に評価する。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔心理学 B〕

芳賀 道匡

◆**授業概要** 心理学は、人の心とは何か、なぜあるのか、どのように働いているのか等の問いについて、科学的に検証する学問です。本講義では、私たちが日々経験している感情、認知、行動、性格などにおける疑問に、心理学の立場から考えます。具体的には、第1回から第4回で心身問題、生理的反応や学習、行動について（第Ⅰ部）、第6回から第9回でモノの知覚や心身の発達、記憶について（第Ⅱ部）、第11回から第14回で知能、性格、感情について（第Ⅲ部）概観しつつ、日々の経験と結びつけながら考えていきます。なお、第5回・第10回はそれぞれの日程における学習内容の復習とテストを、第15回は本講義の全日程における学習内容すべての復習とテストを行います。

◆**学修到達目標** ①心理学の構成概念、理論に関する知識を想起することができる
②経験している出来事と心理学の構成概念や理論とを結びつけることができる
③他の知識と照らし合わせ、新たな問いを考えることができる

◆**授業方法** (1)配布する資料およびスライド、教科書に基づき講義します。
(2)講義の一部では、模擬的な心理学実験や心理学の調査を体験してもらいます。

◆**履修条件** ・講義期間中、初回から休まず出席できること。
・事前にテキストを購入して予習と復習ができること。
・令和二年度昼間スクーリング（前期）に開講される他の心理学との積み重ねは不可。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回	授業内容	イントロダクション：心理学とは
	事前学修	テキスト p. 1-15 を予習のこと
	事後学修	テキスト、配布資料を復習のこと
2回	授業内容	生理：心と身体
	事前学修	テキスト p.17-34 を予習のこと
	事後学修	テキスト、配布資料を復習のこと
3回	授業内容	学習と行動1：学習とは
	事前学修	テキスト p.35-44 を予習のこと
	事後学修	テキスト、配布資料を復習のこと
4回	授業内容	学習と行動2：自発的な行動とは
	事前学修	テキスト p.44-54 を予習のこと
	事後学修	テキスト、配布資料を復習のこと
5回	授業内容	復習と小テスト1
	事前学修	テキスト、配布資料を復習のこと
	事後学修	テキスト、配布資料を復習のこと
6回	授業内容	知覚：まとまりを感じるとは
	事前学修	テキスト p.55-73 を予習のこと
	事後学修	テキスト、配布資料を復習のこと
7回	授業内容	感情：喜怒哀楽から共感へ
	事前学修	テキスト p.117-134 を予習のこと
	事後学修	テキスト、配布資料を復習のこと
8回	授業内容	認知1：その記憶、本当に正しいですか
	事前学修	テキスト p.75-94, p.297-301 を予習のこと
	事後学修	テキスト、配布資料を復習のこと
9回	授業内容	認知2：知能とは
	事前学修	テキスト p.95-116 を予習のこと
	事後学修	テキスト、配布資料を復習のこと
10回	授業内容	復習と小テスト2
	事前学修	テキスト、配布資料を復習のこと
	事後学修	テキスト、配布資料を復習のこと
11回	授業内容	性格1：タイプとは
	事前学修	テキスト p.135-142 を予習のこと
	事後学修	テキスト、配布資料を復習のこと
12回	授業内容	性格2：特性とは
	事前学修	テキスト p.142-154 を予習のこと
	事後学修	テキスト、配布資料を復習のこと
13回	授業内容	発達1：乳児期から幼児期まで
	事前学修	テキスト p.155-162 を予習のこと
	事後学修	テキスト、配布資料を復習のこと
14回	授業内容	発達2：児童期から老年期まで
	事前学修	テキスト p.162-180 を予習のこと
	事後学修	テキスト、配布資料を復習のこと
15回	授業内容	復習と試験
	事前学修	テキスト、配布資料を復習のこと
	事後学修	テキスト、配布資料を復習のこと

◆**教科書** 丸沼『心理学概論』 巖島行雄・横田正夫 第二版 啓明出版 2016年

◆**参考書** なし

◆**成績評価基準** 試験（70%）、小テスト（20%）、コメントシート（10%）

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

【英語 C】☆☆☆ オープン受講：不可

塚田 英博

◆**授業概要** 英文法を確認しながら、英文を正確に解釈し、その事項をアウトプットとしても効果をあげられることを目的とする。英文構造を土台に、英語圏の人々の思考形式も考慮に入れながら、英文を解釈していく。

◆**学修到達目標** 1. 英文の構造を認識し、英文に込められた表現内容を習得できる。
2. 英語表現に呼応した文章のリスニングができるようになる。
3. 英文法に沿った英語表現を明記できるようになる。

◆**授業方法** 英文和訳の箇所に関しては、文法事項を解説しながら英文の確認を行う。また、事前に当該箇所の英文和訳を提出してもらい、添削し返却する。巡回しながら各自の予習状況を確認し、授業を進めていくので、決められた予習箇所は確認しておくこと。予習が不完全な場合、減点対象になるので留意すること。授業最後に、確認として重要事項の英文での発話を行う。

◆授業計画 [各 90 分]

1回	授業内容: ガイダンス：授業の進め方、課題に関する説明をする。 事前学修: テキスト内の "Grammar Check" で取り上げられている文法事項をチェックし、苦手な項目、理解できていない項目を確認すること。 事後学修: 次回からの予習方法と予習箇所を確認すること。
2回	授業内容: Unit 1, 2の演習、解説。 事前学修: 文法事項の確認: 「時制」を参考書等で確認し、Unit 1, 2において事前に指示の有った箇所を予習しておくこと。 事後学修: Unit 1, 2において理解が不十分であった箇所をノートなどを活用し確認すること。
3回	授業内容: Unit 3の演習、解説。 事前学修: 文法事項の確認: 「冠詞・代名詞」を参考書等で確認し、Unit 3において事前に指示の有った箇所を予習しておくこと。 事後学修: Unit 3において理解が不十分であった箇所をノートなどを活用し確認すること。
4回	授業内容: Unit 4の演習、解説。 事前学修: 文法事項の確認: 「名詞」を参考書等で確認し、Unit 4において事前に指示の有った箇所を予習しておくこと。 事後学修: Unit 4において理解が不十分であった箇所をノートなどを活用し確認すること。
5回	授業内容: Unit 5の演習、解説。 事前学修: 文法事項の確認: 「比較表現」を参考書等で確認し、Unit 5において事前に指示の有った箇所を予習しておくこと。 事後学修: Unit 5において理解が不十分であった箇所をノートなどを活用し確認すること。
6回	授業内容: Unit 6の演習、解説。 事前学修: 文法事項の確認: 「未来時制の表現」を参考書等で確認し、Unit 6において事前に指示の有った箇所を予習しておくこと。 事後学修: Unit 6において理解が不十分であった箇所をノートなどを活用し確認すること。
7回	授業内容: Unit 7の演習、解説。 事前学修: 文法事項の確認: 「完了形」を参考書等で確認し、Unit 7において事前に指示の有った箇所を予習しておくこと。 事後学修: Unit 7において理解が不十分であった箇所をノートなどを活用し確認すること。
8回	授業内容: Unit 8の演習、解説。 事前学修: 文法事項の確認: 「受動態、使役構文」を参考書等で確認し、Unit 8において事前に指示の有った箇所を予習しておくこと。 事後学修: Unit 8において理解が不十分であった箇所をノートなどを活用し確認すること。
9回	授業内容: Unit 9の演習、解説。 事前学修: 文法事項の確認: 「話法」を参考書等で確認し、Unit 9において事前に指示の有った箇所を予習しておくこと。 事後学修: Unit 9において理解が不十分であった箇所をノートなどを活用し確認すること。
10回	授業内容: Unit 10の演習、解説。 事前学修: 文法事項の確認: 「進行形、助動詞」を参考書等で確認し、Unit 10において事前に指示の有った箇所を予習しておくこと。 事後学修: Unit 10において理解が不十分であった箇所をノートなどを活用し確認すること。
11回	授業内容: Unit 11の演習、解説。 事前学修: 文法事項の確認: 「不定詞、動名詞」を参考書等で確認し、Unit 11において事前に指示の有った箇所を予習しておくこと。 事後学修: Unit 11において理解が不十分であった箇所をノートなどを活用し確認すること。
12回	授業内容: Unit 12の演習、解説。 事前学修: 文法事項の確認: 「命令文、感嘆文」を参考書等で確認し、Unit 12において事前に指示の有った箇所を予習しておくこと。 事後学修: Unit 12において理解が不十分であった箇所をノートなどを活用し確認すること。
13回	授業内容: Unit 14の演習、解説。 事前学修: 文法事項の確認: 「関係詞」を参考書等で確認し、Unit 14において事前に指示の有った箇所を予習しておくこと。 事後学修: Unit 14において理解が不十分であった箇所をノートなどを活用し確認すること。
14回	授業内容: 試験及び解説 事前学修: 学習した範囲の文法事項、和訳での重要事項を確認すること。 事後学修: これまで学習してきた事項で、不完全であった箇所を再度確認すること。
15回	授業内容: Unit 15、及び前期で学んだ事項の総まとめ。 事前学修: p.76の英文を読み、意味の取れない箇所を確認すること。 事後学修: 英文読解のポイントを確認すること。

◆**教科書** 関函 Kickoff English Mystery テリー・オフライエン 三原 京他 南雲堂 2019年

◆**参考書** 英和辞書 (電子辞書も可) は持参すること。

◆**成績評価基準** 授業パフォーマンス (20%)、課題提出 (20%)、発話課題 (10%)、試験 (50%) 毎回出席することを前提に評価する。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例: 「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

【スピーチコミュニケーション I】 オープン受講：不可

アレックス ブラウン

- ◆**授業概要** This course is based on a topic based syllabus where students will learn vocabulary, language structures and functions commonly used with each topic. Students will perform activities using the language covered in groups.
- ◆**学修到達目標** This course is aimed at improving communication skills with a focus on speaking and listening. Efforts will be directed at using English in a natural context. Interaction with other classmates happens frequently.
- ◆**授業方法** The teacher will give instructions and examples as each topic is introduced. Students will prepare to execute tasks each class while using the target language to engage in discussions with other students.
- ◆**履修条件** The course is open to all students. The language and activities are set for pre-intermediate levels.
- ◆**授業計画 (各 90 分)**

1 回	授業内容: Welcome to Speech Communication 1 事前学修: Orientation and class introduction 事後学修: Study classroom language.
2 回	授業内容: Prepare to ask/answer icebreaker questions. 事前学修: Students will gather info from each other and record their findings 事後学修: Go over the notes for Topic 1.
3 回	授業内容: Topic 1 Daily Routines 事前学修: Listen to the audio and role play the script 事後学修: Complete homework.
4 回	授業内容: Prepare homework for review 事前学修: Create survey questions and ask 5 students. 事後学修: Prepare a report of your findings
5 回	授業内容: Report your findings to the group. 事前学修: Movie questions 事後学修: Vocabulary review
6 回	授業内容: Make sentences using the vocabulary. 事前学修: Ned Kelly activity 事後学修: Finish the fill in the blank activity.
7 回	授業内容: Review notes for character-driven stories. 事前学修: Topic 2 Past progressive stories. 事後学修: Review Topic 2 notes.
8 回	授業内容: Prepare for the activity, "the best part of my week was..." 事前学修: Intro to the Movie Report 事後学修: Research for your Movie Report
9 回	授業内容: Report to the group and hand in your Movie Report 事前学修: Create follow up questions for Movie Report Q&A. 事後学修: Review Topic 3 notes
10 回	授業内容: Topic 3 intro and activities 事前学修: Personality vocabulary 事後学修: Topic 3 Homework
11 回	授業内容: Study and complete the work on Personality 事前学修: Description games 事後学修: Prepare the survey questions for topic 3
12 回	授業内容: Study Appearance vocabulary 事前学修: Partner role plays 事後学修: Review notes on Appearance.
13 回	授業内容: Prepare for your vocab brainstorm session. 事前学修: Q&A forms on Appearance and Personality. 事後学修: Review vocabulary for Appearance and Personality.
14 回	授業内容: Prepare all class notes for a term review 事前学修: Complete the review guide 事後学修: Study for the up and coming tests
15 回	授業内容: Prepare for the Speaking Test 事前学修: Speaking Test and Writing Test 事後学修: Look forward to summer!

- ◆**教科書** [当日資料配布]
- ◆**参考書** [当日資料配布]
- ◆**成績評価基準** Grades will be based on participation and in-class assignments (60%), a mid-term report (10%) and a speaking test (15%) and writing test (15%).

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

(政治学特殊講義 I・II)

佐藤 高尚

◆**授業概要** 現代の政治を評価する際には、その評価の基礎となる判断基準が不可欠となる。では、どのような判断基準が必要とされるべきなのか——本講では、これを考える手掛かりとなる古今の政治観や政治構想を共同体や国家という政治単位の観点を中心に取上げ、各時代の問題状況とそれに対する政治的解決策を検討する。加えて、これらの議論が現代の政治を考える上でいかなる意味を持ちうるかを考察する。

◆**学修到達目標** ・「政治」および「デモクラシー」の源流ともいえる古典古代の政治観を知り、説明することができる。
・近代の政治観を学び、現代につながる要素を考察することにより、眼前の政治課題や社会問題を多角的に考察できるようになる。
・既存の政治制度や政策の基盤となる考え方、およびその形成過程を知り、政治的選択の多様な可能性を考慮できるようになる。

◆**授業方法** 講義形式で行う。
また授業中に意見・感想を求める場合がある。直接発言をもとめたり、資料についてペーパーに書いてもらったりすることがある。ペーパーへの講評は、翌回に実施予定。
本授業の事前学習・事後学習は各2時間を目安としている。

◆授業計画 (各 90 分)

1回	授業内容: ガイドンス 講義の流れ、評価方法、および教科書・参考書に利用の仕方について説明する。 事前学修: 事前にシラバスを熟読しておくこと。履修上確認しておきたい点をチェックしておくこと。 事後学修: 講義内で紹介した文献を各自手に取り、内容を確認すること。
2回	授業内容: 古代ギリシャとポリスの政治学 「政治」が誕生する古代ギリシャの政治状況、およびポリスという政治単位の特殊性を考える。 事前学修: ソクラテス、プラトン、アリストテレスが登場する時期の古代ギリシャの時代状況を調べておくこと。 事後学修: 古代ギリシャの政治の現代的意義を検討する。
3回	授業内容: プラトンと政治 プラトンの理想の政体を『ポリテイア』を中心に説明する。 事前学修: プラトンにおける正義の概念、および「哲人政治」について調べておくこと。 事後学修: プラトンの議論の問題点、および理論的可能性について検討する。
4回	授業内容: アリストテレスの国政論 アリストテレスのポリス認識とともに、彼の六政体論について講義を行う。 事前学修: 「人間はポリス的(社会)動物である」の意味を調べておくこと。 事後学修: プラトンとアリストテレスとの違いを確認しておくこと。
5回	授業内容: ポリスの解体と中世世界 ポリスの政治の終焉と中世キリスト教世界の誕生を、政治的観点から説明する。 事前学修: ポリスの政治が維持しえなくなった理由を、理論的側面・歴史的側面の両方から検討しておくこと。 事後学修: ポリスの世界から中世に移行する際、何が引き継がれ、何が断絶したのかを確認しておくこと。
6回	授業内容: アウグスティヌスと国家 アウグスティヌスの政治権力観を考察するとともに、教会との関係で説明される国家観の特徴について考える。 事前学修: アウグスティヌスを考える上でのキーワードである「神の国」と「地上の国」を調べておくこと。 事後学修: 非西欧世界・非キリスト教文化圏で、アウグスティヌスを学ぶ意義を検討すること。
7回	授業内容: 教皇権と皇帝権 中世世界の宗教(キリスト教)と政治の相克を、ゲラシウス理論を中心に考える。 事前学修: 「ベテロの鍵」理論と「帝国教会政策」とを調べておくこと。 事後学修: 6・7回の講義内容を整理し、異同を確認しておくこと。
8回	授業内容: 封建制と政治秩序 封建制化では「法」がどのような機能を果たしていたのかを検討するとともに、「法の支配」について考察する。 事前学修: 「法の支配」の意味内容について、確認しておくこと。 事後学修: 現代において「法の支配」の議論が再燃している理由を、講義と関連づけて検討すること。
9回	授業内容: トマス・アクィナスと普遍世界 トマス・アクィナスの目的論的秩序観を概観し、そこから導出される彼の政体論について講義を行う。 事前学修: トマス・アクィナスは「共通善」について、どのように考えていたのかを調べておくこと。 事後学修: 「共通善」を現代において考える意義について確認しておくこと。
10回	授業内容: 普遍的政治世界と政治的特殊性との対峙 ダンテとマルシリオの議論を手掛かりに中世末期の政治課題への対応を説明する。 事前学修: ダンテとマルシリオ・パードヴァ(パドヴァのマルシリウス)について、どのような人物であったのか、出自や経歴、主要著書などについて調べておくこと。 事後学修: 政治が不安定になる際、どのような選択肢を立てることが可能であるのかを、現代との関連で検討しておくこと。
11回	授業内容: 公会議主義の政治思想 ローマ教会の権威の衰退を概観した上で、公会議主義が国民国家形成と立憲主義の確立に寄与した側面を検討する。 事前学修: 「教会のパピロン捕囚」と「教会大分裂(シスマ)」について調べておくこと。 事後学修: 国民意識(ナショナリズム)の現代的意義と課題を、講義内容と比較して検討すること。
12回	授業内容: マキャヴェリと新しい政治観 ルネサンスの政治的意義を考察し、そのつながりのなかで権力と統治術を展開したマキャヴェリの意義について考察する。 事前学修: マキャヴェリ『君主論』(翻訳多数あり)を読んでおくこと。 事後学修: 従来とは異なるマキャヴェリの国家観の特徴を確認しておくこと。
13回	授業内容: 宗教改革と政治 ルターとカルヴァンの政治観を比較検討した上で、「寛容」の議論の登場とその後の展開を跡付ける。 事前学修: 「寛容」の言葉の本来の意味を調べておくこと。 事後学修: 現代においても「寛容」が議論されている理由を、講義と関連づけて検討すること。
14回	授業内容: 内乱と主権の絶対性 モナルコマキとボダンの主権論を中心に考察し、秩序が混乱を極める状況下での政治的選択肢を考える。 事前学修: 「主権」の意味内容について調べておくこと。 事後学修: 「主権」の機能のプラスの面、マイナスの面を確認しておくこと。
15回	授業内容: 講義総括および試験 事前学修: 期全体の講義内容を総復習しておく。 事後学修: これまでの講義内容を振り返り、政治を学ぶ意義について考える。

◆**教科書** 使用しない

◆**参考書** 教材『政治思想史 L30300』(通信教育教材)(教材コード 000082)

◆**成績評価基準** 期末試験(70%)、小テストやレポートなど(30%)を総合的に評価する。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔心理学 C〕

白川 真裕

- ◆**授業概要** 本講義では、心をどのようにとらえ、さらに日常生活の上での問題解決に役立てるかといった、心理学の基礎から応用までの主要領域について紹介する。また、それぞれの日常生活の中で、心理学やそれに関連した学問の理論や知見について、考えを巡らせる機会をもってもらう。
- ◆**学修到達目標** 心理学の基礎的・応用的知識を幅広く獲得することを目指す。また、人間の心の働きについて科学的に考える力を身につけることで、人々のさまざまな行動を心理学的な視点から理解し、説明できるようになることを目標とする。
- ◆**授業方法** 授業は主として講義形式で行う。ただ漫然と授業を聴くのではなく、考えながら聴講し、ノートを取りながら積極的に参加をするようつとめること。
- ◆**履修条件** 令和二年度昼間スクーリング（前期）に開講される他の心理学との積み重ねは不可。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	ガイダンス、心理学のさまざまな分野
	事前学修	シラバスの内容をよく確認しておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し、授業の内容をノート等に整理しておく。
2 回	授業内容	心理学とは
	事前学修	心理学とはなにか、心とはなにかについて自分なりに考えておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し、授業の内容をノート等に整理しておく。
3 回	授業内容	感覚・知覚 1：さまざまな感覚
	事前学修	人間の持つ感覚にはどのようなものがあるか、またその感覚から人間はどのような情報を得ているのか、自分なりに考えておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し、授業の内容をノート等に整理しておく。
4 回	授業内容	感覚・知覚 2：知覚の適応性と錯視
	事前学修	錯視について、自分なりに調べておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し、授業の内容をノート等に整理しておく。
5 回	授業内容	感覚・知覚 3：かたちの知覚と奥行き知覚
	事前学修	第 3 回・第 4 回の授業の内容を確認しておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し、授業の内容をノート等に整理しておく。
6 回	授業内容	高次知覚と初期認知
	事前学修	前回の授業の内容を確認しておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し、授業の内容をノート等に整理しておく。
7 回	授業内容	注意：注意の理論とメカニズム
	事前学修	自動車等の運転中の通話や歩きスマホがなぜ危険だと考えられるのか、自分なりに考えておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し、授業の内容をノート等に整理しておく。
8 回	授業内容	記憶 1：記憶の理論とメカニズム
	事前学修	記憶とはどのようなものか、自分なりに考えておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し、授業の内容をノート等に整理しておく。
9 回	授業内容	記憶 2：記憶の種類と特徴
	事前学修	効率よく記憶するために、どのような工夫ができるか（しているか）、自分なりに考えておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し、授業の内容をノート等に整理しておく。
10 回	授業内容	学習 1：学習の理論とメカニズム
	事前学修	学習にはどのようなタイプがあるか、自分なりに考えておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し、授業の内容をノート等に整理しておく。
11 回	授業内容	学習 2：効率的な学習方法
	事前学修	効率よく学習するために、どのような工夫ができるか（しているか）、自分なりに考えておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し、授業の内容をノート等に整理しておく。
12 回	授業内容	思考・言語 1：思考の発達と言語
	事前学修	人間は、普段どのくらい論理的に思考をしているのか、自分なりに考えておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し、授業の内容をノート等に整理しておく。
13 回	授業内容	思考・言語 2：人間の思考の特徴
	事前学修	配布資料 3 ページ目の問題を解いておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し、授業の内容をノート等に整理しておく。
14 回	授業内容	振り返りとまとめ
	事前学修	これまでの授業内容を再確認しておく。
	事後学修	試験に備えて授業内容を復習しておく。
15 回	授業内容	理解度の確認（試験）
	事前学修	試験に備えて授業内容を復習しておく。
	事後学修	これまでの授業内容を復習し、自分の回答が適切か確認する。

- ◆**教科書** 〔当日資料配布〕
- ◆**参考書** 〔丸沼〕『心理学』 鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃 第 5 版 東京大学出版会 2015
〔丸沼〕『心理学の基礎』 山田一成・谷口明子 八千代出版 2014
- ◆**成績評価基準** 試験（80%）、授業参画度（20%）により総合的に評価する。

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

【英語 D】☆☆☆ オープン受講：不可

アレックス ブラウン

- ◆**授業概要** Students will learn authentic English by studying the dialogue in the scenes from the movie Big Fish by Tim Burton, starring Ewan MacGregor. Each class will involve answering comprehension questions and group discussion on various themes in the movie. Students will be asked to hand in their work to be reviewed by the teacher periodically.
- ◆**学修到達目標** This course gives students the opportunity to improve listening comprehension and discussion skills in a group setting. This movie offers a wide range of challenging topics for discussion. Students are expected to participate actively.
- ◆**授業方法** Students will be given daily worksheets to complete. The tasks will vary from day to day but actively listening and follow up discussion questions will be the norm. Role plays of the movie script will take place from time to time.
- ◆**履修条件** There are no pre-requisites for this course so it is open to everyone. Students must be prepared with a folder to keep handouts in and be ready to take notes.
- ◆**授業計画 (各 90 分)**

1 回	授業内容: Class orientation. 事前学修: Ice breakers and student profiles. 事後学修: Search Big Fish on IMBD and browse this info.
2 回	授業内容: Scene 1 viewing and worksheets. 事前学修: List the movie's characters. 事後学修: Predict the next scene.
3 回	授業内容: Scene 2 viewing and worksheets. 事前学修: Complete the discussion questions. 事後学修: Read over scene 1-3 scripts.
4 回	授業内容: Scene 3 viewing and worksheets 事前学修: Complete discussion questions 事後学修: Finish the vocabulary matching activity.
5 回	授業内容: Review the 1st quarter of the film 事前学修: Character discussion 事後学修: Complete character descriptions.
6 回	授業内容: Scene 4 viewing and comprehension. 事前学修: Vocabulary review. 事後学修: Prepare your script reading parts.
7 回	授業内容: Scene 5 viewing and questions 事前学修: Introduction to mid-term report. 事後学修: Research your mid-term report.
8 回	授業内容: Report presentations 事前学修: Post report discussions. 事後学修: Prepare for Scene 6
9 回	授業内容: Scene 6 viewing and discussions 事前学修: Check answers in groups 事後学修: Review scenes 4, 5, 6
10 回	授業内容: Complete the Review Worksheet. 事前学修: Scene 7 viewing and questions. 事後学修: Practice the vocabulary for scene 7.
11 回	授業内容: Scene 8 viewing. 事前学修: Practice role plays in the script. 事後学修: Complete the geographical worksheet.
12 回	授業内容: Scene 9 viewing and discussion 事前学修: Pronunciation practice. 事後学修: Read notes for character development.
13 回	授業内容: Final scene viewing. 事前学修: Review scenes 7 - 10. 事後学修: Review all discussion questions and character profiles.
14 回	授業内容: Test review questions 事前学修: Replay key scenes from the film 事後学修: Study for the test.
15 回	授業内容: Multiple choice and True/False test 事前学修: Complete the essay question. 事後学修: Congratulations on course completion.

- ◆**教科書** 当日資料配布
- ◆**参考書** 当日資料配布
- ◆**成績評価基準** Class participation and class work submission is part of the grade (60%) A report will be graded at midterm. (10%) A test will be given on the last day (30%).

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔国文学基礎講義〕

野口 恵子

- ◆**授業概要** 大学で学ぶ古典は、高等学校で学んだ古典とは大きく異なる。まずはその違いを理解し、大学では何をどのように学ぶべきかを考える。そのため、授業では『万葉集』の作品を取り上げながら、いかに両者が違っているのかを具体的に示す。文脈をきちんと読むことの重要性に、面白さに気付くことを心掛ける。同時に、大学の学修で必要とされる文献の調査方法や読み方、レポートの書き方についても修得する。
- ◆**学修到達目標** 文学作品の表現には、どのような特性があるのかを学ぶ。また、一つ一つの言葉の意味をつなぎ合わせるような読み方はしない。作品全体における表現の効用をも考える。このような営みを通して、文学作品における読み方の基礎能力を身につける。
- ◆**授業方法** 講義形式で行う。板書はメモ程度しかしないので、自分にとって必要な情報はノートに書き、「自分」のノートを作成すること。学生自らの思考を促すために、不定期で「復習テスト」を実施する。なお、本授業の事前学習・事後学修の時間は各2時間を目安とする。
- ◆**授業計画〔各90分〕**

回数	授業内容	授業内容と進め方の説明：大学で学ぶとはどのようなことか？
1回	事前学修 事後学修	自宅にある高等学校の国語教科書や参考書等に書かれている『万葉集』の概要を確認する。 授業内容をまとめたノートを整理し、確認しておく。
2回	授業内容 事前学修 事後学修	『万葉集』について学ぶ。 地元や大学の図書館で『万葉集』に関する文献を読み、高等学校の教科書との違いを理解する。 授業内容をまとめたノートを整理し、確認しておく。
3回	授業内容 事前学修 事後学修	田辺福麻呂の宴席歌を読みながら、地名表現が詠まれている歌の特性を学ぶ。 田辺福麻呂について、どのような歌人なのかを確認しておく。 授業内容をまとめたノートを整理し、確認しておく。
4回	授業内容 事前学修 事後学修	田辺福麻呂の宴席歌を読みながら、宴席歌の特性を学ぶ。 田辺福麻呂の宴席歌としての役割について考えておく。 授業内容をまとめたノートを整理し、確認しておく。
5回	授業内容 事前学修 事後学修	大伴家持の宴席歌を読みながら、宴席での「黄葉」の役割を学ぶ。 『万葉集』で見られる「黄葉」の特性を考えておく。 授業内容をまとめたノートを整理し、確認しておく。
6回	授業内容 事前学修 事後学修	大伴家持の宴席歌を読みながら、宴席における歌の展開方法について学ぶ。 大伴家持について、どのような歌人なのかを確認しておく。 授業内容をまとめたノートを整理し、確認しておく。
7回	授業内容 事前学修 事後学修	大伴坂上郎女の宴席歌を読みながら、女歌の特性を学ぶ。 大伴坂上郎女について、どのような歌人なのかを確認しておく。 授業内容をまとめたノートを整理し、確認しておく。
8回	授業内容 事前学修 事後学修	大伴坂上郎女の宴席歌を読みながら、宴席における女歌の特性を学ぶ。 女歌とはどのような特性があるのかを確認しておく。 授業内容をまとめたノートを整理し、確認しておく。
9回	授業内容 事前学修 事後学修	大伴坂上郎女における宴席歌を読みながら、氏族の宴席についての実態を学ぶ。 大伴氏族について、確認しておく。 授業内容をまとめたノートを整理し、確認しておく。
10回	授業内容 事前学修 事後学修	大伴坂上郎女の宴席歌を読みながら、禁酒令と宴席との関わりを学ぶ。 禁酒令について、確認しておく。 授業内容をまとめたノートを整理し、確認しておく。
11回	授業内容 事前学修 事後学修	藤原仲麻呂の宴席歌を読みながら、社交の具としての宴席歌の効用を学ぶ。 藤原仲麻呂について、どのような歌人なのかを確認しておく。 授業内容をまとめたノートを整理し、確認しておく。
12回	授業内容 事前学修 事後学修	藤原仲麻呂の宴席歌を読みながら、宴席における常套的表現のあり方を学ぶ。 宴席歌の特性について、確認しておく。 授業内容をまとめたノートを整理し、確認しておく。
13回	授業内容 事前学修 事後学修	藤原仲麻呂の宴席歌を読みながら、君臣の秩序について学ぶ。 古代における君臣の秩序について、確認しておく。 授業内容をまとめたノートを整理し、確認しておく。
14回	授業内容 事前学修 事後学修	天皇臨席の宴席の実態を学ぶ。 天皇臨席の宴席と、それ以外の宴席との違いを確認しておく。 授業内容をまとめたノートを整理し、確認しておく。
15回	授業内容 事前学修 事後学修	天皇臨席の宴席における、宴席歌の展開について学ぶ。 宴席での歌の展開方法について確認しておく。 授業内容をまとめたノートを整理し、確認しておく。

- ◆**教科書** 丸沼『訳文 万葉集』森淳司編 笠間書院 2007年
- ◆**参考書** 丸沼『〈新編日本古典文学全集〉万葉集①～④』小島憲之他校注・訳者 1996年 小学館
- ◆**成績評価基準** 復習テストの評価を含む平常点（30%）・レポート試験（70%） ※毎回出席することを前提としており、遅刻は認めない。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」[学生番号]および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

【英米文学演習 B】オープン受講：不可

塚田 英博

◆**授業概要** Ernest Hemingway の *The Old Man and the Sea* を読む。まず Ernest Hemingway の紹介をし、Hemingway の文学史上での位置付けを紹介する。そして難解な文章に出会った場合、英文法を駆使して内容を把握していく。その際に、内容を追うだけではなく、Ernest Hemingway 流の英文構成、時代背景を考慮しながら分析していく。

◆**学修到達目標** 1. 英文法を駆使しながら、文学作品を読むことができる。
2. 作品鑑賞ができるようになる。
3. Ernest Hemingway が置かれた「失われた世代」の背景に触れることができる。

◆**授業方法** 学生による和訳発表、問題点の発表が中心。ハンドアウトを作成してもらい、それを土台に授業を進行していく。授業計画はおおよその目安である。進度によっては授業計画通りに進まない場合がある。翻訳でよいので『老人と海』は読んでおくこと。また、割り当て箇所以外の箇所も予習しておくこと。

◆**履修条件** 前期のみ、後期のみ受講も可能であるが、学習効果を上げるためには、前期及び後期の連続受講が望ましい。

◆授業計画 (各 90 分)

1回	授業内容: Ernest Hemingway の紹介及び、ハンドアウト作成の割り当て。 事前学修: 文学史などで <i>The Old Man and the Sea</i> の粗筋等を確認しておくこと。 事後学修: Ernest Hemingway の文学史上での位置付けを確認すること。
2回	授業内容: <i>The Old Man and the Sea</i> 読解 1頁から3頁。ハンドアウトのサンプルを配布し、作成の仕方を説明する。 事前学修: 1頁から3頁までを文構造を把握しながら読むこと。 事後学修: 授業で行った箇所を音読をしながら、内容を鑑賞すること。
3回	授業内容: <i>The Old Man and the Sea</i> 読解 4頁から7頁。 事前学修: 4頁から7頁までを文構造を把握しながら読むこと。 事後学修: 授業で行った箇所を音読をしながら、内容を鑑賞すること。
4回	授業内容: <i>The Old Man and the Sea</i> 読解 8頁から11頁。 事前学修: 8頁から11頁までを文構造を把握しながら読むこと。 事後学修: 授業で行った箇所を音読をしながら、内容を鑑賞すること。
5回	授業内容: <i>The Old Man and the Sea</i> 読解 12頁から15頁。 事前学修: 12頁から15頁までを文構造を把握しながら読むこと。 事後学修: 授業で行った箇所を音読をしながら、内容を鑑賞すること。
6回	授業内容: <i>The Old Man and the Sea</i> 読解 16頁から19頁。 事前学修: 16頁から19頁までを文構造を把握しながら読むこと。 事後学修: 授業で行った箇所を音読をしながら、内容を鑑賞すること。
7回	授業内容: <i>The Old Man and the Sea</i> 読解 20頁から23頁。 事前学修: 20頁から23頁までを文構造を把握しながら読むこと。 事後学修: 授業で行った箇所を音読をしながら、内容を鑑賞すること。
8回	授業内容: <i>The Old Man and the Sea</i> 読解 24頁から27頁。 事前学修: 24頁から27頁までを文構造を把握しながら読むこと。 事後学修: 授業で行った箇所を音読をしながら、内容を鑑賞すること。
9回	授業内容: <i>The Old Man and the Sea</i> 読解 28頁から32頁。 事前学修: 28頁から32頁までを文構造を把握しながら読むこと。 事後学修: 授業で行った箇所を音読をしながら、内容を鑑賞すること。
10回	授業内容: <i>The Old Man and the Sea</i> 読解 33頁から37頁。 事前学修: 33頁から37頁までを文構造を把握しながら読むこと。 事後学修: 授業で行った箇所を音読をしながら、内容を鑑賞すること。
11回	授業内容: <i>The Old Man and the Sea</i> 読解 38頁から42頁。 事前学修: 38頁から42頁までを文構造を把握しながら読むこと。 事後学修: 授業で行った箇所を音読をしながら、内容を鑑賞すること。
12回	授業内容: <i>The Old Man and the Sea</i> 読解 43頁から47頁。 事前学修: 43頁から47頁までを文構造を把握しながら読むこと。 事後学修: 授業で行った箇所を音読をしながら、内容を鑑賞すること。
13回	授業内容: <i>The Old Man and the Sea</i> 読解 48頁から52頁。 事前学修: 48頁から52頁までを文構造を把握しながら読むこと。 事後学修: 授業で行った箇所を音読をしながら、内容を鑑賞すること。
14回	授業内容: 試験、及び解説 事前学修: 時間を十分かけ、前回授業で扱った箇所までの英文を読んでおくこと。 事後学修: 複数の解釈を考えながら、此処までの箇所を鑑賞すること。
15回	授業内容: <i>The Old Man and the Sea</i> の映像を見ながら、原作との差異を分析する。さらにレポートを回収する。 事前学修: レポート課題に取り組み、完成させること。 事後学修: 問題点の指摘を複数検討すること。

◆**教科書** 丸沼 THE OLD MAN AND THE SEA Ernest Hemingway 南雲堂 2006年 222刷

◆**参考書** 丸沼『老人と海』福田恒存訳 新潮文庫
英和辞書(電子辞書可)は必ず持参すること。

◆**成績評価基準** 試験(50%) 発表(30%) 最終レポート(20%) 毎回出席することを前提に評価する。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔経済学 A〕

高橋 宏幸

- ◆**授業概要** 本講義では、経済学の基礎知識を身に付けたいという人を対象に、経済学の入門的な基礎内容を解説していきます。この講義では特に、経済学の歴史の概要および個々の家計や企業の行動とそれによる市場の動きを学ぶミクロ経済学を解説します。ミクロ経済学に関する基礎用語、基礎的な理論内容を理解することを目的とします。
- ◆**学修到達目標** ミクロ経済学の基礎知識を習得することにより、現代の経済社会における現況や経済問題を自ら見極め読み解くことができるようになることを到達目標とします。
- ◆**授業方法** 講義形式で板書やその解説を中心に進めます。必要に応じてプリントを使用することもあります。授業に欠かさず出席をし、しっかりとノートをとることが重要です。
- ◆**履修条件** 前期のみの受講、後期のみの受講も可能だが、学修効果を上げるため、前期・後期の連続受講が望ましい。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	本講義における目標や目的、方法、講義内容についての概説。経済とは何かを考える
	事前学修	シラバスに目を通しておくこと
	事後学修	今回の講義内容をノートやシラバス等で確認・復習しておくこと
2 回	授業内容	経済学とはどのような学問か① 経済学の歴史を学ぶことで経済学とは何かを考える
	事前学修	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと
	事後学修	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと
3 回	授業内容	経済学とはどのような学問か② 経済学の歴史を学ぶことで経済学を学ぶ意味について考える
	事前学修	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと
	事後学修	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと
4 回	授業内容	経済主体と生産・消費の循環の基本的な仕組みを理解し「市場」を捉える
	事前学修	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと
	事後学修	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと
5 回	授業内容	経済学とその分析の基本条件（前提）
	事前学修	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと
	事後学修	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと
6 回	授業内容	消費者行動と需要曲線の導出および変化
	事前学修	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと
	事後学修	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと
7 回	授業内容	生産者行動と供給曲線の導出および変化
	事前学修	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと
	事後学修	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと
8 回	授業内容	市場均衡と市場の基本的なメカニズム
	事前学修	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと
	事後学修	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと
9 回	授業内容	市場の変化：様々な出来事が市場に与える影響や市場変化が示す意味を学ぶ
	事前学修	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと
	事後学修	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと
10 回	授業内容	市場と効率性：市場における消費者や生産者の利益と市場の効率性を学ぶ
	事前学修	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと
	事後学修	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと
11 回	授業内容	不完全競争市場の種類や特徴
	事前学修	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと
	事後学修	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと
12 回	授業内容	市場は万能か① 外部性、公共財
	事前学修	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと
	事後学修	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと
13 回	授業内容	市場は万能か② 情報の不完全性：財の性質や経済主体の行動に関する情報の非対称性について
	事前学修	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと
	事後学修	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと
14 回	授業内容	市場システムと現代社会 市場は社会をどこまで調整可能かを考える。
	事前学修	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと
	事後学修	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと
15 回	授業内容	総括と試験
	事前学修	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと
	事後学修	講義全体の内容をノート等で確認・復習しておくこと

- ◆**教科書** 使用しない。
- ◆**参考書** 教材『経済学 B11800』通信教育教材（教材コード 000450）
- ◆**成績評価基準** 毎回出席することを前提として、最終試験（100%）で評価します。

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔商学総論 A〕

雨宮 史卓

◆**授業概要** 商学は、ビジネスと社会経済との融合領域の学問であるため、ビジネス活動が集約する「市場」について多面的な観点から総合的に学ぶ。全体的には、なるべく取りつきやすく、理解しやすいように具体的なケースを交えて解説し、商業の役割・機能といった幅広い知識の習得を目指す。そのことで、個人や個別企業の視点、社会経済的視点の双方から商業を捉えられるようになる。

◆**学修到達目標** 1 商業の起源から現在の日本市場における商業の変遷を様々な観点から理解できるようになる。

2 生産と消費の間を架橋する流通を理解し、流通の社会的機能や意義、流通段階の戦略を考察できる。

3 売買取引を行う、小売機関、卸売機関、これらの構造と変化及び消費者と商業や流通との関りを理解できるようになる。

◆**授業方法** ターン前半はテキストに沿いながら、商業とは何か、商業の多様な概念、商業学説について学ぶ。ターン後半は流通政策やマーケティングを中心とした広範な知識習得を目指す。必要に応じて資料を配布する。また、その日の授業の後半で、主要なテーマについてのリアクションペーパー（小論文）の提出を求める。

◆**履修条件** 後期商学総論との継続受講が望ましい。昼間S（前期）の商学総論Bとの積み重ね不可。

◆授業計画 (各 90 分)

1回	授業内容: ガイダンス 授業の進め方 商学を学ぶことの意義 商業とは何か 事前学修: テキスト1頁～23頁をよく読んでおくこと。 事後学修: 授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分と配布資料を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
2回	授業内容: 商業の起源と発展 事前学修: 配布資料をよく読んでおくこと。 事後学修: 授業の内容を整理し、配布資料の必要箇所をノートにまとめること。
3回	授業内容: 商業における市場 事前学修: 配布資料をよく読んでおくこと。 事後学修: 授業の内容を整理し、配布資料の必要箇所をノートにまとめること。
4回	授業内容: 日本型商業・流通構造の特質 事前学修: テキスト51頁～55頁をよく読んでおくこと。 事後学修: 授業の内容をノートに整理し、テキストの該当箇所を読んで、ノートにまとめておくこと。
5回	授業内容: マーケティングの誕生と4P 事前学修: 配布資料の図表を確認しておくこと。 事後学修: 授業の内容をノートに整理し、配布資料の図表をノートに書き写しておくこと。
6回	授業内容: 無形財と有形財 商品調達 事前学修: 配布資料の図表を確認しておくこと。 事後学修: 授業の内容をノートに整理し、配布資料の図表をノートに書き写しておくこと。
7回	授業内容: 製品戦略 事前学修: テキスト130頁～131頁、134頁～135頁をよく読んでおくこと。 事後学修: 商品における製品とサービスの違いを確認しておくこと。
8回	授業内容: 流通戦略 事前学修: テキスト95頁～119頁をよく読んでおくこと。 事後学修: 流通過程における、それぞれの段階の機能・役割をノートにまとめておくこと。
9回	授業内容: 価格設定と価格戦略 事前学修: テキスト131頁～133頁をよく読んでおくこと。 事後学修: 授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分と配布資料を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
10回	授業内容: 販売促進 事前学修: 配布資料とテキスト139頁～147頁をよく読んでおくこと。 事後学修: 授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分と配布資料を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
11回	授業内容: 商流と物流 事前学修: 配布資料をよく読んでおくこと。 事後学修: 授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分と配布資料を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
12回	授業内容: 現代の流通特性、流通の変革 事前学修: 配布資料をよく読んでおくこと。 事後学修: 授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分と配布資料を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
13回	授業内容: 時間の概念と商業 事前学修: 配布資料、配布データに目を通しておくこと。 事後学修: 授業の内容をノートに整理し、指示された配布資料の図やデータをノートに書き写しておくこと。
14回	授業内容: 授業の総復習 事前学修: 配布資料の各項目をノートとテキストで確認しておくこと。 事後学修: 要点項目として配布資料に挙げたものを、再確認し授業内容をノートに整理しておくこと。
15回	授業内容: テストと解説 事前学修: 配布資料の項目をテキスト、ノートで学習しておくこと。 事後学修: テキストの前期箇所を読み返し、それぞれの当該箇所をノートで確認し、前期の授業内容の全体像を理解すること。

◆**教科書** 教材『商学総論 S20100』通信教育教材（教材コード 000356）

〔当日資料配布〕 必要に応じて資料を配布する

◆参考書

◆**成績評価基準** テスト（40%）、小論文（40%）、平常点（20%） 授業の取り組み、小論文、テストにより総合的に評価します

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔英語 E〕★★☆

マイケル ギルロイ

- ◆**授業概要** To enhance students' reading, listening comprehension, writing skills, grammar, enlarge vocabulary and boost self confidence.
- ◆**学修到達目標** Help students' develop aural and oral fluency through engaging content and practical practices. Units are thematically structured, including topics which appear in daily conversations.
- ◆**授業方法** Students will work individually, in pairs and in groups to complete in class exercises. Activities include reading, writing, listening, role-plays and discussions.
- ◆**履修条件** 令和元年度昼間スクーリング (前期)「英語A」「英語M」(マイケルギルロイ)とは積み重ね不可。
令和2年度昼間スクーリング (前期)「英語F」(マイケルギルロイ)とは積み重ね不可。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	Introductions - Greeting to know each other.
	事前学修	Enthusiasm, dictionary, paper and pencil.
	事後学修	Will be decided. (W. B. D.)
2 回	授業内容	Family and Friends.
	事前学修	Homework (H/W), think about "Family"
	事後学修	W. B. D.
3 回	授業内容	Friends.
	事前学修	H/W, think about "Customs"
	事後学修	W. B. D.
4 回	授業内容	Customs - Japan.
	事前学修	H/W
	事後学修	W. B. D.
5 回	授業内容	Custom - Global.
	事前学修	H/W review
	事後学修	W. B. D.
6 回	授業内容	Education.
	事前学修	H/W review
	事後学修	W. B. D.
7 回	授業内容	Sports 1.
	事前学修	H/W review
	事後学修	W. B. D.
8 回	授業内容	Sports 2.
	事前学修	H/W review
	事後学修	W. B. D.
9 回	授業内容	Work.
	事前学修	H/W review
	事後学修	W. B. D.
10 回	授業内容	Food 1.
	事前学修	H/W review
	事後学修	W. B. D.
11 回	授業内容	Food 2.
	事前学修	H/W review
	事後学修	W. B. D.
12 回	授業内容	Studying English
	事前学修	H/W review
	事後学修	W. B. D.
13 回	授業内容	Health
	事前学修	H/W review
	事後学修	W. B. D., and course review.
14 回	授業内容	Review / Warm up / Test.
	事前学修	Study of all topics covered.
	事後学修	Brainstorm summer.
15 回	授業内容	Summer Topic.
	事前学修	Last week's H/W.
	事後学修	Have a wonderful summer vacation.

- ◆**教科書** 丸沼 “English Listening and Speaking Patterns 2” Andrew E. Bennett, NAN' UN-DO
〔当日資料配布〕 Supplementary handouts. Interactive games.
- ◆**参考書** なし
- ◆**成績評価基準** Grades will be allocated based on attendance, participation, completed assignments and a final exam.

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔日本政治史〕 オープン受講：不可

石川 徳幸

◆**授業概要** 本講義では、近代日本において展開された政治を通史のかたちで学んでいく。歴史的文脈を正しく把握するためには、時代ごとに区切って学ぶことは必ずしも得策ではないが、便宜上、本講義では幕末から明治前期を対象とする。史料に基づいて通説を批判的に検証しながら、日本における近代国家の形成過程に対する理解を深める。

◆**学修到達目標** 歴史を考察するための基本的な方法を理解し、批判的に史料を読むことができる。
幕藩体制が崩壊した過程を、内的要因と外的要因を踏まえて説明することができる。
明治新政府が進めた集権化政策・近代化政策について、具体的に説明することができる。
当時の国際情勢を踏まえて日本が抱えていた条約問題を理解し、条約改正運動の展開を説明することができる。

◆**授業方法** 基本的には、通信教育教材（教科書）の章立てに沿うかたちで、史料や最新の研究成果を紹介しながら講義を進める。授業の内容は、あくまでも初学者を対象として構成しているが、高校までの歴史科目で扱われている基本的な出来事や人物に関しては、おおむね理解していることを前提に話を進める。受講にあたっては、かならずノートを用意すること。

◆**履修条件** 令和元年度昼間スクーリング（前期）「日本政治史」との積み重ね不可。
※夏期スクーリングや昼間スクーリング（後期）との積み重ねは可能。

◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容：イントロダクション 事前学修：シラバスを確認しておくこと。 事後学修：ノートの取り方を確認すること。
2回	授業内容：幕藩体制の動揺 事前学修：教科書第1章第1節を読んでおくこと。 事後学修：ノートを整理し、幕末期の対外的危機や藩政改革について理解する。
3回	授業内容：開国 事前学修：教科書第1章第2節を読んでおくこと。 事後学修：ノートを整理し、安政の五力国条約の歴史的意義を理解する。
4回	授業内容：尊王攘夷運動 事前学修：教科書第2章第1節を読んでおくこと。 事後学修：ノートを整理し、尊王攘夷や公武合体の論理を理解する。
5回	授業内容：幕府権力の衰退 事前学修：教科書第2章第2節を読んでおくこと。 事後学修：ノートを整理し、八月十八日の政変や長州征討の歴史的意義を理解する。
6回	授業内容：幕府の終焉① 事前学修：教科書第2章第3節を読んでおくこと。 事後学修：ノートを整理し、公儀政体論の論理を理解する。
7回	授業内容：幕府の終焉② 事前学修：教科書第2章第3節を読んでおくこと。 事後学修：ノートを整理し、大政奉還や王政復古の号令の歴史的意義を理解する。
8回	授業内容：新政権の骨格 事前学修：教科書第3章第1節を読んでおくこと。 事後学修：ノートを整理し、版籍奉還や廃藩置県の歴史的意義を理解する。
9回	授業内容：集権化政策 事前学修：教科書第3章第2節を読んでおくこと。 事後学修：ノートを整理し、藩閥有司政権の統治機構を理解する。
10回	授業内容：近代化政策 事前学修：教科書第3章第3節を読んでおくこと。 事後学修：ノートを整理し、地租改正や殖産興業政策の歴史的意義を理解する。
11回	授業内容：反政府運動 事前学修：教科書第4章第1節を読んでおくこと。 事後学修：ノートを整理し、明治六年の政変や西南戦争の歴史的意義を理解する。
12回	授業内容：立憲政治への胎動 事前学修：教科書第4章第2節を読んでおくこと。 事後学修：ノートを整理し、明治十四年の政変の歴史的意義を理解する。
13回	授業内容：内閣制度の創設 事前学修：教科書第4章第3節第1項～第2項を読んでおくこと。 事後学修：ノートを整理し、内閣制度の制定過程と目的を理解する。
14回	授業内容：条約改正交渉 事前学修：教科書第4章第3節第3項～第5項を読んでおくこと。 事後学修：ノートを整理し、条約改正問題と大同団結運動について理解する。
15回	授業内容：前期の講義内容の総括 事前学修：ノートを見返し、教科書や参考文献で補うこと。 事後学修：日本における近代国家の形成過程についてポイントを整理しておくこと。

◆**教科書** 題材『日本政治史 L30400』通信教育教材（教材コード000452）

◆**参考書** 〔当日資料配布〕スライドの一部を印刷し、資料として提供することがある
〔丸沼〕※必要に応じて、授業のなかで紹介する

◆**成績評価基準** 筆記試験（95%）の結果をもとに成績評価を行う。なお、全体の3分の1を超える欠席がある場合は、試験を受けても評価の対象にはならない。小テストの内容や積極的な受講態度を加味する（5%）。

注意 E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔日本史演習Ⅰ・Ⅱ〕

鍋本 由徳

◆**授業概要** 史学専攻生に必要な技能に史料読解と論文作成があります。論文を作成するためには、論文の構成や書き方を知る必要があります。本演習では、事前学修を踏まえて、課題設定・作業・報告をおこない、論文読解に必要な知識・技術、卒論に向かう姿勢の修得をめざします。史料専門調査員としての活動を活かし、史料の検索・収集・整理、史料から導かれる史実認定の方法を指導します。なお、学修効果を高めるため、後期継続受講が望ましい。

◆**学修到達目標** 1. 論文検索・目録作成・アウトライン作成の技術を身につける。
2. 論文を読む際に必要な、文章読解のための知識と技術を身につける。
3. 日本史卒業論文作成のための、資料収集法や論点整理などの基本的技術を身につける。
4. 受講生が自ら、卒業論文の作成計画を立て、作業をおこなえる技術と姿勢を身につける。

◆**授業方法** 個人作業とグループワーク（G）の併用です。グループワークは、課題設定から課題解決までをおこなう問題解決型学習（PBL）やピア評価・グループ内評価を基本形式とします。この演習では、事前学修で作成したシートを使ってグループワークをおこないますので、事前学修なしで参加したり、欠席するとグループ学修や成果発表準備に支障が生じます。受講（オープン受講含む）の際は十分に注意してください。

◆授業計画〔各90分〕

回数	授業内容	事前学修	事後学修
1回	授業内容：日本史演習の計画と到達目標 事前学修：シラバスを熟読し、自身の学修到達目標を考えておく。 事後学修：授業方針を踏まえて、事前に考えた目標を修正し、学修方針を立てる。		
2回	授業内容：日本史研究に必要なスキル(1) 文献の区分 事前学修：事前シートに記されている文献を区分する課題に取り組む。 事後学修：誤った箇所を重点的に復習し、間違いなく区分できるまで繰り返す。		
3回	授業内容：日本史研究に必要なスキル(2) 文献の検索と選択 事前学修：事前シートに記されている文献検索に関わる課題に取り組む。 事後学修：自身の研究テーマに即した文献を検索し、文献一覧を作成してみる。		
4回	授業内容：日本史研究に必要なスキル(3) 論文の構成を知る 事前学修：事前配布論文を読み、事前シートに記された課題に取り組む。 事後学修：自身の研究テーマに関わる論文について、その構成をまとめてみる。		
5回	授業内容：日本史研究に必要なスキル(4) アウトラインを確認する。 事前学修：配付論文の流れをまとめ、事前シートの課題に取り組む。 事後学修：グループで討論した結果を踏まえ、もう一度アウトラインを作成する		
6回	授業内容：先行研究に対する姿勢(1) なぜ先行研究が重要なのか 事前学修：配付論文の学説史を熟読し、著者の先行研究への評価をまとめておく。 事後学修：自身の研究テーマに関わる先行研究について調べてリストアップする。		
7回	授業内容：先行研究に対する姿勢(2) 先行研究を系統立てて整理する。 事前学修：事前配布プリントを熟読し、当日の作業のイメージを作っておく。 事後学修：自身の研究テーマに関するキーワードを考え、論文を分類する。		
8回	授業内容：疑問点や課題点の抽出 論じたい課題を設定してみる 事前学修：第7回での成果を熟読して、テーマとしたい点を各自考えておく。 事後学修：当日の討論などを踏まえて、課題設定の仕方を振り返る。		
9回	授業内容：課題の意義と実現可能性 適切なテーマの設定とは 事前学修：事前配布プリントに記入し、当日の討論に備えておく。 事後学修：章・節ごとの要旨の記述バランスに注意し、その主張の筋道をまとめる。		
10回	授業内容：史料の収集と整理(1) テーマに関わる史料をカード化して整理する 事前学修：課題論文の全体要旨を文章化して、授業に備える。 事後学修：グループで討論した結果を踏まえ、再修正をおこなう。		
11回	授業内容：史料の収集と整理(2) カード化した史料の精査と選定 事前学修：注釈から歴史資料を抜き出し、事前配布プリントに記入しておく。 事後学修：グループで討論した結果を踏まえ、複数の論文のカードを作成する。		
12回	授業内容：報告への準備作業(1) アウトラインの作成と討論 事前学修：事前配布プリントやレジュメのテンプレートに必要な事項を記入しておく。 事後学修：討論した結果を通して、自身の弱点を把握し、克服につとめる。		
13回	授業内容：報告への準備作業(2) グループレジュメの完成 事前学修：前回の内容を踏まえ、分担すべき作業をおこなっておく。 事後学修：グループ見解と個人見解の違いを整理し、レポート作成に備える。		
14回	授業内容：成果報告会 グループ間発表 質疑応答 事前学修：役割分担を確認し、質疑応答での想定問答をイメージしておく。 事後学修：各グループでの発表を通して、それぞれの着眼点をまとめる。		
15回	授業内容：報告講評と、論文講読・課題発見・問題解決を振り返る 事前学修：第1回から第14回までの学修内容を整理しなおしておく。 事後学修：授業全体の方法を振り返り、自身の弱点克服に向けての方策を考える。		

◆**教科書** [当日資料配布] 随時必要な資料を配付します

◆**参考書** 配布プリントで適宜紹介します

◆**成績評価基準** グループ発表（20%）、最終課題レポート（40%）、授業内小課題（20%）、グループ活動評価（20%）の総合評価
※15回全出席を前提とした評価です。

注意 E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔経済原論 / 経済学原論 A〕

陸 亦群

- ◆**授業概要** 本講義では、完全競争市場における経済主体の行動、市場メカニズム、資源配分の効率性に関する問題と、不完全競争市場における経済主体の行動、資源配分の効率性及び市場の限界に関する問題の学修を主とする。応用・展開科目を学ぶ土台を築く。
- ◆**学修到達目標** ミクロ経済学において、市場を構成する家計や企業といった各経済主体の選択行動の基礎理論と市場メカニズムについて学び、そして「市場の失敗」を生む諸要因を学び、市場メカニズムの限界を認識すると同時に、それをどのように克服していくかについての理解を深める。この講義を通じて、ミクロ経済学全般の「基礎知識」を習得し、現実の経済現象に対して「経済学的な考え方」を理解し、「分析手法」を身につけることができる。
- ◆**授業方法** 本講義は教材の内容を中心にパワーポイントと板書で授業を進める。経済学の理論を理解することを目的とし、経済学とはどのような学問であるのかという点を中心に授業を進める。現実の経済の動きを把握するために、必要に応じて時事経済関連の新聞・雑誌記事等を資料として配布・解説する。また、講義内で課題を設ける場合、その解説は講義内で行うようにする。
- ◆**履修条件** 令和2年度昼間スクーリング(前期)に開講される他の「経済原論 / 経済学原論」との積み重ねは不可。
- ◆**授業計画 (各 90 分)**

1回	授業内容 事前学修 事後学修	経済学とは何かについて 講義の進め方について確認し、経済学とは何かなどについて学修する。 経済学とはどのような学問であるのかを考えておく。 講義の内容を整理し、配布資料を読んで、重要なポイントを整理する。
2回	授業内容 事前学修 事後学修	経済循環について 世界や日本の経済循環と市場について学修する。 配布資料、教科書・参考書などから経済循環と市場の特徴について確認する。 講義内容をもとに、経済循環について整理する。
3回	授業内容 事前学修 事後学修	経済学の分析視点について ミクロ経済学とマクロ経済学の分析視点について学修する。 配布資料、教科書・参考書などから経済学の分析視点を確認する。 講義内容をもとに、ミクロ経済学とマクロ経済学の分析視点について整理する。
4回	授業内容 事前学修 事後学修	キーコンセプトについて 経済学におけるいくつかの重要なコンセプトを学修する。 配布資料、教科書・参考書などから経済学の基本的な概念を確認する。 講義内容をもとに、第1回から第4回までの内容を整理する。
5回	授業内容 事前学修 事後学修	消費者行動の理論① 効用、無差別曲線、限界効用、限界代替率、予算制約線について学修する。 配布資料、教科書・参考書などから消費者行動の基本事項を確認する。 講義内容をもとに、効用最大化について整理する。
6回	授業内容 事前学修 事後学修	消費者行動の理論② 所得や価格の変化と最適消費点の変化について学修する。 前回の講義内容を復習し、消費者行動の基本理論を確認する。 講義内容をもとに、代替効果や所得効果について整理する。
7回	授業内容 事前学修 事後学修	生産者行動の理論① 企業行動と生産関数について学修する。 配布資料、教科書・参考書などから生産者行動の基本事項を確認する。 講義内容をもとに、生産関数について整理する。
8回	授業内容 事前学修 事後学修	生産者行動の理論② 企業行動と費用について学修する。 前回の講義内容を復習し、生産者行動の基本理論を確認する。 講義内容をもとに、利潤最大化について整理する。
9回	授業内容 事前学修 事後学修	生産者行動の理論③ 最適生産の決定について学修する。 前回までの講義内容を復習し、生産者行動の理論を整理する。 講義内容をもとに、消費者行動および生産者行動の理論を整理する。
10回	授業内容 事前学修 事後学修	市場の均衡について 完全競争市場の均衡と効率性について学修する。 配布資料、教科書・参考書などから市場取引と資源配分のメカニズムを確認する。 講義内容をもとに、市場の均衡について整理する。
11回	授業内容 事前学修 事後学修	不完全競争市場 - 独占市場 - 独占市場について学修する。 配布資料、教科書・参考書などから不完全競争市場とは何かを確認する。 講義内容をもとに、独占市場について整理する。
12回	授業内容 事前学修 事後学修	不完全競争市場 - 寡占市場と独占的競争市場 - 寡占市場と独占的競争市場について学修する。 配布資料、教科書・参考書などから独占的競争市場について確認する。 講義内容をもとに、寡占市場と独占的競争市場について整理する。
13回	授業内容 事前学修 事後学修	外部性、不確実性、不完全情報 市場の失敗、不確実性、情報の非対称性について学修する。 配布資料、教科書・参考書などから市場の失敗について確認する。 講義内容をもとに、外部性、不確実性と不完全情報について整理する。
14回	授業内容 事前学修 事後学修	理解度の確認 消費者行動と生産者行動の諸理論をもとに、完全競争市場の均衡がどのように導かれるのかについて整理する。 これまで配布した資料を熟読し、要点をノートにまとめる。 講義内容の要点項目を再確認し、講義内容をノートに整理する。
15回	授業内容 事前学修 事後学修	試験および総まとめ 講義で学修した内容の総確認を行う。 全配布資料から講義の要点をまとめる。 講義および試験をふまえ、ミクロ経済学の基礎理論について再確認する。

- ◆**教科書** [当日資料配布] 各回で必要な講義資料を配布する。
[丸沼]『ミクロ経済学(第3版)』伊藤元重 日本評論社 2018年
- ◆**参考書** [丸沼]『入門ミクロ経済学』井堀利宏 第3版 新世社 2019年
[丸沼]『入門ミクロ経済学』嶋村紘輝他 中央経済社 2002年
- ◆**成績評価基準** 試験(70%)、講義内課題(30%)。毎回出席することを前提として評価し、基礎理論を身に付けているかを判定する。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔国際経済論〕

前野 高章

- ◆**授業概要** グローバル化の進展に伴い、国際貿易の拡大や海外直接投資が経済に与える影響は非常に大きいものとなっている。本講義では国際経済の発展過程をたどり、戦後の世界経済発展の歴史、国際分業の基礎理論としての比較優位論、貿易政策および海外直接投資の基礎理論を学び、グローバル経済の進展および国際経済問題を理解する土台を作り上げることが目標とする。
- ◆**学修到達目標** 本講義では、現実の国際経済の動きを念頭に置きながら、国際分業体制の変化・進展に沿って国際貿易理論がどのように展開されてきているのかを理論的に把握することを通じて、国際経済現象をモデル化し分析する能力を養い、変化の激しいグローバル経済の特徴や課題を理解・考察し説明することができるようになる。
- ◆**授業方法** 授業は講義形式を基本とする。教科書および配布資料にもとづき、板書とパワーポイントで講義を行う。必要に応じて講義関連資料および経済関連の新聞・雑誌記事等を資料として配布し解説する。また、講義内で課題を設ける場合、その解説は講義内で行うようにする。学修方法については、初回授業時に説明する。
- ◆**履修条件** 経済学概論、経済学原論、経済学などでミクロ経済学の基礎理論を学修してから履修する方が望ましい。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容 国際経済論とは何かについて 講義の進め方について確認し、国際経済論とはどのような学問であるのかなどについて学修する。
	事前学修 経済学における国際経済論の位置づけについて確認する。
	事後学修 講義の内容を整理し、配布資料を読んで、講義内容を理解する。
2 回	授業内容 現在の国際貿易の特徴 貿易データを用いて、近年の国際貿易の特徴を学修する。
	事前学修 配布資料、教科書、参考書などから国際貿易の拡大の要因を確認する。
	事後学修 講義内容をもとに貿易の拡大要因について整理する。
3 回	授業内容 グローバル経済の成り立ち 世界経済の生成と発展について学修する。
	事前学修 配布資料、教科書、参考書などから世界経済の生成時期を把握する。
	事後学修 講義内容をもとに世界経済の生成時期の経済について整理する。
4 回	授業内容 貿易理論① 貿易の利益について学修する。
	事前学修 配布資料、教科書、参考書などから伝統的貿易理論について確認する。
	事後学修 講義内容をもとに、貿易の利益について整理する。
5 回	授業内容 貿易理論② 絶対優位論、比較優位論について学修する。
	事前学修 配布資料、教科書、参考書などから比較優位論とは何かについて確認する。
	事後学修 講義内容をもとに、絶対優位論と比較優位論の特徴について整理する。
6 回	授業内容 新古典派の貿易理論 新古典派の貿易理論である H-O 理論について学修する。
	事前学修 配布資料、教科書、参考書などから生産要素比率と比較優位について確認する。
	事後学修 講義内容をもとに、新古典派の貿易理論について整理する。
7 回	授業内容 近代的貿易理論 リンダー理論および産業内貿易理論について学修する。
	事前学修 配布資料、教科書、参考書などから新貿易理論の特徴を確認する。
	事後学修 講義内容をもとに、産業内貿易理論について整理する。
8 回	授業内容 海外直接投資と多国籍企業 グローバル化する企業行動について学修する。
	事前学修 配布資料、教科書、参考書などから FDI 理論について確認をする。
	事後学修 講義内容をもとに企業の海外進出とその態様について整理する。
9 回	授業内容 貿易政策 関税政策などの保護貿易政策がもたらす影響を学修する。
	事前学修 配布資料、教科書、参考書などから関税政策とは何かについて確認する。
	事後学修 講義内容をもとに、貿易政策が経済に与える影響を整理する。
10 回	授業内容 国際貿易と企業 現代の国際貿易理論について学修する。
	事前学修 配布資料、教科書、参考書などから企業の異質性の概念について確認する。
	事後学修 講義内容をもとに、新々貿易理論について整理する。
11 回	授業内容 現代国際貿易理論の展開 現代の国際貿易理論の発展を事例を踏まえながら学修する。
	事前学修 配布資料、教科書、参考書などからフラグメンテーションやアグロメレーションについて確認する。
	事後学修 講義内容をもとに、伝統的貿易理論から現代の貿易理論についてそれぞれの特徴を整理する。
12 回	授業内容 東アジアの生産ネットワーク GVCs (Global Value Chains) について学修する。
	事前学修 配布資料、教科書、参考書などから現代の国際分業の特徴について確認する。
	事後学修 講義内容をもとに東アジアの生産ネットワークの特徴について整理する。
13 回	授業内容 自由貿易と保護貿易 現代の通商政策の特徴について学修する。
	事前学修 配布資料、教科書、参考書などから通商政策における課題について確認をする。
	事後学修 講義内容をもとに 20 世紀と 21 世紀の通商政策の特徴の違いを整理する。
14 回	授業内容 理解度の確認 グローバル経済の生成と国際貿易理論の展開について再確認する。
	事前学修 これまで配布した資料や教科書および参考書を熟読し、要点をノートにまとめる。
	事後学修 講義内容の要点項目を再確認し、講義内容をノートに整理する。
15 回	授業内容 試験および総まとめ 講義で学修した内容の総確認を行う。
	事前学修 全配布資料および教科書から講義の要点をまとめる。
	事後学修 講義および試験をふまえ、国際分業の変遷について再確認する。

- ◆**教科書** [当日資料配布] 各回で必要な講義資料を配布する。
[丸沼]『基礎から学ぶ国際経済と地域経済』若杉隆平編著 文真堂 2020 年
- ◆**参考書** [随時]『国際経済論〔改訂版〕R31100』日本大学通信教育部教材
- ◆**成績評価基準** 試験（80%）、および、平常点（20%）から評価する。毎回出席することを前提として成績をつける。

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔中国経済論〕

崔 晨

- ◆**授業概要** 中国は改革開放政策から 40 年間、中国の経済が著しく成長を続けてきた。この背景には中国経済の特徴のある社会や経済システム、政策の実施などによるものである。本講義では中国の経済発展の歩み、産業の発展における政府や企業の役割、近年経済減速の背景や経済発展を制約する国内外の要因などを取り上げ、グローバル化の進展と中国の発展を結びつける視点から取り上げる。
- ◆**学修到達目標** 本講義では中国経済を中心に、中国経済の特徴や現状、課題などについて理解することを目的とする。また経済問題の背景にある社会的、政治的な側面にも留意することで、包括的な理解を試みる。
- ◆**授業方法** 講義は配布資料とパワーポイントに沿って進める。授業を分かりやすく理解するため、映像や写真などを取り入れることもある。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容：中国経済への招待 事前学修：教科書の 1-13 ページの内容を予習すること 事後学修：授業内容を整理し、理解しておくこと
2 回	授業内容：20 世紀の中国経済 事前学修：教科書の 17-37 ページの内容を予習すること 事後学修：授業の内容を整理し、理解しておくこと。
3 回	授業内容：社会主義の模索と市場経済化 事前学修：教科書の 35-57 ページの内容を予習すること 事後学修：授業の内容を整理し、理解しておくこと。
4 回	授業内容：農業・農村・農民（三農問題） 事前学修：教科書の 61-76 ページの内容を予習すること 事後学修：授業の内容を整理し、理解しておくこと。
5 回	授業内容：企業体制改革とその行方 事前学修：教科書の 79-98 ページの内容を予習すること 事後学修：授業の内容を整理し、理解しておくこと。
6 回	授業内容：地域発展戦略と産業・人口の集積 事前学修：教科書の 101-117 ページの内容を予習すること 事後学修：授業の内容を整理し、理解しておくこと。
7 回	授業内容：財政制度改革と中央-地方関係 事前学修：教科書の 119-135 ページの内容を予習すること 事後学修：授業の内容を整理し、理解しておくこと。
8 回	授業内容：世界最大の資本大国の金融システム 事前学修：教科書の 137-155 ページの内容を予習すること 事後学修：授業の内容を整理し、理解しておくこと。
9 回	授業内容：貧困・失業及び所得格差 事前学修：教科書の 159-179 ページの内容を予習すること 事後学修：授業の内容を整理し、理解しておくこと。
10 回	授業内容：人口と社会保障 事前学修：教科書の 183-200 ページの内容を予習すること 事後学修：授業の内容を整理し、理解しておくこと。
11 回	授業内容：エネルギー問題 事前学修：教科書の 203-220 ページの内容を予習すること 事後学修：授業の内容を整理し、理解しておくこと。
12 回	授業内容：経済発展と多様化する環境問題 事前学修：教科書の 223-238 ページの内容を予習すること 事後学修：授業の内容を整理し、理解しておくこと。
13 回	授業内容：対外貿易と直接投資 事前学修：教科書の 241-256 ページの内容を予習すること 事後学修：授業の内容を整理し、理解しておくこと。
14 回	授業内容：中国経済の行方 事前学修：教科書の 295-304 ページの内容を予習すること 事後学修：授業の内容を整理し、理解しておくこと
15 回	授業内容：前期授業のまとめ及びレポートの提出 事前学修：前期の内容を予習すること 事後学修：授業内容を整理し、理解して、中国経済を再確認すること

- ◆**教科書** 丸沼『現代中国経済論』梶谷懐・藤井大輔編著 第2版第1刷発行 ミネルヴァ書房 2018/05/10
- ◆**参考書** 丸沼『中国・新興国ネクサス』末広昭・田島駿雄・丸川知雄編 東京大学出版社 2018/12/20
『現代中国を知るための 44 章』藤野彰・曾根康雄著 明石書店 2016/12/31
- ◆**成績評価基準** 出席率と授業態度及びレポートの成績により総合的に評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔広告論〕

雨宮 史卓

- ◆**授業概要** 広告及び宣伝、PR、プロモーション等の意義を理解し、マーケティング戦略の中でいかにこれらが機能しているかを学ぶ。また、広告戦略についても考察し、広告が様々な企業組織や生活者の間に存在するコミュニケーション活動であることを理解する。できるだけ身近な事例を用いて理論を解説するように心掛け、実務経験から得た知識を具体例として挙げる。
- ◆**学修到達目標**
 - 1 プロモーション活動における広告の基本的機能と役割が理解できる。
 - 2 広告及び宣伝、PR、プロモーション等の意義を理解し、マーケティング戦略の中でこれらが、どのように機能しているかを説明できる。
 - 3 市場動向や時代背景を見極めながら、広告コンセプトがどのように立案されていくかが理解できる。
- ◆**授業方法** ターン前半はテキストに沿いながら広告の基本機能を解説し、後半は必要に応じて資料を配布して企業の広告戦略を解説する。また、各授業の後半で、その日の主要なテーマに関するリアクション・ペーパー（小論文）の提出を求める。
- ◆**履修条件** 後期広告論の継続受講が望ましい。
- ◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容 事前学修 事後学修	授業の進め方 オリエンテーション 広告とは何か？ テキスト20～21頁の広告の基本的な考え方をよく読んでおくこと。 授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分と配布資料を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
2回	授業内容 事前学修 事後学修	広告の基本的機能と役割 テキスト32～36頁の広告コミュニケーションの基本的考え方をよく読んでおくこと。 配布資料をノートにまとめ、テキストの第1章を要約しておくこと。
3回	授業内容 事前学修 事後学修	マーケティング戦略とプロモーション戦略 テキスト第1章の要約を読み返し、15頁の図を見て、マーケティングとプロモーションの関係を把握しておくこと。 テキストの図と配布資料の図表を見比べて、その内容をノートに整理しておくこと。
4回	授業内容 事前学修 事後学修	プロモーション戦略と広告 前回の授業のノートと配布資料を確認し、テキスト19頁の表をノートに書き写しておくこと。 授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分と配布資料を読んで、プロモーション戦略の種類とその内容を確認しておくこと。
5回	授業内容 事前学修 事後学修	高価格製品の広告戦略 前回の授業のノートを確認し、テキスト36～41頁をよく読んでおくこと。 授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
6回	授業内容 事前学修 事後学修	コモディティ製品の広告戦略 前回の授業のノートを確認し、テキスト41～50頁をよく読んでおくこと。 授業の内容をノートに整理し、コモディティ製品の特徴を理解し、配布資料の事例を確認しておくこと。
7回	授業内容 事前学修 事後学修	広告コンセプトの考え方 前回の授業のノートを確認し、テキスト57～63頁をよく読んでおくこと。 授業の内容をノートに整理し、「広告コンセプトの考え方」「広告の3Bの法則」「色彩マーケティング」の内容をノートに要約しておくこと。
8回	授業内容 事前学修 事後学修	データ分析と広告露出 前回の授業のノートを確認し、テキスト63～67頁をよく読んでおくこと。また、配布資料に目を通しておくこと。 授業の内容をノートに整理し、定量データと定性データの違いや、ポストモダン・マーケティングの内容を理解しておくこと。
9回	授業内容 事前学修 事後学修	時間の概念と広告戦略 前回の授業のノートを確認し、テキスト67～80頁をよく読んでおくこと。また、配布資料に目を通しておくこと。 授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
10回	授業内容 事前学修 事後学修	広告コンセプトとタイム・マーケット 前回の授業のノートを確認し、テキスト83～88頁をよく読んで、タイム・マーケットの現状を理解しておくこと。 授業の内容をノートに整理し、テキスト85頁の表をノートに書き写しておくこと。
11回	授業内容 事前学修 事後学修	タイム・マーケットの新たな視点と広告コンセプト 前回の授業のノートを確認し、テキスト88～103頁をよく読んでおくこと。 授業の内容をノートに整理し、テキスト103頁の表をノートに書き写しておくこと。
12回	授業内容 事前学修 事後学修	消費者行動と商品ベネフィット 前回の授業のノートを確認し、テキスト105～116頁をよく読んでおくこと。 授業の内容をノートに整理し、「消費者シグナル」の概念を理解しておくこと。
13回	授業内容 事前学修 事後学修	サービスに対する広告・プロモーションの考え方 前回の授業のノートを確認し、テキスト120～131頁をよく読んでおくこと。 授業の内容をノートに整理し、テキスト120頁、128～129頁の図表をノートに書き写しておくこと。
14回	授業内容 事前学修 事後学修	前期授業の総まとめ 予め配布された資料を熟読し、テキスト該当箇所を事前にノートにまとめておくこと。 要点項目として配布資料に挙げたものを、再確認し授業内容をノートに整理しておくこと。
15回	授業内容 事前学修 事後学修	テストと解説 前回の授業内で指摘した広告戦略の事例を、前もって調べておくこと。 授業内容を確認・理解して、自身が調べた広告戦略の事例が適切かどうかを再確認すること。

- ◆**教科書** 教材「広告論 S30900」
〔当日資料配布〕必要に応じて資料を配布する
- ◆**参考書** なし
- ◆**成績評価基準** テスト（40%）、小論文（40%）、平常点（20%） 授業の取り組み、小論文、テストにより総合的に評価します。

注意 E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔英語 F〕☆☆☆

マイケル ギルロイ

- ◆**授業概要** To enhance students' reading, listening comprehension, writing skills, grammar, enlarge vocabulary and boost self confidence.
- ◆**学修到達目標** Help students' develop aural and oral fluency through engaging content and practical practices. Units are thematically structured, including topics which appear in daily conversations.
- ◆**授業方法** Students will work individually, in pairs and in groups to complete in class exercises. Activities include reading, writing, listening, role-plays and discussions.
- ◆**履修条件** 令和元年度昼間スクーリング (前期)「英語A」「英語M」(マイケルギルロイ)とは積み重ね不可。
令和2年度昼間スクーリング (前期)「英語E」(マイケルギルロイ)とは積み重ね不可。
- ◆**授業計画 (各 90 分)**

1 回	授業内容: Introductions - Greeting to know each other. 事前学修: Enthusiasm, dictionary, paper and pencil. 事後学修: Will be decided. (W. B. D.)
2 回	授業内容: Family and Friends. 事前学修: Homework (H/W), think about "Family" 事後学修: W. B. D.
3 回	授業内容: Friends. 事前学修: H/W, think about "Customs" 事後学修: W. B. D.
4 回	授業内容: Customs - Japan. 事前学修: H/W 事後学修: W. B. D.
5 回	授業内容: Custom - Global. 事前学修: H/W review 事後学修: W. B. D.
6 回	授業内容: Education. 事前学修: H/W review 事後学修: W. B. D.
7 回	授業内容: Sports 1. 事前学修: H/W review 事後学修: W. B. D.
8 回	授業内容: Sports 2. 事前学修: H/W review 事後学修: W. B. D.
9 回	授業内容: Work. 事前学修: H/W review 事後学修: W. B. D.
10 回	授業内容: Food 1. 事前学修: H/W review 事後学修: W. B. D.
11 回	授業内容: Food 2. 事前学修: H/W review 事後学修: W. B. D.
12 回	授業内容: Studying English 事前学修: H/W review 事後学修: W. B. D.
13 回	授業内容: Health 事前学修: H/W review 事後学修: W. B. D., and course review.
14 回	授業内容: Review / Warm up / Test. 事前学修: Study of all topics covered. 事後学修: Brainstorm summer.
15 回	授業内容: Summer Topic. 事前学修: Last week's H / W. 事後学修: Have a wonderful summer vacation.

- ◆**教科書** 丸沼 "English Listening and Speaking Patterns 2" Andrew E. Bennett, NAN' UN-DO
[当日資料配布] Supplementary handouts. Interactive games.
- ◆**参考書** なし
- ◆**成績評価基準** Grades will be allocated based on attendance, participation, completed assignments and a final exam.

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔科学哲学〕

江川 晃

- ◆**授業概要** 「科学とは何か」という問いに答えるには、歴史的・哲学的・社会的観点からのアプローチが必要である。科学の成立は、近代ヨーロッパに生じた「科学革命」と呼ばれる歴史的出来事である。そこで、前期は、科学の誕生・発展を明らかにするために、科学革命のプロセスをたどる「科学史」の知見を得ることを目標とする。
- ◆**学修到達目標** ヨーロッパにおける科学の成立過程について知り、どのようにして、科学と哲学と宗教が関係してきたかを説明することができる。さらには、21 世紀の科学技術文明において、人類が未来に生き残るためには、いかに哲学的観点が必要であるかを理解し、説明することができる。
- ◆**授業方法** 講義を 2 回行い、3 回目の講義前半にまとめをして、後半、授業中に課題レポートを作成して提出していただきます（5 回）。課題内容は授業中にヒントを出す。できるだけ書きやすい内容にします。事前にまとめてくるとよい。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容: ガイダンス「科学哲学とは何か」 事前学修: シラバスをよく読んでおくこと 事後学修: 授業内容を復習しておく
2 回	授業内容: 1 章 「科学」という言葉 事前学修: 教科書の第 1 章を読んでおくこと 事後学修: 「科学」という語の意味を把握すること
3 回	授業内容: まとめと課題提出 1 事前学修: 第 1 章のまとめをして、課題提出に備えておくこと 事後学修: 課題提出 1 の反省
4 回	授業内容: 2 章 アリストテレス的自然観 事前学修: 教科書の第 2 章を読んでおくこと 事後学修: 授業内容を復習しておく
5 回	授業内容: 古代ギリシャのセントラル・ドグマ 事前学修: 2 つのセントラル・ドグマを把握していく 事後学修: 授業内容を復習しておく
6 回	授業内容: まとめと課題提出 2 事前学修: 第 2 章のまとめをして、課題提出に備えておくこと 事後学修: 課題提出 2 の反省
7 回	授業内容: 3 章 科学革命 1 コペルニクス 事前学修: 教科書の第 3 章を読んでおくこと 事後学修: コペルニクスの功績についてまとめる
8 回	授業内容: 円の魅力 ケプラー 事前学修: ケプラーの業績を理解しておく 事後学修: ケプラーの業績をまとめておく
9 回	授業内容: まとめと課題提出 3 事前学修: 第 3 章のまとめをして、課題提出に備えておくこと 事後学修: 課題提出 3 の反省
10 回	授業内容: 4 章 科学革命 2 ガリレオ 事前学修: 教科書の第 4 章を読んでおくこと 事後学修: ガリレオの功績をまとめておく
11 回	授業内容: 天と地の統一 ニュートン 事前学修: ニュートンの功績を把握しておく 事後学修: ニュートンの功績をまとめておく
12 回	授業内容: まとめと課題提出 4 事前学修: 第 4 章のまとめをして、課題提出に備えておくこと 事後学修: 課題提出 4 の反省
13 回	授業内容: 5 章 科学革命 3 デカルト 事前学修: 教科書の第 5 章を読んでおくこと 事後学修: 科学史におけるデカルトの功績について把握しておく
14 回	授業内容: 心身問題と「心の哲学」 事前学修: 現代哲学に対する心身問題を把握しておく 事後学修: 「心身問題」についてまとめておく
15 回	授業内容: まとめと課題提出 5 事前学修: 5 章「科学革命 3 デカルト」をまとめておく 事後学修: 課題提出 5 の反省

- ◆**教科書** **【教材】**「科学哲学 P31300」通信教育教材（教材コード 000573）
【当日資料配布】適宜、パワポ教材を配布します。
- ◆**参考書** なし
- ◆**成績評価基準** 授業時課題レポート提出（100%：5 回）、試験はありません。

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔国文学特殊講義Ⅰ・Ⅱ〕

近藤 健史

- ◆**授業概要** 『万葉集』における東国の歌について講義する。地域的には、関東や東北の歌であり、内容的には陸奥の国の歌、東歌、防人歌について、風土との関係から読み解く。
- ◆**学修到達目標** 文学と風土との関わりについて、『万葉集』の歌を例として学修することで、文学作品を読み解く一つの視点、方法を身に付け、文学作品の理解について説明できることを目標とする。
- ◆**授業方法** 基本的には、『万葉集』の東国の歌を理解するための風土的、時代的背景などについて講義する。必要に応じて映像やプリントを用意して歌の解釈や理解を補助する。歌の解釈や理解については、受講生から問うという方法を取る。
- ◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容：授業の進め方、『万葉集』における「東歌」の在り方 事前学修：『万葉集』の成立、構成、特色などについて調べておくこと。 事後学修：万葉集における「東国」の関係を理解する。
2回	授業内容：古代における東国の歴史や文化 事前学修：古代の東国という地域（範囲）や歴史について調べておくこと。 事後学修：事前学修と授業内容を泉津市、近いを深める。
3回	授業内容：東国の文学と風土 事前学修：万葉歌から歌枕になった例など調べておくこと。 事後学修：万葉時代以降の東国を詠んだ作品と風土について理解する。
4回	授業内容：『万葉集』における「陸奥国の歌」 事前学修：「陸奥の歌」について歌数や在り方を調べておくこと。 事後学修：「陸奥の歌」の特色について理解する。
5回	授業内容：大伴家持の「陸奥国に金を出す詔を賀す歌」 事前学修：注釈書などで、大まかな意味を調べておくこと。 事後学修：奈良大仏、黄金、みちのく、「詔」、家持の関係を理解する。
6回	授業内容：古代における多賀城 事前学修：藤匠の歴史や役割について調べておくこと。 事後学修：万葉時代の多賀城と大伴家持の関わりについて理解する。
7回	授業内容：『万葉集』の「東国歌」(1) 事前学修：『万葉集』の東国に関する歌を調べておくこと。 事後学修：東国に関する歌の在り方を理解する。
8回	授業内容：『万葉集』の「東国歌」(2) 事前学修：東歌について読んでおくこと。 事後学修：出身地域と歌の特色を理解する。
9回	授業内容：『万葉集』の「東国歌」(3) 事前学修：東歌について読んでおくこと。 事後学修：出身地域と歌の特色について理解する。
10回	授業内容：『万葉集』の「東国歌」(4) 事前学修：東歌を読んでおくこと。 事後学修：出身地域と歌の特色について理解する。
11回	授業内容：『万葉集』の「東国歌」(5) 事前学修：東歌を読んでおくこと。 事後学修：出身地域と歌の特色を理解する。
12回	授業内容：『万葉集』の「防人歌」(1) 事前学修：防人の役割や出身地などを調べておくこと。 事後学修：防人の政治的背景や社会的背景を理解する。
13回	授業内容：『万葉集』の「防人歌」(2) 事前学修：巻20「防人歌」の前半部を読んでおくこと。 事後学修：「防人歌」の特色を理解する。の特色を理解する。
14回	授業内容：『万葉集』の「防人歌」(3) 事前学修：巻20「防人歌」の後半部を読んでおくこと。 事後学修：「防人歌」の特色を理解する。
15回	授業内容：まとめ、レポート提出 事前学修：これまでの授業を振り返り、整理してレポート作成の準備をする。 事後学修：文学と風土、東国の万葉歌について再確認し理解を深める。

- ◆**教科書** 丸沼『訳文 万葉集』森淳司、笠間書院
- ◆**参考書** 丸沼『蝦夷の古代史』（平凡社新書、071）工藤雅樹、平凡社、2001年
丸沼『蝦夷の地と古代国家』（日本史ダブレット）熊谷公男、山川出版、2015年
- ◆**成績評価基準** レポート80%、質疑応答など授業参画度20%

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔経済史総論 A〕

飯島 正義

- ◆**授業概要** 近代資本主義に先立つ封建制社会の構造や特徴、封建制から資本制への移行期の西ヨーロッパ経済について学びます。
- ◆**学修到達目標**
 1. 封建制社会の構造や特徴について説明することができるようになる。
 2. 封建制社会の崩壊過程と絶対王政の成立過程について説明することができるようになる。
 3. 市民革命の意義について説明することができるようになる。
- ◆**授業方法** 講義形式。授業は、当日配布するプリント資料を中心に進めていくが、理解を確認するために何回か「確認プリント」を実施する予定です。なお、「確認プリント」を実施した場合には、プリントは翌週返却します。
- ◆**履修条件** 令和2年度東京スクーリング（6月期）、夏期スクーリングの「経済史総論」（飯島担当）との積み重ね不可。
- ◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容 経済史で何を学ぶのか、西欧の封建制社会の成立過程 事前学修 シラバスで全体の授業内容を確認しておくこと。 事後学修 西欧の封建制社会の成立過程についてまとめておくこと。
2回	授業内容 西欧の封建制社会の成立とその構造－荘園制 事前学修 前回の授業内容を再度確認するとともに、参考図書等で今回の授業内容の関係するところを予め理解しておくこと。 事後学修 封建制社会における土地制度、農業、農村についてまとめておくこと。
3回	授業内容 中世ヨーロッパの商業(1) 地中海貿易と北海・バルト海貿易 事前学修 前回の授業内容を再度確認するとともに、プリント資料を中心に参考図書等で今回の授業内容の関係するところを予め理解しておくこと。 事後学修 中世ヨーロッパにおける地中海貿易と北海・バルト海貿易の内容についてまとめておくこと。
4回	授業内容 中世ヨーロッパの商業(2) 遠隔地商業と中世都市 事前学修 前回の授業内容を再度確認するとともに、プリント資料を中心に参考図書等で今回の授業内容の関係するところを予め理解しておくこと。 事後学修 中世ヨーロッパにおける地中海貿易、北海・バルト海貿易と中世都市との関係についてまとめておくこと。
5回	授業内容 封建制社会の動揺(1) 人口減少と領主制の危機 事前学修 前回の授業内容を再度確認するとともに、プリント資料を中心に参考図書等で今回の授業内容の関係するところを予め理解しておくこと。 事後学修 14世紀における「封建的危機」についてまとめておくこと。
6回	授業内容 封建制社会の動揺(2) 領主・農民関係の変化 事前学修 前回の授業内容を再度確認するとともに、プリント資料を中心に参考図書等で今回の授業内容の関係するところを予め理解しておくこと。 事後学修 14世紀の「封建的危機」の中で領主と農民との関係がどのように変化していったのかをまとめておくこと。
7回	授業内容 封建制社会の動揺(3) 農村工業の発展 事前学修 前回の授業内容を再度確認するとともに、プリント資料を中心に参考図書等で今回の授業内容の関係するところを予め理解しておくこと。 事後学修 封建制社会の中で農村工業がどのように発展してきたのかをまとめておくこと。
8回	授業内容 大航海時代の幕開け－大西洋貿易と東インド貿易 事前学修 前回の授業内容を再度確認するとともに、プリント資料を中心に参考図書等で今回の授業内容の関係するところを予め理解しておくこと。 事後学修 大航海時代に入り、大西洋貿易と東インド貿易が成立してくるが、その内容を整理しまとめておくこと。
9回	授業内容 世界市場の拡大とプロト工業化 事前学修 前回の授業内容を再度確認するとともに、プリント資料を中心に参考図書等で今回の授業内容の関係するところを予め理解しておくこと。 事後学修 プロト工業化の背景とその内容・特徴についてまとめておくこと。
10回	授業内容 プロト工業化の挫折 事前学修 前回の授業内容を再度確認するとともに、プリント資料を中心に参考図書等で今回の授業内容の関係するところを予め理解しておくこと。 事後学修 プロト工業化の発展の限界についてまとめておくこと。
11回	授業内容 絶対王政の成立 事前学修 前回の授業内容を再度確認するとともに、プリント資料を中心に参考図書等で今回の授業内容の関係するところを予め理解しておくこと。 事後学修 絶対王政の成立事情をまとめておくこと。
12回	授業内容 絶対王政の経済政策 事前学修 前回の授業内容を再度確認するとともに、プリント資料を中心に参考図書等で今回の授業内容の関係するところを予め理解しておくこと。 事後学修 絶対王政の経済政策の内容についてまとめておくこと。
13回	授業内容 市民革命の意義 事前学修 前回の授業内容を再度確認するとともに、プリント資料を中心に参考図書等で今回の授業内容の関係するところを予め理解しておくこと。 事後学修 市民革命が起こる経済的背景についてまとめておくこと。
14回	授業内容 市民革命後の経済政策 事前学修 前回の授業内容を再度確認するとともに、プリント資料を中心に参考図書等で今回の授業内容の関係するところを予め理解しておくこと。 事後学修 市民革命後の経済政策の内容と絶対王政下の経済政策の違いを整理しまとめておくこと。
15回	授業内容 試験及び解説 事前学修 これまでの授業内容のポイントを全体として再度確認しておくこと。 事後学修 設題に対して、重要事項を落とさず論理的な記述ができたかどうかを確認する。

- ◆**教科書** 〔当日資料配布〕授業時にプリント資料を配布します。
- ◆**参考書** 丸沼『エレメンタル欧米経済史』馬場哲他著 晃洋書房 2012年
- ◆**成績評価基準** 確認プリントの提出（40%）、試験（60%）

注意 E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔金融論〕

谷川 孝美

◆**授業概要** 金融とは、資金を必要としている経済主体がその資金を調達し、資金に余裕がある経済主体がその資金を運用することです。また、金融取引が行われる場を金融市場といいます。この講義では、貨幣の定義、金融取引、金利の決定など、金融に関する基本的な知識、理論を学び、理解することを通じて、現在の経済問題を考える基礎を養うことを目的とします。

◆**学修到達目標** この講義では、金融、金融理論の基礎を理解することを目指し、以下を具体的な目標とする。

1. 貨幣の定義など金融に関する基本的な事柄を学び、説明できる。
2. 金利がどのように決定されているのか理解し、実際の金利を計算できる。
3. 経済学における情報の非対称性問題が金融に与える影響を理解し、説明できる。

◆**授業方法** 授業計画にそって、パワーポイントを利用した講義形式で行います。講義では、基本的な事柄を中心に、全体的かつ平易な解説をする予定です。講義の進行状況によって授業計画が前後することもあります。なお、この講義では中央銀行、金融政策の詳細は取り扱いません。

◆**履修条件** 前期のみの受講も可能だが、学修効果を上げるため、前期・後期の連続受講が望ましい。また、令和元年度昼間スクーリング(前期)『金融論』(谷川孝美)との積み重ね不可。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回	授業内容: 授業の進め方・オリエンテーション・金融、金融市場とは何か 事前学修: テキスト「はじめに」をよく読んでおくこと。 事後学修: 授業内で用いられた専門用語や説明を確認し、理解すること。
2 回	授業内容: 金融取引、決済 事前学修: 前回の講義内容を確認すること。 事後学修: 配付資料を参考に、専門用語や説明を確認すること。
3 回	授業内容: 貨幣の歴史 事前学修: テキスト第 1 章、第 1 節貨幣の歴史をよく読んでおくこと。 事後学修: 配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
4 回	授業内容: 貨幣の概念的な定義 事前学修: テキスト第 1 章、第 2 節貨幣の機能をよく読み、確認しておくこと。 事後学修: 配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
5 回	授業内容: マネーストックによる貨幣分類 事前学修: テキスト第 1 章、第 3 節貨幣の定義をよく読み、確認しておくこと。 事後学修: 配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。また、講義時紹介する資料を確認すること。
6 回	授業内容: 金利とは何か・名目金利と実質金利 事前学修: テキスト第 2 章、第 1, 2 節をよく読むこと。 事後学修: 配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。また、実際に金利計算をして理解を深めること。
7 回	授業内容: 短期金利と長期金利・割引現在価値 事前学修: テキスト第 2 章、第 2 節金利の種類をよく読むこと。また、前回の講義を確認しておくこと。 事後学修: 配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。また、実際に金利計算をして理解を深めること。
8 回	授業内容: リスク資産における金利の決定 事前学修: テキスト第 2 章、第 3, 4 節をよく読むこと。また、前回の講義を再確認すること。 事後学修: 講義時に紹介する事例を実際に計算し、理解を深めること。
9 回	授業内容: 情報の非対称性問題 (インサイダー取引、モラルハザード問題) 事前学修: テキスト第 3 章、第 1, 2 節をよく読むこと。 事後学修: 配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
10 回	授業内容: 金融における情報の非対称問題 (情報生産、フリーライド、重複問題) 事前学修: 前回の講義を再確認すること。また、テキスト第 3 章、第 3, 4 節をよく読み、情報生産、フリーライド、重複問題を確認すること。 事後学修: 配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
11 回	授業内容: わが国の資金の流れ、資金循環 事前学修: テキスト第 6 章、第 2 節をよく読むこと。 事後学修: 配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。また、講義時に紹介する資料を確認し理解を深めること。
12 回	授業内容: 日本の金融市場 (インターバンク市場、短期金融市場) 事前学修: テキスト第 5 章、第 1, 2 節をよく読むこと。 事後学修: 配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。また、講義時に紹介する資料を確認し理解を深めること。
13 回	授業内容: 日本の金融市場 (長期金融市場) 事前学修: テキスト第 5 章、第 1, 2 節をよく読むこと。また、前回の講義を再確認しておくこと。 事後学修: 配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。また、講義時に紹介する資料を確認し理解を深めること。
14 回	授業内容: 理解度の確認 事前学修: 予め配布された資料を熟読し、内容を確認しておくこと。 事後学修: 配付資料やテキスト、参考書などで、講義内容をよく確認し理解すること。
15 回	授業内容: 試験および解説 事前学修: 前回の講義時に説明した内容を良く確認し理解しておくこと。 事後学修: 前期の授業内容を再確認し、理解を深めること。

◆**教科書** 教材『金融論 R31800』通信教育教材(教材コード 000540)
〔当日資料配布〕必要に応じて当日プリント配布

◆**参考書** 丸沼『ベーシックプラス 金融論 第2版』家森信善, 中央経済社, 2018年
丸沼『日本の金融制度 第3版』鹿野嘉昭, 東洋経済新報社, 2013年
講義時に適宜紹介します。

◆**成績評価基準** 毎回出席することを前提として、最終試験を中心に授業への取り組み、平常点などにより総合的に評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔哲学 A〕

江川 晃

- ◆**授業概要** 私たちの生きるこの世界は、モバイル、インターネット、TV など科学・技術により支えられている。問題は、それらが人類の幸福に役立つという本来の目的を忘れ、我が物顔で幅を利かしていることにある。いま、私たちは、経済至上主義に基づく科学・技術崇拜に偏らず、科学・技術を社会的かつ個人的にコントロールする「哲学力」を養う必要がある。
- ◆**学修到達目標** 古代ギリシャ、中世哲学、近世哲学を通じて、哲学と宗教と科学の発展とそれらの深い関係を把握する。さらに、現代の科学・技術社会がどのようにして成立したかということ考察することにより、現代をより創造的に生き抜く視点（哲学力）を持つことができるようになる。
- ◆**授業方法** 教科書とパワポプリントによる講義。出席票の備考欄に感想・苦情質問等記入の事。次回、それをもとに、対話をしながら授業を進めていきたい。読み・聞き・書くことで思考は作られる！レポート課題は授業中、事前に発表します。
- ◆**履修条件** 昼間S（前期）他の哲学と積み重ね不可。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容: ガイダンス：哲学とは何か（語源と意味） 事前学修: シラバスをよく読んでおくこと。 事後学修: 配布されたパワポを復習すること。
2 回	授業内容: 古代ギリシャの哲学の自然哲学 事前学修: テキスト 13-18 頁の自然哲学について読んでおくこと。 事後学修: 配布プリントで復習する。
3 回	授業内容: ソクラテスとソフィスト 事前学修: テキスト 22-24 頁を読んでおくこと。 事後学修: 配布プリントで復習する。
4 回	授業内容: プラトンのイデア論 事前学修: テキスト 25 頁を読んでおくこと。 事後学修: 配布プリントで復習する。
5 回	授業内容: アリストテレスの存在論 事前学修: テキスト 32-35 頁を読んでおくこと。 事後学修: 配布プリントで復習する。
6 回	授業内容: 課題レポート作成 1 回目 事前学修: 1 - 5 回を復習すること。 事後学修: 課題レポート作成の反省。
7 回	授業内容: 中世の哲学の発展 事前学修: テキスト 32-35 頁を読んでおくこと。 事後学修: 配布プリントで復習する。
8 回	授業内容: 科学革命 事前学修: 配布プリントで予習する。 事後学修: 配布プリントで復習する。
9 回	授業内容: 課題レポート作成 2 回目 事前学修: 7 - 8 回を復習すること。 事後学修: レポート作成反省。
10 回	授業内容: デカルトの「われ思う、ゆえにわれあり」 事前学修: テキスト 64-66 頁を読んでおくこと。 事後学修: 「われ思う、ゆえにわれあり」を説明できるようにする。
11 回	授業内容: ベーコンのイドラ 事前学修: テキスト 118-119 頁を読んでおくこと。 事後学修: 「4つのイドラ」を説明できるようにしておくこと。
12 回	授業内容: ロックの経験論 事前学修: テキスト 120-121 頁を読んでおくこと。 事後学修: 「感覚」と「反省」について説明できるようにしておくこと。
13 回	授業内容: カントの理性批判 事前学修: テキスト 126-128 頁を読んでおくこと。 事後学修: 認識の「コペルニクスの転回」を説明できるようにしておくこと。
14 回	授業内容: ヘーゲルの弁証法 事前学修: テキスト 80-81 頁を読んでおくこと。 事後学修: 「即自存在」「対自存在」「即自対自存在」について復習する。
15 回	授業内容: 課題レポート作成 3 回目 事前学修: 10 - 14 回の復習。 事後学修: レポート作成反省

- ◆**教科書** **【教材】**『哲学 B10700』通信教育教材（教材コード 000404）
〈この教材は、『西洋思想の要諦周覧』嘉吉・齋藤共編（北樹出版）と同一です。〉
- ◆**参考書** なし
- ◆**成績評価基準** 3 回の授業中課題レポート（分配割合：1 回目 20%、2 回目 30%、3 回目 50%）

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

【英語 G】★★☆

町田 純子

◆**授業概要** 英語の言語運用能力を習得する為に、reading を中心とした英文を速く、正確に理解できるよう英文読解力を身に付けます。文章構造や段落構成、段落展開を踏まえた直読直解、大意把握、サマリーの仕方等に慣れます。同時に grammar や listening の基礎を理解し運用できるようにします。

◆**学修到達目標** ・英語の文の構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、説明することができる。
・英語の物語、ニュース、論説などを最初から最後まで読み通し、概要をつかむことができる。
・英語の Paragraph の構成をよく理解し、英語の文章を読むとき、書くときに応用することができる。
・基本的な発話音声のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。

◆**授業方法** 教科書の Reading 中心に task ベースで、ペアやグループワークを採り入れ、直読直解するやり方で読み進めます。各段落の中心となる話題文を探すことで要旨を把握します。後半の文法問題は課題になり、授業の事前学修、事後学修は、各2時間を目安としています。受講人数により変更がありますが、課題に対するフィードバックは全体解説後に対応します。質問等は授業前後又は、リアクションペーパーに記入してください。次回の授業で回答します。

◆授業計画 (各 90 分)

1回	授業内容: 授業の進め方, 評価方法を説明をする。 事前学修: シラバス内容を確認の上授業に臨み, 授業計画を確認する。 事後学修: ガイダンスのおさらいをする。テキストを購入して備える。
2回	授業内容: Unit 1 Sowing Seeds of Peace, Education & Hope-Malala を理解し, 問題を解答できる。 事前学修: Unit 1 p 4 Warm Up の問題を解いてくる。 事後学修: Unit 1 の語彙を確認し, Reading の要約を書いてみる。
3回	授業内容: Unit 2 Sowing Seeds of Food Savings-OzHarvest Market を理解し, 問題を解答できる。 事前学修: Unit 2 Warm Up の問題を解いてくる。 事後学修: Unit 2 の語彙を確認し, Reading の要約を書いてみる。
4回	授業内容: Unit 3 Sowing Seeds of Safety-An Eye on Crime を理解し, 問題を解答できる。 事前学修: Unit 3 Warm Up の問題を解いてくる。 事後学修: Unit 3 の語彙を確認し, Reading の要約を書いてみる。
5回	授業内容: Unit 4 Sowing Seeds of Work-Work Balance を理解し, 問題を解答できる。 事前学修: Unit 4 Warm Up の問題を解いてくる。 事後学修: Unit 4 の語彙を確認し, Reading の要約を書いてみる。
6回	授業内容: Unit 5 Sowing Seeds of Exercise-Sport BMX and Urban Fun? を理解し, 問題を解答できる。 事前学修: Unit 5 Warm Up の問題を解いてくる。 事後学修: Unit 5 の語彙を確認し, Reading の要約を書いてみる。
7回	授業内容: Unit 6 Sowing Seeds of Happiness-Happiness を理解し, 問題を解答できる。 事前学修: Unit 6 Warm Up の問題を解いてくる。 事後学修: Unit 6 の語彙を確認し, Reading の要約を書いてみる。
8回	授業内容: Unit 7 Sowing Seeds of Entertainment-Sports and Games を理解し, 問題を解答できる。 事前学修: Unit 7 Warm Up の問題を解いてくる。 事後学修: Unit 7 の語彙を確認し, Reading の要約を書いてみる。
9回	授業内容: Unit 8 Sowing Seeds of Health-Medical Science を理解し, 問題を解答できる。 事前学修: Unit 8 Warm Up の問題を解いてくる。 事後学修: Unit 8 の語彙を確認し, Reading の要約を書いてみる。
10回	授業内容: Unit 9 Sowing Seeds of Psychology-Resilience を理解し, 問題を解答できる。 事前学修: Unit 9 Warm Up の問題を解いてくる。 事後学修: Unit 9 の語彙を確認し, Reading の要約を書いてみる。
11回	授業内容: Unit 10 Sowing Seeds of Facts: Efforts to Flag Fake-news を理解し, 問題を解答できる。 事前学修: Unit 10 Warm Up の問題を解いてくる。 事後学修: Unit 10 の語彙を確認し, Reading の要約を書いてみる。
12回	授業内容: Unit 11 Sowing Seeds of Intelligence- Brain Development を理解し, 問題を解答できる。 事前学修: Unit 11 Warm Up の問題を解いてくる。 事後学修: Unit 11 の語彙を確認し, Reading の要約を書いてみる。
13回	授業内容: Unit 12 Sowing Seeds of Friendship-Yosegaki Hinomaru を理解し, 問題を解答できる。 事前学修: Unit 12 Warm Up の問題を解いてくる。 事後学修: Unit 12 の語彙を確認し, Reading の要約を書いてみる。
14回	授業内容: Unit 13 Sowing Seeds of Humanity-A Hero を理解し, 問題を解答できる。 事前学修: Unit 13 Warm Up の問題を解いてくる。 事後学修: Unit 13 の語彙を確認し, Reading の要約を書いてみる。
15回	授業内容: 前期授業内試験と解説, 学習内容のまとめ 事前学修: Unit 1 ~ Unit 13 までの復習をする。 事後学修: 前期授業の学習内容を確認する。

◆**教科書** 丸沼『Dear Learners』永本義弘、町田純子、八木茂那子、Ian Ellsworth、南雲堂 2020
〔当日資料配布〕一部、当日プリント配布もあります。

◆**参考書** なし

◆**成績評価基準** 全出席を前提に、課題 (30%) 試験 (70%) により総合的に評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔中国語Ⅰ・Ⅱ〕

稲葉 明子

◆**授業概要** 漢字の意味がわかることは大きな強みでもありますが、初期の関門を越えるためには足枷になります。対面式授業の利点を發揮して中国語の発音を完全に理解し、漢字に頼らない中国語吸収の素地を作ります。

◆**学修到達目標** 冒頭4回で発音体系を機械的に把握し、教科書本文に入ってからには新出単語を用いて大量の発音練習をすることによって、漢字を見ても日本語の音読み訓読みではなく中国語の音がでてくるまでもっていきます。発音体系と、中国語音声による発想は必須ですので、先入観をもたず、柔軟な姿勢で臨んでください。各課本文と文法体系の把握も、毎回学習者自らの耳で探る展開で行い、自立した言語習得に繋がります。

◆**授業方法** ある程度の基礎ができるまでは、敢えて予習はせず、指示通りの復習を必ず行ってください。教科書本文に入ってから、毎回教科書本文についてディクテーション小テストを行います。この対策を毎回こなすことで、着実に実力がついていきます。教材音声に手軽に親しめる工夫をしてください。（付属 CD をプレーヤーに取り込む、HP をお気に入り登録する、など）

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回	授業内容: ガイダンス・発音 1（声調） 事前学修: 教科書の「はじめに」「アプローチ」を読む（P 8以降は開かない） 事後学修: 授業中の指示に従い、文房具を揃える
2 回	授業内容: 発音 2（単母音） 事前学修: 音節総表をクリアホルダーで養生する 事後学修: 授業中の指示に従い、復習用 WEB サイトをみつける
3 回	授業内容: 発音 3（子音 1） 事前学修: 音節総表をみて前回の内容を位置付ける 事後学修: ノートをまとめる
4 回	授業内容: 発音 4（子音 2・総合） 事前学修: 音節総表を見て前回の内容を位置付ける 事後学修: ノートをまとめる
5 回	授業内容: 第 1 課 1 人称代名詞・動詞「是」 事前学修: 音節総表を見て前回の内容を位置付ける 事後学修: WEB サイトを用いて音声で復習し、ノートをまとめる
6 回	授業内容: 第 1 課 2 事前学修: 小テスト対策（本文の聞き取り・書き取り）をする 事後学修: 本文を何度も音読する
7 回	授業内容: 第 2 課 1 動詞述語文 疑問詞疑問文 省略疑問文 事前学修: 小テスト対策（本文の聞き取り・書き取り）をする 事後学修: WEB サイトを用いて音声で復習し、ノートをまとめる
8 回	授業内容: 第 2 課 2 数字 事前学修: 小テスト対策（前回本文の聞き取り・書き取り）をする 事後学修: 本文を何度も音読する
9 回	授業内容: 第 3 課 1 指示代名詞 形容詞述語文 語気助詞 事前学修: 小テスト対策（本文の聞き取り・書き取り）をする 事後学修: WEB サイトを用いて音声で復習し、ノートをまとめる
10 回	授業内容: 第 3 課 2 事前学修: 小テスト対策（前回本文の聞き取り・書き取り）をする 事後学修: 本文を何度も音読する
11 回	授業内容: 第 4 課 1 「有」 反復疑問文 数詞 事前学修: 小テスト対策（本文の聞き取り・書き取り）をする 事後学修: WEB サイトを用いて音声で復習し、ノートをまとめる
12 回	授業内容: 第 4 課 2 事前学修: 小テスト対策（前回本文の聞き取り・書き取り）をする 事後学修: 本文を何度も音読する
13 回	授業内容: 第 5 課 1 場所を表す代名詞 存在を表す「有」 副詞「成」「都」 二重目的語文 事前学修: 小テスト対策（本文の聞き取り・書き取り）をする 事後学修: WEB サイトを用いて音声で復習し、ノートをまとめる
14 回	授業内容: 第 5 課 2 リスニング試験 事前学修: リスニング試験対策をする／全ての文法項目を見直し、質問を準備する 事後学修: 文法項目の総復習をする
15 回	授業内容: リスニング試験・ディクテーション試験・筆記試験 事前学修: 第 1 課～第 5 課本文のディクテーションテストに備える。 事後学修: 出題箇所を教科書で確認する。

◆**教科書** 丸沼『はじめまして！中国語』喜多山幸子・鄭幸枝 白水社

◆**参考書** WEB 上に様々なトレーニング用コンテンツを UP しています。音声を用いた復習が必要になります。（Youtube 動画）
発音記号学習時に、鉛筆と同じ太さに書ける赤・青・黄のペンがあると便利です。

◆**成績評価基準** 授業への取り組み、毎回の小テストなどにより総合的に評価します。試験は、あらかじめ WE サイトで練習して取り組むリスニングが中心となります。

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔東洋史演習 I・II〕

高綱 博文

◆**授業概要** 本演習では、「日中友好の架け橋」として有名な内山完造の自伝『花甲録』を講読する。同書は「自叙伝としても破格だが、それだけでなく、明治の末から敗戦までの日中関係の裏面史として、この本はえがたい利用価値がある」と高い評価とされている。内山完造という一庶民の眼から見たところの近代日中文化交流史を学ぶ。

◆**学修到達目標** 近代上海に生きた内山完造の活動と意識を取り上げ、日中文化交流史を歴史的に理解し、歴史学による実証的且つ批判的な研究方法論を修得する。

◆**授業方法** テキスト『花甲録』を講読しながら、受講生による研究発表と討論を中心としたゼミナール形式で行います。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回	授業内容：ガイダンス 事前学修：『歴史学 0015』＜第四部 日本人民衆の上海体験＞を学修しておくこと。 事後学修：ガイダンスの要点を確認しておくこと。
2 回	授業内容：近代日中文化交流史入門（講義） 事前学修：テキストを学修しておくこと。 事後学修：演習内容の要点を確認しておくこと。
3 回	授業内容：史料として『花甲録』について 事前学修：テキストを学修しておくこと。 事後学修：演習内容の要点を確認しておくこと。
4 回	授業内容：テキスト講読・報告・討論(1) 事前学修：テキストを学修しておくこと。 事後学修：演習内容の要点を確認しておくこと。
5 回	授業内容：国会図書館見学 事前学修：国会図書館で調べる文献を PC で検索しておくこと。 事後学修：国会図書館の利用法を確認しておくこと。
6 回	授業内容：テキスト講読・報告・討論(2) 事前学修：テキストを学修しておくこと。 事後学修：演習内容の要点を確認しておくこと。
7 回	授業内容：テキスト講読・報告・討論(3) 事前学修：テキストを学修しておくこと。 事後学修：演習内容の要点を確認しておくこと。
8 回	授業内容：テキスト講読・報告・討論(4) 事前学修：テキストを学修しておくこと。 事後学修：演習内容の要点を確認しておくこと。
9 回	授業内容：テキスト講読・報告・討論(5) 事前学修：テキストを学修しておくこと。 事後学修：演習内容の要点を確認しておくこと。
10 回	授業内容：テキスト講読・報告・討論(6) 事前学修：テキストを学修しておくこと。 事後学修：演習内容の要点を確認しておくこと。
11 回	授業内容：テキスト講読・報告・討論(7) 事前学修：テキストを学修しておくこと。 事後学修：演習内容の要点を確認しておくこと。
12 回	授業内容：テキスト講読・報告・討論(8) 事前学修：テキストを学修しておくこと。 事後学修：演習内容の要点を確認しておくこと。
13 回	授業内容：テキスト講読・報告・討論(9) 事前学修：テキストを学修しておくこと。 事後学修：演習内容の要点を確認しておくこと。
14 回	授業内容：テキスト講読・報告・討論(10) 事前学修：テキストを学修しておくこと。 事後学修：演習内容の要点を確認しておくこと。
15 回	授業内容：内山完造についての発表・討論 事前学修：テキストを学修しておくこと。 事後学修：演習内容の要点を確認しておくこと。

◆**教科書** 丸沼『花甲録』内山完造、平凡社、2011 年

◆**参考書** 選材 『歴史学 B11100』通信教育教材（教材コード 000393） 第四部 日本人民衆の上海体験
丸沼『「国際都市」上海のなかの日本人』高綱博文 研文出版、2009 年

◆**成績評価基準** 授業への取り組み（発表・討論等）により総合的に評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔経済学概論 A〕

前野 高章

- ◆**授業概要** 本講義は市場を構成する家計や企業といった各経済主体の選択行動の基礎理論と、そこから導かれる市場メカニズムについて説明し、完全競争市場における経済主体の行動、市場メカニズム、資源配分の効率性に関する問題の学修を主とする。
- ◆**学修到達目標** この講義は体系的な学問としての経済学を初めて学ぶことを前提に、入門編として位置付けをし、ミクロ経済学の理論と方法、消費者行動、生産者行動ならびに市場の効率性の4つの部分から構成されている。この講義では、ミクロ経済学における必要な「基礎知識」、「経済学的な考え方」、「分析手法」を学修し、ミクロ経済学の基本的な知識を修得することから、経済の動きを客観的に説明できるようにすることを目標とする。
- ◆**授業方法** 本講義は教材の内容を中心に原則としてパワーポイントと板書で授業を進める。必要に応じて講義関連資料および経済関連の新聞・雑誌記事等を資料として配布し解説する。初歩的な説明を重視し、経済学とはどのような学問であるのかという点を中心に授業を進める。また、講義内で課題を設ける場合、その解説は講義内で行うようにする。
- ◆**履修条件** 令和2年度昼間スクーリング（前期）に開講される他の「経済学概論」との積み重ねは不可。
- ◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容	経済学とは何かについて 講義の進め方について確認し、経済学とは何かなどについて学修する。
	事前学修	経済学とはどのような学問であるのかを考えておく。
	事後学修	講義の内容を整理し、配布資料を読んで、重要なポイントを整理する。
2回	授業内容	経済の循環構造 経済主体間の相互依存関係について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書・参考書などから経済主体とは何かを確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、経済主体の関係性や市場の特徴を整理する。
3回	授業内容	経済体制と市場機構の仕組み 経済の成り立ちに関する歴史の変遷をふまえ、市場経済について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書・参考書などから市場機構の仕組みを確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、市場経済の特徴を整理する。
4回	授業内容	経済学の基本問題 経済学の歴史について概観し、経済学の課題と基本問題について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書・参考書などから前回までの重要なポイントを確認しておく。
	事後学修	講義内容をもとに、経済学の歴史の変遷を整理する。
5回	授業内容	ミクロ経済学の理論と方法 経済学におけるミクロ経済学の位置づけについて学修する。
	事前学修	配布資料、教科書・参考書などから経済学でのミクロ経済学の位置づけを確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、第1回から第5回までの講義内容を整理する。
6回	授業内容	需要と供給の理論 ー需要曲線と供給曲線の基礎知識ー 需要曲線と供給曲線を用いて、市場メカニズムの基本的な知識について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書・参考書などから需要と供給の基本的な関係を確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、需要曲線と供給曲線の特徴を整理する。
7回	授業内容	需要と供給の理論 ー需要・供給曲線のシフトー 経済的な出来事が需要と供給にもたらす影響について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書・参考書などから需要と供給の決定要因を確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、需要・供給曲線のシフトについて整理する。
8回	授業内容	消費者行動 ー需要曲線の構造ー 需要曲線を用いて、消費者余剰や需要の価格弾力性について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書・参考書などから価格と需要量の関係を確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、需要の価格弾力性、消費者余剰について整理する。
9回	授業内容	消費者行動 ー消費者行動と需要曲線ー 需要曲線の構造をもとに、効用最大化について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書・参考書などから効用最大化について確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、消費者行動について整理する。
10回	授業内容	生産者行動 ー供給曲線の構造ー 供給曲線を用いて、供給の価格弾力性や費用の諸概念について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書・参考書などから価格と供給量の関係を確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、供給の価格弾力性、費用の諸概念について整理する。
11回	授業内容	生産者行動 ー生産者行動と供給曲線ー 供給曲線の構造をもとに、利潤最大化行動について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書・参考書などから利潤最大化、生産者余剰について確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、生産者行動について整理する。
12回	授業内容	市場取引と資源配分 ー競争市場と価格メカニズムー 需要曲線と供給曲線の構造をもとに、市場の特性と価格メカニズムについて学修する。
	事前学修	配布資料、教科書・参考書などから市場均衡と価格メカニズムについて確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、余剰分析、分業の利益について整理する。
13回	授業内容	市場取引と資源配分 ー企業の参入・退出行動と資源配分ー 完全競争市場をもとに、市場の均衡について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書・参考書などから参入・退出による市場の調整について確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、競争市場の均衡について整理する。
14回	授業内容	理解度の確認 消費者行動と生産者行動の諸理論をもとに、市場の均衡がどのように導かれるのかについて整理する。
	事前学修	これまで配布した資料を熟読し、要点をノートにまとめる。
	事後学修	講義内容の要点項目を再確認し、講義内容をノートに整理する。
15回	授業内容	試験および総まとめ 講義で学修した内容の総確認を行う。
	事前学修	全配布資料から講義の要点をまとめる。
	事後学修	講義および試験をふまえ、ミクロ経済学の基礎理論について再確認する。

- ◆**教科書** [当日資料配布] 各回に必要な講義資料を配布する。
[丸沼]『ミクロ経済学（第3版）』伊藤元重 日本評論社 2018年
- ◆**参考書** [丸沼]『Next 教科書シリーズ 経済学入門』山口正春・楠谷清編 弘文堂 2015年
[丸沼]『ベーシック経済学』古沢泰治・塩路悦郎 有斐閣 2012年
[丸沼]『入門経済学』伊藤元重 日本評論社 2009年
- ◆**成績評価基準** 試験（80%）、講義内課題（20%）。毎回出席することを前提として評価し、基礎理論を身に付けているかを判定する。

注意 E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔商学総論 B〕 オープン受講：不可

小泉 徹

◆**授業概要** 商学は、ビジネスと社会経済との融合領域の学問であるため、ビジネス活動が集約する「市場」について多面的な観点から総合的に学ぶ。全体的には、商品（財、サービス、アイデア）の取引と卸・小売システムの基礎的・体系的知識の習得を目指す。この講義では、前期に続き、おもに流通・マーケティングの仕組みをビジネス基礎・経済の観点で学習する。なるべく取りつきやすく、理解しやすいように具体的なケースを交えて解説する。

◆**学修到達目標** 1 商業の起源から現在の日本市場における商業の変遷を様々な観点から理解できるようになる。
2 生産と消費の間を架橋する流通を理解し、流通の社会的機能や意義、流通段階の戦略を考察できる。

◆**授業方法** 商学を初めて学ぶ学生向けに、基礎知識を習得することを目的に授業を行う。そのためにテキスト以外の入門書や解説書を読むこと、テキストの予習と復習を欠かさないことが重要である。また理解を深めるためにプリントを配布するので、それを使って予習と復習を必ず行うこと。

◆**履修条件** 後期商学総論との継続受講が望ましい。昼間S前期他の商学総論との積み重ね不可。

◆**授業計画 (各 90 分)**

1回	授業内容：ガイダンス 授業の概要、目的、到達目標、および授業の方法などについて 事前学修：テキスト2～7頁をよく読んでおくこと。 事後学修：授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
2回	授業内容：商業の対象－流通とは何か、現代市場とマーケティング 事前学修：テキスト7～8頁、配布資料をよく読んでおくこと。 事後学修：授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
3回	授業内容：流通とマーケティング－広告と販売促進、顧客満足の実現 事前学修：テキスト9～11頁、配布資料をよく読んでおくこと。 事後学修：授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
4回	授業内容：流通の機能と機関－企業の責任・取引に関する法 事前学修：テキスト11～16頁、配布資料をよく読んでおくこと。 事後学修：授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
5回	授業内容：流通・商業の生成と発達 事前学修：テキスト18～21頁、配布資料をよく読んでおくこと。 事後学修：授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
6回	授業内容：経済の成長と流通－商業－ビジネス基礎、経済と流通の基礎 事前学修：テキスト22～26頁、配布資料をよく読んでおくこと。 事後学修：授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
7回	授業内容：生産の高度化と流通－商品と商品開発の仕組み 事前学修：テキスト27～32頁、配布資料をよく読んでおくこと。 事後学修：授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
8回	授業内容：商業と小売業－価格決定と市場の役割 事前学修：テキスト34～39頁、配布資料をよく読んでおくこと。 事後学修：授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
9回	授業内容：小売機構と小売業 事前学修：テキスト40～43頁、配布資料をよく読んでおくこと。 事後学修：授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
10回	授業内容：小売業の営業形態 事前学修：テキスト44～62頁、配布資料をよく読んでおくこと。 事後学修：授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
11回	授業内容：小売市場と競争構造－ビジネス経済、経済の国際化 事前学修：テキスト62～66頁、配布資料をよく読んでおくこと。 事後学修：授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
12回	授業内容：小売業の営業形態の特質 事前学修：テキスト67～74頁、配布資料をよく読んでおくこと。 事後学修：授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
13回	授業内容：わが国小売機構の展望 事前学修：テキスト74～76頁、配布資料をよく読んでおくこと。 事後学修：授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
14回	授業内容：授業の総復習 事前学修：配布資料の各項目をノートとテキストで確認しておくこと。 事後学修：要点項目をノートや配布資料をよく読んで確認しておくこと
15回	授業内容：復習及びテスト 事前学修：配布資料の項目をテキスト、ノートで学習 事後学修：テキストの前期箇所を読み返し、ノートを確認し、配布資料をよく読んで授業内容の全体像を理解すること。

◆**教科書** 丸沼『商学通論』久保村隆祐編〔九訂版〕同文館出版 平成29年
事前資料送付 事前にプリント配布

◆**参考書** 通材『商学総論 S20100』通信教育教材（教材コード000356）

◆**成績評価基準** テスト（80%）、小論文・授業への取組み・受講態度（20%）などを総合的に評価します。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

【水曜日】

時限	講座コード	開講講座名	担当講師名	単開 位 数講	充 当 科 目		制 限・注 意			受オ ー プ ン 講	
					科 目 コ ー ド	科 目 名	併 用	配 当 学 年	受 講 条 件		
1 時 限	AC11	政 治 学	関根 二三夫	2	B11700	政 治 学	×	1年			
	AC12	英 語 基 礎 A	和泉 周子	1	C10600	英 語 基 礎	×	1年	・文学専攻（英文学）は申込不可。		
	AC13	日 本 史 入 門	鍋本 由徳	2	Q20100	日 本 史 入 門	×	条件参照	・史学専攻のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。		
	AC14	経 済 原 論 / 経 済 学 原 論 B	前野 高章	2	R20100	経 済 原 論	×	条件参照	・経済学部は1学年以上申込可。 ・文理・商学部は2学年以上申込可。	・政治経済学科は1学年以上申込可。 ・法律学科は2学年以上申込可。	
					L20200	経 済 学 原 論	×				
	AC15	財 政 学 総 論 / 財 政 学	川又 祐	2	R31500	財 政 学 総 論	×	2年	・文理・経済・商学部のみ申込可。	・法学部のみ申込可。	
L31400					財 政 学	×					
AC16	マ ー ケ テ ィ ン グ	雨宮 史卓	2	S30500	マ ー ケ テ ィ ン グ	×	2年				
2 時 限	AC21	英 語 H	森 晴代	1	C10100	英 語 I	×	1年	・I～IVのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。		
					C10200	英 語 II					
					C10300	英 語 III		2年			
					C10400	英 語 IV					
	AC22	英 語 J	和泉 周子	1	C10100	英 語 I	×	1年	・I～IVのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。		
					C10200	英 語 II					
					C10300	英 語 III		2年			
					C10400	英 語 IV					
	AC23	商 法 II	南 健悟	2	K30600	商 法 II	×	2年			
	AC24	西 洋 史 演 習 I・II	藤井 信行	1	Q405S0	西 洋 史 演 習 I	×	3年	・史学専攻のみ申込可。 ・I, IIのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。		
					Q406S0	西 洋 史 演 習 II					
	AC25	経 済 学 概 論 B	関谷 喜三郎	2	R20300	経 済 学 概 論	×	条件参照	・経済学部は1学年以上申込可。 ・それ以外は2学年以上申込可。		

注意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。
その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

【水曜日】

時限	講座 コード	開講講座名	担当講師名	単開 位 数講	充 当 科 目		制 限 ・ 注 意			受オ ー プ ン 講
					科 目 コ ー ド	科 目 名	併 用	配 当 学 年	受 講 条 件	
3 時 限	AC31	法 学 A	武田 茂樹	2	B11500	法学（日本国憲 法2単位を含む）	×	1年		
	AC32	英 語 K	北原 安治	1	C10100	英 語 I	×	1年	・ I～IVのいずれに該当さ せるのか充当科目コード を必ず記入してください。	
					C10200	英 語 II				
					C10300	英 語 III				
					C10400	英 語 IV				
	AC33	刑 法 I	岡西 賢治	2	K20300	刑 法 I	×	条件 参照	・ 法律学科のみ1学年以上 申込可。 ・ 上記以外は2学年以上申 込可。	
	AC34	国文学基礎演習	野口 恵子	1	M317S0	国文学基礎演習	×	2年	・ 文学専攻（国文学）のみ 申込可。	
AC35	英語音声学	森 晴代	2	N30600	英語音声学	×	2年			
AC36	アメリカ経済論	羽田 翔	2	R312S0	アメリカ経済論	×	2年			
4 時 限	AC41	文 化 史 A	渡邊 浩史	2	B11200	文 化 史	×	1年		
	AC42	憲 法	名雪 健二	2	K20100	憲 法	×	条件 参照	・ 法学部のみ1学年以上申 込可。 ・ 上記以外は2学年以上申 込可。	
	AC43	日本思想史 I	島田 健太郎	2	P30800	日本思想史 I	×	2年		
	AC44	東洋史入門	綿貫 哲郎	2	Q202S0	東洋史入門	×	2年		
	AC45	考古学入門	浜田 晋介	2	Q20400	考古学入門	×	条件 参照	・ 史学専攻のみ1学年以上 申込可。 ・ 上記以外は2学年以上申 込可。	
	AC46	東洋史特講 I	高網 博文	2	Q31000	東洋史特講 I	×	2年		
5 時 限	AC51	歴 史 学 A	堀井 弘一郎	2	B11100	歴 史 学	×	1年		
	AC52	国語学概論	保科 恵	2	M20300	国語学概論	×	条件 参照	・ 文学専攻（国文学）のみ 1学年以上申込可。 ・ 上記以外は2学年以上申 込可。	
	AC53	東洋史概説/ 東洋史概論	塚本 剛	2	Q30300	東洋史概説	×	2年	・ 文理・経済・商学部のみ 申込可。	
K32300					東洋史概論	×	2年	・ 法学部のみ申込可。		

注意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。
その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔政治学〕

関根 二三夫

◆**授業概要** 基礎教育としての講義を行います。政治学の変遷、政治の概念や本質、政治権力、国家と国家機関、議会政治、立法部と行政部、大統領拒否権や議会拒否権など、主に政治に関する思想的側面や制度面について学びます。

◆**学修到達目標** 議会や大統領もしくは内閣の動きを見ますと、政治が難しい現象のように思われます。しかし、法律や予算の制定や執行は、国家や社会及び個人の発展に寄与するために役立ちます。この講義においては、政治が我々の生活に大きな影響を及ぼすと同時に、我々にとって身近な現象であることを理解できるようにします。

◆**授業方法** 講義形式で行います。講義においては、政治に関する受講生の問題意識を高め、それに対する解決能力を啓発するように進めて行きます。講義で知り得た内容が、如何なる意義を有するのか、それが個人や社会や国家にとってどのように関係しているかを客観的に理解しなければなりません。講義中に理解度チェックを行い、講義内容に関する受講生の理解度を高めて行きます。受講に際しては、予習及び復習が必要になります。

◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容	講義全体の概要の説明
	事前学修	テキストを熟読し、概要を理解すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
2回	授業内容	政治学の変遷
	事前学修	参考書の第1章第2節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、時代区分毎にノートにまとめること。
3回	授業内容	政治の概念
	事前学修	参考書の第1章第1節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
4回	授業内容	政治の本質
	事前学修	テキストの第1章第1節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
5回	授業内容	政治権力—概念及び構造
	事前学修	テキストの第1章第2節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
6回	授業内容	政治権力—支配の手段
	事前学修	参考書の第2章第4節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
7回	授業内容	国家成立の要素
	事前学修	参考書の第3章を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
8回	授業内容	国家の分類
	事前学修	参考書の第3章を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
9回	授業内容	国家機関
	事前学修	参考書の第3章を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
10回	授業内容	議会政治の原理
	事前学修	参考書の第4章第1節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
11回	授業内容	議会の構成
	事前学修	テキストの第5章及び参考書の第4章第1節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
12回	授業内容	議院内閣制
	事前学修	テキストの第5章及び参考書の第4章第1節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
13回	授業内容	大統領制
	事前学修	テキストの第5章及び参考書の第4章第1節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
14回	授業内容	大統領拒否権
	事前学修	テキストの第5章及び参考書の第4章第1節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
15回	授業内容	議会拒否権
	事前学修	テキストの第5章及び参考書の第4章第1節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。

◆**教科書** 教材『政治学 B11700』通信教育教材（教材コード000279）

◆**参考書** 丸沼『教養政治学』岩井奉信・黒川貢三郎・関根二三夫他 改訂 南窓社 2012年

◆**成績評価基準** 試験70%、平常点30%、※試験同様、質問や理解度チェック等の平常点も重視しますので、受講に際しては欠席をしないように注意して下さい。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

【英語基礎 A】

和泉 周子

◆**授業概要** 本授業では文法を基礎から学びます。多種多様な演習問題に取り組むことを通じて、基礎力の定着と応用力の養成を行い、英語 4 技能の中では特に「リーディング」の技能の向上を目指します。

【後期開講の昼間スクーリング「英語基礎」(和泉周子担当)と併せて受講することが望ましい】

◆**学修到達目標** 文法を理解し、その知識を運用して英文を和訳できるようになる。

◆**授業方法** 変則的な回もありますが、基本的には該当ユニットの文法事項と Mini-Point を解説した後、STEP 1 から答えを確認していきます。STEP 1 と 2 は演習問題ごとにすべての英文を、STEP 3 は設問の答えの確認に加えて長文の英文を一文ごとに、音読し和訳してもらいます。その際に文法や文構造、語彙についても確認します。

なお、授業計画はあくまでの目安であり、授業計画通りの進捗で進まない場合があります。

本授業の事前学修・事後学修の時間は各 2 時間を目安としています。

◆授業計画 (各 90 分)

1 回	授業内容: ガイダンス: 授業内容や進め方、成績評価基準等の説明、Unit 3 動詞: 1 Be 動詞 or 一般動詞と Unit 1 英語の文: 1 肯定文と否定文・2 疑問文の文法解説 事前学修: シラバスを確認し、P.14 と P.6 の該当箇所の説明を読む。 事後学修: P.14 と P.6 の該当箇所の内容をノート等に整理し、復習する。
2 回	授業内容: Unit 1 英語の文: 3 命令文・4 感嘆文と Unit 1・3 の Mini-Point の文法解説及び Unit 3 動詞: STEP 1 3 の演習問題 事前学修: P.6, 8, 16 の該当箇所の説明を読み、P.15 の 3 の問題を解く。 事後学修: ① P.6, 8, 16 の該当箇所の内容をノート等に整理し、復習する。 ② P.15 の 3 の間違えた問題は P.14 の 1 と P.6 の 1・2 の該当箇所と照らし合わせて復習する。
3 回	授業内容: Unit 1 英語の文: 演習問題 事前学修: P.7-9 の問題を解く。 事後学修: STEP 1 と 2 で間違えた問題は P.6, 8, 16 の該当箇所と照らし合わせて復習する。STEP 3 は長文の各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら全体の内容を理解し、設問で間違えた問題は長文の該当箇所と照らし合わせて復習する。
4 回	授業内容: Unit 4 5 文型と Mini-Point 及び Unit 3 動詞: 2 自動詞 or 他動詞の文法解説 事前学修: P.18, 20, 14 の該当箇所の説明を読む。 事後学修: P.18, 20, 14 の該当箇所の内容をノート等に整理し、復習する。
5 回	授業内容: Unit 4 5 文型: 演習問題 事前学修: P.19-21 の問題を解く。 事後学修: STEP 1 と 2 で間違えた問題は P.18 と P.14 の該当箇所と照らし合わせて復習する。STEP 3 は長文の各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら全体の内容を理解し、設問で間違えた問題は長文の該当箇所と照らし合わせて復習する。
6 回	授業内容: Unit 5 助動詞と Mini-Point 及び Unit 3 動詞: 4 本動詞 or 助動詞の文法解説 事前学修: P.22, 24, 14 の該当箇所の説明を読む。 事後学修: P.22, 24, 14 の該当箇所の内容をノート等に整理し、復習する。
7 回	授業内容: Unit 5 助動詞: 演習問題 事前学修: P.23-25 の問題を解く。 事後学修: STEP 1 と 2 で間違えた問題は P.22, 24, 14 の該当箇所と照らし合わせて復習する。STEP 3 は長文の各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら全体の内容を理解し、設問で間違えた問題は長文の該当箇所と照らし合わせて復習する。
8 回	授業内容: Unit 6 時制と Mini-Point 及び Unit 3 動詞: 5 動作動詞 or 状態動詞の文法解説 事前学修: P.26, 28, 14 の該当箇所の説明を読む。 事後学修: P.26, 28, 14 の該当箇所の内容をノート等に整理し、復習する。
9 回	授業内容: Unit 7 完了形と Mini-Point の文法解説 事前学修: P.30 と P.32 の該当箇所の説明を読む。 事後学修: P.30 と P.32 の該当箇所の内容をノート等に整理し、復習する。
10 回	授業内容: Unit 7 完了形: 演習問題 事前学修: P.31-33 の問題を解く。 事後学修: STEP 1 と 2 で間違えた問題は P.30 と P.32 の該当箇所と照らし合わせて復習する。STEP 3 は長文の各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら全体の内容を理解し、設問で間違えた問題は長文の該当箇所と照らし合わせて復習する。
11 回	授業内容: Unit 6 時制: 演習問題 事前学修: P.27-29 の問題を解く。 事後学修: STEP 1 と 2 で間違えた問題は教科書の該当箇所と照らし合わせて復習する。STEP 3 は長文の各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら全体の内容を理解し、設問で間違えた問題は長文の該当箇所と照らし合わせて復習する。
12 回	授業内容: Unit 3 動詞: 演習問題 事前学修: P.15-17 の問題を解く (P.15 の 3 は除く)。 事後学修: STEP 1 と 2 で間違えた問題は教科書の該当箇所と照らし合わせて復習する。STEP 3 は長文の各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら全体の内容を理解し、設問で間違えた問題は長文の該当箇所と照らし合わせて復習する。
13 回	授業内容: Unit 2 名詞・代名詞・冠詞と Mini-Point の文法解説 事前学修: P.10 と P.12 の該当箇所の説明を読む。 事後学修: P.10 と P.12 の該当箇所の内容をノート等に整理し、復習する。
14 回	授業内容: Unit 2 名詞・代名詞・冠詞: 演習問題 事前学修: P.11-13 の問題を解く。 事後学修: STEP 1 と 2 で間違えた問題は P.10 と P.12 の該当箇所と照らし合わせて復習する。STEP 3 は長文の各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら全体の内容を理解し、設問で間違えた問題は長文の該当箇所と照らし合わせて復習する。
15 回	授業内容: 試験及び解説 事前学修: 14 回目までの授業内容を確認し、理解する。 事後学修: 全授業内容を整理し、ノート等にまとめる。

◆**教科書** 丸沼『Starting Gate — An Introduction to English Grammar — 基礎から始める英語演習』
山田久美 / 川尻徳 / マイケル・デーリィ 南雲堂 2019 年

◆**参考書** 指定しない

◆**成績評価基準** 試験 (70%)、発表等の授業への参画度 (30%)

毎回出席することを前提とします。また、発表等の授業への参画度には予習状況が含まれます。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔日本史入門〕

鍋本 由徳

◆**授業概要** 本科目は、今後、主に史学専攻での研究方法を学ぶ専門性の高い科目です。①日本史学修の意義、②原始・古代～現代へのアプローチ、③資料による学修・研究方法を通じて、日本史を学修し、また研究するための方法を学びます。日本史に関わるさまざまなテーマについて、身近な生活からアプローチし、教科書内容の更なる理解へと導いていきます。史料専門調査員としての経験を活かし、史料の収集・整理、歴史学的考察の方法について指導します。なお、授業計画は「予定」であり、変更する場合があります。

◆**学修到達目標** 1. 日本史に関する広い知識を得るため、各時代の特徴を説明できるようにする。
2. テーマ学修から幅広いジャンルへ展開できる能力を身につける。
3. 史料調査・収集・整理の方法や、歴史学的考察の基礎を身につける。
4. 将来卒業論文を書く、あるいは教壇に立つ者としての必要な知識と姿勢を身につける。

◆**授業方法** 原則として教科書の内容を使います（事前に読んでおくことが前提です）。プリント・スクリーン投影資料を併用しながら教科書の内容を説明します。各回終了前に理解度チェック（小テスト）と理解度自己評価をおこない、次回授業の冒頭でテストと自己評価を踏まえて講評します。

◆**履修条件** 令和元年度昼間スクーリング（前期）「日本史入門」修得済の学生は履修不可

◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容 日本史を学ぶための基礎道具 基本入門書（概説書）と基本辞書の読み方・使い方を学びます。 事前学修 日本史の概要を知るための概説書・辞典類を図書館などで調べておく。 事後学修 紹介本の数冊を読んで、文献一覧を確認する。辞典で歴史用語を調べる。
2回	授業内容 村と租税（古代・中世・近世）「領収書」の歴史の変遷から、日本の税制の特徴を学びます。 事前学修 教科書「Ⅲの2」を読み、内容をまとめておく。事前シートへの記入。 事後学修 ノートと教科書を見返し、参考書や歴史事典などを使って、自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
3回	授業内容 期間限定の売買（古代・中世・近世）近代と前近代との「売買契約」の違いから、商慣行の特徴を学びます。 事前学修 教科書「Ⅲの1」を読み、内容をまとめておく。事前シートへの記入。 事後学修 ノートと教科書を見返し、参考書や歴史事典などを使って、自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
4回	授業内容 文学にみられる感性（中世）歴史小説と歴史学文献を比較して、科学としての日本史を学びます。 事前学修 教科書「Ⅰの1」を読み、内容をまとめておく。事前シートへの記入。 事後学修 ノートと教科書を見返し、参考書や歴史事典などを使って、自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
5回	授業内容 災害と「ユーモア」（中世・近世）「彗星」「地震」などの天文・災害認識の変遷を学びます。 事前学修 教科書「Ⅳの1」を読み、内容をまとめておく。事前シートへの記入。 事後学修 ノートと教科書を見返し、参考書や歴史事典などを使って、自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
6回	授業内容 職業と「伝統」の根拠（中世・近世）建築に関わる歴史から、由緒や技術の伝播について学びます。 事前学修 教科書「Ⅲの3」を読み、内容をまとめておく。事前シートへの記入。 事後学修 ノートと教科書を見返し、参考書や歴史事典などを使って、自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
7回	授業内容 近世にみる祭と外国人（近世）「祭礼」の持つ意味を国内外の視点から学びます。 事前学修 教科書「Ⅱの1」を読み、内容をまとめておく。事前シートへの記入。 事後学修 ノートと教科書を見返し、参考書や歴史事典などを使って、自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
8回	授業内容 勧善懲悪の時代劇（幕末維新）「水戸黄門」「大岡越前」から、史実と虚構の関係を学びます。 事前学修 教科書「Ⅰの3」を読み、内容をまとめておく。事前シートへの記入。 事後学修 ノートと教科書を見返し、参考書や歴史事典などを使って、自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
9回	授業内容 盛り場と都市論（幕末維新）浅草・新京極・新宿の成立を比較しながら都市の成立を学びます。 事前学修 教科書「Ⅱの2」を読み、内容をまとめておく。事前シートへの記入。 事後学修 ノートと教科書を見返し、参考書や歴史事典などを使って、自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
10回	授業内容 都市開発と鉄道（近代）鉄道の発展と都市開発との関係を学びます。 事前学修 教科書「Ⅱの3」を読み、内容をまとめておく。事前シートへの記入。 事後学修 ノートと教科書を見返し、参考書や歴史事典などを使って、自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
11回	授業内容 近代教育と音楽（近世・近代）唱歌教育の展開から、近代日本の国策（教育）について学びます。 事前学修 教科書「Ⅳの2」を読み、内容をまとめておく。事前シートへの記入。 事後学修 ノートと教科書を見返し、参考書や歴史事典などを使って、自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
12回	授業内容 歴史映画による刷り込み（近代）映像による刷り込みから来る歴史学修の危険性について学びます。 事前学修 教科書「Ⅰの2」を読み、内容をまとめておく。事前シートへの記入。 事後学修 ノートと教科書を見返し、参考書や歴史事典などを使って、自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
13回	授業内容 生活空間からみた日本史（中世～近代）中世から現代の住宅事情から、男女認識の変化について学びます。 事前学修 教科書「Ⅲの4」を読み、内容をまとめておく。事前シートへの記入。 事後学修 ノートと教科書を見返し、参考書や歴史事典などを使って、自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
14回	授業内容 人生儀礼（民俗）「通過儀礼」を通して、誕生と死去の歴史の変遷を学びます。 事前学修 教科書「Ⅴの1・2・3」を読み、内容をまとめておく。事前シートへの記入。 事後学修 ノートと教科書を見返し、参考書や歴史事典などを使って、自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
15回	授業内容 講義総括 日本史の学修と研究視点 第1回から第14回を総括して、自己理解度を改めて振り返ります。 事前学修 第1回から第14回の学修内容の要点をまとめておく。 事後学修 当日配付されたプリントから自身の弱点を知り、重点復習箇所を確認する。

◆**教科書** 題材『日本史入門 Q20100』通信教育教材（教材コード 000484）
〔当日資料配布〕参照プリントを1～2枚配付

◆**参考書** 〔当日資料配布〕配布プリントで適宜紹介します

◆**成績評価基準** 授業内提出レポート（60%）、授業内小テスト（30%）、授業への参画度（10%）の総合評価
※15回全出席を前提とした評価です。

注意 E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔経済原論 / 経済学原論 B〕

前野 高章

◆**授業概要** 本講義では、市場を構成する家計・企業・政府といった各経済主体の選択行動の基礎理論を把握し、そこから導かれる市場メカニズムについて一般均衡分析の考え方を学修し、さらに価格メカニズムが機能しない市場の失敗を導く諸要因について学修する。

◆**学修到達目標** ミクロ経済学において、完全競争市場の下では最も効率的な資源配分が達成されることを学び、「市場の失敗」を生む諸要因を中心に学び、市場機構の限界を認識すると同時に、それをどのように克服していくかについての理解を深める。ミクロ経済学を通じ、経済学の「基礎知識」を身につけ、その中で「経済学的な考え方」と「分析手法」を養い、応用・展開科目を学ぶ土台を築くことができるようになり、最終的には経済の動きを客観的に説明できるようにすることを目標とする。

◆**授業方法** 本講義は教材の内容を中心に原則としてパワーポイントと板書で授業を進める。必要に応じて講義関連資料および時事経済関連の新聞・雑誌記事等を資料として配布・解説する。経済学の理論を理解することを目的とし、経済学とはどのような学問であるのかという点を中心に授業を進める。また、講義内で課題を設ける場合、その解説は講義内で行うようにする。

◆**履修条件** 令和二年度昼間スクーリング(前期)に開講される他の経済原論との積み重ねは不可。

◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容: 経済学とは何かについて 講義の進め方について確認し、経済学とは何かなどについて学修する。 事前学修: 経済学とはどのような学問であるのかを考えておく。 事後学修: 講義の内容を整理し、配布資料を読んで、重要なポイントを整理する。
2回	授業内容: 経済循環について 世界や日本の経済循環と市場について学修する。 事前学修: 配布資料、教科書・参考書などから経済循環と市場の特徴について確認する。 事後学修: 講義内容をもとに、経済循環について整理する。
3回	授業内容: 経済学の分析視点について ミクロ経済学とマクロ経済学の分析視点について学修する。 事前学修: 配布資料、教科書・参考書などから経済学の分析視点を確認する。 事後学修: 講義内容をもとに、ミクロ経済学とマクロ経済学の分析視点について整理する。
4回	授業内容: キーコンセプトについて 経済学におけるいくつかの重要なコンセプトを学修する。 事前学修: 配布資料、教科書・参考書などから経済学の基本的な概念を確認する。 事後学修: 講義内容をもとに、第1回から第4回までの内容を整理する。
5回	授業内容: 消費者行動の理論① 効用、無差別曲線、限界効用、限界代替率、予算制約線について学修する。 事前学修: 配布資料、教科書・参考書などから消費者行動の基本事項を確認する。 事後学修: 講義内容をもとに、効用最大化について整理する。
6回	授業内容: 消費者行動の理論② 所得や価格の変化と最適消費点の変化について学修する。 事前学修: 前回の講義内容を復習し、消費者行動の基本理論を確認する。 事後学修: 講義内容をもとに、代替効果や所得効果について整理する。
7回	授業内容: 生産者行動の理論① 企業行動と生産関数について学修する。 事前学修: 配布資料、教科書・参考書などから生産者行動の基本事項を確認する。 事後学修: 講義内容をもとに、生産関数について整理する。
8回	授業内容: 生産者行動の理論② 企業行動と費用について学修する。 事前学修: 前回の講義内容を復習し、生産者行動の基本理論を確認する。 事後学修: 講義内容をもとに、利潤最大化について整理する。
9回	授業内容: 生産者行動の理論③ 最適生産の決定について学修する。 事前学修: 前回までの講義内容を復習し、生産者行動の理論を整理する。 事後学修: 講義内容をもとに、消費者行動および生産者行動の理論を整理する。
10回	授業内容: 市場の均衡について 完全競争市場の均衡と効率性について学修する。 事前学修: 配布資料、教科書・参考書などから市場取引と資源配分のメカニズムを確認する。 事後学修: 講義内容をもとに、市場の均衡について整理する。
11回	授業内容: 不完全競争市場 - 独占市場 - 独占市場について学修する。 事前学修: 配布資料、教科書・参考書などから不完全競争市場とは何かを確認する。 事後学修: 講義内容をもとに、独占市場について整理する。
12回	授業内容: 不完全競争市場 - 寡占市場と独占的競争市場 - 寡占市場と独占的競争市場について学修する。 事前学修: 配布資料、教科書・参考書などから独占的競争市場について確認する。 事後学修: 講義内容をもとに、寡占市場と独占的競争市場について整理する。
13回	授業内容: 外部性、不確実性、不完全情報 市場の失敗、不確実性、情報の非対称性について学修する。 事前学修: 配布資料、教科書・参考書などから市場の失敗について確認する。 事後学修: 講義内容をもとに、外部性、不確実性と不完全情報について整理する。
14回	授業内容: 理解度の確認 消費者行動と生産者行動の諸理論をもとに、完全競争市場の均衡がどのように導かれるのかについて整理する。 事前学修: これまで配布した資料を熟読し、要点をノートにまとめる。 事後学修: 講義内容の要点項目を再確認し、講義内容をノートに整理する。
15回	授業内容: 試験および総まとめ 講義で学修した内容の総確認を行う。 事前学修: 全配布資料から講義の要点をまとめる。 事後学修: 講義および試験をふまえ、ミクロ経済学の基礎理論について再確認する。

◆**教科書** [当日資料配布] 各回で必要な講義資料を配布する。
[丸沼]『ミクロ経済学(第3版)』伊藤元重 日本評論社 2018年

◆**参考書** [丸沼]『入門ミクロ経済学』井堀利宏 第3版 新世社 2019年
[丸沼]『ミクロ経済学の力』神取道宏 日本評論社 2014年

◆**成績評価基準** 試験(70%)、講義内課題(30%)。毎回出席することを前提として評価し、基礎理論を身に付けているかを判定する。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔財政学総論 / 財政学〕

川又 祐

◆**授業概要** 現実社会で起こっている財政現象を適宜紹介しながら、学生自らそれらを理解し、説明できるよう学修する。また、各種公務員試験や資格試験では、経済学や財政学が重要科目となっている。経済学や財政学の学びを通じて、試験対策にも役立つよう重要事項を学修する。

◆**学修到達目標** 財政を総合的に理解できるようにするため、現代財政の意義、役割の分析を通じて、批判的思考力を習得する。それによって財政の三大機能、財政民主主義、予算制度を説明することができるようにする。

◆**授業方法** テキスト中心に講義形式の授業を行う。適宜、Pワポを使用する。必要な資料は講義中に配布する。本授業の事前学修・事後学修は各2時間を目安としている。

◆**履修条件** 経済学概論をすでに履修していることが望ましい。また経済学原論を履修中であることが望ましい。

◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容 事前学修 事後学修	授業ガイダンス 教科書の第1章 財政の3大機能 1財政と、財政学の歴史 これにより、社会科学における財政学の位置づけを理解し、財政学を学ぶ意義を認識できる。 古典学派と官房学派及びその代表者について調べる。 財政学の2大源流を説明できるようにする。
2回	授業内容 事前学修 事後学修	財政と資源配分機能① 教科書の第1章 2財政と資源配分機能 これにより、経済循環と政府の財政、財政学理論の発展過程、市場の機能、市場の失敗と財政の機能（役割）との関係を学習し、受講生が財政の機能の意義について説明できるようにする。 現代の財政に期待される役割を調べる。 市場の失敗を説明できるようにする。
3回	授業内容 事前学修 事後学修	財政と資源配分機能② 教科書の第1章 2財政と資源配分機能 これにより、民間財と公共財の違いを認識し、財政の資源配分機能を説明できるようにする。 公共財の概念を調べる。 純粋公共財と準公共財を説明できるようにする。
4回	授業内容 事前学修 事後学修	財政と所得再配分機能① 教科書の第1章 3財政と所得再配分機能 これにより、資本主義は所得不平等を前提とする社会であることを説明できるようにする。 資本主義における所得の不平等の原因を調べる。 絶対的貧困と相対的貧困を説明できるようにする。
5回	授業内容 事前学修 事後学修	財政と所得再配分機能② 教科書の第1章 3財政と所得再配分機能 これにより、財政の所得再配分機能を説明できるようにする。 財政が所得再配分を実現している累進税と生活保護を調べる。 ローレンツ曲線とジニ係数を説明できるようにする。
6回	授業内容 事前学修 事後学修	財政と経済安定機能① 教科書の第1章 4財政と経済安定機能 これにより、世界大不況の原因を説明できるようにする。 J.M.ケインズの経済学における業績について調べる。 ケインズの有効需要の原理、乗数理論を説明できるようにする。
7回	授業内容 事前学修 事後学修	財政と経済安定機能② 教科書の第1章 4財政と経済安定機能 5現代財政の課題 これにより、財政の経済安定機能を説明できるようにする。 フィスカル・ポリシー、ビルド・イン・スタビライザーを調べる。 フィスカル・ポリシーの目標である完全雇用を説明できるようにする。
8回	授業内容 事前学修 事後学修	財政民主主義 教科書の第2章 予算制度 1財政民主主義 これにより、財政民主主義の意義を説明できるようにする。 財政民主主義の歴史的背景を調べる。 戦前と戦後の日本における財政民主主義の相違を説明できるようにする。
9回	授業内容 事前学修 事後学修	予算制度 教科書の第2章 2予算制度 これにより、予算がどのような過程を経て成立するか、説明できるようにする。 予算の種類を調べる。 財政法の規定を確認する。
10回	授業内容 事前学修 事後学修	予算原則 教科書の第2章 3予算原則 これにより、予算原則を説明できるようにする。 財政民主主義と予算原則との関係を調べる。 伝統的予算原則と現代的予算原則の相違を調べる。
11回	授業内容 事前学修 事後学修	予算制度 教科書の第2章 4予算制度の課題 これにより、財政の役割を実現するために必要な予算制度を説明できるようにする。 財政民主主義を再確認する。 予算制度の課題を調べる。
12回	授業内容 事前学修 事後学修	政府支出 教科書の第3章 政府支出の理論と実際 1政府支出の理論 これにより、政府支出（経費）の効果を説明できるようにする。 ケインズの有効需要の原理、乗数理論を再確認する。 フィスカル・ポリシーの内容を再確認する。
13回	授業内容 事前学修 事後学修	経費膨張 教科書の第3章 2政府支出の膨張要因 これにより、経費膨張の法則を説明できるようにする。 アドルフ・ワグナーの財政学における業績を調べる。 ヒーコック、ワイズマンの経費膨張論を調べる。
14回	授業内容 事前学修 事後学修	政府支出の構造 教科書の第3章から、3政府支出の構造を明らかにする。政府支出（経費）の分類を説明できるようにする。 政府支出の効果を再確認する。 政府支出（経費）の分類を整理する。
15回	授業内容 事前学修 事後学修	経費区分 教科書の第3章 4主要な経費 これにより、主要経費やその他の経費区分を説明できるようにする。 今年度予算の政府支出（経費）を調べる。 主要経費の額を各年度で比較する。

◆**教科書** 丸沼「財政学入門」川又祐ほか 八千代出版 2019

◆**参考書** なし

◆**成績評価基準** 毎回出席することを前提にして、リアクションペーパー（小テスト）20%、期末試験80%で評価する。

注意 E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔マーケティング〕

雨宮 史卓

◆**授業概要** 製品にまつわる競争優位の源泉は、時代とともに大きく変化している。それによって、マーケティング戦略の進め方も大きく変化してきた。近年、強まっていた消費者の低価格志向による価格競争は、広告費の減少やメディア戦略の見直しを迫っているのが現状である。このような状況下で、本講義はマーケティングを深く理解するための前提となる、基礎的な知識を体系的に解説する事を目的とする。実務経験から得た知識を具体例として挙げ、できるだけ平易に分かりやすく解説する。

◆**学修到達目標**

- 1 マーケティング戦略の機能・役割を基礎から理解できる。
- 2 消費者ニーズを探り、それを満たすための企業活動が理解できる。
- 3 市場動向の変化を捉え、情報を収集し分析ができるようになる。
- 4 プロモーション戦略やブランド戦略等の戦略策定が理解できる。

◆**授業方法** ターン前半はテキストに沿いながら、日本市場におけるマーケティングの歴史と発展、変化を中心に解説する。ターン後半は具体的なケースを織り込みつつ、幅広い知識習得を目指す。必要に応じて資料を配布する。また、その日の授業の後半で、主要なテーマについてのリアクションペーパー（小論文）の提出を求める。

◆**履修条件** 後期マーケティング論との継続受講が望ましい。

◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容：ガイダンス 授業の進め方 マーケティングを学ぶことの意義 事前学修：テキスト9頁～19頁をよく読んでおくこと。 事後学修：授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分と配布資料を読んで、今回の授業内容を確認し理解しておくこと。
2回	授業内容：マーケティングの基本理念とその概念 事前学修：配布資料をよく読んでおくこと。 事後学修：授業の内容をノートに整理し、配布資料の必要箇所をノートにまとめること。
3回	授業内容：製品戦略 事前学修：テキスト23頁～32頁をよく読んでおくこと。 事後学修：テキスト28頁の図をノートに書き写し、内容を理解しておくこと。
4回	授業内容：製品とサービスの関係 事前学修：配布資料をよく読んでおくこと。 事後学修：授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分と配布資料を読んで、今回の授業内容を確認し理解しておくこと。
5回	授業内容：市場細分化戦略 事前学修：テキスト31頁～34頁をよく読んでおくこと。 事後学修：授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分を読んで、全体を確認し理解しておくこと。
6回	授業内容：ソーシャル・マーケティング 事前学修：テキスト37頁～49頁をよく読んでおくこと。 事後学修：授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分を読んで、全体を確認し理解しておくこと。
7回	授業内容：サービスのマーケティング 事前学修：テキスト54頁～56頁と配布資料をよく読んでおくこと。 事後学修：授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分と配布資料を読んで、今回の授業内容を確認し理解しておくこと。
8回	授業内容：価格戦略 事前学修：テキスト第9章と配布資料をよく読んでおくこと。 事後学修：授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分と配布資料を読んで、今回の授業内容を確認し理解しておくこと。
9回	授業内容：流通戦略 事前学修：テキスト第10章をよく読んでおくこと。 事後学修：授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分を読んで、全体を確認し理解しておくこと。
10回	授業内容：プロモーション戦略 事前学修：配布資料をよく読んでおくこと。 事後学修：授業の内容をノートで確認し、配布資料で支持された図をノートに書き写しておくこと。
11回	授業内容：プロモーション・ミックスと広告計画 事前学修：テキスト第12章をよく読んでおくこと。 事後学修：授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分を読んで、全体を確認し理解しておくこと。
12回	授業内容：ブランド概念とそのマネジメント 事前学修：配布資料の図をノートに書き写しておくこと。 事後学修：授業の内容を整理し、配布資料の必要箇所をノートにまとめること。
13回	授業内容：消費者行動 事前学修：テキスト71頁～82頁をよく読んでおくこと。 事後学修：授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分を読んで、全体を確認し理解しておくこと。
14回	授業内容：前期授業の総復習 事前学修：配布資料の各項目をノートとテキストで確認しておくこと。 事後学修：要点項目として配布資料に挙げたものを、再確認し授業内容をノートに整理しておくこと。
15回	授業内容：テストと解説 事前学修：配布資料の項目をテキストとノートで学習しておくこと。 事後学修：テキストの前期箇所を読み返し、それぞれの当該箇所をノートで確認し、前期の授業内容の全体像を理解すること。

◆**教科書** 教材「マーケティング S30500」
〔当日資料配布〕必要に応じて資料を配布する

◆**参考書** なし

◆**成績評価基準** テスト（40%）、小論文（40%）、平常点（20%） 授業の取り組み、小論文、テストにより総合的に評価します。

注意 E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔英語 H〕★★☆

森 晴代

◆**授業概要** CNN ニュースを使用してアンカーや特派員の生きた英語の直聴直解を目指します。英語の4技能のうち、理解言語である「読む、聞く」を繰り返し練習することにより、英語そのものに慣れ、自然とシャドーイングができるようにします。表現言語である「話せる、書ける」は、理解言語を相当有していることが上達の前提となりますので、扱うニュースについて事前に調べておき、周辺の言葉のある程度知っておく必要があります

◆**学修到達目標** 1. ネイティブスピーカーが日常使用する 5000 語を身につける。スペルのミスをなくす。
2. 1 分間に 150 語の音読ができる。棒読みではなく、自分の言葉として英語が出るようにする。
3. 音読文章の内容を正確に把握することができる。

◆**授業方法** 2回の授業で1unit 進めます。本文のリスニング、要約、内容のディスカッション、質疑応答、音読（オーバーラッピング、シャドーイング）をグループワークを取り入れて行います。グループはクラスの人数により変更しますが4～6名で1グループを予定しています。辞典は必ず毎回持参してください。小テストは各 unit 終了時にその unit の書き取り、もしくはパッセージの要約のいずれかを行います。

◆授業計画 [各 90 分]

1 回	授業内容	リスニングと音読の関係性の説明。 Unit 1: Largest Model Train 内容に関するディスカッション、単語の意味及び発音練習
	事前学修	Unit 1 の内容を予習しておくこと
	事後学修	トピックの内容の整理、重要単語の暗記、アンカー部分の発音の練習をしておくこと
2 回	授業内容	Unit 1: Largest Model Train リスニング及び要約 質疑応答 オーバーラッピング シャドーイング
	事前学修	本文のリスニングを解いて、内容を把握してくること
	事後学修	スムーズな音読、内容を把握、単語の確認をしておくこと
3 回	授業内容	Unit 1 の補足 小テスト、Unit 2: No Phones in French Schools 内容に関するディスカッション、単語の意味及び発音練習
	事前学修	Unit 1 の小テストに備えること、Unit 2 の内容を予習しておくこと
	事後学修	小テストでのミスを再度確認、トピックの内容の整理、重要単語の暗記、アンカー部分の発音の練習をしておくこと
4 回	授業内容	Unit 2: No Phones in French Schools リスニング及び要約 質疑応答 オーバーラッピング シャドーイング
	事前学修	本文のリスニングを解いて、内容を把握してくること
	事後学修	スムーズな音読、内容を把握、単語の確認をしておくこと
5 回	授業内容	Unit 2 の補足 小テスト、Unit 3: Food on Instagram 内容に関するディスカッション 単語の意味及び発音練習
	事前学修	Unit 2 の小テストに備えること、Unit 3 の内容を予習しておくこと
	事後学修	小テストでのミスを再度確認、トピックの内容の整理、重要単語の暗記、アンカー部分の発音の練習をしておくこと
6 回	授業内容	Unit 3: Food on Instagram リスニング及び要約 質疑応答 オーバーラッピング シャドーイング
	事前学修	本文のリスニングを解いて、内容を把握してくること
	事後学修	スムーズな音読、内容を把握、単語の確認をしておくこと
7 回	授業内容	Unit 3 の補足 小テスト、Unit 4: Adventure Healing 内容に関するディスカッション 単語の意味及び発音練習
	事前学修	Unit 3 の小テストに備えること、Unit 4 の内容を予習しておくこと
	事後学修	小テストでのミスを再度確認、トピックの内容の整理、重要単語の暗記、アンカー部分の発音の練習をしておくこと
8 回	授業内容	Unit 4: Adventure Healing リスニング及び要約 質疑応答 オーバーラッピング シャドーイング
	事前学修	本文のリスニングを解いて、内容を把握してくること
	事後学修	スムーズな音読、内容を把握、単語の確認をしておくこと
9 回	授業内容	Unit 4 の補足 小テスト、Unit 5: Knocker-Uppers 内容に関するディスカッション 単語の意味及び発音練習
	事前学修	Unit 4 の小テストに備えること、Unit 5 の内容を予習しておくこと
	事後学修	小テストでのミスを再度確認、トピックの内容の整理、重要単語の暗記、アンカー部分の発音の練習をしておくこと
10 回	授業内容	Unit 5: Knocker-Uppers リスニング及び要約 質疑応答 オーバーラッピング シャドーイング
	事前学修	本文のリスニングを解いて、内容を把握してくること
	事後学修	スムーズな音読、内容を把握、単語の確認をしておくこと
11 回	授業内容	Unit 5 の補足 小テスト、Unit 6: Hungarian Cake 内容に関するディスカッション 単語の意味及び発音練習
	事前学修	Unit 5 の小テストに備えること、Unit 6 の内容を予習しておくこと
	事後学修	小テストでのミスを再度確認、トピックの内容の整理、重要単語の暗記、アンカー部分の発音の練習をしておくこと
12 回	授業内容	Unit 6: Hungarian Cake リスニング及び要約 質疑応答 オーバーラッピング シャドーイング
	事前学修	本文のリスニングを解いて、内容を把握してくること
	事後学修	スムーズな音読、内容を把握、単語の確認をしておくこと
13 回	授業内容	Unit 6 の補足 小テスト、Unit 7: New TVs 内容に関するディスカッション 単語の意味及び発音練習
	事前学修	Unit 6 の小テストに備えること、Unit 7 の内容を予習しておくこと
	事後学修	小テストでのミスを再度確認、トピックの内容の整理、重要単語の暗記、アンカー部分の発音の練習をしておくこと
14 回	授業内容	Unit 7: New TVs リスニング及び要約 質疑応答 オーバーラッピング シャドーイング
	事前学修	本文のリスニングを解いて、内容を把握してくること
	事後学修	スムーズな音読、内容を把握、単語の確認をしておくこと
15 回	授業内容	試験及び解説
	事前学修	これまでの音読訓練の成果を確認、単語の暗記、直聴直解ができてきているかを確認しておくこと
	事後学修	これまでのトピックの内容、スムーズなシャドーイング、単語のスペルの再確認をしておくこと

◆**教科書** 丸沼『CNN 10 Student News vol.8』 関戸彦彦 他4名著 朝日出版社

◆**参考書** 授業時に紹介します

◆**成績評価基準** 平常点 (20%)、小テスト (20%)、発音テスト (10%)、試験 (50%)

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」[学生番号] および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

【英語 J】☆☆☆

和泉 周子

◆**授業概要** 本授業では英文の読解の仕方を学びます。文法や語彙の理解に重点を置き、辞書を丁寧に引きながら、英文を正確に読むことができるようになることを目指します。

【後期開講の昼間スクーリング「英語 I～IV」(和泉周子担当)と併せて受講することが望ましい】

◆**学修到達目標** 1. 文法や文構造、語彙を理解し、運用して英文を和訳できるようになる。
2. 英文の内容を正確に把握することができるようになる。

◆**授業方法** READING の英文と SUMMARY は一文ずつ、VOCABULARY PREVIEW・COMPREHENSION・PRACTICE は問題ごとに (COMPREHENSION は質問文と答えを両方とも)、英文を音読し和訳してもらいます。その際に文法や文構造、語彙の意味も確認します。

授業計画通りに進めますが、進度はあくまでの目安であり、授業計画通りの進度で進まない場合があります。

本授業の事前学修・事後学修の時間は各2時間を目安としています。

◆**授業計画 (各 90 分)**

1 回	授業内容 事前学修 事後学修	ガイダンス：授業内容や進め方、成績評価基準等の説明と Unit 1 The Hungry Cat：現在時制・現在進行形の文法確認及び演習 ①シラバスを確認する。 ② GRAMMAR & USAGE (TEXT HIGHLIGHT! を含む) の説明を読み、PRACTICE の問題を解く。 現在時制・現在進行形の内容をノート等に整理し、間違えた問題は整理した内容と照らし合わせて復習する。
2 回	授業内容 事前学修 事後学修	Unit 1 The Hungry Cat：READING の読解と内容把握問題 ① VOCABULARY PREVIEW の問題を解く。 ② READING の英文を読み、COMPREHENSION と SUMMARY の問題を解く。 ① VOCABULARY PREVIEW の間違えた問題を復習する。 ② READING の各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら READING 全体の内容を理解し、間違えた問題は該当箇所と照らし合わせて復習する。
3 回	授業内容 事前学修 事後学修	Unit 2 The Chocolate Chip Cookie：過去時制・過去進行形の文法確認及び演習と READING の読解 ① GRAMMAR & USAGE (TEXT HIGHLIGHT! を含む) の説明を読み、PRACTICE の問題を解く。 ② VOCABULARY PREVIEW の問題を解く。 ③ READING の英文を読む。 ①過去時制・過去進行形の内容をノート等に整理し、PRACTICE の間違えた問題は整理した内容と照らし合わせて復習する。 ② VOCABULARY PREVIEW の間違えた問題を復習する。 ③ READING の各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら READING 全体の内容を理解する。
4 回	授業内容 事前学修 事後学修	Unit 2 The Chocolate Chip Cookie：READING の内容把握問題 READING の英文の内容を確認後、COMPREHENSION と SUMMARY の問題を解く。 間違えた問題を READING の英文の該当箇所と照らし合わせて復習する。
5 回	授業内容 事前学修 事後学修	Unit 3 Hollywood's Hero：現在完了・現在完了進行形の文法確認及び演習と READING の読解 ① GRAMMAR & USAGE (TEXT HIGHLIGHT! を含む) の説明を読み、PRACTICE の問題を解く。 ② VOCABULARY PREVIEW の問題を解く。 ③ READING の英文を読む。 ①現在完了・現在完了進行形の内容をノート等に整理し、PRACTICE の間違えた問題は整理した内容と照らし合わせて復習する。 ② VOCABULARY PREVIEW の間違えた問題を復習する。 ③ READING の各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら READING 全体の内容を理解する。
6 回	授業内容 事前学修 事後学修	Unit 3 Hollywood's Hero：READING の内容把握問題 READING の英文の内容を確認後、COMPREHENSION と SUMMARY の問題を解く。 間違えた問題を READING の英文の該当箇所と照らし合わせて復習する。
7 回	授業内容 事前学修 事後学修	Unit 4 Miscommunication：未来の文法確認及び演習と READING の読解 ① GRAMMAR & USAGE (TEXT HIGHLIGHT! を含む) の説明を読み、PRACTICE の問題を解く。 ② VOCABULARY PREVIEW の問題を解く。 ③ READING の英文を読む。 ①未来の内容をノート等に整理し、PRACTICE の間違えた問題は整理した内容と照らし合わせて復習する。 ② VOCABULARY PREVIEW の間違えた問題を復習する。 ③ READING の各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら READING 全体の内容を理解する。
8 回	授業内容 事前学修 事後学修	Unit 4 Miscommunication：READING の内容把握問題 READING の英文の内容を確認後、COMPREHENSION と SUMMARY の問題を解く。 間違えた問題を READING の英文の該当箇所と照らし合わせて復習する。
9 回	授業内容 事前学修 事後学修	Unit 5 The Lucky Ride：過去完了の文法確認及び演習と READING の読解 ① GRAMMAR & USAGE (TEXT HIGHLIGHT! を含む) の説明を読み、PRACTICE の問題を解く。 ② VOCABULARY PREVIEW の問題を解く。 ③ READING の英文を読む。 ①過去完了の内容をノート等に整理し、PRACTICE の間違えた問題は整理した内容と照らし合わせて復習する。 ② VOCABULARY PREVIEW の間違えた問題を復習する。 ③ READING の各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら READING 全体の内容を理解する。
10 回	授業内容 事前学修 事後学修	Unit 5 The Lucky Ride：READING の内容把握問題 READING の英文の内容を確認後、COMPREHENSION と SUMMARY の問題を解く。 間違えた問題を READING の英文の該当箇所と照らし合わせて復習する。
11 回	授業内容 事前学修 事後学修	Unit 6 A Real Monster：受け身の文法確認及び演習と READING の読解 ① GRAMMAR & USAGE (TEXT HIGHLIGHT! を含む) の説明を読み、PRACTICE の問題を解く。 ② VOCABULARY PREVIEW の問題を解く。 ③ READING の英文を読む。 ①受け身の内容をノート等に整理し、PRACTICE の間違えた問題は整理した内容と照らし合わせて復習する。 ② VOCABULARY PREVIEW の間違えた問題を復習する。 ③ READING の各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら READING 全体の内容を理解する。
12 回	授業内容 事前学修 事後学修	Unit 6 A Real Monster：READING の内容把握問題 READING の英文の内容を確認後、COMPREHENSION と SUMMARY の問題を解く。 間違えた問題を READING の英文の該当箇所と照らし合わせて復習する。
13 回	授業内容 事前学修 事後学修	Unit 7 Lunchbox Revolution：助動詞の文法確認及び演習と READING の読解 ① GRAMMAR & USAGE (TEXT HIGHLIGHT! を含む) の説明を読み、PRACTICE の問題を解く。 ② VOCABULARY PREVIEW の問題を解く。 ③ READING の英文を読む。 ①助動詞の内容をノート等に整理し、PRACTICE の間違えた問題は整理した内容と照らし合わせて復習する。 ② VOCABULARY PREVIEW の間違えた問題を復習する。 ③ READING の各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら READING 全体の内容を理解する。
14 回	授業内容 事前学修 事後学修	Unit 7 Lunchbox Revolution：READING の内容把握問題 READING の英文の内容を確認後、COMPREHENSION と SUMMARY の問題を解く。 間違えた問題を READING の英文の該当箇所と照らし合わせて復習する。
15 回	授業内容 事前学修 事後学修	試験及び解説 14 回目までの授業内容を確認し、理解する。 事後学修：全授業内容を整理し、ノート等にまとめる。

◆**教科書** 〔丸〕『Premium Reader Elementary 英語リーディングとの出会い：初級編』 Robert Juppe・馬場幸雄 金星堂 2019 年

◆**参考書** 指定しない

◆**成績評価基準** 試験 (70%)、発表等の授業への参画度 (30%)
毎回出席することを前提とします。また、発表等の授業への参画度には予習状況が含まれます。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔商法Ⅱ〕

南 健悟

◆**授業概要** この講義では会社法について扱う。現代の経済社会において、欠かすことのできない会社制度について、法的な側面から説明を行い、会社の全体像及び法的論点について解説する。会社法は多くの会社を取り巻く関係者の利害を調整する法的仕組みを用意している。特に、前期ではコーポレート・ガバナンスと呼ばれる、会社の機関にまつわる法的問題について講義を行う。

◆**学修到達目標** この講義では、現在の日本において最も利用されている株式会社に関する法的紛争について、条文や判例等に基づいて解決する能力を養成することを目的とする。したがって、この講義において、受講生は、株式会社に関する法的諸問題について、どのように考えればよいのか、どのように解決すれば良いのかを理解し、それを適切に説明できるようになることを目標とする。

◆**授業方法** 基本的にはレジュメ等を配布した講義形式に夜が、事前の予習を踏まえての積極的な発言を求めることがある。

◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容 事前学修 事後学修	【オリエンテーション、会社法の意義と会社法の目的】会社とはどのような存在であるのか、会社法とはどのような特徴を有しているのか講義する。 教科書の「序章 会社法への誘い」の部分を読んでおく。 講義レジュメや教科書を確認し、他の関連科目との関係を検討する。
2回	授業内容 事前学修 事後学修	【会社法総論(1)―会社の法的意義・会社の種類】会社の意義と、株式会社、合同会社、合資会社、合名会社の違いについて講義する。 会社とはどのような存在であるのかについて自分なりに検討する。 株式会社、合同会社、合資会社、合名会社の違いについて作図してみる。
3回	授業内容 事前学修 事後学修	【会社法総論(2)―株主有限責任制度】株主有限責任制度の理論的根拠や問題点について講義する。 教科書の「第1章 総論」を読み、株式会社の事業活動における会社法の役割や株主有限責任制度について確認しておく。 株主有限責任制度における問題点への他の対応策を調べてみる。
4回	授業内容 事前学修 事後学修	【株式会社の機関(1)―機関総論】株式会社の機関とそれが置かれる理論的根拠等について講義する。 教科書の「第2章 株式会社の機関」のうち「1 株式会社の機関設計」を読んでおく。 株式会社に於ける機関構成を作図してみる。
5回	授業内容 事前学修 事後学修	【株式会社の機関(2)―株主総会】株主総会の役割や機能について、株主総会の招集手続について講義する。 教科書の「第2章 株式会社の機関」のうち「2 株主総会」を読んでおく。 株主総会の招集手続がどのように進行するのかをまとめておく。
6回	授業内容 事前学修 事後学修	【株式会社の機関(3)―株主総会決議の瑕疵】株主総会決議の瑕疵を争う訴えとしての決議不存在確認の訴え、決議無効確認の訴え、決議取消しの訴えについて講義する。 教科書の「第2章 株式会社の機関」のうち「株主総会決議の瑕疵」を読んでおく。 上記各訴えの違いについて表でまとめる。
7回	授業内容 事前学修 事後学修	【株式会社の機関(4)―取締役・取締役会・代表取締役】取締役の選任・終任とその職務について講義する。 教科書の「第2章 株式会社の機関」のうち「3 取締役、取締役会、代表取締役」を読んでおく。 取締役の職務に係る法的問題にはどのようなものがあるのかを確認する。
8回	授業内容 事前学修 事後学修	【株式会社の機関(5)―監査役、監査役会、会計監査人、会計参与】監査役、会計監査人と会計参与の役割や職務について講義する。 教科書の「第2章 株式会社の機関」のうち「4 監査役・監査役会・会計監査人」を読んでおく。 監査役・監査役会や会計監査人の監督と取締役会の監督とはどのように異なるのか、まとめておく。
9回	授業内容 事前学修 事後学修	【株式会社の機関(6)―指名委員会等設置会社・監査等委員会設置会社】指名委員会等設置会社と監査等委員会設置会社について講義する。 教科書の「第2章 株式会社の機関」のうち「5 指名委員会等設置会社」「6 監査等委員会設置会社」を読んでおく。 指名委員会等設置会社や監査等委員会設置会社である会社が具体的にどのように用いられているのかを調べる。
10回	授業内容 事前学修 事後学修	【株式会社の機関(7)―役員責任①（役員義務総説）】取締役の善管注意義務と忠実義務とは、どのような義務かについて講義する。 教科書の「第2章 株式会社の機関」のうち「取締役の義務」を読んでおく。 どのような事例で取締役の会社に対する義務が問題となるのかについてまとめておく。
11回	授業内容 事前学修 事後学修	【株式会社の機関(8)―役員責任②（競業禁止義務・利益相反取引・取締役の報酬規制）】競業取引規制、利益相反取引規制、取締役の報酬規制について講義する。 教科書の「第2章 株式会社の機関」のうち、86頁以下の「忠実義務」及び「取締役の報酬」を読んでおく。 具体的な裁判例を素材に、どのような取引が競業取引に当たるのか、利益相反取引に当たるのかについてまとめておく。
12回	授業内容 事前学修 事後学修	【株式会社の機関(9)―役員責任③（会社に対する責任）】取締役は会社に対して善管注意義務を負っているが、当該義務が問題となる場面について講義する。 教科書の「第2章 株式会社の機関」のうち、79頁以下の「善管注意義務」及び「7 役員等の責任」を読んでおく。 企業不祥事が問題となった事例において、取締役の善管注意義務違反の有無についてどのように判断されているのかを調べる。
13回	授業内容 事前学修 事後学修	【株式会社の機関(10)―役員責任④（株主代表訴訟・多重代表訴訟）】株主代表訴訟等の手続について講義する。 教科書の「第2章 株式会社の機関」のうち、125頁以下の「株主代表訴訟」を読んでおく。 株主代表訴訟及び多重代表訴訟の手続についてまとめる。
14回	授業内容 事前学修 事後学修	【株式会社の機関(11)―役員責任⑤（第三者に対する責任）】取締役の対第三者責任について講義する。 教科書の「第2章 株式会社の機関」のうち、130頁以下の「役員等の第三者に対する責任」を読んでおく。 取締役の対第三者責任が問題となった裁判例を調べる。
15回	授業内容 事前学修 事後学修	【まとめと試験】知識の確認のための試験を行う。 教科書の「序章」「第1章」「第2章」を通読し、いわゆる会社法のうち、ガバナンスに関する部分について理解を深めておく。 自分自身の知識がどの程度定着しているのか、演習本等でチェックする。

◆**教科書** 丸沼『会社法（有斐閣ストゥディア）』中東正文ほか 有斐閣 2015年

◆**参考書** 丸沼『会社法判例百選（第3版）』岩原紳作ほか編 有斐閣 2016年

◆**成績評価基準** 定期試験において、択一・論述式による問題を出し、講義で扱った会社法上の問題について適切に理解をしているかを確認し（80%）、また、講義での参画度等に応じた評価を行う（20%）。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

(西洋史演習 I・II)

藤井 信行

- ◆**授業概要** 歴史学の勉強を卒業論文に集約させることが目的です。そのため、授業をとおして卒業論文のテーマ決定・文献目録の作成・文献の解説・事実の解釈(以上、前期)、および研究史の整理・資料の収集・論証とは?(以上、後期)など1つ1つステップを積み重ね、歴史学の論文を書くことへとつながっていきます。
- ◆**学修到達目標** 歴史とは、事実の積み重ねがおのずから歴史を創っていくのではなく、歴史家がいくつもの事実を解釈することをおして創られていくものであることを学ぶ。そして学生各自が自己のテーマについて、こうしたことを積み重ねることにより、論文としてまとめる(歴史を書く)ことができる。
- ◆**授業方法** 歴史学の卒業論文を完成させるためのステップを、1つずつゼミナール形式で進めます。3年次生は、これをモデルにして同じステップを各自の論文テーマで行います。4年次生は、これを今一度自分の論文で確認しつつ論文を完成させてください。3年・4年次生ともに授業内でのそれまでの研究成果を報告してもらおうとともに、報告内容についてディスカッションを行います。
- ◆**履修条件** 前期のみの受講、後期のみの受講も可能だが、学修効果を上げるため、前期・後期の連続受講が望ましい。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1回	授業内容	歴史学の論文を書く： まずこの授業の全体像と具体的な進め方を説明する。つづいて歴史学の論文を書く上で重要な2つのポイント「参考文献目録の作成」と「研究史の整理」について説明する。
	事前学修	テキスト第2章(41～78頁)をよく読んでおくこと。
	事後学修	2つのポイントについて、授業内容とテキストをノートにまとめ、それぞれを確認し理解する。
2回	授業内容	歴史学とは?： 歴史学(歴史)を構成している2つの重要なキーワードとして「事実」と「解釈」を挙げる事が出来る。新しい「事実」が発見されれば、つねにそれに従って新しい「解釈」が生まれる。歴史学はその積み重ねであることを説明する。
	事前学修	テキスト第3章(79～126頁)をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、2つのキーワード「事実」と「解釈」を理解する。
3回	授業内容	「事実」について： 事実の積み重ねがおのずから歴史を創っていくのではなく、歴史とは歴史家による「事実」の「解釈」であり、歴史家がいくつもの事実を解釈することをおして創られていくものであることを解説する。
	事前学修	テキスト第1章(1～40頁)をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、2つのキーワード「事実」と「解釈」を理解する。
4回	授業内容	一般的事実と歴史的事実(1)： 一般的事実と歴史的事実の違いについて説明するとともに、歴史学の論文(プリント)を配布)を読む、一般的事実を拾い集めリストアップする。
	事前学修	配布資料(前回授業終了時に配布)をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業で作成した事実のリストアップ表を(授業中に未完の学生は完成させる)、配布資料と照らし合わせて確認する。
5回	授業内容	一般的事実と歴史的事実(2)： リストアップした一般的事実の中から、自己の解釈を証明してくれる事実(歴史的事実)をピックアップして、レポートにまとめる。
	事前学修	作成したリストアップ表をよく読んでおく。
	事後学修	まとめたレポートを提出用に完成させる→次回授業時に提出。
6回	授業内容	参考文献目録の作成(1)： 共通テーマ「第1次世界大戦原因論」で参考文献の検索・目録の作成を行う。(パソコン室を使用)
	事前学修	参考書『歴史学』第8部をよく読んでおくこと。
	事後学修	ネットを利用した検索方法を各自で再確認する。
7回	授業内容	参考文献目録の作成(2)： 各自の卒業論文のテーマ(まだテーマ未決定の学生は関心のあるテーマ)で参考文献の検索・目録の作成を行う。(パソコン室を使用)
	事前学修	各自、参考文献を1つ選び、よく読んでおく。
	事後学修	授業の時間内では取り上げられなかったキーワードの組み合わせで、さらに検索をかけてみる。
8回	授業内容	史料批判(1)： 歴史学における史料批判とは何か? また歴史学における史料批判の必要性は何か? を解説する。
	事前学修	テキスト第1章(1～40頁)をよく読んでおくこと(特に16～22頁)。
	事後学修	テキストと授業ノートを整理し、内容を確認・理解する。
9回	授業内容	史料批判(2)： 外交文書集や個人の自伝などに掲載されている書簡などは、事実であるけれども、それはたとえば著者が考えた事実であったり、あるいはその他にも事実が存在することもありうる。こうしたことを、実際の例を挙げて解説する。
	事前学修	配布資料(前回授業終了時に配布)をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業内容を配布資料でよく確認し、歴史学における史料批判の必要性を理解する。
10回	授業内容	編年表を作る(1)： 共通テーマとして歴史学の関連図書(通信教材『歴史学』)を読んで、出来事を編年形式でまとめる。
	事前学修	第4回・5回授業で作成したリストアップ表をいま一度よく読んでおくこと。
	事後学修	テーマについての出来事の経緯(編年表)を(未完の学生は完成させ)確認し理解する。
11回	授業内容	編年表を作る(2)： 各自のテーマに関する論文を読み、出来事を編年形式でまとめる。
	事前学修	各自、参考文献を1つ選び、よく読んでおく。
	事後学修	テーマについての出来事の経緯(編年表)を(未完の学生は完成させ)確認し理解する。
12回	授業内容	4年次生の卒業論文中間報告とディスカッション(1)： 学生それぞれの報告と報告内容(テーマ・章立て・論証内容など)についてのディスカッションを行う。
	事前学修	各自の報告を準備するとともに、他の学生たちの報告要旨(事前に配布する)をよく読んでおく。積極的にディスカッションに参加できる準備を整えておく。
	事後学修	報告に関してのディスカッションの内容を確認し理解する。
13回	授業内容	4年次生の卒業論文中間報告とディスカッション(2)： 学生それぞれの報告と報告内容(テーマ・章立て・論証内容など)についてのディスカッションを行う。
	事前学修	各自の報告を準備するとともに、他の学生たちの報告要旨(事前に配布する)をよく読んでおく。積極的にディスカッションに参加できる準備を整えておく。
	事後学修	報告に関してのディスカッションの内容を確認し理解する。
14回	授業内容	3年次生のテーマ決定報告とディスカッション(1)： 学生それぞれの報告と報告内容(テーマ・章立て・論証内容など)についてのディスカッションを行う。
	事前学修	各自の報告を準備するとともに、他の学生たちの報告要旨(事前に配布する)をよく読んでおく。積極的にディスカッションに参加できる準備を整えておく。
	事後学修	報告に関してのディスカッションの内容を確認し理解する。
15回	授業内容	3年次生のテーマ決定報告とディスカッション(2)： 学生それぞれの報告と報告内容(テーマ・章立て・論証内容など)についてのディスカッションを行う。
	事前学修	各自の報告を準備するとともに、他の学生たちの報告要旨(事前に配布する)をよく読んでおく。積極的にディスカッションに参加できる準備を整えておく。
	事後学修	報告に関してのディスカッションの内容を確認し理解する。

- ◆**教科書** 通材 通信教育教材 『西洋史入門 Q20300』(教材コード 000047)
- ◆**参考書** 通材 通信教育教材 『西洋史特講 I Q31200』(教材コード 000156)
通材 通信教育教材 『歴史学 B11100』(教材コード 000393)
- ◆**成績評価基準** レポート2回(授業中・前期最終授業時)各 30%×2、報告 40% 毎回出席することを前提に評価します。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔経済学概論 B〕

関谷 喜三郎

◆**授業概要** 家計行動・企業行動の分析を通して、市場における価格と取引量の決定を学ぶ。それによって市場メカニズムの仕組みを理解する。

◆**学修到達目標** 1. 家計と企業の行動分析を通して、需要曲線と供給曲線を理解する。
2. 市場における価格の決定を学び、需要と供給の調整を理解する。
3. 市場が不完全な場合の価格と取引量の変化を学ぶ。

◆**授業方法** テキストを用いて各章の説明を通じて、ミクロ経済学を体系的に学んでいく。板書による講義が中心となる。

◆**履修条件** 昼間S前期 経済学概論Aとの積み重ね不可。

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1回	授業内容: 経済学の基本問題 事前学修: 特別な準備は必要としない。 事後学修: 授業内容を確認する。
2回	授業内容: 世界や日本の経済循環と変動 事前学修: 経済に関する新聞・雑誌に目を通す。 事後学修: 経済状況の内容を整理しておく。
3回	授業内容: ミクロ経済学とマクロ経済学の分析視点 事前学修: テキスト第1章を読んでおく。 事後学修: ミクロとマクロの違いを理解しておく。
4回	授業内容: いくつかの重要なコンセプト 事前学修: 特別な準備は必要としない。 事後学修: 分析に必要な概念を理解しておく。
5回	授業内容: 消費の理論 事前学修: テキスト第2章を読んでおく。 事後学修: 消費者行動理論の基本概念を理解しておく。
6回	授業内容: 消費理論の応用と拡張 事前学修: テキスト第3章を読んでおく。 事後学修: 需要曲線について整理しておく。
7回	授業内容: 企業行動と生産関数 事前学修: 第7章を読んでおく。 事後学修: 企業行動分析の基本概念をみておく。
8回	授業内容: 企業行動と費用 事前学修: 第8章を読んでおく。 事後学修: 費用分析の内容を理解しておく。
9回	授業内容: 最適生産の決定 事前学修: 第8～第9章を読んでおく。 事後学修: 利潤最大化について理解しておく。
10回	授業内容: 完全競争市場の均衡と効率性（その1） 事前学修: テキスト第10章から第11章を読んでおく。 事後学修: 価格決定と市場の完全性について理解する。
11回	授業内容: 完全競争市場の均衡と効率性（その2） 事前学修: 第11章を読んでおく。 事後学修: 資源配分の効率性について理解する。
12回	授業内容: 不完全競争市場と独占 事前学修: 第12章を読んでおく。 事後学修: 不完全競争の条件と独占価格について理解する。
13回	授業内容: 寡占と独占的競争 事前学修: 第14章を読んでおく。 事後学修: 不完全な市場における競争と価格について理解する。
14回	授業内容: 外部性、不確実性と不完全情報 事前学修: 第19章を読んでおく。 事後学修: 公共財、外部性、不完全情報について理解する。
15回	授業内容: 講義のまとめ 事前学修: 前期の講義ノートを確認しておく。 事後学修: 講義内藤全体を理解する。

◆**教科書** 〔凡沼〕『ミクロ経済学』関谷喜三郎（創成社）

◆**参考書** なし

◆**成績評価基準** 出席を前提として、試験にて評価します。

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔法学 A〕

武田 茂樹

- ◆**授業概要** ◆〔法の歴史を学び、法の未来を考えよう。〕その中で前期は法の歴史を学びます。前期・後期を通して、法の全体像を考え、法の歴史とその未来を考えていくことが目標ですが、前期では、法の歴史を学び、法の全体像を理解していくことが中心となります。そこで、興味を感じている世界史の本を読んでおくことは、講義を理解する上で有意義だと思います。なお、法の歴史の理解において、憲法と立憲主義の理解は不可欠です。芦部著『憲法』(岩波書店)をじっくりと焦らずに読むことを薦めます。
- ◆**学修到達目標** 現代世界は、激動のなかにあるといえます。世界的なグローバル化の進展によって、近代に世界において築き上げられて国際的な秩序は、現在、変動を余儀なくされ、新しい世界の形成過程にあると思われま。その中を生きる私達は、冷静に新しく生まれていくべき世界を考えていくことが重要です。その中でも、法秩序は、世界を形成していく根幹になるものです。今、法の歴史を学び、法の未来を真摯に考えていくことが、大筋な学問課題となっているのです。現代という激しい変化の中で、自分自身の法的理解の力を養っていくことが、この講座の学修到達目標です。
- ◆**授業方法** 基本的に講義を中心に授業を進めますが、学生諸君の疑問点になるべく答えるよう質疑応答の機会を取りたいと思、います。法学の講義は、前期・後期という一年間を通して、法の理解を深めていくことが目標です。前期・後期の継続的な受講をお願いします。この講義は、教養科目に該当し、法の専門家のみが必要とする内容ではありません。現代の世界では、法に対する理解が非常に大切です。総合的な知性と文化認識の構築を楽しみながら受講してください。
- ◆**履修条件** 令和2年度昼間スクーリング(前期)「法学A」との積み重ね不可。
- ◆**授業計画**〔各90分〕

1回	授業内容: 法学をどのように学ぶべきか。現代の世界では、価値観が非常に多様化しています。 事前学修: 自分がどんな目標を持って、講義を受講するかを考えてみてください。 事後学修: 自分にとって学問の意義とは何かを考えよう。
2回	授業内容: 法とは何か、考える。この講義では、法は、人類の文化であるという立場から説明します。 事前学修: 自分自身の法に対するイメージを考え、できれば、文章化してみよう。 事後学修: 法と文化の関係について考えてみよう。
3回	授業内容: 法の歴史を考える。法は、人類の長い歴史の中で、生成・発展してきたものです。歴史という時間軸による考察がし、要不可欠です。 事前学修: 法の歴史を自分なりに想像してみよう。 事後学修: 法と歴史の関係を考えてみよう。
4回	授業内容: 法の成立について考察する。講義では、ハムラビ法典の説明を中心に、法の成立について考えてみます。 事前学修: 法がどのように生まれてきたかを考えてみよう。 事後学修: ハムラビ法典に対して、自分なりの理解を深めてよう。
5回	授業内容: 古代の法について考える。古代ローマ法こそ、今日の法の源流であり、今日でも脈々と流れ続ける法の大河です。 事前学修: ギリシア・ローマの歴史の本を読んでみよう。 事後学修: 古代ローマ帝国と古代ローマ法の間関係を考えよう。
6回	授業内容: 中世の法を考える。中世の時代の特徴は、キリスト教の全盛と封建的な社会制度です。 事前学修: キリスト教について学んでみよう。 事後学修: 法と宗教の関係について考えよう。
7回	授業内容: 近代の法こそ、今日の法の基本的構造であり、憲法を最高法規とする近代立憲主義の法です。 事前学修: 市民革命について学ぼう。近代世界こそ、今日の社会構造の始まりである。 事後学修: 今日の法の基本構造は、近代法システムである。憲法・民法・刑法・商法・民事訴訟法・刑事訴訟法という六法の概略を学んでみよう。
8回	授業内容: 近代法は、第二次世界大戦を越えて、現代法へと変容していく。近代法システムから現代法システムへの変容を考える。 事前学修: 第一次世界大戦・第二次世界大戦について学んでみよう。 事後学修: 日本国憲法の平和主義の大切さを学ぼう。
9回	授業内容: 現代世界は、地球規模で一体性をもつ国際社会です。国家の閉鎖性を超えて、国際社会の法的ルールの形成は、現代の世界の緊急課題です。 事前学修: 現在の地球環境がどのような状況にあるのか学ぼう。 事後学修: 世界的な視点に立って、自分の生き方を考えよう。
10回	授業内容: 国際法を考える。現代の世界は、地球環境を一体化したグローバルな世界を形成しつつあります。 事前学修: 現代の国際社会では、どんなルール形成が必要か考えよう。 事後学修: 国際法を本格的に学んでみよう。
11回	授業内容: 個人の権利が十分に保障され、平和で民主主義の世界を築き上げるためには、どのようなルールの構築が必要かを考えてみます。 事前学修: 平和で豊かな世界を築き上げるためには何が必要か考えてみよう。 事後学修: 世界を舞台に自分の生き方を考えよう。
12回	授業内容: 日本国憲法の平和主義の世界的な意義を考えよう。日本国憲法の平和主義の精神こそ、今後の世界の根本的なルールとなるものです。 事前学修: 日本国憲法の平和主義について学ぼう。 事後学修: 憲法について本格的に学んでみよう。
13回	授業内容: 人類の文化の中で現在そして未来の法のあるべき姿を、みんなで、議論してみよう。 事前学修: 法の本当の役割は何かを考えよう。 事後学修: 自分がどのように法と関わるかを考えよう。
14回	授業内容: 前期の講義をまとめ、みんなで質疑応答をします。 事前学修: 前期の講義の疑問点を整理しよう。 事後学修: 後期の講義で自分自身がどのように取り組むかを考えよう。
15回	授業内容: 試験 事前学修: 事後学修:

- ◆**教科書** なし
- ◆**参考書** 講義中に提示します。
- ◆**成績評価基準** 毎回出席することを前提に、試験(80%)、平常点(20%)で評価します。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔英語 K〕☆☆☆

北原 安治

- ◆**授業概要** 五文型に基づき、英文の構造を把握して初学者でも正しい訳ができるようになる。前期・後期の連続受講が望ましい。
- ◆**学修到達目標** 全体的に英文の構造が理解できるようになり、文の構造に基づいた正しい和訳ができるようになる。五文型の基本理解、自動詞と他動詞の区別、目的語と補語の区別、完了形の理解、仮定法の理解など基本文法が理解できるようになる。
- ◆**授業方法** 講義の最初に映像教材を使い口語英語や英米中心に文化について学ぶ。テキストについては本文のみやり練習問題はやらない。板書事項を少なくして学生にあてて読みと訳をやらせる。ノート検査は抜き打ちで行うのでかみならずノートは書いておく。ノートの書き方は指示するので必ず指示どおりに書く。自己流ノートは不可。教科書への書き込みはノートではない。ルーズリーフでもよいが必ず書いたものをすべてを毎回持ってくる。単語を調べてくること。電子辞書でもよいので辞書を持ってくる。教科書は必ず購入して毎回持ってくる。15 回目の試験は辞書やノートの持ち込み不可。本授業の事前学修・事後学修の時間は各 2 時間を目安としています。
- ◆**履修条件** 受講人数が多い場合、初日に来た学生のみ受講を許可する。前期のみの受講、後期のみの受講も可能だが、学修効果を上げるため、前期・後期の連続受講が望ましい。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容 講義の進め方の説明。映像資料。第 1 章の英文構造と和訳 事前学修 英文をノートに書き写す（8 行ほど）。単語を調べて自分なりの和訳をする。 事後学修 予習段階の和訳と講義の和訳を比べてどこが間違ったか確認する。
2 回	授業内容 映像資料。第 1 章の英文構造と和訳。5 文型の確認。 事前学修 英文をノートに書き写す。和訳をする。5 文型の予習。 事後学修 和訳を比べてどこが間違ったか確認する。5 文型の復習。
3 回	授業内容 映像資料。第 1 章の英文構造と和訳。文の種類の確認。 事前学修 英文をノートに書き写す。和訳をする。文の種類の予習。 事後学修 和訳を比べてどこが間違ったか確認する。文の種類の復習。
4 回	授業内容 映像資料。第 1 章の英文構造と和訳。句と節の確認。 事前学修 英文をノートに書き写す。和訳をする。句と節の予習。 事後学修 和訳を比べてどこが間違ったか確認する。句と節の復習。
5 回	授業内容 映像資料。第 1 章の英文構造と和訳。動詞の種類の確認。 事前学修 英文をノートに書き写す。和訳をする。動詞の種類の予習。 事後学修 和訳を比べてどこが間違ったか確認する。動詞の種類の復習。
6 回	授業内容 映像資料。第 1 章の英文構造と和訳。目的語と補語の確認。 事前学修 英文をノートに書き写す。和訳をする。目的語と補語の予習。 事後学修 和訳を比べてどこが間違ったか確認する。目的語と補語の復習。
7 回	授業内容 映像資料。第 1 章の英文構造と和訳。群動詞の確認。 事前学修 英文をノートに書き写す。和訳をする。群動詞の予習。 事後学修 和訳を比べてどこが間違ったか確認する。群動詞の復習。
8 回	授業内容 映像資料。第 1 章の英文構造と和訳。前置詞の確認。 事前学修 英文をノートに書き写す。和訳をする。前置詞の予習。 事後学修 和訳を比べてどこが間違ったか確認する。前置詞の復習。
9 回	授業内容 映像資料。第 1 章の英文構造と和訳。二重前置詞の確認。 事前学修 英文をノートに書き写す。和訳をする。二重前置詞の予習。 事後学修 和訳を比べてどこが間違ったか確認する。二重前置詞の復習。
10 回	授業内容 映像資料。第 1 章の英文構造と和訳。関係代名詞の確認。 事前学修 英文をノートに書き写す。和訳をする。関係代名詞の予習。 事後学修 和訳を比べてどこが間違ったか確認する。関係代名詞の復習。
11 回	授業内容 映像資料。第 1 章の英文構造と和訳。前置詞＋関係代名詞の確認。 事前学修 英文をノートに書き写す。和訳をする。前置詞＋関係代名詞の予習。 事後学修 和訳を比べてどこが間違ったか確認する。前置詞＋関係代名詞の復習。
12 回	授業内容 映像資料。第 1 章の英文構造と和訳。複合関係代名詞の確認。 事前学修 英文をノートに書き写す。和訳をする。複合関係代名詞の予習。 事後学修 和訳を比べてどこが間違ったか確認する。複合関係代名詞の復習。
13 回	授業内容 映像資料。第 1 章の英文構造と和訳。関係副詞の確認。 事前学修 英文をノートに書き写す。和訳をする。関係副詞の予習。 事後学修 和訳を比べてどこが間違ったか確認する。関係副詞の復習。
14 回	授業内容 映像資料。第 1 章の英文構造と和訳。関係詞の確認。 事前学修 英文をノートに書き写す。和訳をする。関係詞の予習。 事後学修 和訳を比べてどこが間違ったか確認する。関係詞の復習。
15 回	授業内容 持ち込み不可の試験および解説 事前学修 学習した範囲の単語を覚えて、和訳ができるようにする。 事後学修 学んだ文法事項を参考書などで再確認する。

- ◆**教科書** 丸沼『Major Countries in the World～世界の主要国～』 小泉和弘編、鳳書房（Tel/Fax (03) 3483 - 3723）
- ◆**参考書** 丸沼『ロイヤル英文法』 綿貫陽 旺文社 2000 年 1,890 円。この本は講義では使わない。辞書は使い慣れたものでよいので毎回持ってくる。電子辞書でもよい。
- ◆**成績評価基準** 期末試験、小テストなどの総合評価。皆出席を望む。出席点とノート点は加点しない。出席してノートを取るのとは当然のことだからである。抜き打ちの実力テストを行う場合がある。ノート検査をして不備の者は不合格。テキストを買っていないものも不可とする。

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔刑法Ⅰ〕

岡西 賢治

◆**授業概要** 犯罪および刑罰に関する基礎的知識を得ることによって、処罰することの意義や犯罪を抑止するための方策について考えながら、自分なりの意見を構築することができるような能力を備える。犯罪の成否についての一般原則を知ることによって、犯罪の本質が捉えられるようにするとともに、刑罰の意義や目的に関する諸理論や現在に至るまでの沿革を探ることによって、刑事立法についての理念について論じることができるようにする。

◆**学修到達目標** 刑法総論に関する諸概念および基礎的知識を習得するために、学説や判例の状況を見ながら論点を整理し、問題点を発見できるようにする。
特に、刑法の基本原則に関しては事例を通じて理念あるいは争点などを具体的に把握できるようにする。また、犯罪の成立要件については、体系的思考方法にくわえて問題解決的発想ができるようにする。

◆**授業方法** 講義を主体としながらも、テーマなどの必要に応じてディスカッションやディベートを取り入れることもある。

◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容：刑法とは何か、他の法律とは何が違うのかなどについて考える。 事前学修：教科書第1講を読んでおく。 事後学修：法律における刑法の特色を整理する。
2回	授業内容：刑法は何のためにあるのか、何のために処罰するのかなどについて、理念やこれまでの歴史を学ぶ。 事前学修：教科書第2講を読んでおく。 事後学修：保護法益という概念や刑罰論に関する基本概念を確認する。
3回	授業内容：刑法の基本原則について、理論とこれをめぐる判例について学ぶ。 事前学修：教科書第3講を読んでおく。 事後学修：罪刑法定主義の諸原理、責任主義の内容を確認する。
4回	授業内容：法律の解釈に関する一般原理と刑法の解釈に関する諸原則を学ぶ。 事前学修：教科書第4講を読んでおく。 事後学修：類推解釈の禁止の意義を整理し、理解しておく。
5回	授業内容：犯罪論の基本的考え方を学ぶ。犯罪論体系の意義について理解できるようにする。 事前学修：教科書第5講を読んでおく。 事後学修：刑法特有の概念や体系について、他の法領域と比較できるようにする。
6回	授業内容：構成要件とは何かを理解し、構成要件に関する諸概念を学ぶ。 事前学修：教科書第6講を読んでおく。 事後学修：犯罪を分類する基準について理解する。
7回	授業内容：未遂を処罰することの意味を理解し、未遂犯に関する諸問題について学ぶ。 事前学修：教科書第7講を読んでおく。 事後学修：未遂と既遂との違いについて理解する。因果関係という概念については、判例を見ながら整理する。
8回	授業内容：故意と錯誤、過失に関する諸概念について学ぶ。 事前学修：教科書第8講を読んでおく。 事後学修：故意や過失をめぐる学説および判例について理解できるように整理する。
9回	授業内容：違法性とその阻却事由について学ぶ。 事前学修：教科書第9講を読んでおく。 事後学修：違法性の本質および違法性が阻却される事由をめぐる諸概念を整理する。
10回	授業内容：責任とその阻却事由について学ぶ。 事前学修：教科書第10講を読んでおく。 事後学修：責任の本質をめぐる議論について、具体的な事例をイメージしながら整理できるようにする。
11回	授業内容：正犯と共犯の違いや、共犯をめぐる諸問題について理論および判例の状況を知る。 事前学修：教科書第11講を読んでおく。 事後学修：共犯をめぐる体系や諸概念について整理し、理解できるようにする。
12回	授業内容：刑罰論に関する諸原理や基本概念を学ぶ。 事前学修：教科書第12講を読んでおく。 事後学修：犯罪論と刑罰論の関係について整理する。
13回	授業内容：刑法の基本原則および犯罪の成立要件について、理解しておくべき重要な判例を学ぶ。 事前学修：判例に照らしながら、これまで学んだ諸原理や基本概念を整理し、理解しておく。 事後学修：刑法における判例の意義について理解する。
14回	授業内容：試験 事前学修：刑法の基本原則および犯罪の成立要件に関する諸理論を確認しておく。 事後学修：問題の趣旨について整理し、自分の解答を確認する。
15回	授業内容：試験および小テスト・レポートで問われたポイントについて反復して理解を深める。 事前学修：試験および小テスト・レポートで問われたポイントについて自分の理解を整理しておく。 事後学修：刑法に関する基本的知識について整理しておく。

◆**教科書** 丸沼『入門刑法学・総論 第2版』井田良、有斐閣、2019年

◆**参考書** なし

◆**成績評価基準** 試験（50%）、小テストまたはレポート（50%）

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

受講申込から受講料
納入までの流れ

講座の選定

時間割

開講講座表・
シラバス（使用教材）
（火曜日）

開講講座表・
シラバス（使用教材）
（水曜日）

開講講座表・
シラバス（使用教材）
（木曜日）

開講講座表・
シラバス（使用教材）
（金曜日）

受講及び試験

申込講座の
許可と不許可

受講準備

体育実技の
受講について

胸部X線検査

各種用紙

付録

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔国文学基礎演習〕

野口 恵子

◆**授業概要** 現存する最古の歌集『万葉集』を取り上げる。1 首ずつ精読することを通じて、古典読解に必要な基礎的な作業を身につける。また、自分の考え方を論理的に説明できるようにする。

◆**学修到達目標** 文学作品を扱うためには、本文の確定・一語一語の注釈という作業が必要不可欠である。また、読解を行うためには、作品の校本、現在までに刊行されている注釈書に目配りをするのが肝要である。そうした研究方法を学ぶことで、作品の特徴を知ると同時に、その他の作品研究に応用できる力を身につける。

◆**授業方法** 本講座は演習形式であるため、各自に発表箇所を割り当てた上で、口頭発表を行う。発表者は、担当箇所の調査、問題点等をまとめたレジュメを作成する。また、口頭発表では、参加者を含め質疑応答の時間を設け、討論を行う。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回	授業内容 授業内容と進め方の説明 事前学修 「万葉集」がどのような作品か調べておく。 事後学修 「万葉集」がどのような作品か復習しておく。
2 回	授業内容 対象作品・箇所の概要と時代状況の解説 事前学修 八世紀の時代状況・律令国家とはどのようなものかを調べる。 事後学修 八世紀の時代状況・律令国家について復習しておく。
3 回	授業内容 発表にあたっての基本作業の説明 1 事前学修 図書館にどのような本があるかを確認しておく。 事後学修 実際に図書館に行き、発表に必要な資料を収集する。
4 回	授業内容 発表にあたっての基本作業の説明 2 事前学修 図書館で集めた資料に目を通し、どのように注釈されているかを確認する。 事後学修 口頭発表 A 担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質問事項を考えておく。
5 回	授業内容 受講者による口頭発表 A 事前学修 口頭発表 A 担当箇所の予習。担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。 事後学修 口頭発表 A 担当者は討論事項を踏まえたブラッシュアップ。次回担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
6 回	授業内容 受講者による口頭発表 B 事前学修 口頭発表 B 担当箇所の予習。担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。 事後学修 口頭発表 B 担当者は討論事項を踏まえたブラッシュアップ。次回担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
7 回	授業内容 受講者による口頭発表 C 事前学修 口頭発表 C 担当箇所の予習。担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。 事後学修 口頭発表 C 担当者は討論事項を踏まえたブラッシュアップ。次回担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
8 回	授業内容 受講者による口頭発表 D 事前学修 口頭発表 D 担当箇所の予習。担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。 事後学修 口頭発表 D 担当者は討論事項を踏まえたブラッシュアップ。次回担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
9 回	授業内容 受講者による口頭発表 E 事前学修 口頭発表 E 担当箇所の予習。担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。 事後学修 口頭発表 E 担当者は討論事項を踏まえたブラッシュアップ。次回担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
10 回	授業内容 受講者による口頭発表 F 事前学修 口頭発表 F 担当箇所の予習。担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。 事後学修 口頭発表 F 担当者は討論事項を踏まえたブラッシュアップ。次回担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
11 回	授業内容 受講者による口頭発表 G 事前学修 口頭発表 G 担当箇所の予習。担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。 事後学修 口頭発表 G 担当者は討論事項を踏まえたブラッシュアップ。次回担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
12 回	授業内容 受講者による口頭発表 H 事前学修 口頭発表 H 担当箇所の予習。担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。 事後学修 口頭発表 H 担当者は討論事項を踏まえたブラッシュアップ。次回担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
13 回	授業内容 受講者による口頭発表 I 事前学修 口頭発表 I 担当箇所の予習。担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。 事後学修 口頭発表 I 担当者は討論事項を踏まえたブラッシュアップ。次回担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
14 回	授業内容 受講者による口頭発表 J 事前学修 口頭発表 J 担当箇所の予習。担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。 事後学修 口頭発表 J 担当者は討論事項を踏まえたブラッシュアップ。次回担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
15 回	授業内容 総評と今後の学修に向けて 事前学修 これまでの発表内容を踏まえた上での提出課題を作成する。 事後学修 発表・提出課題を作成した際の反省点を考え、今後の学修に活かせるようにする。

◆**教科書** 丸沼『訳文 万葉集』森淳司編 笠間書院 2007 年

◆**参考書** 丸沼『〈新編日本古典文学全集〉万葉集①～④』小島憲之他校注・訳者 1996 年 小学館

◆**成績評価基準** 発表 60% レポート 30% 授業参画度 10%

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔英語音声学〕

森 晴代

◆**授業概要** 発声器官の説明から始めて、母音については細かい音声現象の説明、日本語と英語の違い、英米の違いの理解の徹底及び発音練習を行います。プロソディでは音節理論、英語と日本語のリズム構造について説明し、総合的な発音練習を行います。発音試験に備え、授業時に各自発音発表をしてもらいます。また、毎週理論に関する小テストを課して習熟度の確認を行います。テキストには専門用語が多数出てくるので、前もって配布されたプリントを読んでおいてください。

◆**学修到達目標** 1. 日本語との違いを意識し、英語の発音の特徴及び発音記号を理解することができる。2. 英語のプロソディの学びを通して、英語らしい発音を実現することができる。

◆**授業方法** 前半はその日の音声現象の理論的説明を板書し、後半は発音練習を行います。練習問題を適宜配布し、問題を解きながら難しい箇所の補足説明をします。6名から8名のグループを作り、発音練習の取り組みやプリント作成を行います。全員参加型の授業を目指します。

◆授業計画 (各 90 分)

1回	授業内容: 音声学とは? 発声器官の名称説明 事前学修: 音声学の学問領域について、参考書を読んで各自調べておくこと 事後学修: 学問分野、発声器官の名称を覚えること
2回	授業内容: 発音記号に慣れよう! (練習問題配布) 及び解答、発音記号の見方 事前学修: 発声器官のそれぞれの役割を見返しておくこと。発音記号を書けるようにしておくこと 事後学修: 解答したプリントの発音記号を理解しておくこと
3回	授業内容: 基本母音の説明 事前学修: 基本母音について、参考書を調べておくこと 事後学修: 基本母音について、整理しておくこと
4回	授業内容: 英語の母音の分類、前舌母音の説明及び発音練習 事前学修: 英語の母音について、配布されたプリントを読んでおくこと 事後学修: 英語の母音の分類基準と前舌母音の発音練習をしておくこと。日本語との違いを意識すること
5回	授業内容: 後舌母音の説明及び発音練習 事前学修: 英語の後舌母音について、配布されたプリントを読んでおくこと 事後学修: 後舌母音の発音練習をしておくこと。日本語との違いを意識すること
6回	授業内容: 中舌母音の説明及び発音練習 事前学修: 英語の中舌母音について、配布されたプリントを読んでおくこと 事後学修: 中舌母音の発音練習をしておくこと。日本語との違いを意識すること
7回	授業内容: 二重母音の説明及び発音練習 事前学修: 英語の二重母音について、配布されたプリントを読んでおくこと 事後学修: 英語と日本語の二重母音に対する認識の違いを理解しておくこと。二重母音の発音記号が書けるようにしておくこと
8回	授業内容: 母音、二重母音の演習問題配布及び解答 事前学修: 英語の母音、二重母音の理論及び発音を理解しておくこと 事後学修: 解答したプリントの復習をしておくこと
9回	授業内容: 音節、語強勢、句強勢の説明、演習 事前学修: 音節、強勢について、配布されたプリントを読んでおくこと 事後学修: 音節理論や語強勢、句強勢を正確に理解できたが復習すること
10回	授業内容: 文強勢の説明、演習 事前学修: 文強勢について、配布されたプリントを読んでおくこと 事後学修: 文強勢規則、通常強勢、対比強勢について、正確に理解できたが復習すること
11回	授業内容: 英語のリズムと日本語のリズムの説明、演習 事前学修: リズムについて、配布されたプリントを読んでおくこと 事後学修: 英語と日本語のリズムの基本単位の違いを理解できたが復習すること
12回	授業内容: 文 (短文) の発音練習及び練習問題 1 事前学修: これまで勉強した母音、二重母音、プロソディを考慮した発音練習をしておくこと 事後学修: 練習において指摘された箇所を理解しておくこと
13回	授業内容: 文 (短文) の発音練習及び練習問題 2 事前学修: これまで勉強した母音、二重母音、プロソディを考慮した発音練習をしておくこと 事後学修: 練習において指摘された箇所を理解しておくこと
14回	授業内容: 発音試験及び解説、指導 事前学修: 発音試験に備え、これまでの総復習をしておくこと 事後学修: 試験後に、指導されたことを理解しておくこと
15回	授業内容: 筆記試験及び解説 事前学修: 試験に備え、理論と発音の総復習をしておくこと 事後学修: 英語音声学における諸事情を理解できたが復習すること

◆**教科書** [当日資料配布] プリント使用

◆**参考書** 丸沼『英語の音声を科学する』川越いつえ著 大修館書店

◆**成績評価基準** 平常点 (20%)、小テスト (20%)、発音テスト (10%)、試験 (50%)

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔アメリカ経済論〕

羽田 翔

◆**授業概要** 本講義においてはミクロ経済学、マクロ経済学、政治経済学等の手法を用い、主に政治と経済政策に焦点を当てる形でアメリカ経済について学修する。最終的に、他国との関係や時事問題を理解する力を養う。

◆**学修到達目標** アメリカ経済について包括的に研究するために必要な世界の経済・社会システムについて説明する力及び日本を含む世界とアメリカに関係する経済的問題及び解決策を提示して相手に伝えることができる力（コミュニケーション能力）を習得するために、アメリカ経済の歩んできた道に関する考えを経済学及び政治学の考えを理解する。

◆**授業方法** 教科書及び講義ノートに基づいて、講義形式で行う。また、セメスター中、グループでのディスカッション及びリアクション・ペーパーを数回実施する。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回	授業内容 アメリカ経済論とは？ アメリカ経済を学ぶための視点、講義概要、成績評価等について説明する	事前学修 教科書第 1 章を熟読すること	事後学修 講義資料に沿ってアメリカ経済を学ぶための視点をまとめること
2 回	授業内容 歴史から考えるアメリカ経済の特徴 植民地時代から現在までの政治および経済の歴史を長期間で概観する	事前学修 事前に配布する資料を、特にキーワードに注目しながら熟読すること	事後学修 長期間でのアメリカ経済および政治に関する主要イベントを年表などにしてまとめる
3 回	授業内容 第一次世界大戦前の経済発展①：植民地期、独立革命、南北戦争 植民地時代から独立革命までの流れおよび南北戦争の詳細について説明する	事前学修 事前に配布する資料を、特に南北戦争が勃発した理由について熟読すること	事後学修 3 つの出来事を時系列でまとめ、それぞれの内容についてまとめること
4 回	授業内容 第一次世界大戦前の経済発展②：南北戦争までの経済発展の特徴 南部と北部の経済発展の特徴を説明し、南北戦争勃発と関連づける	事前学修 事前に配布する資料、特に南部と北部の産業構造および奴隷制度に対する考えの違いについて熟読すること	事後学修 南部と北部の様々な違いを項目ごとにまとめること
5 回	授業内容 第一次世界大戦前の経済発展③：南北戦争後の経済発展と「ビッグビジネス」 南北戦争後に台頭したビッグビジネスについて説明する	事前学修 事前に指定する「ビッグビジネスの例として出てくる企業」について調べること	事後学修 ビッグビジネスの特徴をまとめること
6 回	授業内容 戦間期①：戦間期前半における経済発展 第一次世界大戦とその後の経済発展について説明する	事前学修 教科書第 2 章を熟読すること	事後学修 第一次世界大戦後の経済発展の特徴をまとめること
7 回	授業内容 株式ブームの発展と崩壊 株式がいかに発展し、結果的に暴落したかを概観する	事前学修 株式の意味とアメリカの株価に関するデータを確認してくること	事後学修 株式ブームの崩壊が世界大恐慌へつながることを理解する
8 回	授業内容 戦間期③：世界大恐慌とニューディール政策 世界大恐慌の実態およびその対策としてのニューディール政策を説明する	事前学修 教科書第 3 章、特に第 3 節を熟読すること	事後学修 ケインズの有効需要の原理についてまとめること
9 回	授業内容 戦間期④：ニューディール政策の限界 ニューディール政策の効果およびその限界について説明する	事前学修 事前に配付する資料を、特に経済データに関して熟読すること	事後学修 再度ケインズの有効需要の原理についてまとめ、その効果を理解すること
10 回	授業内容 パックス・アメリカナの形成①：パックス・アメリカナとは？ 第二次世界大戦についての説明を行い、戦後に形成されるパックス・アメリカナの基本的な考えを理解する	事前学修 事前に配布する資料を、特に第二次世界大戦に関して熟読すること	事後学修 第二次世界大戦時のアメリカのポジションを再確認すること
11 回	授業内容 パックス・アメリカナの形成②：第二次世界大戦時における経済システムの特徴 軍需と経済成長の関係について説明する	事前学修 教科書第 4 章第 1 - 5 節までを熟読すること	事後学修 戦争と経済成長の関係についてまとめること
12 回	授業内容 パックス・アメリカナの形成③：戦時経済における制度およびシステムの転換 第二次世界大戦時に必要であった経済に関する制度およびシステムの変化を説明する	事前学修 事前に配布する資料を、特に各制度の特徴について熟読すること	事後学修 経済に関する新たな制度およびシステムの特徴をまとめること
13 回	授業内容 パックス・アメリカナの形成④：戦後パックス・アメリカナと「持続的成長」 戦後のアメリカ経済と戦勝国としての立場について説明する	事前学修 教科書第 4 章第 6 - 7 節を熟読すること	事後学修 戦勝国としてのアメリカの立場やその役割についてまとめること
14 回	授業内容 パックス・アメリカナの形成⑤：パックス・アメリカナと世界政治経済体制 戦後のアメリカを中心とした政治・経済体制について説明する	事前学修 第 5 章、特に第 7 節を熟読すること	事後学修 国際機関に関して、その役割ごとにまとめること
15 回	授業内容 本講義のまとめ： 第二次世界大戦後に形成されたパックス・アメリカナを理解する	事前学修 前期の内容を総合的に理解できるよう準備すること	事後学修 植民地時代から第二次世界大戦後までの流れをまとめること

◆**教科書** 丸沼『アメリカ経済の歩み』 榊原胖夫・加藤一誠 文真堂 2011 年

◆**参考書** 丸沼『現代アメリカ経済』 河村哲二 有斐閣アルマ 2003 年
丸沼『現代アメリカ経済分析』 中本悟・宮崎礼二 日本評論社 2013 年

◆**成績評価基準** 期末試験（70%）、小テストおよびレポート（20%）、授業への積極的参加（質問や意見）（10%）により、総合的に評価する。

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔文化史 A〕

渡邊 浩史

- ◆**授業概要** はじめに原始から古代までの各時代の文化の概観を各々述べた上で、各論的にいくつかのトピックについて講義する。その後中世の各時代の文化の概観を述べ、同じく各論的にいくつかのトピックについて講義する。
- ◆**学修到達目標** 現在の日本においてサブカルチャーといわれているマンガ・アニメだが、実はその表現方法や内容は日本の伝統文化の影響を脈々と受け継いでいる。日本の各時代の文化を考察することによって、それが現在のマンガ・アニメにどのように反映しているのかを理解できるようにする。そして、一見過去と断絶しているかのように見える現代の我々の生活が、いかに過去と密接に関わっているのかを理解できるようにする。
- ◆**授業方法** 授業は講義形式で行う。適宜プリントやDVDなどを使用し、受講生の理解の一助とする。なおシラバスはあくまで予定であり、最新の研究成果を反映させるなどの場合は変更する可能性もある。
- ◆**履修条件** 昼間S (前期) 文化史Bとの積み重ね不可。
- ◆**授業計画** [各 90 分]

1回	授業内容: はじめに 近代文化とアニメ 事前学修: 高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修: 授業内容を自分でまとめること
2回	授業内容: 古代の文化 (旧石器～古墳文化までの概要) 事前学修: 高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修: 授業内容を自分でまとめること
3回	授業内容: 古代の文化 (飛鳥～国風文化までの概要) 事前学修: 高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修: 授業内容を自分でまとめること
4回	授業内容: 古墳文化 (死者の行方) 事前学修: 高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修: 授業内容を自分でまとめること
5回	授業内容: かぐや姫 (かぐや姫とは) 事前学修: 高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修: 授業内容を自分でまとめること
6回	授業内容: かぐや姫 (月と極楽浄土) 事前学修: 高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修: 授業内容を自分でまとめること
7回	授業内容: かぐや姫 (富士山) 事前学修: 高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修: 授業内容を自分でまとめること
8回	授業内容: 地獄 事前学修: 高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修: 授業内容を自分でまとめること
9回	授業内容: 極楽 事前学修: 高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修: 授業内容を自分でまとめること
10回	授業内容: 中世の文化 (院政期) 事前学修: 高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修: 授業内容を自分でまとめること
11回	授業内容: 中世の文化 (鎌倉) 事前学修: 高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修: 授業内容を自分でまとめること
12回	授業内容: 中世の文化 (室町) 事前学修: 高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修: 授業内容を自分でまとめること
13回	授業内容: 絵巻物 (道成寺縁起絵巻) 事前学修: 高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修: 授業内容を自分でまとめること
14回	授業内容: 能・狂言 事前学修: 高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修: 授業内容を自分でまとめること
15回	授業内容: まとめと試験 事前学修: 1～14回の内容をよく復習すること 事後学修: 試験の内容を含めてよく復習し理解を深めること

- ◆**教科書** [当日資料配布] 適宜授業中に資料プリントを配布する。
- ◆**参考書** なし
- ◆**成績評価基準** 平常点 20%, 試験 80%

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔憲法〕

名雪 健二

◆**授業概要** 本スクーリングでは、憲法の内容、憲法の種類、日本国憲法の構造といった基礎概念や基本原理、また、天皇をみていくが、人権総論（人権享有の主体、法の下での平等など）と精神的自由、経済的自由、人身の自由および統治機構としての国会・内閣・裁判所についてもみていく。

◆**学修到達目標** 憲法は、国家の在り方を規定した基本法である。したがって、われわれが国家生活をしていく上で憲法を知ることが、極めて重要である。憲法を学ぶことで、憲法とは何かを知ることができ、また、憲法判例をみることで、生きた憲法を理解することができ、さらに、憲法の規範論理的構造を理解することで、現代の複雑な憲法現象を統一的に、かつ、原理的にとらえることができる。

◆**授業方法** 憲法の解釈論が中心となる。また、生きた憲法を理解するために、判例を取り上げる。そのための資料として、授業に関連する判例を配布する。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回	授業内容 事前学修 事後学修	ガイダンス、憲法の学び方、憲法の内容、憲法の種類、日本国憲法制定の法理 講義の該当箇所をよく読んでおくこと。 講義でノートしたことを確認し、整理しておくこと。とくに、日本国憲法制定の法理についてよく理解しておくこと。
2 回	授業内容 事前学修 事後学修	日本国憲法の構造、日本国憲法の基本原理 講義の該当箇所をよく読んでおくこと。 講義でノートしたことを確認し、整理しておくこと。とくに、憲法前文の性質と前文が裁判規範となるかどうかについて理解しておくこと。また、国民主権の原理が、憲法上、いかに具現化されているかについても理解しておくこと。
3 回	授業内容 事前学修 事後学修	天皇（地位・皇位継承・天皇の権能の代行） 講義の該当箇所をよく読んでおくこと。 講義でノートしたことを確認し、整理しておくこと。とくに、天皇の行為と天皇の権能の行使の要件について理解しておくこと。
4 回	授業内容 事前学修 事後学修	人権総論 講義の該当箇所をよく読んでおくこと。 講義でノートしたことを確認し、整理しておくこと。とくに、人権の制約、違憲審査基準について理解しておくこと。また、人権享有の主体、特に、外国人の人権についてよく理解しておくこと。
5 回	授業内容 事前学修 事後学修	人権総論 講義の該当箇所をよく読んでおくこと。 講義でノートしたことを確認し、整理しておくこと。とくに、法の下での平等の意味と不合理な差別の禁止について、判例を含めて理解しておくこと。また、私人間効力とは何かを理解し、どのような判例があるのかをまとめておくこと。
6 回	授業内容 事前学修 事後学修	精神的自由 講義の該当箇所をよく読んでおくこと。 講義でノートしたことを確認し、整理しておくこと。とくに、内心の自由の保障の内容についてまとめておくこと。また、信教の自由と政教分離の原則を理解しておくこと。あわせて、判例の立場をまとめておくこと。
7 回	授業内容 事前学修 事後学修	精神的自由、国会の憲法上の地位、 講義の該当箇所をよく読んでおくこと。 講義でノートしたことを確認し、整理しておくこと。とくに、報道の自由と取材の自由、また、憲法が、学問の自由を保障した意義と大学の自治をよく理解し、あわせて、判例の立場をまとめておくこと。さらに、国会が最高機関であることと立法機関であることの意味をよく理解しておくこと。
8 回	授業内容 事前学修 事後学修	衆議院の解散、議院の権能（自律権、国政調査権） 講義の該当箇所をよく読んでおくこと。 講義でノートしたことを確認し、整理しておくこと。とくに、衆議院の解散では、解散権の主体と根拠規定、解散の原因についてよく理解しておくこと。また、議院の自律権の意味を踏まえて、自律的事項についてよく理解しておくこと。さらに、国政調査権の性格・範囲・限界についてよく理解しておくこと。
9 回	授業内容 事前学修 事後学修	内閣総理大臣の憲法上の地位・憲法 講義の該当箇所をよく読んでおくこと。 講義でノートしたことを確認し、整理しておくこと。とくに、内閣総理大臣が憲法上いかなる地位にあるのか、また、その権能として、国務大臣の任免権をはじめとして、内閣の代表権、法律・政令への連署権、国務大臣訴追同意権について、それぞれ問題点があるので、よくまとめておくこと。
10 回	授業内容 事前学修 事後学修	違憲審査権 講義の該当箇所をよく読んでおくこと。 講義でノートしたことを確認し、整理しておくこと。とくに、違憲審査権の意義を踏まえて、違憲審査権の性格・違憲審査の対象について、それぞれ学説が対立しているので、それを整理し、判例もあわせてまとめておくこと。
11 回	授業内容 事前学修 事後学修	経済的自由 講義の該当箇所をよく読んでおくこと。 講義でノートしたことを確認し、整理しておくこと。とくに、財産権の保障・内容・財産権の制限と保障について理解しておくこと。
12 回	授業内容 事前学修 事後学修	人身の自由 講義の該当箇所をよく読んでおくこと。 講義でノートしたことを確認し、整理しておくこと。とくに、適法手続の保障、不法に逮捕されない権利、刑法の不適及と一事不再理について理解しておくこと。
13 回	授業内容 事前学修 事後学修	社会権 講義の該当箇所をよく読んでおくこと。 講義でノートしたことを確認し、整理しておくこと。とくに、生存権の法的性格をいかに解するかについて学説と判例をまとめておくこと。また、労働基本権については、公務員の労働基本権に関する判例の動向をよく理解しておくこと。
14 回	授業内容 事前学修 事後学修	憲法改正 講義の該当箇所をよく読んでおくこと。 講義でノートしたことを確認し、整理しておくこと。憲法改正とは、いかなる行為であるのかを、憲法の廃棄、憲法の廃止などと区別して理解しておくこと。また、憲法改正手続において、内閣が憲法改正案を提出することができるかどうか、理解しておくこと。さらに、憲法改正に限界があるかどうかについても、まとめておくこと。
15 回	授業内容 事前学修 事後学修	内閣の総辞職、総括 講義の該当箇所をよく読んでおくこと。 講義でノートしたことを確認し、整理しておくこと。内閣の総辞職の意義、内閣が総辞職しなければならない場合をよくまとめておくこと。なお、総括の中で、講義した内容について、どこに問題点があるのかをよく整理しておくこと。

◆**教科書** 丸沼『日本国憲法』名雪健二 有信堂
〔当日資料配布〕重要判例

◆**参考書** 丸沼 参考書を希望する者は、『憲法第6版』 芦部信喜・高橋和之補訂 岩波書店を購入されたい。

◆**成績評価基準** 授業態度・小テスト（1回）・スクーリングの最終試験により総合的に判断する。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔日本思想史Ⅰ〕

島田 健太郎

◆**授業概要** 今年度は「日本中世の思想①」と題して、中世の始まりである院政期の思想のうち、特に人々の信仰についてみていきます。思想や信仰は当時の人々の不安や願望を如実に反映しています。前期は「御利益」をキーワードに、中世に入って新しい展開を見せた信仰を取上げ、当時の人々が何を憂い、何を望んでいたのか、時代思潮にも目を配りつつ検討していきたいと考えています。

◆**学修到達目標** 1. 院政期の人々のものの考え方を学ぶことで、当時の思想的営為についての理解を深めるとともに、日本文化に対するより広い視野を獲得することができる。
2. 日本人の宗教観について理解を深め、現代の日本人の宗教観・人間観を捉える1つの視点を得ることができる。
3. 日本思想に対する自己の問題意識をより明確にし、それについて主体的に考察できるようになることを目標とする。

◆**授業方法** プリントとして配布する原典や史料を中心に、講義形式で行います。比較的ゆったりとしたペースで進める予定です。プリントには振り仮名と現代語訳を付けるので、古文・漢文の読解に自信がなくても構いません。質問は、授業後はもちろん、授業中でも大歓迎です。また適宜授業内容についてのリアクション・ペーパーの提出を考えています。

◆授業計画 (各90分)

1回	授業内容: 概説、院政期という時代 事前学修: 平安時代の歴史の流れについて一通り把握しておくこと。 事後学修: 授業中に出てきた歴史事象などについて、分からない所があれば調べておく。
2回	授業内容: 院政期という時代 事前学修: 院政期の歴史の流れについて把握しておくこと。 事後学修: 事件・人物などの確認と、院政期の社会について理解を深めておく。
3回	授業内容: 法華経信仰(1) 末法思想、滅罪と『法華経』の関係、『法華験記』の靈験譚などについて。 事前学修: 末法思想、法華経について一通り調べておく。 事後学修: 授業内容の確認と疑問点を整理しておく。
4回	授業内容: 法華経信仰(2) 『法華験記』の靈験譚について。 事前学修: 前回の復習に加え、事前にプリントがある場合は読んでおくこと。 事後学修: 法華経信仰を通してみられる当時の人々のものの考え方について、考えたところをまとめてみる。
5回	授業内容: 院政期の地蔵信仰(1) 地蔵菩薩について、地蔵説話 事前学修: 地蔵菩薩について調べておく。 事後学修: わからない用語について調べ、理解を深めておく。
6回	授業内容: 院政期の地蔵信仰(2) 地蔵説話の検討、閻魔について 事前学修: 今昔物語集、閻魔について一通り調べておく。 事後学修: 授業内容の確認、プリントを再読して内容理解に努める。
7回	授業内容: 院政期の地蔵信仰(3) 閻魔と地蔵、垂迹と本地 事前学修: 神仏習合、本地垂迹について一通り調べておく。 事後学修: 本地垂迹説について理解を深めるとともに、できれば関連する神道関係の本を読んでみる。
8回	授業内容: 院政期の地蔵信仰(4) 地蔵十王経 事前学修: 地蔵十王経について調べておく。 事後学修: ここまでの授業内容を復習し、疑問点とともにノートにまとめておくこと。
9回	授業内容: 院政期の観音信仰(1) 観世音菩薩と『観音経』 事前学修: 観世音菩薩について一通り調べておく。 事後学修: 授業内容を確認し、観世音菩薩の特徴について理解を深める。
10回	授業内容: 院政期の観音信仰(2) 観音説話 事前学修: 前回の復習と、事前にプリントがある場合は読んでおくこと。 事後学修: 院政期の観音信仰の特徴について、自分なりにまとめてみる。
11回	授業内容: 院政期の信仰の諸相(1) 院政期の浄土信仰 事前学修: 仏教の浄土思想について一通り調べておく。 事後学修: 授業で扱った念仏者の特徴を自分なりに整理する。
12回	授業内容: 院政期の信仰の諸相(2) 往生伝の変容、功德数量主義、苦行 事前学修: 一連の往生伝について調べておく。 事後学修: 時代が下るにつれてどのように変容したが、自分なりにまとめておく。
13回	授業内容: 院政期の信仰の諸相(3) 聖地と巡礼、観音霊場、熊野参詣 事前学修: 熊野権現について一通り調べておく。また地図で地理的な位置を確認しておく。 事後学修: プリントを再読して授業内容を確認し、内容を自分なりに整理する。
14回	授業内容: 院政期の信仰の諸相(4) 逆修、父母恩重経 事前学修: 父母恩重経の詳書的な知識を得ておく。 事後学修: ここまでの授業内容を復習し、疑問点とともにノートにまとめておくこと。
15回	授業内容: まとめと試験 事前学修: 各自の問題意識に基づいて、自分の見解をまとめておくこと。 事後学修: まとめた自己の見解を再検討し、今後のために問題点や課題を考えてみる。

◆**教科書** [当日資料配布] 教科書は使用しません。当日プリントを配布します。

◆**参考書** 授業中に適宜指示します。

◆**成績評価基準** 試験の成績を基準に、授業への取り組みなどを勘案して、総合的に評価します。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔東洋史入門〕

綿貫 哲郎

- ◆**授業概要** 「外国史（東洋史）」の地理的特徴を明らかにし、「東洋史」とは何か、また近代日本と「東洋史」との関わりなど、「東洋史の歴史」を学修します。後半では、東洋史の卒業論文・レポートなどのアウトプット、教材研究の資料集めの基礎的な技術を学修します。
- ◆**学修到達目標** 研究史を整理することを通じて、史実や解釈へのさまざまなアプローチが身につくようになります。また、東洋史の卒業論文やレポート・教材研究の資料集めやアウトプットの基礎的な技術が身につくようになります。
- ◆**授業方法** 以下の授業計画（学生の理解度により変更あり）に沿って、講義及び実習形式でおこないます。講義の理解を深めるため、視覚教材を適宜併用します。授業時間内外でレポートを課する予定です。
- ◆**履修条件** 令和元年度昼間スクーリング（前期）「東洋史入門」（綿貫哲郎）との積み重ね不可。
- ◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容：ガイダンス、導入 事前学修：シラバスをよく読んでおくこと 事後学修：授業の内容をノートなどに整理しておくこと
2回	授業内容：「東洋史」とは何か 事前学修：授業内容の用語について手元のスマホやパソコンなどで調べておく 事後学修：授業の内容をノートなどに整理しておくこと
3回	授業内容：近代日本のナショナリズムと「東洋」 事前学修：授業内容の用語について手元のスマホやパソコンなどで調べておく 事後学修：授業の内容をノートなどに整理しておくこと
4回	授業内容：「東洋史」の「史料」に対する探求 事前学修：授業内容の用語について手元のスマホやパソコンなどで調べておく 事後学修：授業の内容をノートなどに整理しておくこと
5回	授業内容：内藤湖南と「東洋史学」 事前学修：授業内容の用語について手元のスマホやパソコンなどで調べておく 事後学修：授業の内容をノートなどに整理しておくこと
6回	授業内容：那珂通世と「モンゴル史」研究 事前学修：授業内容の用語について手元のスマホやパソコンなどで調べておく 事後学修：授業の内容をノートなどに整理しておくこと
7回	授業内容：「レポート」と「卒業論文」の違い 事前学修：授業内容の用語について手元のスマホやパソコンなどで調べておく 事後学修：授業の内容をノートなどに整理しておくこと
8回	授業内容：卒業論文執筆の流れ・図書館の有効利用 事前学修：授業内容の用語について手元のスマホやパソコンなどで調べておく 事後学修：授業の内容をノートなどに整理しておくこと
9回	授業内容：「東洋史」関連の工具書・概説書 事前学修：授業内容の用語について手元のスマホやパソコンなどで調べておく 事後学修：授業の内容をノートなどに整理しておくこと
10回	授業内容：「東洋史」研究とインターネット利用 事前学修：授業内容の用語について手元のスマホやパソコンなどで調べておく 事後学修：授業の内容をノートなどに整理しておくこと
11回	授業内容：「私語り」からの脱却 事前学修：授業内容の用語について手元のスマホやパソコンなどで調べておく 事後学修：授業の内容をノートなどに整理しておくこと
12回	授業内容：文献目録の表記(1) - 書籍 事前学修：授業内容の用語について手元のスマホやパソコンなどで調べておく 事後学修：授業の内容をノートなどに整理しておくこと
13回	授業内容：文献目録の表記(2) - 論文 事前学修：授業内容の用語について手元のスマホやパソコンなどで調べておく 事後学修：授業の内容をノートなどに整理しておくこと
14回	授業内容：文献目録の表記(3) - 書籍と論文 事前学修：授業内容の用語について手元のスマホやパソコンなどで調べておく 事後学修：授業の内容をノートなどに整理しておくこと
15回	授業内容：まとめ、試験 事前学修：授業内容の用語について手元のスマホやパソコンなどで調べておく 事後学修：自分がまとめた内容を再確認しておくこと

- ◆**教科書** 〔当日資料配布〕
- ◆**参考書** 丸沼「わかる・身につく歴史学の学び方：歴史学がわかると世界が見える」大学の歴史教育を考える会 [編]、大月書店、2016年（2,160円税込）【購入義務はありません】
- ◆**成績評価基準** 試験（50%）・実習（12回～14回）の参画度（30%）・平常点（20%）。毎回出席することを前提として総合的に評価します。

注意 E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔考古学入門〕

浜田 晋介

◆**授業概要** 考古学とはどのようなものを対象にし、どのような研究方法によって、何を明らかにする学問なのかについて、研究の具体的な事例を取り上げて解説する。後期はこれまでの考古学研究上での論争や事件を通して考古学資料の解釈の問題点を説明する。加えて、考古学が現代社会とどのような繋がりや役割を果たしているのかを説明し、考古学の現代的意義について、理解が深まるように心がける。

◆**学修到達目標** 考古学が隣接する諸学問（文献史学・人類学・民俗学・古生物学など）とどのように異なるのか、考古学行われてきた研究や論争を通して、考古学の学問内容とその問題点、また、現代にこうした考古学的成果がいかにされていることを理解することができる。

◆**授業方法** 毎回配布（あるいはまとめて配布）するプリントと、プロジェクターに写す発掘調査や出土遺物などの画像・動画をもとに、プロジェクターに出す説明分をノートに書き取りながら、説明を加えていく授業形態をとる。受講者数が少ない場合は毎回配る出席票の裏面に、質問を記入してもらおう方式をとる。

◆授業計画 (各 90 分)

1 回	授業内容	考古学とは何か？ 考古学と隣接諸学のなかで、古生物学・文献史学・文化（社会）人類学・自然（形質）人類学・民族学・民族学との違いを説明する。
	事前学修	考古学はどのような学問かを調べておくこと。
	事後学修	授業で利用したプリントとノートを整理し、今回の授業を要約しておくこと。
2 回	授業内容	論争と事件（人種論争） 明治期から行われていた、縄文時代と弥生時代の人種・民族をめぐる論争について解説する。
	事前学修	前回配布した、第2回目のプリントを事前に読んで、内容を把握するとともに、関連する事項について調べておくこと。
	事後学修	授業で利用したプリントとノートを整理し、今回の授業を要約しておくこと。
3 回	授業内容	論争と事件（ミネルヴァ論争） 昭和戦前に行われた、縄文文化と弥生文化に時間的な差が存在するのか、という論争について解説する。
	事前学修	事前に配布した、第3回目のプリントを事前に読んで、内容を把握するとともに、関連する事項について調べておくこと。
	事後学修	授業で利用したプリントとノートを整理し、今回の授業を要約しておくこと。
4 回	授業内容	論争と事件（日本の農業開始問題） 昭和戦前に行われた、日本の農業開始時期についての論争について解説する。
	事前学修	事前に配布した、第4回目のプリントを事前に読んで、内容を把握するとともに、関連する事項について調べておくこと。
	事後学修	授業で利用したプリントとノートを整理し、今回の授業を要約しておくこと。
5 回	授業内容	論争と事件（縄文時代農耕論） 縄文時代に植物栽培が存在したのか、その論争について解説する。
	事前学修	事前に配布した、第5回目のプリントを事前に読んで、内容を把握するとともに、関連する事項について調べておくこと。
	事後学修	授業で利用したプリントとノートを整理し、今回の授業を要約しておくこと。
6 回	授業内容	論争と事件（ピルトダウン事件） 1908年に当時類人猿と人類を繋ぐ化石人口が発見されたとする骨が、1949年に捏造であったことが判明した事件を解説する。
	事前学修	事前に配布した、第6回目のプリントを事前に読んで、内容を把握するとともに、関連する事項について調べておくこと。
	事後学修	授業で利用したプリントとノートを整理し、今回の授業を要約しておくこと。
7 回	授業内容	論争と事件（前期旧石器遺跡捏造事件） 1970年代から行われ2000年11月に発覚した、前期旧石器遺跡捏造事件について解説する。
	事前学修	事前に配布した、第7回目のプリントを事前に読んで、内容を把握するとともに、関連する事項について調べておくこと。
	事後学修	授業で利用したプリントとノートを整理し、今回の授業を要約しておくこと。
8 回	授業内容	論争と事件（理化学的方法による捏造と問題） 旧石器捏造事件で明らかになった、脂肪酸分析結果の捏造とそこから読み取れる捏造を疑う方法を解説する。
	事前学修	事前に配布した、第8回目のプリントを事前に読んで、内容を把握するとともに、関連する事項について調べておくこと。
	事後学修	授業で利用したプリントとノートを整理し、今回の授業を要約しておくこと。
9 回	授業内容	現代と考古学（陵墓治定論） 現在宮内庁によって古代天皇陵として治定されている古墳の、治定にいたる経緯と問題点について解説する。
	事前学修	事前に配布した、第9回目のプリントを事前に読んで、内容を把握するとともに、関連する事項について調べておくこと。
	事後学修	授業で利用したプリントとノートを整理し、今回の授業を要約しておくこと。
10 回	授業内容	論争と事件（日本での遺物の捏造） これまで日本で確認できている遺物の贋作について解説し、出土資料の見極めについて説明します。
	事前学修	事前に配布した、第10回目のプリントを事前に読んで、内容を把握するとともに、関連する事項について調べておくこと。
	事後学修	授業で利用したプリントとノートを整理し、今回の授業を要約しておくこと。
11 回	授業内容	現代と考古学 ―埋蔵文化財と開発― 考古学が現実と直面している課題を、特に開発に伴う遺跡破壊との関係について、解説する。
	事前学修	事前に配布した、第11回目のプリントを事前に読んで、内容を把握するとともに、関連する事項について調べておくこと。
	事後学修	授業で利用したプリントとノートを整理し、今回の授業を要約しておくこと。
12 回	授業内容	現代と考古学（遺跡は誰のものか） 遺跡保存の歴史に対するこれまでの官民の対応を解説する。
	事前学修	事前に配布した、第12回目のプリントを事前に読んで、内容を把握するとともに、関連する事項について調べておくこと。
	事後学修	授業で利用したプリントとノートを整理し、今回の授業を要約しておくこと。
13 回	授業内容	現代と考古学（遺跡から過去の水をさぐる） 遺跡の発掘調査で確認できる・温暖化・地震・津波の痕跡から何がわかり現在にいかにされるのか、について解説する。
	事前学修	事前に配布した、第13回目のプリントを事前に読んで、内容を把握するとともに、関連する事項について調べておくこと。
	事後学修	授業で利用したプリントとノートを整理し、今回の授業を要約しておくこと。
14 回	授業内容	現代と考古学（遺跡から過去の噴火災害をさぐる） 遺跡の発掘調査で確認できる火山噴火の痕跡から何がわかり現在にいかにされるのか、について解説する。
	事前学修	事前に配布した、第14回目のプリントを事前に読んで、内容を把握するとともに、関連する事項について調べておくこと。
	事後学修	授業で利用したプリントとノートを整理し、今回の授業を要約しておくこと。
15 回	授業内容	考古学入門まとめ ―後期のまとめ― 考古学研究における資料の特性と分析するための留意点についてまとめる。
	事前学修	事前に配布した、第15回目のプリントを事前に読んで、内容を把握するとともに、関連する事項について調べておくこと。
	事後学修	授業で利用したプリントとノートを整理し、今回の授業を要約しておくこと。

◆**教科書** なし

◆**参考書** 授業内にて紹介します。

◆**成績評価基準** 試験（100%）。毎回出席することを前提として評価します。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔東洋史特講 I〕

高綱 博文

- ◆**授業概要** 本講義では、上海における日本人コミュニティの歴史と日中関係史を主要なテーマとする。戦前における上海日本人コミュニティの形成・発展・崩壊の歴史過程を中心に講述する。「国際都市」上海には、戦前最も多い時に約 10 万人の日本人が在留し、上海「共同租界」の一角には日本人コミュニティが形成されていたが、敗戦による解体までの歴史を近代日中関係史を踏まえて明らかにする。
- ◆**学修到達目標** 本講義は、近代上海における日本人の活動と意識を分析対象として取り上げ、日中関係史を歴史的に理解し、歴史学による実証的且つ批判的な研究方法論を学修する。
- ◆**授業方法** 教科書・配布資料等により講義を行い、また関係する映像資料を視聴しながら理解を深めます。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容：ガイダンス 事前学修：通信教育部教材『東洋史特講 I』、225～234 頁を予習しておくこと。 事後学修：授業内容の要点を確認しておくこと。
2 回	授業内容：上海史研究への招待 事前学修：配布資料を予め学修しておくこと。 事後学修：授業内容の要点を確認しておくこと。
3 回	授業内容：「租界都市」上海論(1) 事前学修：配布資料を予め学修しておくこと。 事後学修：授業内容の要点を確認しておくこと。
4 回	授業内容：「租界都市」上海論(2) 事前学修：配布資料を予め学修しておくこと。 事後学修：授業内容の要点を確認しておくこと。
5 回	授業内容：上海共同租界（映像視聴） 事前学修：配布資料を予め学修しておくこと。 事後学修：授業内容の要点を確認しておくこと。
6 回	授業内容：上海日本人コミュニティ論(1) 事前学修：配布資料を予め学修しておくこと。 事後学修：授業内容の要点を確認しておくこと。
7 回	授業内容：上海日本人コミュニティ論(2) 事前学修：配布資料を予め学修しておくこと。 事後学修：授業内容の要点を確認しておくこと。
8 回	授業内容：上海事変と日本人(1) 事前学修：配布資料を予め学修しておくこと。 事後学修：授業内容の要点を確認しておくこと。
9 回	授業内容：上海事変と日本人(2) 事前学修：配布資料を予め学修しておくこと。 事後学修：授業内容の要点を確認しておくこと。
10 回	授業内容：上海内山書店の歴史 事前学修：配布資料を予め学修しておくこと。 事後学修：授業内容の要点を確認しておくこと。
11 回	授業内容：日本占領下の上海 事前学修：配布資料を予め学修しておくこと。 事後学修：授業内容の要点を確認しておくこと。
12 回	授業内容：戦時上海の「日本文化」 事前学修：配布資料を予め学修しておくこと。 事後学修：授業内容の要点を確認しておくこと。
13 回	授業内容：最後の日本人居留民社会 事前学修：配布資料を予め学修しておくこと。 事後学修：授業内容の要点を確認しておくこと。
14 回	授業内容：上海日本人引揚者のノスタルジー（映像視聴） 事前学修：授業内容の要点を確認しておくこと。 事後学修：配布資料を予め学修しておくこと。
15 回	授業内容：まとめ、試験 事前学修：配布資料を学修しておくこと。 事後学修：近代日中関係史における上海日本人コミュニティ論を確認しておくこと。

- ◆**教科書** 通材『東洋史特講 I Q31100』通信教育教材（教材コード 000507）
通材『歴史学 B11100』通信教育部教材（教材コード 000393）
〔当日資料配布〕授業中に関係文献資料を適時配布します。
- ◆**参考書** 丸沼『「国際都市」上海のなかの日本人』高綱博文 研文出版、2009 年
- ◆**成績評価基準** 試験（70%）、レポート（30%）。

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔歴史学 A〕

堀井 弘一郎

◆**授業概要** 幕末から今日に至るまで近代日本は隣国中国と時に厳しく対峙し、時に友好を深めつつ、複雑な二国間関係を形成してきた。本講座ではそうした歴史的過程と、同時代を生きた日中両国民の足跡をたどりながら、世界史、東アジア史の中に日中関係史を位置づけて考察する。歴史を先入観でとらえるのではなく、史資料の収集と読解によって確かな史実にもとづく歴史像を自ら描くことができることを心がける (前期はアヘン戦争～満洲事変前の時期)。

◆**学修到達目標** 「歴史とは現代と過去との対話である」(E・H・カー)。戦後 75 年を迎えた今日だが、日中関係は必ずしも良好な関係とはいえない状態が続いている。そんな今日において、日本・中国の近現代史や日中関係に関する書物・新聞記事・ニュースを読み解き、自らの歴史像と確かな歴史的教養をもって現代の日中関係を考え語れるようになることを目標とする。

◆**授業方法** 毎回レジュメや資料プリントを用意し、それに沿って講義形式で授業をすすめる。その際、受講者からの質疑や希望者による研究発表等を取り入れていく。また、視聴覚教材を活用したり、史資料にも多く触れたりすることで、歴史への興味・関心を深める。資料収集の方法、卒業論文等の作成方法についても解説する。

◆**履修条件** 令和元年度昼間スクーリング (前期)『歴史学』とは積み重ね不可。

◆**授業計画 (各 90 分)**

1 回	授業内容: ガイダンス (日中関係は今どうなっているのか?) 事前学修: 最近の日中関係に関する新聞記事などに目を通しておこう。 事後学修: 中国や日中関係の現状について、授業内容をノートに整理しておこう。
2 回	授業内容: 中国の近現代史を眺める 事前学修: 高校の教科書や参考書指定の本で、中国近現代史の復習をしておこう。 事後学修: 中国近現代史の流れをおおよそ理解できるようにまとめておこう。
3 回	授業内容: 「西洋の衝撃」と日本 事前学修: 「西洋の衝撃」とは何か、その意味や影響について調べておこう。 事後学修: 「西洋の衝撃」が東アジア諸国にもたらした影響について確認しておこう。
4 回	授業内容: 琉球処分と現代 事前学修: 沖縄の近現代史について、その概要を調べておこう。 事後学修: 沖縄と日本との関係について、現代的問題も含めてまとめておこう。
5 回	授業内容: 「からゆきさん」と近代の移民 事前学修: 「からゆきさん」の意味や日本の移民の歴史をおおよそ把握しておこう。 事後学修: 日本の移民や中国との関わりについて理解を深めておこう。
6 回	授業内容: 大日本帝国憲法とアジア 事前学修: 大日本帝国憲法制定の経緯や内容について、概略をまとめておこう。 事後学修: 大日本帝国憲法制定がアジア、特に中国に与えた影響を整理しておこう。
7 回	授業内容: 日清戦争と朝鮮 事前学修: 日清戦争とはどのような戦争であったのか、その経緯を調べておこう。 事後学修: 日清戦争が東アジア、特に朝鮮にもたらした影響についてまとめておこう。
8 回	授業内容: 日露戦争と中国 事前学修: 日露戦争とはどのような戦争であったのか、その経緯を調べておこう。 事後学修: 日露戦争が東アジア、特に中国にもたらした影響についてまとめておこう。
9 回	授業内容: 中国人留学生と日本 事前学修: 戦前、中国人留学生としてどのような人物がいたかを調べておこう。 事後学修: 中国人留学生と近代中国史の関連についてまとめておこう。
10 回	授業内容: 台湾統治 50 年と現代 事前学修: 台湾とは国なのか何なのか、国際社会における位置づけを調べておこう。 事後学修: 近現代史における台湾と日本、中国との関係をまとめておこう。
11 回	授業内容: 第 1 次世界大戦と日中両国 事前学修: 第 1 次世界大戦とはどのような戦争であったのか、その経緯を調べておこう。 事後学修: 第 1 次世界大戦に日本と中国はどのように関わったのか、整理してみよう。
12 回	授業内容: 辛亥革命から「南京の 10 年」へ 事前学修: 辛亥革命とは何か、その後中国はどうなったのか、把握しておこう。 事後学修: 「南京の 10 年」を通じた中国の国民国家形成の歩みを理解しよう。
13 回	授業内容: 受講生 (希望者) による研究発表 事前学修: 興味をもった歴史的事象について掘り下げて調べて、発表してみよう。 事後学修: 発表者の各内容をノートに整理しておこう。
14 回	授業内容: 「魔都上海」に暮らす日本人 事前学修: 上海はなぜ「魔都」と呼ばれるのか、その理由を調べておこう。 事後学修: 上海の歴史やそこに暮らした日本人社会の様子について整理しておこう。
15 回	授業内容: まとめと試験 事前学修: ノートや配布したレジュメ・資料などを使って授業内容を総まとめしておこう。 事後学修: 前期期間中に学んだことを整理、理解し、後期の学習につなげよう。

◆**教科書** 当日資料配布

◆**参考書** 丸沼『シリーズ中国近現代史① 清朝と近代世界 19 世紀』吉澤誠一郎 岩波新書 2010 年

丸沼『シリーズ中国近現代史② 近代国家への模索』川島真 岩波新書 2010 年

丸沼『シリーズ中国近現代史③ 革命とナショナリズム』石川貞浩 岩波新書 2010 年

丸沼『新しい東アジアの近現代史 (上・下)』日中韓 3 国共同歴史編纂委員会編 日本評論社 (上) 2012 年

◆**成績評価基準** 試験 80%, 授業への参画度 20%。毎回出席することを前提として評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談 (連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔国語学概論〕

保科 恵

- ◆**授業概要** ひと口に「国語学」と言っても、様々な対象・方法があります。国語学がどのような学問なのかをひと通り見渡すことによって、国語学に対する知識を身につけることを目標とします。
- ◆**学修到達目標** 国語（日本語）とはどのような言語であるのか。歴史的にどのような変遷をたどり、どのように用いられているのか。普段国語（日本語）を使用しているにも意識することの少ない様々な事象を知ること、その特質を理解できるようになる。
- ◆**授業方法** 講義を中心として授業を進めますが、適宜指名してテキストを読んでもらったり、各項目について的小テストを行ったりします。受講者数や各自の興味の持ち方によって変更する適宜場合があります。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容：ガイダンス（国語学概論の概要） 事前学修：特になし。 事後学修：授業内容の復習。
2 回	授業内容：ガイダンス（国語の諸現象） 事前学修：特になし。 事後学修：授業内容の復習。
3 回	授業内容：序説（国語学とは） 事前学修：特になし。 事後学修：当日の授業範囲における序説についての復習。
4 回	授業内容：序説（国語学とその関係諸学／国語学の研究領域と研究法） 事前学修：前回授業内容の復習。 事後学修：当日の授業範囲における序説についての復習。
5 回	授業内容：音韻（音声・音韻） 事前学修：前回授業内容の復習。 事後学修：当日の授業範囲における音韻についての復習。
6 回	授業内容：音韻（国語の音韻） 事前学修：前回授業内容の復習。 事後学修：当日の授業範囲における音韻についての復習。
7 回	授業内容：音韻（音韻史） 事前学修：前回授業内容の復習。 事後学修：当日の授業範囲における音韻についての復習。
8 回	授業内容：音韻（五十音図・いろは歌） 事前学修：前回授業内容の復習。 事後学修：当日の授業範囲における音韻についての復習。
9 回	授業内容：音韻（アクセント） 事前学修：前回授業内容の復習。 事後学修：当日の授業範囲における音韻についての復習。
10 回	授業内容：文字（文字・日本の文字） 事前学修：前回授業内容の復習。 事後学修：当日の授業範囲における文字についての復習。
11 回	授業内容：文字（漢字） 事前学修：前回授業内容の復習。 事後学修：当日の授業範囲における文字についての復習。
12 回	授業内容：文字（万葉仮名・片仮名） 事前学修：前回授業内容の復習。 事後学修：当日の授業範囲における文字についての復習。
13 回	授業内容：文字（平仮名） 事前学修：前回授業内容の復習。 事後学修：当日の授業範囲における文字についての復習。
14 回	授業内容：文字（かなづかい・ローマ字） 事前学修：前回授業内容の復習。 事後学修：当日の授業範囲における文字についての復習。
15 回	授業内容：まとめ、試験 事前学修：前期授業範囲の復習。 事後学修：授業内容の復習。

- ◆**教科書** 丸沼 福島邦道『国語学要論』（笠間書院）
- ◆**参考書** なし
- ◆**成績評価基準** 試験 80%。平常点 20%。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔東洋史概説 / 東洋史概論〕

塚本 剛

- ◆**授業概要** 「東洋史」を、歴史的空間概念として古代は東アジア世界、中世は東部ユーラシア世界、近世は世界の一体化という観点より中国を文明中核地帯として概説する。多種多様な民族と地域、特に黄河流域と長江流域で明確に異なる文化をもちながらなぜ統一されたのか、所謂「水の理論」は妥当なのか、環境や世界観の変化はどのように東洋の歴史に影響したのかを理解できるように心掛ける。高校教育の現場での経験を活用する。
- ◆**学修到達目標** ①日本を含む「東洋史」、歴史的空間概念としての東アジア世界史・東部ユーラシア世界史とは何か、世界史構想上で東洋史はどのように位置づけられるのかを説明できる。②資料解釈による「歴史的事実」の解釈の多様性、そこから生じる様々な歴史認識、歴史観、ひいてはグローバル世界において東洋を比較相対して位置づけ、俯瞰的に捉える学問的アプローチと態度を学修することにより、固有の世界観を形成することが出来る。
- ◆**授業方法** ただ、一方的に講義するのではなく、中高含め現在までのように学習してきた、今現在どのように認識しているか(レポート課題にもする)をこちらから問いかけ、東洋史で常識(特に中高の歴史教育)とされている歴史事象についての誤解とそれが形成された理由を浮き彫りにして、現在の学問水準でのコンセンサスを講義する。但し受講人数や、受講者の興味対象によっては必ずしも予定に固執せず柔軟に対応したい。
- ◆**履修条件** 学修効果を上げるため、前期後期連続受講が望ましい。後期高綱博文先生の東洋史概論東洋史概説履修を強く勧める。
- ◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容 講義の進め方・オリエンテーション・東洋史とは何か？ 本講義の進め方を説明し、東洋史を学修する意義を概説する。
事前学修	高校世界史で学習した知見を整理しておくこと。
事後学修	講義内容を整理し、確認して理解しておくこと。
2回	授業内容 原始文化 中国文明の文化的多様性、特に黄河流域文化と長江流域文化との質的差を解説する。
事前学修	文化とは一言で言えばライフスタイル。それは衣食住に如実に表れる。中華料理といっても地域によってその実態は、多彩である。それぞれの地域に根ざした料理の特徴を調べておくこと。
事後学修	米作文化と雑穀文化の相違など文化の違いを良く整理しておくこと。
3回	授業内容 邑の統合と初期王権 都市国家である邑の出現と、それを統合する王権の仕組みについて解説する。
事前学修	高校世界史の知識を確認しておくこと。
事後学修	神の直系子孫である王の王権構造と黄河・長江流域のそれぞれの王権の特徴について整理しておくこと。
4回	授業内容 殷周革命と天 殷周革命により王権の正統観念が一変し、青銅器に文字を鑄込む技術を独占的に握り、天と交信できる唯一の祭祀者としての王の性格を解説する。
事前学修	お祭りにおける祭祀：儀礼の意義を考えておくこと。
事後学修	王権の正統性は背景にある思想の属性によって規定されるが、中国の場合について確認した上で、本来目に見えない思想を可視化する装置として機能する文化についてまとめておくこと。
5回	授業内容 春秋戦国時代における天体観の変化 都市国家から領域国家への発展を解説する。
事前学修	高校歴史教育における中国と日本の改元の違いを調べてみる。
事後学修	改元法の違いが、王権の正統観の相違を表し、領域国家の有り様は環境によって多様であることを良く整理すること。
6回	授業内容 秦の統一 領域国家から帝国への発展を解説する。
事前学修	高校教育の該当部分について良く復習しておくこと。
事後学修	秦の統一は史料上では「併六国」であり、所謂統一国家を構築したというイメージからはかなり相違があることを整理すること。
7回	授業内容 儒教の国教化 後漢時代に国教となった儒教の正統観で以後、清朝に至るまで歴史書が編纂されるので、それを補正しなければ実体は見えてこないことを解説する。
事前学修	自分を取り巻く周囲の世界は儒教にいかなる影響を与えられているか考えておくこと。
事後学修	儒教国教化が中華世界、延いては東アジア世界、またそれを編纂する歴史観に与えた影響を良く整理すること。
8回	授業内容 東アジア世界 古代地中海世界文明が西欧世界の古典古代であると同様に、東アジア世界では、3世紀頃までの漢語文化こそが古典古代であることを解説する。
事前学修	中国由来のものだが、あまりにも利便性が高く汎用性が認められたため、受容され、東アジア全体に普及した普遍性のある文化を列挙しておくこと。
事後学修	古代東アジア世界は、漢語文献を古典として、都城、律令、儒教を普遍的文化として受容して成立したことを理解すること。
9回	授業内容 環境史と東アジア世界史 マルクス史観が示す普遍的な世界史は環境を度外視したもので成立し得ず、環境に根ざした文化とそれを基盤に独自の歴史があることを理解する。
事前学修	高校教育の世界史のみならず地理もよく復習しておくこと。
事後学修	環境史の基本的な考え方を整理しておくこと。
10回	授業内容 漢と東アジア世界 統一帝国の基盤を整理して軌道に乗せたのは漢であり、特に後漢こそが、皇帝支配における古典的国制を完成させたことを解説する。
事前学修	古代のまとめとなるので今までの講義内容を良く整理しておくこと。
事後学修	秦漢帝国の皇帝支配について良く整理しておくこと。
11回	授業内容 東部ユーラシアと仏教 6世紀末～10世紀初頭の国際秩序は、中華文明圏を中核とし、それと歴史的に密接な関係を持ち、直接的な交渉を継続反復し行った地域世界を想定する必要があり、その文化交流を媒介したのは仏教であることを解説する。
事前学修	仏教について知っている知識をまとめておくこと。
事後学修	中世は古代東アジア世界にかわり東部ユーラシア世界が成立、機能することを整理しておくこと。
12回	授業内容 隋唐と東部ユーラシア世界 魏晋南北朝の分裂期を再統一した隋唐帝国を理解するためには、東部ユーラシア世界というマクロな視点が不可欠であることを解説する。
事前学修	シルクロードについて知っている知見を良く整理しておくこと。
事後学修	中世のまとめとなるので、11～12回の喪服集をしておくこと。
13回	授業内容 分岐点としての宋・元 下部構造である物質的条件では西欧より遙かに早く近代化・資本制への段階が整った中華がおくれを取ったのかを解説する。
事前学修	宋の都市を中心にした経済的発展の様相について高校世界史の知識を良く復習しておくこと。
事後学修	所謂大分岐について良く整理しておくこと。
14回	授業内容 世界の一体化と元明 世界の一体化にはムスリム商人の活躍と大元ウルスによる大陸の政治的、経済的統合が大きな役割を果たしており、ロシア帝国、オスマン帝国、ムガル帝国、明朝などの16世紀のユーラシア大陸の大規模国家はモンゴル帝国そのものやモンゴル帝国内地方政権の後継国家の性格を有することを解説する。
事前学修	高校世界史における宋の為替、元の紙幣制度をよく復習し、明の租税納納制度が、清、中華民国の銀本位制度へと発展する様子を整理しておくこと。
事後学修	試験に備え、14回までの講義内容を全てを再確認しておくこと。
15回	授業内容 試験及び解説
事前学修	前回の講義内で指摘した課題について前もってまとめておくこと。
事後学修	講義内容を再確認して、レポート課題と照らし合わせ、受講後の変化を認識した上で、現在における自分の課題を適切に把握すること。

◆**教科書** 〔当日資料配布〕

◆**参考書** 通材『東洋史概説 Q30300』 通信教育教材(教材コード 000523)
丸沼『中国の歴史』 岸本美緒 ちくま学芸文庫 筑摩書房 2015年

◆**成績評価基準** 試験(50%)、レポート(50%)。毎回出席することを前提として評価します。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

【木曜日】

時限	講座コード	開講講座名	担当講師名	単開 位数講	充 当 科 目		制 限・注 意			受オ ー プ ン 講
					科 目 コード	科 目 名	併 用	配当 学年	受 講 条 件	
1 時 限	AD11	文 学	尾形 大	2	B11300	文 学	×	1年		
	AD12	社 会 学 A	服部 慶亘	2	B11600	社 会 学	×	1年		
	AD13	英 語 L	鈴木 ふさ子	1	C10100	英 語 I	×	1年	・ I～IVのいずれに該当させるのか 充当科目コードを必ず記入してください。	
					C10200	英 語 II				
					C10300	英 語 III				
					C10400	英 語 IV				
	AD14	T O E I C A	町田 純子	1	C108S0	T O E I C	×	1年		
AD15	行 政 学 B	関根 二三夫	2	L30100	行 政 学	×	2年			
AD16	情 報 概 論 A	中村 典裕	2	R32300	情 報 概 論	×	2年			
2 時 限	AD21	哲 学 B	中澤 瞳	2	B10700	哲 学	×	1年		
	AD22	英 語 M	岡田 善明	1	C10100	英 語 I	×	1年	・ I～IVのいずれに該当させるのか 充当科目コードを必ず記入してください。	
					C10200	英 語 II				
					C10300	英 語 III				
					C10400	英 語 IV				
	AD23	民 法 I	根本 晋一	2	K20200	民 法 I	×	条件参照	・ 法律学科のみ1学年以上 申込可。 ・ 上記以外は2学年以上申 込可。	
	AD24	国 文 学 演 習	近藤 健史	1	M404S0	国 文 学 演 習 I	×	3年	・ 文学専攻（国文学）のみ 申込可。 ・ I～VIのいずれに該当させる のか充当科目コードを必ず 記入してください。	
M405S0					国 文 学 演 習 II					
M406S0					国 文 学 演 習 III					
M407S0					国 文 学 演 習 IV					
M408S0					国 文 学 演 習 V					
M409S0					国 文 学 演 習 VI					
AD25	英 語 文 学 概 説 / 英 米 文 学 概 説 B	鈴木 ふさ子	2	N20400	英 語 文 学 概 説	×	条件参照	・ 文学専攻（英文学）のみ 1学年以上申込可，それ 以外は2学年以上申込可。 ・ 平成30年度以前入学学 生のみ履修可。 ・ 文学専攻（英文学）のみ 1学年以上申込可，それ 以外は2学年以上申込可。 ・ 令和元年度以降入学学 生のみ履修可。		
				N20300	英 米 文 学 概 説					
AD26	情 報 概 論 B	荒関 仁志	2	R32300	情 報 概 論	×	2年		×	

注意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。
その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

【木曜日】

時限	講座 コード	開講講座名	担当講師名	単開 位 数講	充 当 科 目		制 限 ・ 注 意			受 オ ー プ ン 講	
					科 目 コ ー ド	科 目 名	併 用	配 当 学 年	受 講 条 件		
3 時 限	AD31	法 学 B	根 本 晋 一	2	B11500	法学(日本国憲 法2単位を含む)	×	1年			
	AD32	英 語 基 礎 B	中 村 則 子	1	C10600	英 語 基 礎	×	1年	・文学専攻(英文学)は申 込不可。		
	AD33	英 語 史	真 野 一 雄	2	N30300	英 語 史	×	2年			
	AD34	史 学 概 論 B	高 綱 博 文	2	Q30100	史 学 概 論	×	2年			
	AD35	現 代 教 職 論	古 賀 徹	2	T10100	現 代 教 職 論	×	2年	・スクーリング1回の合格 で単位完成する科目です。	×	
4 時 限	AD41	歴 史 学 B	渡 邊 浩 史	2	B11100	歴 史 学	×	1年			
	AD42	英 語 N	中 村 則 子	1	C10100	英 語 I	×	1年	・I~IVのいずれに該当さ せるのか充当科目コード を必ず記入してください。		
					C10200	英 語 II					
					C10300	英 語 III		2年			
					C10400	英 語 IV					
	AD43	T O E I C B	八 木 茂 那 子	1	C108S0	T O E I C	×	1年			
	AD44	民 法 IV B	根 本 晋 一	2	K30300	民 法 IV	×	2年			
	AD45	西 洋 史 特 講 I	青 山 由 美 子	2	Q31200	西 洋 史 特 講 I	×	2年			
AD46	英 語 科 教 育 法 I	小 澤 賢 司	2	T20900	英 語 科 教 育 法 I	×	2年	・文学専攻(英文学)のみ 申込可。 ・スクーリング1回の合格 で単位完成する科目です。			
5 時 限	AD51	文 化 史 B	渡 邊 浩 史	2	B11200	文 化 史	×	1年			
	AD52	英 語 P	八 木 茂 那 子	1	C10100	英 語 I	×	1年	・I~IVのいずれに該当さ せるのか充当科目コード を必ず記入してください。		
					C10200	英 語 II					
					C10300	英 語 III		2年			
					C10400	英 語 IV					
	AD53	哲 学 演 習 B	中 澤 瞳	1	P401S0	哲 学 演 習 I	×	3年		・哲学専攻のみ申込可。 ・I, IIのいずれに該当さ せるのか充当科目コード を必ず記入してください。	
P402S0					哲 学 演 習 II						
AD54	経 済 史 総 論 B	下 斗 米 秀 之	2	R20200	経 済 史 総 論	×	条 件 参 照	・経済学部は1学年以上申 込可。 ・それ以外は2学年以上申 込可。	×		
AD55	教 育 の 方 法 ・ 技 術 論 B	古 賀 徹	2	T21700	教 育 の 方 法 ・ 技 術 論	×	2年	・スクーリング1回の合格 で単位完成する科目です。			

注意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。
その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔文学〕

尾形 大

◆**授業概要** 「文学」とは、けっして作家個人によってのみ作られるものではありません。そこには実に多様な文化的・社会的・歴史的な背景がともないます。本授業は、明治期末の自然主義文学への反応を根子に生み出された大正期の文学を取り上げて、それぞれが内包する諸要素を整理・分析することを通して、同時代状況と文学の交錯の実態について考察していきます。

◆**学修到達目標** 1. 文学を専門的に読むために必要な知識について学び、説明することができる。2. 大正期の文学動向の中における各テキストの位置付けを説明できるようになる。

◆**授業方法** 基本的に講義形式で行いますが、定期的の小レポートを課して授業内容の理解度を測り、同時に各人の考えを言葉に表してもらいます。受講生は指定されたテキストを通読した上で問題意識を持って授業に臨んでください。毎時リアクションペーパーを記入してもらい、次の時間に回答することで双方向的な授業を作っていきたいと思っております。

◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容: ガイダンスー「近代文学」および「文学史」とは何か？／大正期の社会状況について 事前学修: 大正期の文学動向について調べ、ノートにまとめておく。 事後学修: 授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。
2回	授業内容: 自然主義文学の特徴ー島崎藤村と田山花袋 事前学修: 教科書61～71ページを読んでおく。 事後学修: 授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。
3回	授業内容: 「反自然主義」とは何かー夏目漱石・森鷗外・白樺派・耽美派 事前学修: 教科書72～84ページを読んでおく。 事後学修: 授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。
4回	授業内容: 佐藤春夫「西班牙犬の家」①ー作者に関する解説および本文の精読 事前学修: 「西班牙犬の家」を読んでおく。 事後学修: 授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。
5回	授業内容: 佐藤春夫「西班牙犬の家」②ー同時代の幻想的な小説群との比較 事前学修: 教科書85～97ページを読んでおく。 事後学修: 授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。
6回	授業内容: 有島武郎「小さき者へ」①ー作者に関する解説および本文の精読 事前学修: 「小さき者へ」を読んでおく。 事後学修: 授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。
7回	授業内容: 有島武郎「小さき者へ」②ー同時代の「父と子」の物語との比較 事前学修: 教科書98～109ページを読んでおく。 事後学修: 授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。
8回	授業内容: 前半の授業内容の振り返り／2～7回の授業内容に関する小レポートの作成 事前学修: 教科書およびこれまでの授業内容をまとめたノートを読み直しておく。 事後学修: 授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。
9回	授業内容: 芥川龍之介「奉教人の死」①ー作者に関する解説および本文の精読 事前学修: 「奉教人の死」を読んでおく。 事後学修: 授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。
10回	授業内容: 芥川龍之介「奉教人の死」②ー他の「キリシタンもの」との比較 事前学修: 教科書110～122ページを読んでおく。 事後学修: 授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。
11回	授業内容: 宇野浩二「屋根裏の法学士」①ー作者に関する解説および本文の精読 事前学修: 「屋根裏の法学士」を読んでおく。 事後学修: 授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。
12回	授業内容: 宇野浩二「屋根裏の法学士」②ー「夢」を描いた他の小説との比較 事前学修: 奇蹟派について調べておく。 事後学修: 授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。
13回	授業内容: 川端康成「葬式の名人」①ー作者に関する解説および本文の精読 事前学修: 「葬式の名人」を読んでおく。 事後学修: 授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。
14回	授業内容: 川端康成「葬式の名人」②ー戦争と自然災害という同時代性 事前学修: 教科書139～148ページを読んでおく。 事後学修: 授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。
15回	授業内容: 試験 事前学修: これまでの授業内容をノートにまとめ、全体を見直しておく。試験では授業で扱った以外の大正期の文学をひとつ選び分析を行ってもらうので、事前に候補を考えてメモをとりながら読んでおくこと。 事後学修: これまでの授業内容を確認した上で、自身が選んだテキストの特徴について同時代状況と重ね合わせながらもう一度読み直しておく。

◆**教科書** 題材 「国文学講義V（近代）M30900」通信教育教材（教材コード 000094）

丸沼『日本近代短編小説選 大正編』岩波書店 2012年

〔当日資料配布〕必要に応じて当日プリントを配布します。

◆**参考書** 丸沼『原色 新日本文学史〔増補版〕』文英堂 2016年

◆**成績評価基準** 授業への参画度＋毎時のリアクションペーパー＋小レポート（50%）および試験（50%）

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔社会学 A〕

服部 慶巨

◆**授業概要** 人間は、独りで生きてゆくことの出来ない弱い存在である。ゆえに、共同生活を営む者(仲間)が必要不可欠となる。また、社会生活は(必ずしも)自分の思い通りにゆくものではない。担当者が中学・高校の教員として学校生活や進路選択に悩む生徒たちに触れた経験や、担当者自身の人生経験を理論的にまとめ、受講者自身の現実を実践的に理解し、「人間としていかに評価されるか?」というテーマについて考えてゆく。

◆**学修到達目標** 「大学で学んだことは、日常で役に立たない」という声を聞くが、本当にそうだろうか? そんな疑問と対峙しつつ、学問が自分の日常生活や人生の現在・過去・未来と密接に関わっていることを理解し、社会(科)学的な視点で自分自身をとらえる技術を身につける。

◆**授業方法** 教科書・プリント・板書(パワーポイント)などを用い、受講生自身も陥りがちな問題点を指摘・解説する。必要に応じて視聴覚資料(CD、DVD、マンガ、その他)を多用する。また、学生に質問を投げかけ、対話とシミュレーションを展開しながら講義を進めていく。講義を単に「聴く」のではなく、講義に「参加」する意欲が求められる。なお、本授業の事前学修・事後学修の時間は、各2時間を目安とする。

◆**履修条件** 同時期(前期)開講の「社会学B」との積み重ね履修不可。また、昨年度前期開講分の社会学を合格した者も、履修不可。

◆**授業計画 (各90分)**

1回	授業内容: 前期ガイダンス(講義の方針、展開方法、目標などを確認する) 事前学修: シラバスを読んで、講義の目的・目標を理解する。 事後学修: テキストを入手し、「もくじ」に目を通しておく。
2回	授業内容: 状況(情況)判断①「レディネス」(readiness)について 事前学修: 前回の講義内容を確認しておく。 事後学修: 講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認(実践)する。
3回	授業内容: 状況(情況)判断② 絶対と相対 事前学修: 前回までの講義内容を確認しておく。 事後学修: 講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認(実践)する。
4回	授業内容: 社会的自我① 鏡に映った自我 事前学修: 前回までの講義内容を確認しておく。 事後学修: 講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認(実践)する。
5回	授業内容: 社会的自我① 鏡に映った自我② 主我と客我 事前学修: 前回までの講義内容を確認しておく。 事後学修: 講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認(実践)する。
6回	授業内容: 社会的人間としての人間① 行為と行動 事前学修: 前回までの講義内容を確認しておく。 事後学修: 講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認(実践)する。
7回	授業内容: 社会的動物としての人間② 「社会」とは? 事前学修: これまでの講義内容をふまえて、自身の「今まで」を振り返っておく。 事後学修: 講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認(実践)する。
8回	授業内容: 社会的動物としての人間③ 生理的早産 事前学修: これまでの講義内容をふまえて、自身の「今まで」を振り返っておく。 事後学修: 講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認(実践)する。
9回	授業内容: Human Being ① 「人間」について 事前学修: これまでの講義内容をふまえて、「人間とは何か?」という問いに対する答えを考えておく。 事後学修: 講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認(実践)する。
10回	授業内容: Human Being ② 不完全体(態)と完全体(態) 事前学修: 前回までの講義内容を確認しておく。 事後学修: 講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認(実践)する。
11回	授業内容: Human Being ③ 地位 事前学修: 前回までの講義内容を確認しておく。 事後学修: 講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認(実践)する。
12回	授業内容: 「人間」について④ 役割 事前学修: 前回までの講義内容を確認しておく。 事後学修: 講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認(実践)する。
13回	授業内容: Human Being ⑤ 「地位」の諸性質 事前学修: 前回までの講義内容を確認しておく。 事後学修: 講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認(実践)する。
14回	授業内容: 理解度確認(まとめ) 事前学修: これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。 事後学修: 試験に向けて、これまでの講義内容を復習しておく。
15回	授業内容: 試験および解説 事前学修: これまでの講義内容について、テキストやノート、資料を読んで、自身でまとめておく。 事後学修: 今後の受講、または日常生活改善に向けて、講義内容を再確認する。

◆**教科書** ①『人間生活の理論と構造』夏川康男(ほか) 学文社
②『補強版ストレス・スパイラル』服部慶巨 人間の科学社
(他の講座でこの本を入手済みの人は、それを使います。なお、再販時期が未定のため、未入手の人には後日指示します)

◆**参考書** ①『当日資料配布』必要に応じてプリント配布

◆**成績評価基準** 終講試験(70%)、授業参加度(20%)、レポート類(10%)で評価する。なお、全講義回数の3分の2以上の出席が原則(公欠などは申し出ること)。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔英語 L〕★★☆

鈴木 ふさ子

- ◆**授業概要** 英文の正確な把握力を高めることを目標とします。作品の文化や時代背景について理解し、作者の意図を汲むことで作品を深く、多面的に解釈できるようになること、童話にふさわしい表現を翻訳する技法とセンスを身につけることを目標とします。
- ◆**学修到達目標** 英文の正確な把握力が高まる。作品の文化や時代背景について知り、作者の意図を汲むことで作品を深く、多面的に解釈できるようになる。翻訳の技法とセンスを身につけることで童話にふさわしい表現ができるようになる。
- ◆**授業方法** イギリス 19 世紀末の童話を主なテキストとし、音読と翻訳を通して英語の文章を正確に読み取っていきます。単語ひとつの解釈をめぐるディスカッションすることもあります。毎回進んだ範囲から部分訳や作品解釈を確認するテストを行います。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	ガイダンス（授業の進め方、成績評価の方法についての確認）
	事前学修	作者のワイルドについて調べてくる。自分の英語力について説明できるようにしておく。
	事後学修	クラスの内容について確認し、ワイルドについての知識を復習する
2 回	授業内容	ワイルドの童話のプリントをクラスメイトと訳す。
	事前学修	配布されたプリントの単語を調べ、自分の言葉で翻訳をつくってくる。
	事後学修	解釈や表現がよくなかった部分を確認し、修正する。
3 回	授業内容	ワイルドの童話のプリントをクラスメイトと訳す。
	事前学修	配布されたプリントの単語を調べ、自分の言葉で翻訳をつくってくる。
	事後学修	解釈や表現がよくなかった部分を確認し、修正する。
4 回	授業内容	テキストの "The Happy Prince" の該当箇所を指名された学生が音読し、訳す。
	事前学修	テキストの指定された箇所を辞書を調べ、自分の言葉で訳してくる。音読の時に発音ができない音がないように音声も調べ、声に出して英文を読んでくる。
	事後学修	解釈や表現がよくなかったところを確認し、修正する。
5 回	授業内容	テキストの "The Happy Prince" の該当箇所を指名された学生が音読し、訳す。
	事前学修	テキストの指定された箇所を辞書を調べ、自分の言葉で訳してくる。音読の時に発音ができない音がないように音声も調べ、声に出して英文を読んでくる。
	事後学修	解釈や表現がよくなかったところを確認し、修正する。
6 回	授業内容	テキストの "The Happy Prince" の該当箇所を指名された学生が音読し、訳す。
	事前学修	テキストの指定された箇所を辞書を調べ、自分の言葉で訳してくる。音読の時に発音ができない音がないように音声も調べ、声に出して英文を読んでくる。
	事後学修	解釈や表現がよくなかったところを確認し、修正する。
7 回	授業内容	テキストの "The Happy Prince" の該当箇所を指名された学生が音読し、訳す。
	事前学修	テキストの指定された箇所を辞書を調べ、自分の言葉で訳してくる。音読の時に発音ができない音がないように音声も調べ、声に出して英文を読んでくる。
	事後学修	解釈や表現がよくなかったところを確認し、修正する。
8 回	授業内容	テキストの "The Selfish Giant" の該当箇所を指名された学生が音読し、訳す。
	事前学修	テキストの指定された箇所を辞書を調べ、自分の言葉で訳してくる。音読の時に発音ができない音がないように音声も調べ、声に出して英文を読んでくる。
	事後学修	解釈や表現がよくなかったところを確認し、修正する。
9 回	授業内容	テキストの "The Selfish Giant" の該当箇所を指名された学生が音読し、訳す。
	事前学修	テキストの指定された箇所を辞書を調べ、自分の言葉で訳してくる。音読の時に発音ができない音がないように音声も調べ、声に出して英文を読んでくる。
	事後学修	解釈や表現がよくなかったところを確認し、修正する。
10 回	授業内容	テキストの "The Selfish Giant" の該当箇所を指名された学生が音読し、訳す。
	事前学修	テキストの指定された箇所を辞書を調べ、自分の言葉で訳してくる。音読の時に発音ができない音がないように音声も調べ、声に出して英文を読んでくる。
	事後学修	解釈や表現がよくなかったところを確認し、修正する。
11 回	授業内容	テキストの "The Nightingale and the Rose" の該当箇所を指名された学生が音読し、訳す。
	事前学修	テキストの指定された箇所を辞書を調べ、自分の言葉で訳してくる。音読の時に発音ができない音がないように音声も調べ、声に出して英文を読んでくる。
	事後学修	解釈や表現がよくなかったところを確認し、修正する。
12 回	授業内容	テキストの "The Nightingale and the Rose" の該当箇所を指名された学生が音読し、訳す。
	事前学修	テキストの指定された箇所を辞書を調べ、自分の言葉で訳してくる。音読の時に発音ができない音がないように音声も調べ、声に出して英文を読んでくる。
	事後学修	解釈や表現がよくなかったところを確認し、修正する。
13 回	授業内容	テキストの "The Nightingale and the Rose" の該当箇所を指名された学生が音読し、訳す。
	事前学修	テキストの指定された箇所を辞書を調べ、自分の言葉で訳してくる。音読の時に発音ができない音がないように音声も調べ、声に出して英文を読んでくる。
	事後学修	解釈や表現がよくなかったところを確認し、修正する。
14 回	授業内容	これまでの総まとめと作品についてのディスカッション
	事前学修	前期に学んだことを復習して疑問点を洗い出してくる。
	事後学修	授業時にとったノートを見直し、正しい解釈を考える。
15 回	授業内容	試験とその解説
	事前学修	前期に学んだことを復習して、英語の解釈や作品についての意見をまとめ、試験のための準備をする。
	事後学修	試験に出題された内容を見直し、確認する。

- ◆**教科書** 丸沼 The Happy Prince and Other Tales (O・ワイルド、『幸福な王子・他』、英光社)
- ◆**参考書** 丸沼 鈴木ふさ子著『オスカー・ワイルドの曖昧性』（開文社）
- ◆**成績評価基準** 毎回出席することを前提として、平常点（授業への参加・貢献、予習）30%、確認テスト 30%、最終（期末）試験 40%で評価します。

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

(TOEIC A) ★★★

町田 純子

◆**授業概要** TOEIC L&R の出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力 (Communicative Competence) を習得するようにします。TOEIC 企業内研修講座実績や、アメリカの大学での ESL や TOEFL 講座の教育経験をもとに検定試験対策をより実践的に取り組むめるよう授業に反映します。

◆**学修到達目標** TOEIC L&R 公開テストで大学生の平均点 568 点以上をクリアすることを目標とします。その為の基礎文法、速読速聴力、読解力、語彙力強化を図ります。又、音声の基礎知識を整理し、特有の話し言葉に慣れます。頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップできます。

◆**授業方法** 前期後期の連続受験が望ましいです。リスニング (Part 1 ~ Part 4) 及びリーディング (Part 5 ~ Part 7) の練習問題形式のテキストに沿い、ペアやグループでタスクベースで進行します。毎回単語力確認テストを行います。シャドウイング練習や語彙テスト対策等を含む授業の事前学修、事後学修は各2時間を目安としています。質問等は授業前後又は、リアクションペーパーに記入してください。次回の授業で回答します。

◆授業計画 [各 90 分]

1 回	授業内容: 授業の進め方, 評価方法, TOEIC 概要説明をする。 事前学修: シラバス内容を確認の上授業に臨み, 授業計画を確認する。TOEIC L & R の概要について Web サイトで調べてみる。 事後学修: ガイダンスのおさらいをする。12 回実施予定の英単熟語確認テストの準備として、初回講義前にテキストを購入してテストに備える。
2 回	授業内容: Preliminary Lesson (Pre-test) の問題を理解し, 問題を解答できる。 事前学修: 12 回実施予定の英単熟語確認テスト 1 の音読, 暗記の準備をする。 事後学修: Preliminary Lesson (Pre-test) の間違えた箇所の問題を解き直す。シャドウイング練習をする。
3 回	授業内容: Unit 1 Food & Restaurant を理解し, それに対応する問題を解答できる。語彙テスト 1 の内容を解答できる。 事前学修: Unit 1 p24 ~ 33 の問題を解いてくる。 事後学修: 間違えた問題を解き直す。シャドウイング練習をする。
4 回	授業内容: Unit 2 Entertainment を理解し, それに対応する問題を解答できる。語彙テスト 2 を解答できる。 事前学修: 語彙テスト 2 の準備をする。Unit 2 p24 ~ 33 の問題を解いてくる。 事後学修: 間違えた問題を解き直す。シャドウイング練習をする。
5 回	授業内容: Unit 3 Travel を理解し, それに対応する問題を解答できる。語彙テスト 3 を解答できる。 事前学修: Unit 3 p44 ~ 53 の問題を解いてくる。 事後学修: 語彙テスト 3 の準備をする。 事後学修: 間違えた問題を解き直す。シャドウイング練習をする。
6 回	授業内容: Unit 4 Sports & Health を理解し, それに対応する問題を解答できる。語彙テスト 4, CM を解答できる。 事前学修: Unit 4 P54 ~ 63 の問題を解いてくる。 事後学修: 語彙テスト 4 を準備する。 事後学修: 間違えた問題を解き直す。シャドウイング練習をする。
7 回	授業内容: Unit 5 Purchasing を理解し, それに対応する問題を解答できる。語彙テスト 5 を解答できる。 事前学修: Unit 5 p64 ~ 73 の問題を解いてくる。 事後学修: 語彙テスト 5 の準備をする。 事後学修: 間違えた問題を解き直す。シャドウイング練習をする。
8 回	授業内容: Unit 6 Housing & Accommodations を理解し, それに対応する問題を解答できる。語彙テスト 6 を解答できる。 事前学修: 語彙テスト 6 の準備をする。 事後学修: 間違えた問題を解き直す。シャドウイング練習をする。
9 回	授業内容: Unit 7 Office Work (1) を理解し, それに対応する問題を解答できる。語彙テスト 7 を解答できる。 事前学修: Unit 7 p84 ~ 93 の問題を解いてくる。語彙テスト 7 の準備をする。 事後学修: 間違えた問題を解き直す。シャドウイング練習をする。
10 回	授業内容: Unit 8 Office Work (2) を理解し, それに対応する問題を解答できる。語彙テスト 8 を解答できる。 事前学修: Unit 8 p94 ~ 104 の問題を解いてくる。 事後学修: 語彙テスト 8 の準備をする。 事後学修: 間違えた問題を解き直す。シャドウイング練習をする。
11 回	授業内容: Unit 9 Employment を理解し, それに対応する問題を解答できる。語彙テスト 9 を解答できる。 事前学修: Unit 9 p104 ~ 113 の問題を解いてくる。 事後学修: 語彙テスト 9 の準備をする。 事後学修: 間違えた問題を解き直す。シャドウイング練習をする。
12 回	授業内容: Unit 10 Lectures & Presentations を理解し, それに対応する問題を解答できる。語彙テスト 10 を解答できる。 事前学修: Unit 10 p114 ~ 123 の問題を解いてくる。 事後学修: 語彙テスト 10 の準備をする。 事後学修: 間違えた問題を解き直す。シャドウイング練習をする。
13 回	授業内容: Unit 11 Business Affairs (1) を理解し, それに対応する問題を解答できる。語彙テスト 11 を解答できる。 事前学修: Unit 11 p124 ~ 133 の問題を解いてくる。 事後学修: 語彙テスト 11 の準備をする。 事後学修: 間違えた問題を解き直す。シャドウイング練習をする。
14 回	授業内容: Unit 12 Business Affairs (2) を理解し, それに対応する問題を解答できる。語彙テスト 12 を解答できる。 事前学修: Unit 12 p134 ~ 144 の問題を解いてくる。 事後学修: 語彙テスト 12 の準備をする。 事後学修: 間違えた問題を解き直す。シャドウイング練習をする。
15 回	授業内容: 前期授業内試験と解説, 学習内容のまとめ 事前学修: Unit 1 ~ Unit 12 までの復習をする。 事後学修: 前期授業の学習内容を確認する。

◆**教科書** 丸沼『Fast PASS FOR THE TOEIC L&R TEST』改訂版 上仲律子他センタージャーニング 2019
[当日資料配布] 一部、当日プリント配布もあります。

丸沼『Word Builder』基礎から学ぶ TOEIC テスト英単熟語 近畿大学語学教育教材開発研究会 南雲堂 2005

◆**参考書** なし

◆**成績評価基準** 全出席を前提に、毎回実施の単語選択問題小テスト (40%) 及び期末試験 (60%) により総合的に評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔行政学 B〕

関根 二三夫

◆**授業概要** 行政の概念、行政学の変遷、ロレンツ・フォン・シュタインの行政学、科学的管理法と行政学、政治と行政との関係、国家概念と国家機関、国家成立の要素、現代国家と行政、行政組織の原則及び部門化、ラインとスタッフ、官僚制、公務員制など、行政に関する制度的側面を学びます。

◆**学修到達目標** 20 世紀に入り顕著になってきた行政の多様化や複雑化に伴う行政国家化は、議会政治との軋轢を生じさせることになりました。本来的に、政策の執行を扱うとされた行政が、政策の立案や決定に大きな影響力を持つことになって議会政治との関係が問題になっています。行政の制度面を学ぶことにより、行政が国家と如何なる関係にあるかを理解できるようにします。

◆**授業方法** 講義形式で行います。講義においては、行政に関する受講生の問題意識を高め、それに対する解決能力を啓発するように進めて行きます。講義で知り得た内容が如何なる意義を有するのか、それが個人や社会や国家にとってどのように関係してくるのかを客観的に理解しなければなりません。講義中に理解度チェックを行い、講義内容に関する受講生の理解度を高めて行きます。受講に際しては、予習及び復習が必要になります。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回	授業内容 講義全体の概要の説明 事前学修 テキストを熟読し、概要を理解すること。 事後学修 講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
2 回	授業内容 行政の概念 事前学修 テキストの第 1 章第 1 節を熟読すること。 事後学修 講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
3 回	授業内容 行政学の変遷 事前学修 テキストの第 1 章第 2 節を熟読すること。 事後学修 講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
4 回	授業内容 ロレンツ・フォン・シュタインの行政学 事前学修 テキストの第 1 章第 2 節を熟読すること。 事後学修 講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
5 回	授業内容 科学的管理法と行政学 事前学修 テキストの第 1 章第 3 節を熟読すること。 事後学修 講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
6 回	授業内容 政治と行政との関係 事前学修 テキストの第 1 章第 1 節を熟読すること。 事後学修 講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
7 回	授業内容 国家概念と国家機関 事前学修 テキストの第 2 章を熟読すること。 事後学修 講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
8 回	授業内容 国家成立の要素 事前学修 テキストの第 2 章を熟読すること。 事後学修 講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
9 回	授業内容 現代国家と行政 事前学修 テキストの第 2 章を熟読すること。 事後学修 講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
10 回	授業内容 行政機関—組織原則及び部門化 事前学修 テキストの第 4 章第 1 節から第 3 節までを熟読すること。 事後学修 講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
11 回	授業内容 行政機関—ラインとスタッフ 事前学修 テキストの第 4 章第 4 節を熟読すること。 事後学修 講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
12 回	授業内容 官僚制—概念及び特徴 事前学修 テキストの第 5 章第 1 節及び第 2 節を熟読すること。 事後学修 講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
13 回	授業内容 官僚制—発達の根拠 事前学修 テキストの第 5 章第 1 節及び第 4 節を熟読すること。 事後学修 講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
14 回	授業内容 公務員制 事前学修 テキストの第 5 章第 4 節を熟読すること。 事後学修 講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
15 回	授業内容 講義全体の総括 事前学修 学修した内容を再度確認すること。 事後学修 テキストの記述とノートの記述とを比較し、内容を理解すること。

◆**教科書** 教材『行政学 L30100』通信教育教材（教材コード 000084）

◆**参考書** 特になし

◆**成績評価基準** 試験 70%、平常点 30%、※試験同様、質問や理解度チェック等の平常点も重視しますので、受講に際しては欠席をしないように注意して下さい。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

【情報概論 A】

中村 典裕

◆**授業概要** 情報機器の基本的な活用能力は Computer Literacy と呼ばれるが、本講義では文字・文章処理、即ち「ワードプロセッシング」技術を学習する。具体的には Microsoft Word の使いこなしを習得する。またプレゼンテーションの基本技術である PowerPoint について学び、成果のミニ発表会も実施する。

◆**学修到達目標** 文書処理能力は知的活動の基礎である。最終的に次の内容を習得することを目標とする。

1. 情報機器による文書作成、編集能力を習得する。
2. 発信する情報の種類に応じた適切な表現手法を習得する。
3. 更に文書作成を通じた自己表現技術を習得する。

◆**授業方法** 本講義の中では、講義形式と演習の両方を行う。講義形式ではコンピュータの歴史、構造、コンピュータセキュリティ、情報倫理などについて学ぶ。演習ではコンピュータを実際に操作しながら、必要な技術の習得を目指す。ほぼ毎回課題を課し、提出する。

◆**履修条件** 昼間（前期）の情報概論Bとの積み重ね不可。

◆**授業計画 (各 90 分)**

1 回	授業内容：ガイダンス・情報通信技術 (ICT) の基礎 事前学修：日頃から情報通信技術 (ICT) に関わるテレビ報道や新聞記事などに興味や関心を持って接する態度を期待する。 事後学修：授業の内容をノートに整理する。また、自宅でも授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。
2 回	授業内容：コンピュータ発達の歴史 事前学修：授業 Web の内容を事前に閲覧し、授業内容への理解を深めておく。 事後学修：授業の内容をノートに整理する。また、自宅でも授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。
3 回	授業内容：キーボード入力とタイピング演習 事前学修：授業 Web の内容を事前に閲覧し、授業内容への理解を深めておく。 事後学修：授業の内容をノートに整理する。また、自宅でも授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。
4 回	授業内容：Microsoft Word の概要・ワードプロセッサとは何か 事前学修：授業 Web の内容を事前に閲覧し、授業内容への理解を深めておく。 事後学修：授業の内容をノートに整理する。また、自宅でも授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。
5 回	授業内容：Word 基礎 1、基本的な編集機能 事前学修：授業 Web の内容を事前に閲覧し、授業内容への理解を深めておく。 事後学修：授業の内容をノートに整理する。また、自宅でも授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。
6 回	授業内容：Word 基礎 2、文書の書式 事前学修：授業 Web の内容を事前に閲覧し、授業内容への理解を深めておく。 事後学修：授業の内容をノートに整理する。また、自宅でも授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。
7 回	授業内容：Word 基礎 3、表と図形の作成 事前学修：授業 Web の内容を事前に閲覧し、授業内容への理解を深めておく。 事後学修：授業の内容をノートに整理する。また、自宅でも授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。
8 回	授業内容：Word 活用 1、社内文書・社外文書 事前学修：授業 Web の内容を事前に閲覧し、授業内容への理解を深めておく。 事後学修：授業の内容をノートに整理する。また、自宅でも授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。
9 回	授業内容：Word 活用 2、表現力のある文書作成 事前学修：授業 Web の内容を事前に閲覧し、授業内容への理解を深めておく。 事後学修：授業の内容をノートに整理する。また、自宅でも授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。
10 回	授業内容：Word 活用 3、文章レイアウト 事前学修：授業 Web の内容を事前に閲覧し、授業内容への理解を深めておく。 事後学修：授業の内容をノートに整理する。また、自宅でも授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。
11 回	授業内容：Word 活用 4、索引、脚注、目次 事前学修：授業 Web の内容を事前に閲覧し、授業内容への理解を深めておく。 事後学修：授業の内容をノートに整理する。また、自宅でも授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。
12 回	授業内容：PowerPoint 入門 事前学修：授業 Web の内容を事前に閲覧し、授業内容への理解を深めておく。 事後学修：授業の内容をノートに整理する。また、自宅でも授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。
13 回	授業内容：PowerPoint 応用 事前学修：授業 Web の内容を事前に閲覧し、授業内容への理解を深めておく。 事後学修：授業の内容をノートに整理する。また、自宅でも授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。
14 回	授業内容：PowerPoint 実戦演習 (ミニ発表会) 事前学修：発表会に備えて、事前に準備をする。必要に応じて、グループ内の他の参加者との意見調整を行う。 事後学修：結果を再確認する。また、必要に応じて、グループ内の他の参加者との意見交換を行う。
15 回	授業内容：最終課題 事前学修：前回までの授業内容を確認し、最終課題に備える。 事後学修：最終課題の結果を整理し、結果について再確認する。

◆**教科書** [\[当日資料配布\]](#)

◆**参考書** 授業時に指示する。

◆**成績評価基準** 平常点 (20%)、平常課題 (30%)、最終課題レポート (50%)。毎回出席する事を前提として評価する。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔哲学 B〕

中澤 瞳

- ◆**授業概要** 本授業は、古代ギリシャの哲学者の思想を通して、古代西洋哲学についての一般的な知識を修得することを目的とする。なお授業の進行具合によっては、授業計画に記載した内容に若干の変更がある場合がある。その際は、随時授業中に指示する。
- ◆**学修到達目標** この授業の目標は、古代ギリシャの哲学者を代表する、ソクラテス、プラトン、アリストテレスの基本的な考え方を説明することができるようになることである。また、哲学者の考え方を理解し、自分ひとりでも考えることができるようになることも目標とする。授業計画の事後学修の個所に、授業内容に関連する参考文献を挙げておいて、自分ひとりで考える際には参照してほしい（なお、授業回の内容と参考文献が直接対応しているわけではない）。
- ◆**授業方法** 本授業は講義形式で行う。教科書を中心としながら、適宜プリントも使用して解説を行う。受講者は各自で事前に教科書を読んでおくこと。授業計画を目安にして読み、一度に教科書すべてを読まなくてもよい。場合によっては、授業中に教科書を参加者に読んでもらう場合もある。また、複数回の小レポート（授業内で記述し、提出する簡単なレポート）を行う。
- ◆**履修条件** 昼間（前期）の哲学Aとの積み重ね不可。
- ◆**授業計画**〔各90分〕

1回	授業内容	ガイダンス（授業の内容の概要の説明、最終日を行う授業内試験の説明）、哲学とはどのような学問なのかについての説明
	事前学修	教科書 pp. 3-13（プロローグ）に目を通す。また時間に余裕があれば、教科書 pp. 22-44（第1章いちばんさいしょの哲学者）にも目を通す。
	事後学修	他の人が哲学についてどのように説明しているか、関連する文献や記事を読み、哲学とはどのような学問かについて、自分なりの流れを作って説明できるようにする。
2回	授業内容	自然哲学について（自然哲学とはどのような背景のもと生まれたのか、自然哲学者たちにはどのような人たちがいるのか、どのようなことを考えていたのかを説明する。）
	事前学修	教科書 pp. 22-44（第1章いちばんさいしょの哲学者）に目を通す。
	事後学修	参考文献『ギリシア哲学者列伝』や『ソクラテス以前の哲学者』などを読み、自然哲学について説明できるようにする。
3回	授業内容	ソクラテスについて1（ソクラテス1,2を通じて、ソクラテスの思想の背景と、その内容を説明する。参考文献はソクラテス2にも対応する。）
	事前学修	教科書 pp. 46-97（第2章ソクラテスとは何者か）に目を通す。
	事後学修	参考文献『ソクラテス』、『ソフィストとは誰か』、『哲学の饗宴』、『ギリシア哲学入門』などを読み、ソフィストやソクラテスの人物像について説明できるようにする。
4回	授業内容	ソクラテスについて2（参考文献はソクラテス1にも対応する。）
	事前学修	教科書 pp. 46-97（第2章ソクラテスとは何者か）に目を通す。
	事後学修	参考文献『ソクラテスの弁明』や『クリトン』、『パイドン』、『ソクラテスの思い出』などを読み、ソクラテスの思想について説明できるようにする。
5回	授業内容	プラトンについて1（プラトン1~4を通じて、プラトンの思想の背景、プラトンの徳倫理、イデア論について説明する。参考文献はプラトン2,3,4にも対応する。）
	事前学修	教科書 pp. 100-184（第3章プラトンの思想的挑戦）に目を通す。
	事後学修	参考文献『プラトン』やプラトンの著作を読み、ソクラテスとの関係や、プラトンの思想の背景を説明できるようにする。
6回	授業内容	プラトンについて2（参考文献はプラトン1,3,4にも対応する。）
	事前学修	教科書 pp. 100-184（第3章プラトンの思想的挑戦）に目を通す。
	事後学修	参考文献『現代思想としてのギリシア哲学』やプラトンの著作を読み、プラトンの政治思想や徳倫理について説明できるようにする。
7回	授業内容	プラトンについて3（参考文献はプラトン1,2,4にも対応する。）
	事前学修	教科書 pp. 100-184（第3章プラトンの思想的挑戦）に目を通す。
	事後学修	参考文献『プラトンの哲学』やプラトンの著作を読み、プラトンの政治思想や徳倫理について説明できるようにする。
8回	授業内容	プラトンについて4（参考文献はプラトン1,2,3にも対応する。）
	事前学修	教科書 pp. 100-184（第3章プラトンの思想的挑戦）に目を通す。
	事後学修	参考文献『プラトン哲学への旅』、『プラトンを学ぶ人のために』やプラトンの著作を読み、プラトンのイデア論について説明できるようにする。
9回	授業内容	アリストテレスについて1（アリストテレス2~6を通じて、アリストテレスの思想の背景、自然学、倫理学について説明する。参考文献はアリストテレス2~6にも対応する。）
	事前学修	教科書 pp. 186-261（第4章アリストテレスの精密思考「新たに登場した哲学の三つの派」の前まで）にも目を通す。
	事後学修	参考文献『アリストテレス』やアリストテレスの著作を読み、アリストテレスの思想について調べる。
10回	授業内容	アリストテレスについて2（参考文献はアリストテレス1,3,4,5,6にも対応する。）
	事前学修	教科書 pp. 186-261（第4章アリストテレスの精密思考「新たに登場した哲学の三つの派」の前まで）にも目を通す。
	事後学修	参考文献『ヨーロッパ思想入門』やアリストテレスの著作を読み、アリストテレスの思想について調べる。
11回	授業内容	アリストテレスについて3（参考文献はアリストテレス1,2,4,5,6にも対応する。）
	事前学修	教科書 pp. 186-261（第4章アリストテレスの精密思考「新たに登場した哲学の三つの派」の前まで）にも目を通す。
	事後学修	参考文献『西洋哲学の10冊』やアリストテレスの著作を読み、アリストテレスの思想について調べる。
12回	授業内容	アリストテレスについて4（参考文献はアリストテレス1,2,3,5,6にも対応する。）
	事前学修	教科書 pp. 186-261（第4章アリストテレスの精密思考「新たに登場した哲学の三つの派」の前まで）にも目を通す。
	事後学修	参考文献『アリストテレス入門』やアリストテレスの著作を読み、アリストテレスの思想について調べる。
13回	授業内容	アリストテレスについて5（参考文献はアリストテレス1,2,3,4,6にも対応する。）
	事前学修	教科書 pp. 186-261（第4章アリストテレスの精密思考「新たに登場した哲学の三つの派」の前まで）にも目を通す。
	事後学修	参考文献『西洋哲学史』やアリストテレスの著作を読み、アリストテレスの思想について調べる。
14回	授業内容	アリストテレスについて6（参考文献はアリストテレス1,2,3,4,5にも対応する。）
	事前学修	教科書 pp. 186-261（第4章アリストテレスの精密思考「新たに登場した哲学の三つの派」の前まで）にも目を通す。
	事後学修	参考文献『アリストテレス倫理学入門』やアリストテレスの著作を読み、アリストテレスとプラトンの違いについて説明できるようにする。
15回	授業内容	まとめ・筆記試験（論述形式）
	事前学修	これまでの授業を振り返り、古代ギリシャの代表的な哲学者たちの考え方を整理する。
	事後学修	古代ギリシア哲学の概説書を通読し、それぞれの哲学者の要点を復習する。

- ◆**教科書** 丸沼『初級者のためのギリシア哲学の読み方・考え方』左近司祥子 大和書房 1997年
- ◆**参考書** なし
- ◆**成績評価基準** 授業への参加、貢献（20%）、小レポート（20%）、筆記試験（60%）により総合的に評価する。なお、評価を行う際には、毎回出席していることを前提とする。

注意 E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔英語 M〕 ★★★

岡田 善明

◆**授業概要** 「オーラル教授法により文法発話能力獲得」を指導する。水泳や車の運転も理論だけでなく、実際に行って身につく。言語学者クラッシュェンは文法能力を獲得 (acquisition) と学習 (learning) に分けていて、前者は音声的なインプットによる頭脳の言語習得機能によりなされ、後者の学習は理論として実際の発話が行われているかどうかのモニター機能として働くとしている。この授業では、前者の文法能力の獲得をオーラル展開の指導法で行い、コミュニケーション能力を育成する。特に近年の公立の英語教員採用試験においては、文法能力のオーラル展開の指導能力を模擬授業で試される場合が多く、英語教員をめざす学生には担当教員 (岡田善明) の神奈川県教育委員会の採用試験作問と面接官の経験から必要な指導を行う。一般の学生も岡田の英語検定面接委員の経験から、文法が実際にコミュニケーションで使えるように指導する。

◆**学習到達目標** 「楽天」を始め多くの企業で英語を会議などの公用言語にしている、JRを始め多くの鉄道会社でも車掌が日本語と英語を使いこなせねばならない時代となったが、英文法をあまり意識しないでも、正しくコミュニケーション活動で使え、更にライティング能力を向上させることができる。英語検定試験やTOEFLの二次面接試験、教員採用の英語面接試験や模擬授業において自由に発話で文法を正しく使いこなすことができるように指導する。英語教員希望者には実際に文法のオーラル指導法を教室で使えるようになる。とくに小学校の英語指導員をめざす学生は、理論での文法説明でなく、実際に生徒に使わせる指導が大切であるので、その能力を身に付ける。

◆**授業方法** 『英語教育の精神と実践』第五章「生きた英語能力の育成のために」と第六章「コミュニケーション活動」の項目を理論として、文法習得の簡素化を提唱する英語教育学者の Michael Swan の *Oxford English Grammar* 等の教材のコピーを使いながら、オーラル・メソッドやオーラル・アプローチにより、実際のコミュニケーションの状況設定で英文法が自由に使えるようにアクティヴ・ラーニングにより指導を行う。更に担当教員が随時作成する「和と輪」により、時事的な内容や、英語文化理解のための哲学的な内容の学習も行う。

◆授業計画 (各90分)

1回	授業内容 『英語教育の精神と実践』第五章により、生きた文法能力の育成方法を述べ、文法指導には「習得 (獲得) 体系」と「学習体系」があり、後者の文法を知っていることばかりでなく、「習得 (獲得) 体系」として使えるようになるには、どのような練習が必要かを述べる。 事前学習 テキスト『英語教育の精神と実践』第五章を予習しておく。 事後学習 生きた文法使用能力は実際にどのように育成するかをもう一度自ら考えて、これまでの自らの文法学習を反省し、今後どのような練習が必要かを考える。
2回	授業内容 『英語教育の精神と実践』p. 59の2. スピーキング指導の個々の音の指導により正しい発音を見につける。 事前学習 『英語教育の精神と実践』p. 59の2. スピーキング指導の個々の音の指導に関して予習する。 事後学習 『英語教育の精神と実践』p. 59の2. スピーキング指導の個々の音の発音の方法を復習し、実際に単語を発音し習得する。
3回	授業内容 配布資料『英文法が使えるためのアクティヴ・ラーニング集』の1課『現在形 (Present Tense)』により、現在形は今現在の内容よりは普通の真理や習慣で使うことを実際に活動練習で行う。 事前学習 配布資料『英文法が使えるためのアクティヴ・ラーニング集』の1課『現在形 (Present Tense)』の英文を理解し演習の部分で予習する。 事後学習 1課『現在形 (Present Tense)』により、実際に現在形は今現在の内容よりは普通の真理や習慣で使うことを復習し、授業で習った表現をよく音読したり暗唱して、文法を意識しなくても自由に使えるように練習する。
4回	授業内容 配布資料『英文法が使えるためのアクティヴ・ラーニング集』の2課『現在進行形 (Present Progressive)』により、実際に現在進行形は今現在の動作や未来に及ぶ活動の表現に使うことを実際に活動練習で行う。 事前学習 配布資料『英文法が使えるためのアクティヴ・ラーニング集』の2課『現在進行形 (Present Progressive)』の問題を予習する。 事後学習 2課『現在進行形 (Present Progressive)』により、現在進行形は今現在の動作や未来に及ぶ活動の表現に使うことを復習し、音読したり暗唱して実際に使えるように練習する。
5回	授業内容 配布資料『英文法が使えるためのアクティヴ・ラーニング集』の3課『現在完了形 (Present Perfect)』により、実際に現在完了形は時制が現在で、現在から見た過去の動作や状態を表現に使うことを実際に活動練習で行う。 事前学習 配布資料『英文法が使えるためのアクティヴ・ラーニング集』の3課『現在完了形 (Present Perfect)』の問題ができるように予習する。 事後学習 配布資料『英文法が使えるためのアクティヴ・ラーニング集』の3課『現在完了形 (Present Perfect)』により、実際に現在完了形は時制が現在で、現在から見た過去の動作や状態を表現に使うことを復習し、音読や暗唱して実際に使えるようにする。
6回	授業内容 配布資料『英文法が使えるためのアクティヴ・ラーニング集』の4課『過去完了形 (Past Perfect)』により、実際に過去完了形は過去のあるときから見たそれ以前の過去の動作や状態を表現に使うことを活動練習で行う。 事前学習 配布資料『英文法が使えるためのアクティヴ・ラーニング集』の4課『過去完了形 (Past Perfect)』を予習し、問題を予習する。 事後学習 配布資料『英文法が使えるためのアクティヴ・ラーニング集』の4課『過去完了形 (Past Perfect)』により、実際に過去完了形は時制が過去のあるときから見たそれ以前の過去の動作や状態を表現に使うことを復習し、音読や暗唱して実際に使えるようにする。
7回	授業内容 配布資料『英文法が使えるためのアクティヴ・ラーニング集』の5課『法助動詞 (Modal Verb)』により、高校までの学習の助動詞は実際の話者の主観性を示す用法が中心であるので、その点を踏まえ実際のコミュニケーションで使用する活動を行う。 事前学習 配布資料『英文法が使えるためのアクティヴ・ラーニング集』の5課『法助動詞 (Modal Verb)』の問題を予習する。 事後学習 配布資料『英文法が使えるためのアクティヴ・ラーニング集』の5課『法助動詞 (Modal Verb)』により、高校までの学習の助動詞は実際の話者の主観性を示す用法が中心であるので、その点を踏まえ用例を復習し音読や暗唱で習熟する。
8回	授業内容 配布資料『英文法が使えるためのアクティヴ・ラーニング集』の6課『不定詞 (Infinitive)』により、不定詞は原則的に未来へ動作が及ぶアスペクトがあることを理解し、実際にコミュニケーションで使用する活動を行う。 事前学習 配布資料『英文法が使えるためのアクティヴ・ラーニング集』の6課『不定詞 (Infinitive)』を予習し、授業での活動に備える。 事後学習 配布資料『英文法が使えるためのアクティヴ・ラーニング集』の6課『不定詞 (Infinitive)』により、to不定詞は原則的に未来へ動作が及ぶアスペクトがあることを復習し、授業で扱った例文を音読して暗唱しコミュニケーションで使用できるように復習する。
9回	授業内容 配布資料『英文法が使えるためのアクティヴ・ラーニング集』の7課『~ing forms』により、いわゆる動名詞と現在分詞である~ingはともに継続や進行のアスペクトがあることを理解し、実際にコミュニケーションで使用する活動を行う。 事前学習 配布資料『英文法が使えるためのアクティヴ・ラーニング集』の7課『~ing forms』を予習し、授業での活動に備える。 事後学習 配布資料『英文法が使えるためのアクティヴ・ラーニング集』の7課『~ing forms』により、いわゆる動名詞と現在分詞である~ingはともに継続や進行のアスペクトがあることを複数し実際にコミュニケーションで使用できるように、例文を音読し暗唱する。
10回	授業内容 配布資料『英文法が使えるためのアクティヴ・ラーニング集』の8課『不定詞と~ing forms』により、この二つの表現文法の違いを復習し、的確に区別し実際にコミュニケーションで使用する活動を行う。 事前学習 配布資料『英文法が使えるためのアクティヴ・ラーニング集』の8課『不定詞と~ing forms』を予習し授業の活動に備える。 事後学習 配布資料『英文法が使えるためのアクティヴ・ラーニング集』の8課『不定詞と~ing forms』により、この二つの表現文法の違いを復習し、的確に区別し実際にコミュニケーションで使用できるように、復習する。
11回	授業内容 配布資料『英文法が使えるためのアクティヴ・ラーニング集』の9課『動詞表現と前置詞』により、二重目的語をとる動詞や、動詞と前置詞・副詞の組み合わせによる表現に習熟し、実際にコミュニケーションで使用する活動を行う。 事前学習 配布資料『英文法が使えるためのアクティヴ・ラーニング集』の9課『動詞表現と前置詞』を予習し、問題ができるようにしておく。 事後学習 配布資料『英文法が使えるためのアクティヴ・ラーニング集』の9課『動詞表現と前置詞』により、二重目的語をとる動詞や、動詞と前置詞・副詞の組み合わせによる表現を復習し、実際にコミュニケーションで使用できるようにする。
12回	授業内容 配布資料『英文法が使えるためのアクティヴ・ラーニング集』の10課『関係詞』により、実際に関係詞による英文を自由に表現できるように練習する。 事前学習 配布資料『英文法が使えるためのアクティヴ・ラーニング集』の10課『関係詞』を予習し、問題ができるようにする。 事後学習 配布資料『英文法が使えるためのアクティヴ・ラーニング集』の10課『関係詞』により、実際に関係詞により文を復習し、自由に表現できるように復習する。
13回	授業内容 配布資料『英文法が使えるためのアクティヴ・ラーニング集』の11課『仮定法』により、実際に仮定法の英文を自由に表現できるように練習する。 事前学習 配布資料『英文法が使えるためのアクティヴ・ラーニング集』の11課『仮定法』を予習し、なぜ現在の事実と反する仮定は過去形を使うのかを考えておく。 事後学習 配布資料『英文法が使えるためのアクティヴ・ラーニング集』の11課『仮定法』により、実際に仮定法による英文を自由に表現できるように練習する。
14回	授業内容 総復習として、自由会話で的確に英文法が使いこなせるように活動を行う。 事前学習 配布資料『英文法が使えるためのアクティヴ・ラーニング集』を終復習する。 事後学習 配布資料『英文法が使えるためのアクティヴ・ラーニング集』を終復習し、授業で行った会話を試験で書けるようにしておく。
15回	授業内容 筆記試験を行い今後の学習について話す。 事前学習 配布資料『英文法が使えるためのアクティヴ・ラーニング集』を終復習し、授業で行った会話を試験で書けるようにしておく。 事後学習 配布資料『英文法が使えるためのアクティヴ・ラーニング集』を終復習し、今後の学習に役立てる。

◆**教科書** 〔五沼〕春風社『英語教育の精神と実践』(全国学校図書館選定図書) 丸沼で購入可

◆**参考書** 〔五沼〕Michael Swan *Oxford English Grammar Course Basic* 必要に応じて購入してください。

◆**成績評価基準** 試験 (70%)、発表 (20%)、コミュニケーション活動 (10%) により評価

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談 (連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔民法Ⅰ〕

根本 晋一

- ◆**授業概要** 民法総則の前半部分を学修する。具体的には、民法の意義、法源（存在形式）、沿革、指導原理、私権の社会性、私権の主体、私権の客体、意思表示と法律行為、代理、無効と取消し、条件と期限、期間、時効、のうち、私権の客体あたりまでを学修する。
- ◆**学修到達目標** 民法学における民法総則の位置づけ、民法総則の意義と体系、主要な論点を理解する。併せて、授業概要の箇所で示した専門用語を、具体例を用いて説明できるようになる。
- ◆**授業方法** 講義形式を採用する。法改正や新判例の追加などにより、シラバス（授業計画）どおりに進まないこともあり得る。板書を多用し、ノートを作らせ、勉強の仕方を教えるので、ノートをしっかりと録取すること。
- ◆**履修条件** 他の担当教員の民法Ⅰ、および根本の民法Ⅰ（後半）との積み重ねのみ可。なお、後半を先に履修し、前半を後に履修することも可。
- ◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容	GD, 民法の意義
	事前学修	必要なし
	事後学修	その日のうちの板書事項の読み込み
2回	授業内容	民法の基本原則
	事前学修	前回授業時の板書事項の再確認
	事後学修	その日のうちの板書事項の読み込み
3回	授業内容	私権の社会性
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
4回	授業内容	民法の法源
	事前学修	前回授業時の板書事項の再確認
	事後学修	その日のうちの板書事項の読み込み
5回	授業内容	法の沿革など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
6回	授業内容	権利能力の意義、自然人と法人など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
7回	授業内容	権利能力の始期、出生の概念、胎児の例外など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
8回	授業内容	権利能力の終期、死亡の概念、権利能力の終期と関わる制度
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
9回	授業内容	認定死亡、不在者財産管理と失踪宣告、同時死亡の推定など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
10回	授業内容	意思能力の意義
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
11回	授業内容	行為能力の意義
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
12回	授業内容	制限行為能力者制度
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
13回	授業内容	制限行為能力者の相手方の保護など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
14回	授業内容	私権の客体、物の概念、有体物とは
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
15回	授業内容	不動産と動産、主物と従物、元物と果実
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認

- ◆**教科書** 指定しない
- ◆**参考書** 教材『民法Ⅰ K20200』通信教育教材（教材コード000407）
- ◆**成績評価基準** 全回出席を前提として、筆記試験または当授業終了後に提出するレポートの評価点80%、授業態度や質疑応答20%。

注意 E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔国文学演習〕

近藤 健史

◆**授業概要** 演習のテーマは、中原中也の宮沢賢治の受容である。賢治は1933（昭和8）年に、東北の農村の恐慌の中で肺結核で37歳の若さで亡くなった。山口県で生まれた中也は、地方都市を転々として1937（昭和12）年30歳で結核のために亡くなった。中也は賢治を高く評価し、賢治の作品から影響を受けている。そこには、中也が賢治との間で芸術観を共有しようとしているように見える。受講生は、二人の作品を読み、その受容について調査・研究した成果を発表することになる。

◆**学修到達目標** 時代を共有する二人の詩人の作品を読むことにより、時代的背景との関わりや詩の読解力・読解方法などの基礎的知識を身につけ、詩人の芸術観について説明できることを目標とする。また、調査・研究・発表することで、ディスカッションでできるようになる。

◆**授業方法** 前半は、演習の基礎、宮沢賢治と中原中也の人と作品の概要について講義する。後半は、受講生各自による研究成果の口頭発表である。発表後は、全体討論・質疑応答をして理解を深める。

◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容：授業の進め方、演習の基礎などについて講義する。 事前学修：大学生のための学修指図書などで、演習について調べておくこと。 事後学修：演習について確認して、理解を深めること。
2回	授業内容：詩人中原中也について講義する。 事前学修：生涯について、入門書などで調べておくこと。 事後学修：事前学修と授業内容について確認して、理解を深めておくこと。
3回	授業内容：中原中也の作品・特徴などについて講義する。 事前学修：文学活動や代表作などについて調べていくこと。 事後学修：事前学修と授業内容について確認して、理解を深めておくこと。
4回	授業内容：童話作家・詩人宮沢賢治について講義する。 事前学修：生涯や文学活動について調べておくこと。 事後学修：事前学修と授業内容を確認して、理解を深めること。
5回	授業内容：宮沢賢治の作品・特徴などについて講義する。 事前学修：新潮文庫、岩波文庫、角川文庫などで代表的な詩を読んでおくこと。 事後学修：事前学修と授業内容を確認して、理解を深めること。
6回	授業内容：研究テーマの選定、調査や資料収集方法について講義する。 事前学修：テーマの案と構想を練っておくこと。 事後学修：テーマに関する資料や先行研究論文の収集など、準備に取り掛かること。
7回	授業内容：テーマについての報告（進捗状況）と意見交換 事前学修：報告のための構想や資料など、準備しておくこと。 事後学修：意見や指摘を踏まえて、発表の構成など再検討すること。
8回	授業内容：口頭発表と全体討論 事前学修：発表の構成を確認し、レジメ作成など準備しておくこと。 事後学修：発表内容や全体討論を検討して、理解を深めておくこと。
9回	授業内容：口頭発表と全体討論 事前学修：発表者は準備。他は、発表者のテーマに関して調べて全体討論に備えておくこと。 事後学修：発表内容や全体討論を検討して、理解を深めておくこと。
10回	授業内容：口頭発表と全体討論 事前学修：発表者は準備。他は、発表者のテーマに関して調べて全体討論に備えておくこと。 事後学修：発表内容や全体討論を検討して、理解を深めておくこと。
11回	授業内容：口頭発表と全体討論 事前学修：発表者は準備。他は、発表者のテーマに関して調べて全体討論に備えておくこと。 事後学修：発表内容や全体討論を検討して、理解を深めておくこと。
12回	授業内容：口頭発表と全体討論 事前学修：発表者は準備。他は、発表者のテーマに関して調べて全体討論に備えておくこと。 事後学修：発表内容や全体討論を検討して、理解を深めておくこと。
13回	授業内容：口頭発表と全体討論 事前学修：発表者は準備。他は、発表者のテーマに関して調べて全体討論に備えておくこと。 事後学修：発表内容や全体討論を検討して、理解を深めておくこと。
14回	授業内容：口頭発表と全体討論 事前学修：発表者は準備。他は、発表者のテーマに関して調べて全体討論に備えておくこと。 事後学修：発表内容や全体討論を検討して、理解を深めておくこと。
15回	授業内容：口頭発表と全体討論、まとめ、レポート提出 事前学修：発表者は準備。他は、発表者のテーマに関して調べて全体討論に備えておくこと。また、提出レポートの作成。 事後学修：まとめとしての講義を踏まえ、授業内容を再確認しておくこと。

◆**教科書** 宮沢賢治、中原中也の作品については、各自で作品を読むことを基本とする。また、必要に応じてプリントを用意する。

◆**参考書** 丸沼『中原中也 全詩集』KADOKAWA（角川ソフィア文庫）、2007年
丸沼『中原中也 新潮日本文学アルバム（30）』中原中也、新潮社、1985年
丸沼『宮沢賢治 新潮日本文学アルバム（12）』宮沢賢治、新潮社、1984年

◆**成績評価基準** 発表・全体討論60%、レポート40%

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔英語文学概説 / 英米文学概説 B〕

鈴木 ふさ子

◆**授業概要** イギリスにおいて近代小説の祖とされる Samuel Richardson から Horace Walpole, Ann Radcliffe らゴシック小説の作家を経て Jane Austen などイギリス小説を代表する作家、現代的な問題をほらんだ作品を書いた Mary Shelley にいたるまでを概観する。18 世紀、19 世紀前半の代表的な作家の生涯や作品の概要や作品のハイライトを抜粋して読み、小説の黄金期であるヴィクトリア時代を迎えるまでの小説の発展の過程を辿る。

◆**学修到達目標** イギリス小説の黎明期から近代小説の成立、ゴシック小説を経て写実主義や歴史小説などに発展していった過程について知り、説明できるようになる事を目的とする。代表的作家の生涯と作品について知識を身につけ、説明できるようになる事を目的とする。作品の内容について考察し、コメントを書くことで簡単な文学の批評ができるようになる事を目的とする。

◆**授業方法** テキストとプリント、映像を用いて 18 世紀、19 世紀前半の代表的な作家の生涯と作品の概要を紹介する。代表作の原文のハイライトを抜粋して読む。重要な作品は映像で作品を鑑賞する。作品についてコメントを書いてもらって提出してもらうこともある。原文を読むのに必要な英語の辞書は必ず持参するようにすること。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回	授業内容	ガイダンス、オリエンテーション、授業の進め方、講義内容に記載されている成績評価方法などの確認、イギリス文学のどの作品に興味があるのか。
	事前学修	自分が興味のあるイギリス文学を考えてくる。
	事後学修	自分が興味のあるイギリス文学を考えてくる。
2 回	授業内容	近代小説が誕生するまでのイギリス文学を概観する。
	事前学修	18 世紀以前のイギリス文学にはどのような作家がいるのか調べる。
	事後学修	近代小説が生まれる以前のイギリス文学について調べる。
3 回	授業内容	近代小説(1)イギリスの近代小説について解説。Samuel Richardson の Pamela について解説。テキストと英文を読む。
	事前学修	テキストの 56,57 頁を読み、Richardson, Pamela について調べておく。
	事後学修	授業時にとったノートを復習し、Pamela の原文を読んでみる。
4 回	授業内容	近代小説(2) Henry Fielding の Shamela, The History of Tom Jones, a Foundling について解説。テキストと英文を読む。
	事前学修	テキストの 58,59 頁を読み、Henry Fielding の The History of Tom Jones, a Foundling について調べる。
	事後学修	授業時にとったノートを復習し、Shamela と The History of Tom Jones, a Foundling の原文を読んでみる。
5 回	授業内容	近代小説(3) Laurence Sterne の The Life and Opinions of Tristram Shandy, Gentleman について解説。テキストと英文を読む。
	事前学修	テキストの 60,61 頁を読み、Laurence Sterne の The Life and Opinions of Tristram Shandy, Gentleman について調べる。
	事後学修	授業時にとったノートを復習し、Laurence Sterne の The Life and Opinions of Tristram Shandy, Gentleman の原文を読んでみる。
6 回	授業内容	ゴシック小説(1)ゴシック小説とは何かをピクチャレスクの問題と絡めて解説。Horace Walpole の The Castle of Otranto について解説。テキストと英文を読む。
	事前学修	テキストの 62,63 頁を読み、Horace Walpole の The Castle of Otranto について調べる。
	事後学修	授業時にとったノートを復習し、Horace Walpole の The Castle of Otranto の原文を読んでみる。
7 回	授業内容	ゴシック小説(2)大流行したゴシック小説 Ann Radcliffe の The Mysteries of Udolpho, The Italian について解説。英文を読む。
	事前学修	ゴシック小説と Ann Radcliffe について調べる。
	事後学修	授業時にとったノートを復習し、Ann Radcliffe の The Mysteries of Udolpho, The Italian の原文を読んでみる。
8 回	授業内容	ゴシック小説(3)その他の様々なゴシック小説を概観する。William Beckford の Vathek と Matthew Gregory Lewis の The Monk と Charles Robert Maturin の Melmoth, The Wanderer について解説。
	事前学修	テキストの 64,65, 70, 71, 88, 89 頁を読み、William Beckford の Vathek と Matthew Gregory Lewis の The Monk と Charles Robert Maturin の Melmoth, The Wanderer について調べる。
	事後学修	授業時にとったノートを復習し、ゴシック小説にはどのようなものがあるのかまとめる。
9 回	授業内容	ゴシック小説からの発展(1)歴史小説 (Sir Walter Scott) と写実主義の小説 (Jane Austen) の解説。Austen の Northanger Abbey を映像で鑑賞する。
	事前学修	テキストの 84,85 頁を読み、Walter Scott と Jane Austen について調べる。
	事後学修	授業時にとったノートを復習し、ゴシック小説がどのように発展していったかをまとめる。
10 回	授業内容	ゴシック小説からの発展(2) Jane Austen の生涯と作品を概観する。
	事前学修	Jane Austen の作品の内容や特徴を調べる。
	事後学修	授業時にとったノートを復習し、Jane Austen の生涯や作品の内容などをまとめる。
11 回	授業内容	ゴシック小説からの発展(3) Jane Austen の Pride and Prejudice の英文を読む。
	事前学修	テキストの 78, 79 頁を読み、Austen の Pride and Prejudice について調べる。
	事後学修	授業時にとったノートを復習し、Austen の Pride and Prejudice の原文を読んでみる。
12 回	授業内容	ゴシック小説からの発展(4) Jane Austen の Pride and Prejudice の映像を鑑賞する。
	事前学修	Austen の Pride and Prejudice の原文を読む。
	事後学修	Austen の Pride and Prejudice の原文と映像の相違について考える。
13 回	授業内容	ゴシック小説からの発展(5)現代的なテーマを孕むゴシック小説 Mary Shelley の Frankenstein の解説と英文を読む。
	事前学修	テキストの 82, 83 頁を読み、Mary Shelley の Frankenstein について調べる。
	事後学修	授業時にとったノートを復習し、Mary Shelley の Frankenstein の原文を読む。
14 回	授業内容	ゴシック小説からの発展(6)と前期の総まとめ Mary Shelley の Frankenstein から生まれた映像を紹介する。前期に学んだことの総復習。試験について。
	事前学修	これまで学んだことを復習しておく。
	事後学修	Mary Shelley の Frankenstein と現代のつながりを考える。前期の総復習をする。
15 回	授業内容	試験とその解説を行う。
	事前学修	前期に学んだこと、読んだ英文を復習する。
	事後学修	試験でできなかったところを確認し、できなかった部分を復習する。

◆**教科書** 丸沼『たのしく読めるイギリス文学』（ミネルヴァ書房）

◆**参考書** 丸沼『英語文学事典』（ミネルヴァ書房）
丸沼 The Oxford Literary Terms (Oxford Quick Reference)
※参考文献は自習用であり、授業では使用しません。

◆**成績評価基準** コメントシート（30%）、試験（70%）
授業には毎回出席することを前提として評価を行います。

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

【情報概論 B】 オープン受講：不可

荒関 仁志

◆授業概要 下記の項目について実習を進めていきます。

- 1) 文書作成
- 2) 表計算ソフトと統計処理
- 3) プレゼンテーション技術の基礎
- 4) インターネットとWWWの構造
- 5) インターネットとセキュリティ

◆学修到達目標 表計算ソフト、文書作成ソフト、プレゼンテーションソフト、インターネットの利用を通じて、コンピュータによる問題解決の方法の基礎を理解し、情報技術の基本的知識の説明をすることができる。また、昨今問題視されているネットワークセキュリティの理解の理解も目指す。

◆授業方法 基本的にはコンピュータを用いて実習しますが、表計算ソフトの必要な知識については必要に応じて講義形式で学習します。また、教科書にない資料などは授業で配布します。

◆履修条件 文書作成ソフト (Word)、表計算ソフト (Excel)、プレゼンテーションソフト (PowerPoint)、テキストエディタ (メモ帳) の基本的な使い方を理解していること、さらに、メールで課題提出を行うので Nu-Mail が使えることが望ましい。2019 年度昼間スクーリング「情報概論」の前期、もしくは後期のみ受講も可能ですが、学修効果をあげるため、前期・後期の連続受講が望ましい。2019 年度夏期スクーリング「情報概論」、昼間S (前期)「情報概論A」との積み重ね不可。

◆授業計画 (各 90 分)

1 回	授業内容：文書作成ソフト (MSワード) の基本操作の習得を目指します。 事前学修：文書作成ソフトの基本 (文字入力、ファイル操作等) について確認しておくこと。 事後学修：配布資料に基づき文書作成ソフトの基本操作について理解すること。
2 回	授業内容：文書作成ソフトでのヘッダー/フッター設定、目次作成、参考文献作成の習得を目指します。 事前学修：文書作成ソフトのヘッダー/フッター設定、目次作成、参考文献作成などを確認しておくこと。 事後学修：配布資料に基づき文書作成ソフトのヘッダー/フッター設定、目次作成、参考文献作成操作について理解すること。
3 回	授業内容：表計算ソフトの基本操作の習得を目指します。 事前学修：表計算ソフトの基本 (相対参照・絶対参照) について確認しておくこと。 事後学修：配布資料に基づき相対参照・絶対参照について理解すること。
4 回	授業内容：表計算ソフトによるグラフの作成方法の習得を目指します。 事前学修：縦棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフの作成について理解しておくこと。 事後学修：配布資料に基づき各グラフの作成方法、ならびに用法について理解すること。
5 回	授業内容：表計算ソフトと文章作成ソフトによるレポート作成方法の習得を目指します。 事前学修：文書作成ソフトの基本 (文字入力やファイル操作) について再確認しておくこと。 事後学修：配布資料に基づきレポート作成方法について理解すること。
6 回	授業内容：表計算ソフトの基本関数の習得を目指します。 事前学修：表計算ソフトの基本関数 (平均、合計、順位等) について確認しておくこと。 事後学修：配布資料に基づき度数分布表・ヒストグラムの作成方法を理解すること。
7 回	授業内容：表計算ソフトによる度数分布表・ヒストグラムの作成の習得を目指します。 事前学修：度数分布表とヒストグラムについて理解しておくこと。 事後学修：配布資料に基づき度数分布表・ヒストグラムの作成方法を理解すること。
8 回	授業内容：表計算ソフトを用いて定義式に基づいた基本統計量 (平均、合計、分散、標準偏差) の計算方法の習得を目指します。 事前学修：平均、合計、分散、標準偏差などの基本統計量の定義式を理解しておくこと。 事後学修：配布資料に基づき基本統計量の計算方法を理解すること。
9 回	授業内容：表計算ソフトを用いて散布図の作成方法、ならびに定義式に基づいた相関係数の計算方法を習得します。 事前学修：散布図や相関係数について確認しておくこと。 事後学修：配布資料に基づき散布図の作成方法と定義式に基づいた相関係数の計算方法について理解すること。
10 回	授業内容：プレゼンテーションソフトの基本的操作の習得を目指します。 事前学修：プレゼンテーションソフトの基本について確認しておくこと。 事後学修：配布資料に基づきプレゼンテーションソフトの基本操作について理解すること。
11 回	授業内容：プレゼンテーションソフトを用いた発表資料の作成を行います。 事前学修：発表する時事問題を特定し、参考文献や論文、または Web を調べてくること。 事後学修：プレゼンテーションソフトを用いた発表資料の作成について理解すること。
12 回	授業内容：WWW (World Wide Web) ページの基本構造を理解する。 事前学修：HTML の基本文法について確認しておくこと。 事後学修：配布資料に基づき HTML の基本文法について理解すること。
13 回	授業内容：WWW (World Wide Web) ページの基本構造である HTML の基本文法を理解する。 事前学修：HTML の基本文法について確認しておくこと。 事後学修：配布資料に基づき HTML の基本文法について理解すること。
14 回	授業内容：インターネット上の様々なアプリケーションについて理解すると共に、セキュリティについて理解する。 事前学修：様々な SNS について調査する。また、その SNS 上の問題点を確認しておく。 事後学修：配布資料に基づきインターネットのセキュリティ問題の理解と対策を習得する。
15 回	授業内容：確認試験、および解説 事前学修：前回の授業内で指摘した基本的な事柄について確認しておくこと。 事後学修：授業内容を確認・理解し、表計算ソフトの活用法について再確認すること。

◆教科書 (当日資料配布)

◆参考書 丸沼『最新情報処理概論 改訂版』安藤 明之 実教出版；改訂版 2014 年

◆成績評価基準 授業参加度 (30%)、平常課題 (50%)、授業内試験 (20%) により総合的に評価します。 ※演習形式の授業なので、毎回出席することを前提に評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔法学 B〕

根本 晋一

- ◆**授業概要** 法（灑）の概念，四大法圏と日本法の沿革，法と法則，法と道徳，法と正義，法と強制，法源（法の存在形式），法令の形式的効力（国法秩序），効力同位の場合の処理 所管事項，後法優位，特別法優位，法の種類，公法と私法など，法解釈の手法（文理，反対，類推，拡張，縮小），法的三段論法などについて学修する。
- ◆**学修到達目標** 法（灑）や法律（法学や法律学）の意義，沿革，機能，主要な法令の種類や内容がわかるようになる。併せて，社会生活において必然的に生起する諸問題の解決策を，法律を通して考えられるようになる。
- ◆**授業方法** 講義形式を採用する。法改正や新判例の追加などにより，シラバス（授業計画）どおりに進まないこともあり得る。板書を多用し，ノートを作らせ，勉強の仕方を教えるので，ノートをしっかりと録取すること。
- ◆**履修条件** 他の担当教員の法学，および根本の法学・後半との積み重ねのみ可。なお，後半を先に履修し，前半を後に履修することも可。
- ◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容	GD, 法（灑）という文言，その意味や由来 など
	事前学修	必要なし
	事後学修	その日のうちの板書事項の読み込み
2回	授業内容	ヨーロッパ大陸法圏，英米法圏，イスラム法圏，中国法圏，日本法の沿革 など
	事前学修	前回授業時の板書事項の再確認
	事後学修	その日のうちの板書事項の読み込み
3回	授業内容	法と法則，社会規範としての法と道徳の異同 など
	事前学修	前回授業時の板書事項の再確認
	事後学修	その日のうちの板書事項の読み込み
4回	授業内容	法と正義，自然法，法実証主義，法と強制 など
	事前学修	前回授業時の板書事項の再確認
	事後学修	その日のうちの板書事項の読み込み
5回	授業内容	法の存在形式（法源），制定法，制定法の意義，制定法の種類 など
	事前学修	前回授業時の板書事項の再確認
	事後学修	その日のうちの板書事項の読み込み
6回	授業内容	法令の形式的効力（国法秩序） など
	事前学修	前回授業時の板書事項の再確認
	事後学修	その日のうちの板書事項の読み込み
7回	授業内容	憲法，法律，規則，命令，条例 など
	事前学修	前回授業時の板書事項の再確認
	事後学修	その日のうちの板書事項の読み込み
8回	授業内容	同位の場合における相互関係，所管事項や法形式の相違による区別 など
	事前学修	前回授業時の板書事項の再確認
	事後学修	その日のうちの板書事項の読み込み
9回	授業内容	後法優位の原則，特別法優位の原則 など
	事前学修	前回授業時の板書事項の再確認
	事後学修	その日のうちの板書事項の読み込み
10回	授業内容	法の種類，抵触法と実質法，国際私法，抵触法，公法と私法 など
	事前学修	前回授業時の板書事項の再確認
	事後学修	その日のうちの板書事項の読み込み
11回	授業内容	公法私法峻別論，市民法，私法領域の形成，私有財産制，実体法と手続法 など
	事前学修	前回授業時の板書事項の再確認
	事後学修	その日のうちの板書事項の読み込み
12回	授業内容	民事法と刑事法，国内法と国際法 など
	事前学修	前回授業時の板書事項の再確認
	事後学修	その日のうちの板書事項の読み込み
13回	授業内容	法律解釈の手法，文理，反対，類推，拡張，縮小の各解釈方法 など
	事前学修	前回授業時の板書事項の再確認
	事後学修	その日のうちの板書事項の読み込み
14回	授業内容	法の適用，法的三段論法，哲学・倫理学における三段論法との違い など
	事前学修	前回授業時の板書事項の再確認
	事後学修	その日のうちの板書事項の読み込み
15回	授業内容	法的三段論法の具体的な適用例，交通事故，医療過誤 など
	事前学修	前回授業時の板書事項の再確認
	事後学修	その日のうちの板書事項の読み込み

- ◆**教科書** 指定しない。
- ◆**参考書** **教材**『法学（日本国憲法2単位を含む）B11500』通信教育教材（教材コード000515）
- ◆**成績評価基準** 全回出席を前提として，筆記試験または当授業終了後に提出するレポートの評価点80%，授業態度や質疑応答20%。

注意 E-mailを送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔英語基礎 B〕

中村 則子

◆**授業概要** この科目では忘れかけている英語の基礎文法を詳しく丁寧に学び直すことで英文の読解力を身につけていく。英語の基礎力を養うためには、演習問題を繰り返し説くことで、英文の構造を理解することが肝要である。当該科目では、英語文法の基礎的な問題を根気強く解答していく。

◆**学修到達目標** 英語の基礎的な文法を理解できるようにする。テキストの演習問題の中にある長文問題程度の英文であれば、読めるようにする。簡単な短文の英語であれば、ジャーナル等が書けるくらいの英語力を身につける。

◆**授業方法** テキストに沿って、解説を読み、演習問題を行うことで、英語の文法の基礎を習得する。まず CD で音声を確認し、英文を音読してから、その内容や演習問題の解答を発表してもらう。進み具合により、シラバス通りにならない場合もあることをおことわりしておく。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回	授業内容: ガイダンス (授業の進め方や参考書等を説明する) 事前学修: シラバスを読み、できる限り初回からテキストを入手して内容を見ておく。 事後学修: シラバスで指示されたとおり、次回の授業に向けて準備する。
2 回	授業内容: Unit 1 be 動詞 事前学修: 上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。 事後学修: 授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
3 回	授業内容: Unit 1 be 動詞 事前学修: 上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。 事後学修: 授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
4 回	授業内容: Unit 2 一般動詞 (現在) 事前学修: 上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。 事後学修: 授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
5 回	授業内容: Unit 2 一般動詞 (現在) 事前学修: 上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。 事後学修: 授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
6 回	授業内容: Unit 3 一般動詞 (過去) 事前学修: 上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。 事後学修: 授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
7 回	授業内容: Unit 3 一般動詞 (過去) 事前学修: 上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。 事後学修: 授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
8 回	授業内容: Unit 4 進行形 事前学修: 上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。 事後学修: 授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
9 回	授業内容: Unit 4 進行形 事前学修: 上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。 事後学修: 授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
10 回	授業内容: Unit 5 未来形 事前学修: 上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。 事後学修: 授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
11 回	授業内容: Unit 5 未来形 事前学修: 上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。 事後学修: 授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
12 回	授業内容: Unit 6 助動詞 事前学修: 上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。 事後学修: 授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
13 回	授業内容: Unit 6 助動詞 事前学修: 上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。 事後学修: 授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
14 回	授業内容: 復習, 試験前準備 事前学修: 今まで学習した部分のノートを整理し、質問事項等があればまとめておく。 事後学修: 学習した部分のノートを確認暗記する。
15 回	授業内容: 試験と解説 事前学修: 試験範囲の演習問題等を確認し、解答できるようにする。 事後学修: 試験において記述した内容がどの程度適切であったかどうか、確認する。

◆**教科書** 丸沼 English Primer (Revised Edition) 南雲堂

◆**参考書** 授業ガイダンスにて指示

◆**成績評価基準** 発表を含めた授業への取り組み、試験による総合評価。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔英語史〕

真野 一雄

- ◆**授業概要** 英語の外史史、すなわち英語と英国社会との関わり、英国の歴史が英語にどのような影響を与えたか、そして英語がどう変化していったかをテキスト（英文）を読みながら概観します。
- ◆**学修到達目標** 英文の読解力を高めるとともに、英語がどのような発達・変化を遂げて今日の姿になったか、歴史的な流れの基礎的な知識を修得する。過去の歴史を振り返り、英語の未来の姿を想像してみましょう。
- ◆**授業方法** テキスト第 I 章「英語の発達」を、『学習指導書』を併用しながら、読みます。テキストは私達にとって必要な箇所を重点的に読みます。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	インド・ヨーロッパ語族(1) 序
	事前学修	語彙の類似性、借用語とは何か、調べておく。
	事後学修	テキストの重要部分を確認し、理解しておく。
2 回	授業内容	インド・ヨーロッパ語族(2) 起源、時期
	事前学修	インド・ヨーロッパ語族はいつ頃、どの辺りで生じた言語か、考えてくる。
	事後学修	テキストの重要部分を確認し、理解しておく。
3 回	授業内容	インド・ヨーロッパ語族(3) 分類
	事前学修	どんな言語がインド・ヨーロッパ語族に属するか、考えてくる。
	事後学修	テキストの重要部分を確認し、理解しておく。
4 回	授業内容	ゲルマン語派(1) 特徴
	事前学修	インド・ヨーロッパ語族からのゲルマン語派の分岐を考えてみる。
	事後学修	テキストの重要部分を確認し、理解しておく。
5 回	授業内容	ゲルマン語派(2) 分類
	事前学修	どんな言語がゲルマン語派に属するか、考えてくる
	事後学修	テキストの重要部分を確認し、理解しておく。
6 回	授業内容	古英語(1) 英語の始まり、時代区分
	事前学修	英語はいつ生じたのか、考えてくる。
	事後学修	テキストの重要部分を確認し、理解しておく。
7 回	授業内容	古英語(2) 実例
	事前学修	古英語が今日の英語といかに異なるか、感じてみる。
	事後学修	テキストの重要部分を確認し、理解しておく。
8 回	授業内容	古英語(3) 特徴
	事前学修	英語と今日の英語との違いを考えてみる。
	事後学修	テキストの重要部分を確認し、理解しておく。
9 回	授業内容	中英語(1) フランス語の影響
	事前学修	ノルマン人の征服とは何か、調べてみる。
	事後学修	テキストの重要部分を確認し、理解しておく。
10 回	授業内容	中英語(2) 英語の復活
	事前学修	英語の復活とはどういうことか、考えてみる。
	事後学修	テキストの重要部分を確認し、理解しておく。
11 回	授業内容	中英語(3) 特徴
	事前学修	古英語と中英語、中英語と今日の英語との違いを考えてみる。
	事後学修	テキストの重要部分を確認し、理解しておく。
12 回	授業内容	近代英語(1) 印刷術、ルネサンス
	事前学修	印刷術、ルネサンスは英語にどのような影響を与えたか、考えてみる。
	事後学修	テキストの重要部分を確認し、理解しておく。
13 回	授業内容	近代英語(2) 大母音推移、標準英語の成立
	事前学修	大母音推移とは何か、考えてみる。
	事後学修	テキストの重要部分を確認し、理解しておく。
14 回	授業内容	近代英語(3) 近代の借用語
	事前学修	近代の借用語の特徴とは、何か考えてみる。
	事後学修	テキストの重要部分を確認し、理解しておく。
15 回	授業内容	試験とその解説
	事前学修	今までの授業の総復習をする。
	事後学修	特に試験問題で間違えたところを確認する。

- ◆**教科書** 教材『英語史 N30300』通信教育部教材（教材コード 0001117）
- ◆**参考書** 丸沼『英語の歴史—過去から未来への物語』寺澤 盾著 中公新書 1971
丸沼『英語の歴史』中尾俊夫著 講談社現代新書 958
他の参考書については、初回授業時に紹介
（※自修用で授業中に参照することはありません。）
- ◆**成績評価基準** 試験を中心に受講状況その他を加味して評価の予定。6 回以上の欠席者は受験資格を失います。（試験は途中退出なしです）

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔史学概論 B〕

高綱 博文

- ◆**授業概要** 歴史学という学問の性格及び目的を明らかにし、また歴史学の歴史(史学史)を講述する。それらを通して激動する現代世界に対応するために現在進行しつつある歴史学の革新について学び、「新しい歴史学」のあり方について考える。
- ◆**学修到達目標** 歴史学という学問の性格及び目的を体系的に理解し、また歴史学を学んでいく上で必要な史学史的な知識を学修する。
- ◆**授業方法** 歴史学の目的・成立及び展開について論述し、授業中に配布した資料を解説しながら行う。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容：歴史とは何か(ガイダンス) 事前学修：参考書『歴史学ってなんだ?』を読んでくること。 事後学修：授業内容の要点を確認しておくこと。
2 回	授業内容：「歴史」という言葉 事前学修：「歴史」という言葉を調べておくこと 事後学修：授業内容の要点を確認しておくこと
3 回	授業内容：歴史学とは何か①(歴史学の約束ごと) 事前学修：配布資料を予め学修しておくこと。 事後学修：授業内容の要点を確認しておくこと。
4 回	授業内容：歴史学とは何か②(歴史学は科学か) 事前学修：配布資料を予め学修しておくこと。 事後学修：授業内容の要点を確認しておくこと。
5 回	授業内容：歴史学とは何か③(歴史学と目的と効用) 事前学修：配布資料を予め学修しておくこと。 事後学修：授業内容の要点を確認しておくこと。
6 回	授業内容：歴史学とは何か④(歴史認識について) 事前学修：配布資料を予め学修しておくこと。 事後学修：授業内容の要点を確認しておくこと。
7 回	授業内容：近代歴史学の成立①(ルネサンス期の歴史意識) 事前学修：配布資料を予め学修しておくこと。 事後学修：授業内容の要点を確認しておくこと。
8 回	授業内容：近代歴史学の成立②(啓蒙の歴史学) 事前学修：配布資料を予め学修しておくこと。 事後学修：授業内容の要点を確認しておくこと。
9 回	授業内容：近代歴史学の成立④(ランケ史学の誕生) 事前学修：配布資料を予め学修しておくこと。 事後学修：授業内容の要点を確認しておくこと。
10 回	授業内容：近代歴史学の成立⑤(マルクス主義歴史学) 事前学修：配布資料を予め学修しておくこと。 事後学修：授業内容の要点を確認しておくこと。
11 回	授業内容：近代歴史学の成立⑥(歴史学から社会学へ) 事前学修：配布資料を予め学修しておくこと。 事後学修：授業内容の要点を確認しておくこと。
12 回	授業内容：現代歴史学の展開①(アナール学派・社会史研究の登場) 事前学修：配布資料を予め学修しておくこと。 事後学修：授業内容の要点を確認しておくこと。
13 回	授業内容：現代歴史学の展開②(ナショナル・ヒストリーを超えて) 事前学修：配布資料を予め学修しておくこと。 事後学修：授業内容の要点を確認しておくこと。
14 回	授業内容：戦後日本の歴史学について考える。 事前学修：配布資料を予め学修しておくこと。 事後学修：授業内容の要点を確認しておくこと。
15 回	授業内容：まとめ、試験 事前学修：授業内容の要点を確認し、試験準備をしておくこと。 事後学修：歴史学とは何かを確認しておくこと。

- ◆**教科書** 教材『史学概論 Q30100』通信教育教材(教材コード 000574)
〈この教材は市販の『歴史学ってなんだ?』小田中直樹著(PHP 研究所)と同一です。〉
- ◆**参考書** 丸沼『史学概論』遅塚忠躬、東京大学出版会、2010 年
- ◆**成績評価基準** 試験(70%)、レポート(30%)。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔現代教職論〕 オープン受講：不可

古賀 徹

◆**授業概要** 「理想とする教師像」とはどのようなものか。本授業では、教職の意義、教員の資質、および教員の役割、教員の職務内容等に関する理解を深めることをねらいとしている。特に現代の教育の現実的問題に焦点をあてて考えていくことにより、受講者が教職への意識を高めていくようにしていきたい。

◆**学修到達目標** 次の事項について理解を深め、教員としての意識を高めることができる。さらに教育者としての責務を認識し、ふさわしい行動をとることができるようになる。①教職の意義とは何か。②教員に必要とされる資質・能力とは何か。③学校教育という独特の社会における意義や教員の同僚性について。④教員の職務や身分上の問題について。⑤生徒の成長・発達差の理解。【以上を、歴史的、国際的、および現代の課題という点から作成した教材により考え、理解を深める】学修者は、以上の学びにより教員に必要とされる資質・技能が何であるかを考え深め、それを自身の課題としてとらえ、他者に説明することができるようになる。

◆**授業方法** 講義形式を中心とするが、アクティブ・ラーニング型の授業方式もとり入れる。アクティブ・ラーニング形式は、個人の活動からペア学習、3人組み、4人組みと、授業回数毎に複雑さを増すようにし、取り扱う課題についても具体的で簡易なものから複雑で抽象的なものへと組み替えていく。それにより「教員集団としての考え方」という最終目標に近づいていけるように講義全体をデザインしていく。活動・学習ごとにワークシート（ミニレポート）を書くこととそのフィードバック（次の回）により、さらに学習効果があがるよう試みる。事後学修では説明文を中心に人前で話すための文章作成に取り組んでもらう。その説明文をもとに最終回で仮想集団面接のような発信の機会をつくる。

◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容 教職を履修する意味（学習指導・生活指導）。 事前学修 自身が目指す「教職」についてのイメージを手元に「複数」書き出しておくこと。 事後学修 「学校の存在意義」（教科指導・生活指導）について説明文を（短い論述で）まとめる。
2回	授業内容 教育における「他者理解能力」とは何か。 事前学修 「わかる」（理解する）とはどのようなことか。その説明概念を（複数）考えておく。 事後学修 学校でのコミュニケーションの意味や意義について（短い論述で）まとめる。
3回	授業内容 教員の一日の流れ。教員の成長を研修の記録から学ぶ。 事前学修 教員と生徒との関係性に関するイメージを手元に「複数」書き出しておく。 事後学修 生徒の成長に介在する教員の役割の重要性について、説明文を書く。
4回	授業内容 理想の教師に関するディスカッション。 事前学修 教員に必要な資質と能力について「複数」書き出しておく。 事後学修 他者の意見交換から学べたこととアクティブ・ラーニングの学習効果についてまとめる。
5回	授業内容 チーム学校（アクティブ・ラーニング形式の学習方法）。 事前学修 チーム学校に関する文部大臣の文書等（資料）を読み、必要とされる理由を理解する。 事後学修 学校という多様な教員と多様な生徒の集団（社会）での活動可能性について考える。
6回	授業内容 最近の子ども事情（青少年の問題行動）。 事前学修 近年における児童生徒の問題行動に関する記事を読み、イメージをまとめておく。 事後学修 青少年と「ストレス」の問題について、短い論述をまとめるトレーニングをする。
7回	授業内容 最近の子ども事情（いじめ問題に注目する）。 事前学修 「いじめ」事件や対応のアクションプラン、法制度について記事を集めて読む。 事後学修 「いじめ」への教員の立ち位置（自身の考え）をスピーチ原稿としてまとめる。
8回	授業内容 最近の子ども事情（不登校児童への対応と理解の方法）。 事前学修 「不登校」に関する記事等を読み、イメージをまとめておく。 事後学修 「不登校」と「いじめ」問題を比較して、学校内外の社会事情も活かした対応を考案する。
9回	授業内容 最近の子ども事情に関する総括的ロールプレイ。 事前学修 グループで検討する前提として、事前に告知する内容について調査を行う。 事後学修 青少年の問題行動に対応する教員の立ち位置について、短い文での表現を工夫する。
10回	授業内容 教師観・教員養成の歴史の変遷（近代以降の教育）。 事前学修 教員養成の歴史に関する文献や概説書を読んでおく。 事後学修 教育発展の歴史について「教員」の視点からまとめる文章を記す。
11回	授業内容 諸外国の教員養成の仕組み。 事前学修 日本以外の国の「教育（学校）」についてイメージをまとめるメモを用意する。 事後学修 欧米の教育との違いや共通点について短い文で論述できるようにする。
12回	授業内容 法令・法制度上における教員。 事前学修 各種文献に載っている複数の「法令」類を一読しておく。 事後学修 教育基本法の改正前後の教育改革の流れについてまとめる文章を書く。
13回	授業内容 現職教員の研修（向上する教員が求められる現代社会）。 事前学修 各種審議会の答申や審議事項を（指定するので）読んでメモを作成する。 事後学修 「教員に求められる資質・能力」の法令分上における変化についてまとめる。
14回	授業内容 教育実習において求められる教員像（教員社会に求められる教員）。 事前学修 各々の教科ごとの授業イメージをメモとしてまとめておく。 事後学修 教育実習での実践事例をもとに「不安と期待」に関する論述をまとめる。
15回	授業内容 教育現場で求められる資質・技能とは何か。 事前学修 これまでの課題を見直し、それぞれ1分間で話せるレベルでの要約を準備する。 事後学修 学修した内容を自身で整理する。

◆**教科書** 〔当日資料配布〕

◆**参考書** 〔教材〕『現代教職論 T10100』通信教育教材（教材コード000541）

◆**成績評価基準** この授業の評価は、授業への参加（グループ学習含む）、提出物・課題、試験成績の総合的評価とする。出席状況の悪いもの、課題未提出の場合は評価を行わない。

注意 E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔歴史学 B〕

渡邊 浩史

- ◆**授業概要** スタジオジブリのアニメ作品『千と千尋の神隠し』を題材として日本の歴史を学ぶ。宮崎駿監督の作品である『千と千尋の神隠し』は、日本だけでなく広く世界に受け入れられた。それはある意味不思議な国日本の不思議な話であるからという側面は否定出来ない。しかしそこに日本の歴史の特色が現されているのではないだろうか。そこでこの作品を手がかりにして、いくつかのテーマに沿って日本の歴史について考えてみたい。
- ◆**学修到達目標** 『千と千尋の神隠し』には歴史学だけでなく、多くの周辺諸分野の成果が反映されていると言われている。そこでこの作品を通して歴史学や周辺諸分野の最新の成果を学び、その結果として歴史学という学問は何かを理解できるようになる。
- ◆**授業方法** 授業は講義形式で行う。適宜プリントやDVDなどを使用し、受講生の理解の一助とする。なおシラバスはあくまで予定であり、最新の研究成果を反映させるなどの場合は変更する可能性もある。
- ◆**履修条件** 昼間スクーリング(前期)「歴史学A」との積み重ね不可。
- ◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容：はじめに 事前学修：『もののけ姫』を見ていることが望ましい 事後学修：授業内容を自分でまとめること
2回	授業内容：あの世への入口 トンネル以前 事前学修：授業中に指示した参考文献に目を通しておくこと 事後学修：授業内容を自分でまとめること
3回	授業内容：あの世への入口 トンネル 事前学修：授業中に指示した参考文献に目を通しておくこと 事後学修：授業内容を自分でまとめること
4回	授業内容：不思議な町 事前学修：授業中に指示した参考文献に目を通しておくこと 事後学修：授業内容を自分でまとめること
5回	授業内容：油屋の謎 事前学修：授業中に指示した参考文献に目を通しておくこと 事後学修：授業内容を自分でまとめること
6回	授業内容：神々が疲れを癒やす 事前学修：授業中に指示した参考文献に目を通しておくこと 事後学修：授業内容を自分でまとめること
7回	授業内容：沼の底 六つ目の駅 事前学修：授業中に指示した参考文献に目を通しておくこと 事後学修：授業内容を自分でまとめること
8回	授業内容：六道 事前学修：授業中に指示した参考文献に目を通しておくこと 事後学修：授業内容を自分でまとめること
9回	授業内容：六道輪廻 事前学修：授業中に指示した参考文献に目を通しておくこと 事後学修：授業内容を自分でまとめること
10回	授業内容：酒呑童子と竜宮 事前学修：授業中に指示した参考文献に目を通しておくこと 事後学修：授業内容を自分でまとめること
11回	授業内容：頼光の四天王 事前学修：授業中に指示した参考文献に目を通しておくこと 事後学修：授業内容を自分でまとめること
12回	授業内容：黄泉がえり 事前学修：授業中に指示した参考文献に目を通しておくこと 事後学修：授業内容を自分でまとめること
13回	授業内容：あの世めぐりの旅 事前学修：授業中に指示した参考文献に目を通しておくこと 事後学修：授業内容を自分でまとめること
14回	授業内容：宝物 事前学修：授業中に指示した参考文献に目を通しておくこと 事後学修：授業内容を自分でまとめること
15回	授業内容：まとめと試験 事前学修：これまでの授業内容をまとめておくこと 事後学修：試験の内容を含めてよく復習し理解を深めること

- ◆**教科書** 当日資料配布 適宜授業中に資料プリントを配布する。
- ◆**参考書** なし
- ◆**成績評価基準** 平常点 20%、試験 80%

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔英語 N〕★★☆

中村 則子

◆**授業概要** 英語の初級者向けの、英文読解を中心とした科目である。今年、開催される東京オリンピックに向けてスポーツへの関心が高まっている。この科目では易しい英文で書かれたスポーツのトピックを読解し、演習問題を解くことで楽しく英語を身につけていく。

◆**学修到達目標** 英語の総合学習向けのテキストを使用し、英語の4技能（Reading, Listening, Writing, Speaking）を無理なく学習できるようにする。基本的な文法が抜け落ちていてと感じている受講者には苦手な部分を自分で補うために、簡単な文法のドリル等を授業と並行して、自宅学習することをお奨めする。授業では、短めの英文を読んでいき、日常生活に不自由しない程度の英語力（例えば、英語の広告文が理解できる、英語で書かれた取説が理解できる、SNSの英文を理解できる、発信できる等）を身につけたい。

◆**授業方法** テキストに沿って、英文を読み、演習問題を行うことで、英語の4技能のうち、主に reading のスキルを習得していく。まず CD で音声を確認し、英文を音読してから、その内容を発表してもらう。進み具合により、シラバス通りにならない場合もあることをおことわりしておく。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回	授業内容: ガイダンス（授業の進め方や参考書等を説明する） 事前学修: シラバスを読み、できる限り初回からテキストを入手して内容を見ておく。 事後学修: シラバスで指示されたとおり、次回の授業に向けて準備する。
2 回	授業内容: Unit 1 The Long Wait 事前学修: 上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。 事後学修: 授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
3 回	授業内容: Unit 1 The Long Wait 事前学修: 上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。 事後学修: 授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
4 回	授業内容: Unit 2 Olympic Volunteers 事前学修: 上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。 事後学修: 授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
5 回	授業内容: Unit 2 Olympic Volunteers 事前学修: 上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。 事後学修: 授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
6 回	授業内容: Unit 3 Male Sports? Female Sports? 事前学修: 上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。 事後学修: 授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
7 回	授業内容: Unit 3 Male Sports? Female Sports? 事前学修: 上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。 事後学修: 授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
8 回	授業内容: Unit 4 Competition 事前学修: 上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。 事後学修: 授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
9 回	授業内容: Unit 4 Competition 事前学修: 上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。 事後学修: 授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
10 回	授業内容: Unit 5 A Glamorous? 事前学修: 上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。 事後学修: 授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
11 回	授業内容: Unit 5 A Glamorous? 事前学修: 上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。 事後学修: 授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
12 回	授業内容: Unit 6 Energy Drinks 事前学修: 上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。 事後学修: 授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
13 回	授業内容: Unit 6 Energy Drinks 事前学修: 上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。 事後学修: 授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
14 回	授業内容: 復習、試験前準備 事前学修: 今まで学習した部分のノートを整理し、質問事項等があればまとめておく。 事後学修: 学習した部分のノートを確認暗記する。
15 回	授業内容: 試験と解説 事前学修: 試験範囲の演習問題等を確認し、解答できるようにする。 事後学修: 試験において記述した内容がどの程度適切であったかどうか、確認する。

◆**教科書** 〔図〕 Spotlight on Sports 金星堂 1900 円（税別）

◆**参考書** 授業ガイダンスにて指示

◆**成績評価基準** 発表を含めた授業への取り組み、試験による総合評価。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

(TOEIC B) ★☆☆

八木 茂那子

◆**授業概要** TOEIC L&R は初級レベルから上級レベルに至るまでの英語運用能力を一度に global な基準で測ることのできる『ものさし』である。Listening Section 45 分 100 問、Reading Section 75 分 100 問の問題を休まずに解くのは容易なことではないように思われる。が、高等学校 1 年修了レベルの文法力と中学～高等学校 2 年レベルの語力、速読のスキルがあれば初級レベルの力でも正答が得られる問題の数は多くある。本講座では敢えて中級者向けのテキストを使用する。本講座には長年 TOEIC セミナーの講師をしてきた実務経験を授業概要に反映している。初級者向けのテキストでは本試験とのギャップが大きすぎるためである。初級者でも対応可能な Listening Section を中心に英語 4 技能のスキルアップを図るのに効果的な種々のトレーニング方法を紹介、体得していく。

◆**学修到達目標** 講座修了後 TOEIC L&R test で 395 点突破できる基本的な英語の理解運用能力を身に付けることができる。また更に長期的な展望に立ち、4 技能 (読む・聴く・話す・書く) の skill up に効果的な種々の training 方法を身に付けることができる。Half test や mini practice test を解くことにより、より実践的な力をつけることができる。

◆**授業方法** CD・OHC・黒板を使った対面形式の一斉授業の形態をとるが演習中心の授業を行う。テキストの全 12 Units の各 1 Unit を 2 回ずつに分け(1)では Listening Section, (2)では Reading Section を Listening Section と Reading Section 交互に扱う。授業の前半では Vocabulary building を行う。次に問題の解答・解説をします。更に sill up するために self-work, pair-work, group activity を取り入れた色々な activity を行います。尚学期中に 6 回の単語テストと TOEIC Half test を予定しています。課題に対するフィードバックは原則授業中に行います。

◆授業計画 (各 90 分)

1 回	授業内容 事前学修 事後学修	ガイダンス (自己紹介、TOEIC L&R test とは? 学習目標の立て方、授業の進め方、教科書について、成績評価について他) 現在地を知る - pre-test 解答と解説 事前にシラバスをよく読んでおくこと。 講義内容の確認
2 回	授業内容 事前学修 事後学修	UNIT 1 (1) テスト形式を知る写真描写問題の攻略ポイントを知ろう! 応答問題の攻略ポイントを知ろう Listening Section (Part 1~4) UNIT 1 に出てくる単語・熟語の意味を調べる。Listening Section (Part 1~4) の問題を 2 回解く。(1 回目は参照物なしで、2 回目はペンの色を変え、辞書などの参照可。) 授業内容の確認と quiz 1 (DataBase 3000 level 1) の準備
3 回	授業内容 事前学修 事後学修	UNIT 1 (2) Reading Section (Part 5~7) quiz 1 UNIT 1 (Part 5~7) の問題を 2 回解く。(1 回目は時間を計り、参照物なしで、2 回目はペンの色を変え、文法書や辞書などを参照しながら解く。) 授業内容の確認と quiz 2 (DataBase 3000 level 2) の準備
4 回	授業内容 事前学修 事後学修	UNIT 2 (1) 基本戦略① <人> <物> <風景> のチェックポイント「最初の音のかたまり」をキャッチ! Listening Section (Part 1~4) UNIT 2 に出てくる単語・熟語の意味を調べる。Listening Section (Part 1~4) の問題を 2 回解く。(1 回目は参照物なしで、2 回目はペンの色を変え、辞書などの参照可。) 授業内容の確認と quiz 2 の準備
5 回	授業内容 事前学修 事後学修	UNIT 2 (2) Reading Section (Part 5~7) quiz 2 UNIT 2 に出てくる単語・熟語の意味を調べる。Reading Section (Part 5~7) の問題を 2 回解く。(1 回目は参照物なしで、2 回目はペンの色を変え、辞書などの参照可。) 授業内容の確認と quiz 3 (DataBase 3000 level 3) の準備
6 回	授業内容 事前学修 事後学修	UNIT 3 (1) 基本戦略② 聞いてわかる生活語彙を増やす! 場面をイメージしながら聞こう! Listening Section (Part 1~4) UNIT 3 に出てくる単語・熟語の意味を調べる。Listening Section (Part 1~4) の問題を 2 回解く。(1 回目は参照物なしで、2 回目はペンの色を変え、辞書などの参照可。) 授業内容の確認とこれまでに学修したことの見直しをする。
7 回	授業内容 事前学修 事後学修	UNIT 3 (2) Reading Section (Part 5~7) quiz 3 UNIT 3 (Part 5~7) の問題を 2 回解く。(1 回目は時間を計り、参照物なしで、2 回目はペンの色を変え、文法書や辞書などを参照しながら解く。) Review & Drills 中間試験の準備
8 回	授業内容 事前学修 事後学修	中間試験と授業 (解答解説) これまでに学修したことの見直しをする。 授業内容の確認と quiz 4 (DataBase 3000 level 4) の準備
9 回	授業内容 事前学修 事後学修	UNIT 4 (1) 文の基本構造を見抜く (現在進行形) を聞き取ろう! <音トラップ> と <連想トラップ> を知ろう! Listening Section (Part 1~4) quiz 4 UNIT 4 に出てくる単語・熟語の意味を調べる。Listening Section (Part 1~4) の問題を 2 回解く。(1 回目は参照物なしで、2 回目はペンの色を変え、辞書などの参照可。) 授業内容の確認と quiz 6 (DataBase 3000 level 6) の準備
10 回	授業内容 事前学修 事後学修	UNIT 4 (2) Reading Section (Part 5~7) UNIT 4 (Part 5~7) の問題を 2 回解く。(1 回目は時間を計り、参照物なしで、2 回目はペンの色を変え、文法書や辞書などを参照しながら解く。) 授業内容の確認と quiz 5 (DataBase 3000 level 5) の準備
11 回	授業内容 事前学修 事後学修	UNIT 5 (1) 答根拠の登場順 さまざまな主語を聞き取ろう! (Wh 疑問文) を聞き取ろう! Listening Section (Part 1~4) quiz 5 UNIT 5 に出てくる単語・熟語の意味を調べる。Listening Section (Part 1~4) の問題を 2 回解く。(1 回目は参照物なしで、2 回目はペンの色を変え、辞書などの参照可。) 授業内容の確認と quiz 6 (DataBase 3000 level 6) の準備
12 回	授業内容 事前学修 事後学修	UNIT 5 (2) Reading Section (Part 5~7) UNIT 5 Reading Section (Part 5~7) の問題を 2 回解く。(1 回目は時間を計り、参照物なしで、2 回目はペンの色を変え、文法書や辞書などを参照しながら解く。) 授業内容の確認と quiz 6 (DataBase 3000 level 2) の準備
13 回	授業内容 事前学修 事後学修	UNIT 6 (1) 正解の言い換えパターンを知る (前置詞) を聞き取ろう! <Yes/No 疑問文> を聞き取ろう! Listening Section (Part 1~4) quiz 6 UNIT 6 に出てくる単語・熟語の意味を調べる。Listening Section (Part 1~4) の問題を 2 回解く。(1 回目は参照物なしで、2 回目はペンの色を変え、辞書などの参照可。) 講義内容の確認
14 回	授業内容 事前学修 事後学修	UNIT 6 (2) Reading Section (Part 5~7) UNIT 6 (Part 5~7) の問題を 2 回解く。(1 回目は時間を計り、参照物なしで、2 回目はペンの色を変え、文法書や辞書などを参照しながら解く。) 講義内容の確認
15 回	授業内容 事前学修 事後学修	期末試験と授業 (解答・解説) これまでに学修したことの見直しをする。

◆**教科書** 丸沼 『LEVEL-UP TRAINER FOR THE TOEIC TEST』改訂版 横川 綾子 Tony Cook センゲージラーニング (株) 2016
丸沼 『DataBase 3000』第 5 版 桐原書店編集部編 桐原書店 2016

◆**参考書** 丸沼 『ロイヤル英文法』綿貫 陽 他著 旺文社 2000

丸沼 『公式 TOEIC L&R 問題集 Vol. 1~5』国際ビジネスコミュニケーション協会 2016~2019

◆**成績評価基準** Quiz (6 回) 20% + 平常点 (発表や課題提出などを含む授業参加度) 10% + (筆記試験) 60% + mini TOEIC test 10% による総合評価 (クラスのレベルを考慮し、一定の基準になるよう調整を加えることがあります。)

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔民法Ⅳ B〕

根本 晋一

- ◆**授業概要** 債権各論の前半部分、すなわち、契約総論、契約各論を学修する。契約総論とは、債権発生原因の一つである契約について（約定債権）、その成立、効力、消滅などについての通則であり、契約各論とは、民法典が規定する契約の諸類型（典型契約）のことである。
- ◆**学修到達目標** 民法学における債権法の位置づけ、債権総論と債権各論の関係、債権各論の意義と体系、主要な論点を理解する。併せて、授業概要の箇所ですした専門用語を、具体例を用いて説明できるようになる。
- ◆**授業方法** 講義形式を採用する。法改正や新判例の追加などにより、シラバス（授業計画）どおりに進まないこともあり得る。板書を多用し、ノートを作らせ、勉強の仕方を教えるので、ノートをしっかりと録取すること。
- ◆**履修条件** 他の担当教員の民法Ⅰ、および根本の民法Ⅳ（後半）との積み重ねのみ可。なお、後半を先に履修し、前半を後に履修することも可。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容：GD、財産法における債権法の位置づけ、債権総論と債権各論の関係など 事前学修：その日のうちの板書事項の読み込み 事後学修：前回授業時の板書事項の確認
2 回	授業内容：債権各論の全体像、その内容の概説など 事前学修：その日のうちの板書事項の読み込み 事後学修：前回授業時の板書事項の確認
3 回	授業内容：【契約総論】契約の意義、債権発生原因の一つとしての契約、法律行為の一つとしての契約など 事前学修：その日のうちの板書事項の読み込み 事後学修：前回授業時の板書事項の確認
4 回	授業内容：契約自由の原則、その意義、物権法定主義との比較など 事前学修：その日のうちの板書事項の読み込み 事後学修：前回授業時の板書事項の確認
5 回	授業内容：契約自由の原則の制限など 事前学修：その日のうちの板書事項の読み込み 事後学修：前回授業時の板書事項の確認
6 回	授業内容：契約の諸類型、典型契約と非典型契約など 事前学修：その日のうちの板書事項の読み込み 事後学修：前回授業時の板書事項の確認
7 回	授業内容：契約の成立、申込の効力、承諾の効力など 事前学修：その日のうちの板書事項の読み込み 事後学修：前回授業時の板書事項の確認
8 回	授業内容：双務契約の特殊な効力、双務契約の牽連性とは何か、成立・存続（履行）・消滅の各段階における牽連性など 事前学修：その日のうちの板書事項の読み込み 事後学修：前回授業時の板書事項の確認
9 回	授業内容：成立における牽連性、契約締結上の過失、原始的不能、契約不適合責任・債務不履行責任との関係など 事前学修：その日のうちの板書事項の読み込み 事後学修：前回授業時の板書事項の確認
10 回	授業内容：存続（履行）上の牽連性、同時履行の抗弁権、留置権との異同など 事前学修：その日のうちの板書事項の読み込み 事後学修：前回授業時の板書事項の確認
11 回	授業内容：消滅上の牽連性、危険負担、債務不履行責任との区別、債務者主義と債権者主義、改正民法の立場（債務者主義）など 事前学修：その日のうちの板書事項の読み込み 事後学修：前回授業時の板書事項の確認
12 回	授業内容：第三者のためにする契約など 事前学修：その日のうちの板書事項の読み込み 事後学修：前回授業時の板書事項の確認
13 回	授業内容：契約の解除、解除の意義、取消しとの違い、解除と合意解除（解除契約）、解除と解約告知など 事前学修：その日のうちの板書事項の読み込み 事後学修：前回授業時の板書事項の確認
14 回	授業内容：法定解除と約定解除、解除権行使の効果、直接効果説など 事前学修：その日のうちの板書事項の読み込み 事後学修：前回授業時の板書事項の確認
15 回	授業内容：解除と登記など その他補充するべき事項の補遺・おさらいなど 事前学修：その日のうちの板書事項の読み込み 事後学修：前回授業時の板書事項の確認

- ◆**教科書** 指定しない
- ◆**参考書** 教材『民法Ⅳ K30300』通信教育教材（教材コード 000355）
- ◆**成績評価基準** 全回出席を前提として、筆記試験または当授業終了後に提出するレポートの評価点 80%、授業態度や質疑応答 20%。

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔西洋史特講Ⅰ〕

青山 由美子

- ◆**授業概要** 私たち日本人に大きな影響を与えているヨーロッパ文明のルーツは中世にある。ヨーロッパ中世史上の大きなトピックについて理解を深める。
- ◆**学修到達目標** ヨーロッパ中世前半（西暦500年から1000年まで）の歴史について、重要なテーマに関する資料と関連映像を通して学び、各テーマのポイントを理解し、自分のコメントを書けるようになる。
- ◆**授業方法** 授業の最初にテーマについて解説し、その後資料や映像に触れ、最後に各自コメントを書きます。
- ◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容：ヨーロッパ中世前半の歴史について、ポイントと特質を学びます。 事前学修：世界史の教科書や資料集を読み返してきて下さい。 事後学修：プリントやノートを読み返して、内容を再確認してください。
2回	授業内容：ヨーロッパ中世のルーツとしてアイルランドのケルト文明について学びます。 事前学修：ケルト文明について調べて概要をつかんできて下さい。 事後学修：資料と映像を思い返して、自分のケルト文明像をつくって下さい。
3回	授業内容：西欧を統合したカール大帝（シャルルマーニュ）について学びます。 事前学修：カール大帝について調べて概要をつかんできて下さい。 事後学修：資料と映像を思い返して、カール大帝の人物像をつくって下さい。
4回	授業内容：東欧を統合したビザンツ帝国について学びます。 事前学修：ビザンツ帝国について調べて概要をつかんできて下さい。 事後学修：資料と映像を思い返して、ビザンツについて自分のイメージをつくって下さい。
5回	授業内容：北欧について、いわゆるヴァイキングについて学びます。 事前学修：ヴァイキングについて調べて概要をつかんできて下さい。 事後学修：資料と映像を思い返して、ヴァイキングについて自分のイメージをつくって下さい。
6回	授業内容：南欧について、イスラーム教徒に対する再征服について学びます。 事前学修：レコンキスタ（再征服）について調べて概要をつかんできて下さい。 事後学修：資料と映像を思い返して、レコンキスタについて自分のイメージをつくって下さい。
7回	授業内容：教会がリードした神の平和運動について学びます。 事前学修：「神の平和」について調べて概要をつかんできて下さい。 事後学修：資料と映像を思い返して、神の平和運動について自分のイメージをつくって下さい。
8回	授業内容：社会は3つの身分から成り立っているとする世界観について学びます。 事前学修：「三身分論」について調べて概要をつかんできて下さい。 事後学修：資料と映像を思い返して、中世ヨーロッパ独特の世界観について考えて下さい。
9回	授業内容：中世前期の農村と農業について学びます。 事前学修：中世ヨーロッパの農村と農業について調べて概要をつかんできて下さい。 事後学修：資料と映像を思い返して、農業社会としての中世ヨーロッパについて自分のイメージをつくって下さい。
10回	授業内容：中世前期の都市と商工業について学びます。 事前学修：中世ヨーロッパの都市と商工業について調べて概要をつかんできて下さい。 事後学修：資料と映像を思い返して、中世ヨーロッパ都市について自分のイメージをつくって下さい。
11回	授業内容：中世前期の教会と修道院について学びます。 事前学修：中世ヨーロッパの教会と修道院について調べて概要をつかんできて下さい。 事後学修：資料と映像を思い返して、キリスト教社会としての中世ヨーロッパについて自分のイメージをつくって下さい。
12回	授業内容：中世前期の「いのり」の形式と意味について学びます。 事前学修：キリスト教のいのりについて調べて概要をつかんできて下さい。 事後学修：資料と映像を思い返して、キリスト教のいのりの意味について考えて下さい。
13回	授業内容：中世前期の「罪の告白」について学びます。 事前学修：キリスト教の罪について調べて概要をつかんできて下さい。 事後学修：資料と映像を思い返して、キリスト教の罪の意味について考えて下さい。
14回	授業内容：社会的宗教的な統合に対する反乱について学びます。 事前学修：中世ヨーロッパの都市反乱について調べて概要をつかんできて下さい。 事後学修：資料と映像を思い返して、統合に対する反乱について考えて下さい。
15回	授業内容：毎回の資料と映像をふり返り、まとめコメントを書きます。 事前学修：今までのプリントやノートを読み返しておいて下さい。 事後学修：中世前期ヨーロッパについて、自分の時代像をつくって下さい。

- ◆**教科書** [当日資料配布] 当日にプリントを配布します。
- ◆**参考書** 丸沼『中世ヨーロッパ入門』アンドリュー・ラングリー著 あすなろ書房 2006年
- ◆**成績評価基準** 毎回の授業の最後に書くコメントによって評価します。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔英語科教育法Ⅰ〕

小澤 賢司

◆**授業概要** 中学校および高等学校における英語科教育を扱う本授業では、以下の点について学修します。

- ① 英語（科）教育の目的
- ② 英語指導と教科用図書
- ③ 指導計画および学習指導要領
- ④ 英語科教育の小中高連携
- ⑤ その他、授業担当者の実務経験に基づいた英語科教育において必須となる諸項目

◆**学修到達目標** 本授業では、以下の点を目標とします。

- ① 英語科教育に関する知識を身につけ、それらをわかりやすい言葉で説明することができる
 - ② 教科用図書と連動させた効果的な指導方法を考案することができる
 - ③ 指導計画に基づいた学習指導案を作成することができる
 - ④ 協働作業を通して有益な案を創出することができる
- 英語科教育に携わる者として、過去・現在・未来に渡る英語科教育に関する知識や情報、動向等には常に注意を向けるようにしましょう。

◆**授業方法** 毎授業開始時に、①教科書の内容、②英語力、③英語学力のチェックテストを行ないます。②と③の結果は本授業の評価に反映させませんが、①の結果は反映させます。「授業計画」に示されている教科書の章は必ず読んでください。本授業は大きく「概論（講義）」パートと「グループ討議」パートに分かれます。概論パートでは、各回に示されている内容の講義および教科書では触れられていない内容についての補足・説明等を行ないます。グループ討議パートでは、各回のテーマについて、受講者同士で話し合いを行ない、小レポートないしは発表の形で研鑽に励んでいただきます。必要に応じてプリントを配布する予定です。

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	英語教育の目的
	事前学修	第 1 章をよく読んでおくこと
2 回	事後学修	学習指導要領の新旧対照表を熟読しておくこと
	授業内容	学習指導要領
3 回	事前学修	前回の授業で提示された課題を行なっておくこと
	事後学修	グループで話し合った内容を整理しておくこと
4 回	授業内容	学習者論
	事前学修	第 3 章をよく読んでおくこと
5 回	事後学修	「学習者論」について再度復習しておくこと
	授業内容	言語習得と言語教育
6 回	事前学修	第 4 章をよく読んでおくこと
	事後学修	「言語習得と言語教育」について再度復習しておくこと
7 回	授業内容	教授法
	事前学修	第 5 章をよく読んでおくこと
8 回	事後学修	「教授法」について再度復習しておくこと
	授業内容	英語指導と教科用図書（発表準備 1 日目）
9 回	事前学修	第 7 章から第 11 章までをよく読んでおくこと
	事後学修	グループで話し合った内容を整理しておくこと
10 回	授業内容	英語指導と教科用図書（発表準備 2 日目）
	事前学修	第 7 章から第 11 章までをよく読んでおくこと
11 回	事後学修	発表資料を作り、期日までに提出すること
	授業内容	英語指導と教科用図書（発表）
12 回	事前学修	発表練習をしておくこと
	事後学修	他グループの発表内容を整理しておくこと
13 回	授業内容	英語指導と教科用図書（発表（予備日））、指導計画
	事前学修	発表練習をしておくこと
14 回	事後学修	①他グループの発表内容を整理しておくこと。②「指導計画」について再度復習しておくこと
	授業内容	学習指導案（発表準備 1 日目）
15 回	事前学修	発表準備のために有益な案を考えておくこと
	事後学修	グループで話し合った内容を整理しておくこと
16 回	授業内容	学習指導案（発表準備 2 日目）
	事前学修	発表準備のために有益な案を考えておくこと
17 回	事後学修	発表資料を作り、期日までに提出すること
	授業内容	学習指導案（発表）
18 回	事前学修	発表練習をしておくこと
	事後学修	他グループの発表内容を整理しておくこと
19 回	授業内容	学習指導案（発表（予備日））、評価とテスト
	事前学修	①発表練習をしておくこと。②第 15 章をよく読んでおくこと
20 回	事後学修	①他グループの発表内容を整理しておくこと。②「評価とテスト」について再度復習しておくこと
	授業内容	英語教師論
21 回	事前学修	第 2 章をよく読んでおくこと
	事後学修	「英語教師論」について再度復習しておくこと
22 回	授業内容	最終レポート作成およびまとめ
	事前学修	最終レポートのための準備をしておくこと
23 回	事後学修	本授業のすべての学修内容を復習し、英語科教育に活かすこと

◆**教科書** 丸沼『基礎から学ぶ英語科教育法』岡田圭子・ブレンダハヤシ・嶋林昭治・江原美明 松柏社 2015 年

◆**参考書** 丸沼『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 外国語編』文部科学省
※開隆堂から出版されているものを購入するか、文部科学省の HP からダウンロードすることが可能
丸沼『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 外国語編・英語編』文部科学省
※開隆堂から出版されているものを購入するか、文部科学省の HP からダウンロードすることが可能

◆**成績評価基準** 試験（40%）、授業参画度（30%）、レポート（30%）
※特別な理由（教育実習・介護等体験・感染症など）がある場合を除き、すべての授業に出席することを前提として評価する

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔文化史 B〕

渡邊 浩史

- ◆**授業概要** はじめに原始から古代までの各時代の文化の概観を各々述べた上で、各論的にいくつかのトピックについて講義する。その後中世の各時代の文化の概観を述べ、同じく各論的にいくつかのトピックについて講義する。
- ◆**学修到達目標** 現在の日本においてサブカルチャーといわれているマンガ・アニメだが、実はその表現方法や内容は日本の伝統文化の影響を脈々と受け継いでいる。日本の各時代の文化を考察することによって、それが現在のマンガ・アニメにどのように反映しているのかを理解できるようにする。そして、一見過去と断絶しているかのように見える現代の我々の生活が、いかに過去と密接に関わっているのかを理解できるようにする。
- ◆**授業方法** 授業は講義形式で行う。適宜プリントやDVDなどを使用し、受講生の理解の一助とする。なおシラバスはあくまで予定であり、最新の研究成果を反映させるなどの場合は変更する可能性もある。
- ◆**履修条件** 昼間スクーリング(前期)文化史Aとの積み重ね不可。
- ◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容:はじめに 近代文化とアニメ 事前学修:高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修:授業内容を自分でまとめること
2回	授業内容:古代の文化(旧石器~古墳文化までの概要) 事前学修:高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修:授業内容を自分でまとめること
3回	授業内容:古代の文化(飛鳥~国風文化までの概要) 事前学修:高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修:授業内容を自分でまとめること
4回	授業内容:古墳文化(死者の行方) 事前学修:高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修:授業内容を自分でまとめること
5回	授業内容:かぐや姫(かぐや姫とは) 事前学修:高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修:授業内容を自分でまとめること
6回	授業内容:かぐや姫(月と極楽浄土) 事前学修:高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修:授業内容を自分でまとめること
7回	授業内容:かぐや姫(富士山) 事前学修:高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修:授業内容を自分でまとめること
8回	授業内容:地獄 事前学修:高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修:授業内容を自分でまとめること
9回	授業内容:極楽 事前学修:高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修:授業内容を自分でまとめること
10回	授業内容:中世の文化(院政期) 事前学修:高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修:授業内容を自分でまとめること
11回	授業内容:中世の文化(鎌倉) 事前学修:高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修:授業内容を自分でまとめること
12回	授業内容:中世の文化(室町) 事前学修:高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修:授業内容を自分でまとめること
13回	授業内容:絵巻物(道成寺縁起絵巻) 事前学修:高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修:授業内容を自分でまとめること
14回	授業内容:能・狂言 事前学修:高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修:授業内容を自分でまとめること
15回	授業内容:まとめと試験 事前学修:1~14回の内容をよく復習すること 事後学修:試験の内容を含めてよく復習し理解を深めること

- ◆**教科書** **〔当日資料配布〕** 適宜授業中に資料プリントを配布する。
- ◆**参考書** なし
- ◆**成績評価基準** 平常点 20%、試験 80%

注意 E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔英語 P〕☆☆☆

八木 茂那子

◆**授業概要** 英語の運用能力を高めるためには読む・聞く・書く・話すという英語の4技能を同時に高めていくことが効果的であると言われる。このスキルを修得するためのノウハウに高等学校で英語を教えた実務経験が反映される。この講座では Reading Sections (Listening, Speaking を含む) を中心に英文を読み進めつつ英語4技能のスキルアップを図るものである。また語彙力増強に力を入れる。

◆**学修到達目標** 講座修了後に基本的な英語の理解運用できるようになる。特に英文の文構造を口頭で文法的な説明ができるようになる。また意味のまとまりごとに区切って読む slash reading の skill を身に付けることにより reading の速度をあげることできる。

◆**授業方法** CD・OHC・黒板を使用した対面式の一斉授業と演習形式を中心に self-training, pair work, group activity 等いろいろ取り込みながら楽しくトレーニングをしていく予定です。(受講者の人数, 理解度, 進度などの理由により, 授業内容を変更することがあります。)学期中に6回の単語の小テストと中間・期末試験, 学期末に音読のテストを実施します。課題に対するフィードバックは原則として授業中に行います。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回	授業内容	ガイダンス (自己紹介), 授業の進め方, 教科書について, 成績評価について。
	事前学修	事前にシラバスをよく読んでおくこと。
	事後学修	講義内容の確認と基本本文の音読筆写を行う。
2回	授業内容	英語基本5文型について(1) <Grammar Sections> Unit 1 英語は語句の配置が大切。その配置を決めるのが動詞! (1)
	事前学修	<Grammar Sections> Unit 1 p.p.59-61 をよく読み, 内容を理解すること。
	事後学修	授業内容の確認と基本本文の音読筆写を行う。quiz 1 (DataBase 3000 level 1) の準備
3回	授業内容	英語基本5文型について(2) <Grammar Sections> Unit 2 英語は語句の配置が大切。その配置を決めるのが動詞! (2) quiz 1
	事前学修	<Grammar Sections> Unit 2 p.p.62-65 をよく読み, 内容を理解すること。quiz 1 (DataBase 3000 level 1) の準備
	事後学修	授業内容の確認と基本本文の音読筆写を行う。quiz 2 (DataBase 3000 level 2) の準備
4回	授業内容	<Reading Sections> Unit (1) Sowing Seeds of Peace, Education & Hope: Malala
	事前学修	<Reading Sections> Unit 1(2) Sowing Seeds of Peace, Education & Hope: Malala をよく読み, 練習問題を解く。
	事後学修	授業内容の確認と基本本文の音読筆写を行う。quiz 2 (DataBase 3000 level 2) の準備
5回	授業内容	<Reading Sections> Unit 2(1) Sowing Seeds of Food Savings: OzHarvest Market quiz 2
	事前学修	<Reading Sections> Unit 2 (2) Sowing Seeds of Food Savings: OzHarvest Market をよく読み, 練習問題を解く。
	事後学修	授業内容の確認と基本本文の音読筆写を行う。quiz 3 (DataBase 3000 level 3) の準備
6回	授業内容	<Reading Sections> Unit 3(1) Sowing Seeds of Safety: An Eye on Crime
	事前学修	<Reading Sections> Unit 3 (2) Sowing Seeds of Safety: An Eye on Crime をよく読み, 練習問題を解く。
	事後学修	授業内容の確認と基本本文の音読筆写を行う。quiz 3 (DataBase 3000 level 3) の準備
7回	授業内容	Review & Drills quiz 3
	事前学修	これまでに学修したことの見直しをする。
	事後学修	中間試験の準備
8回	授業内容	中間試験と授業 (解答解説を行う)
	事前学修	これまでに学修したことの見直しをする。
	事後学修	授業内容の確認と基本本文の音読筆写を行う。quiz 4 (DataBase 3000 level 4) の準備
9回	授業内容	<Reading Sections> Unit 4(1) Sowing Seeds of Work: Work Balance quiz 4
	事前学修	<Reading Sections> Unit 4 (2) Sowing Seeds of Work: Work Balance
	事後学修	授業内容の確認と基本本文の音読筆写を行う。quiz 6 (DataBase 3000 level 6) の準備
10回	授業内容	<Reading Sections> Unit 5 (1) Sowing Seeds of Exercise: Sport BMX and Urban Fun?
	事前学修	<Reading Sections> Unit 5(2) Sowing Seeds of Exercise: Sport BMX and Urban Fun? をよく読み, 練習問題を解く。
	事後学修	授業内容の確認と基本本文の音読筆写を行う。quiz 5 (DataBase 3000 level 5) の準備
11回	授業内容	<Reading Sections> Unit 6 (1) Sowing Seeds of Happiness: Happiness quiz 5
	事前学修	<Reading Sections> Unit 6 (2) Sowing Seeds of Happiness: Happiness をよく読み, 練習問題を解く。
	事後学修	授業内容の確認と基本本文の音読筆写を行う。quiz 6 (DataBase 3000 level 6) の準備
12回	授業内容	<Reading Sections> Unit 7 (1) Sowing Seeds of Entertainment: Sports and Games
	事前学修	<Reading Sections> Unit 7(2) Sowing Seeds of Entertainment: Sports and Games をよく読み, 練習問題を解く。
	事後学修	授業内容の確認と基本本文の音読筆写を行う。quiz 6 (DataBase 3000 level 6) の準備
13回	授業内容	Review & Drills quiz 6
	事前学修	これまでに学修したことの見直しをする。
	事後学修	授業内容の確認と Oral test (音読のテスト) の準備
14回	授業内容	Group Activity & Oral test
	事前学修	Oral test (音読テストの準備), 音読の練習をする。
	事後学修	これまでに学修したことの見直しをする。
15回	授業内容	期末試験とまとめ
	事前学修	これまでに学修したことの見直しをする。
	事後学修	これまでに学修したことの見直しをする。

◆**教科書** 丸沼『Dear Learners』永本 義弘・町田 純子・八木 茂那子 2020
丸沼『DataBase 3000』第5版桐原書店編集部編 桐原書店 2016

◆**参考書** 丸沼『ロイヤル英文法』綿貫 陽 他著 旺文社 2000

◆**成績評価基準** Quiz (6回) 20% + 平常点 (発表や課題提出などを含む授業参加度) 10% + (筆記試験) 60% + Oral test 10% による総合評価 (クラスのレベルを考慮し, 一定の基準になるよう調整を加えることがあります。)

注意 E-mail を送るときは, 必ず件名欄に「日本大学通信教育部」[学生番号] および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては, 授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔哲学演習 B〕

中澤 瞳

- ◆**授業概要** 本演習は、論文を執筆するために必要と考えられる基本的知識を、実践を通して、修得する。受講者には何回か発表を行ってもらう。受講者の人数によって予定されているシラバスの進行が変わる場合がある。その調整は、初回ないしは第2回目の授業内で行う。
- ◆**学修到達目標** この演習を通して、受講生は論文制作のための技術を学ぶことができる。またこの演習を通して、卒業論文の制作がよりよく進められる。すでに卒業論文に着手している受講生の場合は、演習を通して、現在製作中の卒業論文を練り上げることができる。
- ◆**授業方法** 講義と演習を組み合わせで行う。場合によっては、小グループを組んで作業を行う。口頭発表、および参加者同士による相互評価を行う。なお、参加者の状況、授業の進行具合によっては、授業計画に記載した内容に若干の変更がある場合がある。その際は、随時授業中に指示する。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1回	授業内容：ガイダンス（授業のねらい、発表のやり方）、卒論について 事前学修：卒業論文でどのような題材を扱うかについて発表をする回があるので、内容を考えておく。 事後学修：次週の発表の準備を行う。
2回	授業内容：発表（論文の題材について）*なお、授業参加者の人数が多い場合には次回も発表を行うが、この変更に関しては初回の授業時に指示する。 事前学修：初回の指示にしたがい、発表の準備をする。 事後学修：他の人の発表を聞いて参考にし、自分の題材を固める。
3回	授業内容：論文の特徴を理解する 事前学修：論文にはどのような特徴があるか、他の文章表現とは何が違うか考える。 事後学修：手近にある、論文以外の色々な文章を読んで、論文という形式について理解を深める。自分の卒業論文の問題、主張、論拠を練り上げる。
4回	授業内容：論文の構成を理解する 事前学修：論文はどのように構成された文章か考える。 事後学修：授業を復習し、自分の卒業論文で扱う予定の題材および問題、主張、論拠を元に、論文の構成をイメージする。
5回	授業内容：先行研究調査の方法 事前学修：先行研究の文献を探すにはどのような方法があるか考える。 事後学修：授業で取り上げた調査方法の他にも有効な方法があるか考える。また、自分の卒業論文に必要な先行研究を調べる。
6回	授業内容：要約について 事前学修：要約とはなにかについて調べ、自分でも手近な文章を要約してみる。 事後学修：先行研究の文献を要約してみる。
7回	授業内容：論文の体裁を理解する 1 事前学修：注や参考文献表とはどのようなものか調べる。 事後学修：注や参考文献表を作成できるようにする。
8回	授業内容：論文の体裁を理解する 2 事前学修：前回の授業内容を確認する。 事後学修：注や参考文献表を作成できるようにする。
9回	授業内容：発表（論文の問題、主張、論拠について） 事前学修：指示にしたがい、発表のための資料を作る。自分の卒業論文で扱う問題、主張、論拠を人が理解しやすいように説明できる準備をする。 事後学修：他の人の発表を聞いて、参照し、自分の問題、主張、論拠を掘り下げる。
10回	授業内容：アウトラインについて 1 事前学修：自分の卒業論文の問題、主張、論拠を確認する。 事後学修：自分の卒業論文の問題、主張、論拠をもとに、アウトラインを作成する。
11回	授業内容：アウトラインについて 2 事前学修：自分の卒業論文の問題、主張、論拠を確認する。 事後学修：自分の卒業論文の問題、主張、論拠をもとに、アウトラインの内容を掘り下げる。
12回	授業内容：発表（アウトラインについて） 事前学修：授業中の指示にしたがい、発表の準備をする。 事後学修：他の人の発表を聞いて、参照し、自分のアウトラインを掘り下げる。
13回	授業内容：発表（アウトラインについて） 事前学修：授業中の指示にしたがい、発表の準備をする。 事後学修：他の人の発表を聞いて、参照し、自分のアウトラインを掘り下げる。
14回	授業内容：発表（アウトラインについて） 事前学修：授業中の指示にしたがい、発表の準備をする。 事後学修：他の人の発表を聞いて、参照し、自分のアウトラインを掘り下げる。
15回	授業内容：まとめ 事前学修：これまでの授業を振り返る。 事後学修：今回の授業を土台として、卒業論文の制作を進める。

- ◆**教科書** 〔当日資料配布〕
- ◆**参考書** 授業中に指示します。
- ◆**成績評価基準** 授業参加度（70%）、授業内の発表（30%）により総合的に評価する。なお、毎回出席することを前提として評価する。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔経済史総論 B〕 オープン受講：不可

下斗米 秀之

- ◆**授業概要** われわれの生きるグローバルな資本主義経済の現在の状況を的確に理解し、未来を展望するためには、経済史の知識が不可欠である。経済史とは現在と過去、そして経済と歴史を結ぶ学問である。現在の経済は過去の遺産であり、その形成過程を知ることによって、われわれの立っている現在の位置を確かめることができる。現代の支配的な社会経済システムである近代資本主義や市場経済の成立・発展・変質の過程の把握を目指す。
- ◆**学修到達目標** 西洋経済史にあらわれた諸問題の過程と原因、その帰結を学ぶことを通じて、現代社会を生きるための鋭い洞察力と論理的思考力を身につける。西洋経済の歩みを概観しながら、現在の経済における諸問題との関連やそれらを読み解く力を身につける。
- ◆**授業方法** 毎回の講義ではレジュメを配布し、授業計画通りに進めていくが、適宜、映像資料や新聞・雑誌記事なども利用する。また、担当者の専門であるアメリカ経済史に関しては隣接諸分野との関連や最新の研究動向も併せて紹介していく。映像資料を鑑賞する際にはコメントペーパーを書いてもらい、翌週の授業で頂いたコメントを紹介しつつ質問に答える。
- ◆**履修条件** 令和2年度昼間スクーリング（前期）に開講される他の経済史総論との積み重ねは不可。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	経済史への招待
	事前学修	シラバスをよく読んで授業内容の流れを確認しておく。
	事後学修	レジュメを利用して講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。
2 回	授業内容	経済史の課題と方法
	事前学修	参考文献を読んで単元についての理解を深める。
	事後学修	レジュメを利用して講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。
3 回	授業内容	中世都市とギルドの世界
	事前学修	参考文献を読んで単元についての理解を深める。
	事後学修	レジュメを利用して講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。
4 回	授業内容	農民の世界と封建社会の動揺
	事前学修	参考文献を読んで単元についての理解を深める。
	事後学修	レジュメを利用して講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。
5 回	授業内容	近代世界の成立と大航海時代
	事前学修	参考文献を読んで単元についての理解を深める。
	事後学修	レジュメを利用して講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。
6 回	授業内容	プロト工業化とヨーロッパ経済
	事前学修	参考文献を読んで単元についての理解を深める。
	事後学修	レジュメを利用して講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。
7 回	授業内容	ヨーロッパの絶対主義と市民革命
	事前学修	参考文献を読んで単元についての理解を深める。
	事後学修	レジュメを利用して講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。
8 回	授業内容	「最初の工業国」イギリス
	事前学修	参考文献を読んで単元についての理解を深める。
	事後学修	レジュメを利用して講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。
9 回	授業内容	イギリスの工業化と人口・農業・商業
	事前学修	参考文献を読んで単元についての理解を深める。
	事後学修	レジュメを利用して講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。
10 回	授業内容	イギリス産業革命とその帰結
	事前学修	参考文献を読んで単元についての理解を深める。
	事後学修	レジュメを利用して講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。
11 回	授業内容	ヨーロッパ大陸の産業革命
	事前学修	参考文献を読んで単元についての理解を深める。
	事後学修	レジュメを利用して講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。
12 回	授業内容	アメリカ合衆国の独立
	事前学修	参考文献を読んで単元についての理解を深める。
	事後学修	レジュメを利用して講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。
13 回	授業内容	アメリカ産業革命と南北戦争
	事前学修	参考文献を読んで単元についての理解を深める。
	事後学修	レジュメを利用して講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。
14 回	授業内容	パックス・ブリタニカの時代
	事前学修	参考文献を読んで単元についての理解を深める。
	事後学修	レジュメを利用して講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。
15 回	授業内容	試験と解説
	事前学修	これまでの各内容のポイントをまとめて復習しておく。
	事後学修	課題の意図を理解して論理的な記述ができていたかどうかを確認する。

◆**教科書** 当日資料配布

- ◆**参考書** 丸沼『エレメンタル欧米経済史』馬場哲・山本通・廣田功・須藤功 晃洋書店 2012 年
丸沼『あなたが歴史と出会うときー経済の視点から』堺憲一 名古屋大学出版会 2009 年
丸沼『入門アメリカ経済 Q & A100』坂出健・秋元英一・加藤一誠 中央経済社 2019 年

◆**成績評価基準** 定期試験を中心に評価するが、授業の中でリアクションペーパーの提出を求めることもある。毎回出席することを前提として評価する。
授業態度、提出課題（30%） 定期試験（70%）

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

【教育の方法・技術論 B】

古賀 徹

◆**授業概要** この授業は、教員としての授業実践力を修得することを目的としています。授業が成り立つ条件を理解するために、先ず歴史や諸外国の実践例を学ぶことから始めます。次には「読む・書く・きく・話す」等の技能を伸ばすための技術・指導法を学び、実際に活用できるレベルへ高めていく。カリキュラム構成の基礎を身につけ、指導計画をデザインできるようになるまでがゴールです。ICT活用の学習形態についても考え深めていきます。

◆**学修到達目標** 学修者は次の事項について理解を深め、技能・指導技術を身につけることができる。①教授法の歴史の変遷を理解する。②ヴィゴツキーの「発達の最近接領域」等の最新の学習概念を理解する。③アクティブ・ラーニング形式の学習について理解し、実践するアイデアを出す。④カリキュラム構成の基礎を身につけ、学習目標に沿って学習内容・活動を展開するイメージをまとめることができる。⑤ICT活用やeラーニング等の学習形態について、その課題や可能性も含めて把握することができる。⑥教育評価の方法を身につける。①から⑥の知識・技能を身につけ、授業やカリキュラムをデザインすることができる。

◆**授業方法** 講義形式に加えて、ワークショップ形式、グループワーク、ロールプレイなどアクティブ・ラーニング型の方式をとり入れる。能動的学習の形式としては、単純グループワーク（バズ学習）、ジグソー法、シミュレーション学習、プロジェクト学習、完全修得学習、模擬授業と相互評価、ウェビングを予定している。

◆授業計画（各90分）

1回	授業内容：「教育方法」とは何か？「教える」と「学ぶ」こと。 事前学修：教職課程における学習内容（各科目）について意味を調べておく。 事後学修：新学習指導要領の「ねらい」について調べ、説明文としてまとめる。
2回	授業内容：教育方法論の歴史（西洋教育方法史）。 事前学修：コメニウス、ペスタロッチ、ヘルバルト、デューイについて文献を読む。 事後学修：本日の学修内容についてレポート作成（次回提出）。
3回	授業内容：教育方法論の歴史（日本の教育方法・内容論の変遷）。 事前学修：日本特有の教育方法について、イメージすることを複数メモしておく。 事後学修：日本と西洋の「近代化」の関係性について、短い文章でまとめる。
4回	授業内容：新しい「学習」概念（ヴィゴツキーの活動理論と現在の学習）。 事前学修：「PISA型学力」等の新しい学力観について資料を通読しておく。 事後学修：講義で体験的学習により学んだ内容を言語化して説明文としてまとめる。
5回	授業内容：授業形態を個別化に対応させる（バズ学習、T、T、完全修得学習）。 事前学修：個別の差（個人）への対応という難しさについて意見をまとめておく。 事後学修：世界各国の地域差からくる教育観の違いについて説明文を書く。
6回	授業内容：問題解決学習と系統学習。 事前学修：自身の体験的な学びについて具体例をあげ、その効果について記す。 事後学修：自身の担当科目における能動的な学習を設計する。
7回	授業内容：指導技術：「はなす」ことと「きく」こと。 事前学修：自身のキャリア教育体験について他者に説明できるようまとめておく。 事後学修：ウェビング、KJ法等の可視化技能を高めるよう自身で練習する。
8回	授業内容：「はなす・きく・かく・まとめる」（言語活動・技能の習得）。 事前学修：各科目において必須とされる技能について調べ、まとめる。 事後学修：本を数冊読み、その内容をウェビングで記す。
9回	授業内容：カリキュラム構成の方法（「ねらい」のある学習をつくる）。 事前学修：学習指導要領でカリキュラムマネジメントの箇所を読んでメモしておく。 事後学修：カリキュラム構成方法を応用して「ある学校」のプランをつくる。
10回	授業内容：シミュレーション学習、プロジェクト学習。 事前学修：学校数校のホームページ等をみてカリキュラム構成を確認しておく。 事後学修：自身の科目においてどのようにプロジェクト学習が組めるか構想する。
11回	授業内容：一時間の学習指導案を構成する。 事前学修：自身の科目ごとに自由に範囲を選び、授業を構想しておく。 事後学修：指導案（学習指導計画）を複数構想する（次回提出）。
12回	授業内容：学習実践のロールプレイ。 事前学修：一冊以上の本を読み「朝読書」指導案を考案する。 事後学修：既習のウェビング、カリキュラム、指導案を組み合わせ授業設計を行う。
13回	授業内容：ICT機器を活用した新しい学習法。 事前学修：メディア授業を試聴しレポートを用意する。 事後学修：新しい時代のメディア教材や、その功罪についてレポートをまとめる。
14回	授業内容：教材研究・教育評価の方法。 事前学修：これまでの授業内容について、自身でまとめる（授業で使用する）。 事後学修：逆向きの設計から「自身の科目で習得する力」を設定。
15回	授業内容：「主体的・対話的で深い学び」の構成方法。 事前学修：最終講義の課題について、自身で資料を集め、まとめておく。 事後学修：様々な授業形態により授業をデザインできるようトレーニングを継続する。

◆**教科書** 〔当日資料配布〕

◆**参考書** 〔教材〕『教育の方法・技術論 T21700』通信教育教材（教材コード000341）
学習指導要領

◆**成績評価基準** この授業の評価は、授業への参加（グループ学習含む）、提出物・課題、試験成績の総合的評価とする。出席状況の悪いもの、課題未提出の場合は評価を行わない。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

【金曜日】

時限	講座コード	開講講座名	担当講師名	単開 位 数講	充 当 科 目		制 限・注 意			受オ ー プ ン 講		
					科 目 コ ー ド	科 目 名	併 用	配 当 学 年	受 講 条 件			
1 時 限	AE11	英 語 Q	大庭 香江	1	C10100	英 語 I	×	1年	・ I～IVのいずれに該当させるのか 充当科目コードを必ず記入してください。			
					C10200	英 語 II						
					C10300	英 語 III		2年				
					C10400	英 語 IV						
	AE12	イギリス文学史Ⅱ	猪野 恵也	2	N30100	イギリス文学史Ⅱ	×	2年				
	AE13	東洋思想史Ⅰ	本間 直人	2	P20300	東洋思想史Ⅰ	×	条件参照			・ 哲学専攻のみ1学年以上 申込可。 ・ 上記以外は2学年以上 申込可。	×
	AE14	西洋史入門	高草木 邦人	2	Q20300	西洋史入門	×	条件参照			・ 史学専攻のみ1学年以上 申込可。 ・ 上記以外は2学年以上 申込可。	
AE15	日本史概説/ 日本史概論	鍋本 由徳	2	Q30200	日本史概説	×	2年	・ 法学部のみ申込可。				
				K32200	日本史概論			・ 文理/経済/商学部のみ 申込可。				
AE16	経営学A	山田 敏之	2	S20200	経営学	×	条件参照	・ 商学部のみ1学年以上 申込可。 ・ 上記以外は2学年以上 申込可。				
2 時 限	AE21	経済学B	谷川 孝美	2	B11800	経済学	×	1年				
	AE22	英語基礎C	大庭 香江	1	C10600	英語基礎	×	1年	・ 文学専攻(英文学)は 申込不可。			
	AE23	フランス語Ⅰ・Ⅱ	大庭 克夫	1	E10100	フランス語Ⅰ	×	1年	・ I, IIのいずれに該当 させるのか充当科目 コードを必ず記入 してください。			
					E10200	フランス語Ⅱ						
	AE24	英語学演習	小澤 賢司	1	N401S0	英語学演習Ⅰ	×	3年	・ 文学専攻(英文学)のみ 申込可。 ・ I～Ⅲのいずれに 該当させるのか 充当科目コード を必ず記入 してください。			
N402S0					英語学演習Ⅱ							
N403S0					英語学演習Ⅲ							
AE25	西洋思想史Ⅰ	関谷 雄磨	2	P20200	西洋思想史Ⅰ	×	条件参照	・ 哲学専攻のみ1学年以上 申込可。 ・ 上記以外は2学年以上 申込可。				

注意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。
その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

【金曜日】

時限	講座 コード	開講講座名	担当講師名	単開 位 数講	充 当 科 目		制 限 ・ 注 意			受オ ー プ ン 講
					科 目 コード	科 目 名	併 用	配 当 学 年	受 講 条 件	
3 時 限	AE31	英 語 R	石 川 勝	1	C10100	英 語 I	×	1年	・ I～IVのいずれに該当させるのか 充当科目コードを必ず記入してください。	
					C10200	英 語 II				
					C10300	英 語 III				
					C10400	英 語 IV				
	AE32	政治学原論	吉野 篤	2	L20100	政治学原論	×	条件参照	・ 政治経済学科のみ1学年以上 申込可。 ・ 上記以外は2学年以上 申込可。	
AE33	国文学講義V (近代)	榎本 正樹	2	M30900	国文学講義V (近代)	×	2年			
AE34	英 作 文 II	大庭 香江	2	N30500	英 作 文 II	×	2年	・ スクーリング1回の合格 で単位完成する科目です。		
AE35	哲学基礎講読	石井 友人	2	P20100	哲学基礎講読	×	条件参照	・ 哲学専攻のみ1学年以上 申込可。 ・ 上記以外は2学年以上 申込可。		
4 時 限	AE41	哲 学 C	中澤 瞳	2	B10700	哲 学	×	1年		
	AE42	ドイツ語I・II	中島 伸	1	D10100	ドイツ語I	×	1年	・ I, IIのいずれに該当させる のか充当科目コードを必ず 記入してください。	
					D10200	ドイツ語II				
	AE43	国文学概論	山崎 泉	2	M20200	国文学概論	×	条件参照	・ 文学専攻(国文学)のみ 1学年以上申込可。 ・ 上記以外は2学年以上 申込可。	
	AE44	宗教学概論	合田 秀行	2	P30400	宗教学概論	×	2年		
	AE45	商 業 史	竹内 真人	2	S32100	商 業 史	×	2年		×
	AE46	市場調査論	最上 健児	2	S317S0	市場調査論	×	2年		
AE47	経営学B	所 伸之	2	S20200	経 営 学	×	条件参照	・ 商学部のみ1学年以上 申込可。 ・ 上記以外は2学年以上 申込可。		
5 時 限	AE51	社会学B	服部 慶亘	2	B11600	社 会 学	×	1年		
	AE52	日本史特講I	坂口 太助	2	Q30800	日本史特講I	×	2年		
	AE53	商業政策	花田 哲郎	2	S31000	商 業 政 策	×	2年		
	AE54	簿記論I	青木 隆	2	S20300	簿記論I	×	条件参照	・ 商学部のみ1学年以上 申込可。 ・ 上記以外は2学年以上 申込可。	×

注意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。

その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔英語 Q〕☆☆☆

大庭 香江

◆**授業概要** 西洋名がの背後にある制作過程や画家の人生を、平易な英文で読み解いていきます。食べ物や食事の情景が描かれた 14 の絵画を取り上げます。

◆**学修到達目標** テキストの英文を通じて異文化に触れ、何を、いかに伝えるか、英語で豊かな情報発信が出来るようになることを目標とします。

◆**授業方法** 専門用語は多くはありませんが、絵画に関連する用語が本文中に含まれますので、事前に訳を作っておくことが推奨されます。授業では文法事項等を解説しながら、精読し、関連した内容の会話練習を行います。

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容 事前学修 事後学修	フェルメール『牛乳を注ぐ女』について読む テキストの復習問題を全て解いておくこと。特に、リスニング問題は繰り返し聞いておくこと。次回授業時に答え合わせと解説、会話練習を行う。
2 回	授業内容 事前学修 事後学修	ミレー『パンを焼く農婦』 註を参考に、本文を訳しておくこと テキストの復習問題を全て解いておくこと。特に、リスニング問題は繰り返し聞いておくこと。次回授業時に答え合わせと解説、会話練習を行う。
3 回	授業内容 事前学修 事後学修	ゴッホ『じゃがいもを食べる人々』 註を参考に、本文を訳しておくこと テキストの復習問題を全て解いておくこと。特に、リスニング問題は繰り返し聞いておくこと。次回授業時に答え合わせと解説、会話練習を行う。
4 回	授業内容 事前学修 事後学修	ゴーヤン『我々はどこから来たのか、我々は何者なのか、』 註を参考に、本文を訳しておくこと テキストの復習問題を全て解いておくこと。特に、リスニング問題は繰り返し聞いておくこと。次回授業時に答え合わせと解説、会話練習を行う。
5 回	授業内容 事前学修 事後学修	カラヴァッジョ『エマオの晩餐』 註を参考に、本文を訳しておくこと テキストの復習問題を全て解いておくこと。特に、リスニング問題は繰り返し聞いておくこと。次回授業時に答え合わせと解説、会話練習を行う。
6 回	授業内容 事前学修 事後学修	シャルダン『食前の祈り』 註を参考に、本文を訳しておくこと テキストの復習問題を全て解いておくこと。特に、リスニング問題は繰り返し聞いておくこと。次回授業時に答え合わせと解説、会話練習を行う。
7 回	授業内容 事前学修 事後学修	リオタール『チョコレートを運ぶ娘』 註を参考に、本文を訳しておくこと テキストの復習問題を全て解いておくこと。特に、リスニング問題は繰り返し聞いておくこと。次回授業時に答え合わせと解説、会話練習を行う。
8 回	授業内容 事前学修 事後学修	マネ『草上の昼食』 註を参考に、本文を訳しておくこと テキストの復習問題を全て解いておくこと。特に、リスニング問題は繰り返し聞いておくこと。次回授業時に答え合わせと解説、会話練習を行う。
9 回	授業内容 事前学修 事後学修	ルノワール『舟遊びをする人々の昼食』 註を参考に、本文を訳しておくこと テキストの復習問題を全て解いておくこと。特に、リスニング問題は繰り返し聞いておくこと。次回授業時に答え合わせと解説、会話練習を行う。
10 回	授業内容 事前学修 事後学修	歌川国芳『園中八撰花』 註を参考に、本文を訳しておくこと テキストの復習問題を全て解いておくこと。特に、リスニング問題は繰り返し聞いておくこと。次回授業時に答え合わせと解説、会話練習を行う。
11 回	授業内容 事前学修 事後学修	ミュシャ『ビスケット・ルフェーブル=ユティル』 註を参考に、本文を訳しておくこと テキストの復習問題を全て解いておくこと。特に、リスニング問題は繰り返し聞いておくこと。次回授業時に答え合わせと解説、会話練習を行う。
12 回	授業内容 事前学修 事後学修	シャガール『誕生日』 註を参考に、本文を訳しておくこと テキストの復習問題を全て解いておくこと。特に、リスニング問題は繰り返し聞いておくこと。次回授業時に答え合わせと解説、会話練習を行う。
13 回	授業内容 事前学修 事後学修	ホッパー『夜更かしの人々』 註を参考に、本文を訳しておくこと テキストの復習問題を全て解いておくこと。特に、リスニング問題は繰り返し聞いておくこと。次回授業時に答え合わせと解説、会話練習を行う。
14 回	授業内容 事前学修 事後学修	ウォーホル『キャンベルのスープ缶』 註を参考に、本文を訳しておくこと テキストの復習問題を全て解いておくこと。特に、リスニング問題は繰り返し聞いておくこと。次回授業時に答え合わせと解説、会話練習を行う。
15 回	授業内容 事前学修 事後学修	テスト及びまとめ 第 14 回迄に学習した内容を復習しておくこと 全ての学習内容を、再度復習しておくこと

◆**教科書** 丸沼『絵画を彩る食文化』 Josh Norman 他著 朝日出版社

◆**参考書** なし

◆**成績評価基準** 評価は試験で行いますが、出席、授業参画度が前提となります。予習復習が行われているかどうかを、授業時に確認します。

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔イギリス文学史Ⅱ〕

猪野 恵也

- ◆**授業概要** 18世紀からヴィクトリア朝末期までの代表的な作家及び作品を紹介し、考察する。時と場所があまりにも違うので作品鑑賞に必要な想像力を育むために映画化された作品を一部観ていく。
- ◆**学修到達目標** 1. 時代における代表的な作家と作品について知り、触れることができる。2. 英文の抜粋を少し読むので様々な文体の英語に触れることができる。3. 作品の解釈の仕方を知ることができる。
- ◆**授業方法** プリントを用いて(枚数多し)時代背景、各作家の生涯及び代表的な作品に触れ、作品を一つ選択し、読んでいく。最後に感想を書いてもらい、次の授業で一部を紹介する。
- ◆**履修条件** 前期のみの受講、後期のみの受講も可能だが、学修効果を上げるため、前期・後期の連続受講が望ましい。
- ◆**授業計画 (各 90 分)**

1回	授業内容: 18世紀のイギリス文学概観 事前学修: イギリス文学史において18世紀イギリス文学史を学修する。 事後学修: 授業で紹介した作品群を原文で読む。
2回	授業内容: WordsworthとColeridge 事前学修: イギリス文学史においてロマン派詩人を学修しておく。 事後学修: WordsworthとColeridgeによる詩を原文で精読する。
3回	授業内容: John Keatsについて 事前学修: Keatsは代表的なロマン派詩人なのでよく学修しておく。 事後学修: John Keatsの詩を原文で精読する。
4回	授業内容: Jane Austen及びPride and Prejudice (1813) 事前学修: イギリス文学史においてJane Austenについて学修しておく。 事後学修: Pride and Prejudice (1813)を原文で読む。
5回	授業内容: Charlotte Bronte及びJane Eyre (1847) 事前学修: イギリス文学史においてCharlotte Bronteについて学修しておく。 事後学修: Jane Eyre (1847)を原文で読む。
6回	授業内容: Emily Bronte及びWuthering Heights (1847) 事前学修: イギリス文学史においてEmily Bronteについて学修しておく。 事後学修: Wuthering Heights (1847)を原文で読む。
7回	授業内容: Charles Dickens及びOliver Twist (1838) 事前学修: イギリス文学史においてCharles Dickensについて学修しておく。 事後学修: Oliver Twist (1838)を原文で読む。
8回	授業内容: Thackeray及びVanity Fair (1847-1848) 事前学修: イギリス文学史においてThackerayについて学修しておく。 事後学修: Vanity Fairを原文で読む。
9回	授業内容: George Eliot及びMiddlemarch (1871-1872) 事前学修: イギリス文学史においてGeorge Eliotについて学修しておく。 事後学修: Middlemarchを原文で読む。
10回	授業内容: George Meredith及びThe Egoist (1879) 事前学修: イギリス文学史においてGeorge Meredithについて学修しておく。 事後学修: The Egoistの英語は難解だが読む価値はじゅうぶんあるので原文で読む。
11回	授業内容: Thomas Hardy及びTess (1891) 事前学修: イギリス文学史においてThomas Hardyについて学修しておく。 事後学修: Tessを原文で読む。
12回	授業内容: Henry James及びThe Portrait of a Lady (1881) 事前学修: イギリス文学史においてHenry Jamesについて学修しておく。 事後学修: The Portrait of a Ladyを原文で読む。
13回	授業内容: Joseph Conrad及びHeart of Darkness (1902) 事前学修: イギリス文学史においてJoseph Conradについて学修しておく。 事後学修: Heart of Darknessを原文で読み、フランシス・コッポラ監督の「地獄の黙示録」を観る。
14回	授業内容: Oscar Wilde及びThe Picture of Dorian Grey (1890) 事前学修: イギリス文学史においてOscar Wildeについて学修しておく。 事後学修: The Picture of Dorian Greyを原文で読む。
15回	授業内容: 試験 事前学修: 今までの授業内容をじゅうぶん時間をかけて復習する。 事後学修: イギリス文学史を改めて読み、再読したい作品や読んでいない作品を読む。

- ◆**教科書** [当日資料配布] プリントを当日配布する。
[丸函] 『イギリス文学史』川崎寿彦著 成美堂
- ◆**参考書** 授業中指示する。
- ◆**成績評価基準** 試験(70%) 授業への取り組み等(30%) 毎回出席することを前提として評価します。

注意 E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔東洋思想史Ⅰ〕 オープン受講：不可

本間 直人

- ◆**授業概要** 中国古代の哲学思想について概観します。授業で取り上げる書物は、中国古代の哲学思想において、極めて重要な思想を展開しています。また、それぞれの哲学思想相互の内容的なつながりに留意しつつ、それぞれの哲学思想の特質を理解できることを心掛けます。
- ◆**学修到達目標** 中国古代の哲学思想を概観しながら、孔子、孟子、墨子の思想を中心に理解を深めることを目指します。中国古代の哲学者・思想家たちの言葉は国を超え、時代を超え、現代を生きる我々に、生きる上でのヒントを与えてくれることでしょう。さらに、研究の意義、必要性などの習得も目標とします。
- ◆**授業方法** 中国古代の哲学者・思想家たち、それぞれの哲学思想の特質をつかむことに留意しながら、発表形式で授業を行います。また、レポートのまとめ方についても指導します。授業は漢文の講読を含みますが、漢文に慣れ親しんでいない場合をも考慮し、無理のないように進めていきます。本授業の事前学修・事後学修の時間は各 2 時間を目安としています。
- ◆**履修条件** 令和元年度昼間スクーリング（前期）「東洋思想史Ⅰ」との積み重ね不可。前期のみの受講、後期のみの受講も可能だが、学修効果を上げるため、前期・後期の連続受講が望ましい。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容：ガイダンス（研究の意義、必要性）、東洋思想史とは何か 事前学修：テキストの「はじめに」の部分をよく読んでおくこと。 事後学修：テキストを再読し、配布された資料とノートをよく見直しておくこと。
2 回	授業内容：孔子の思想について（人物・生涯） 事前学修：テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修：テキストを再読し、配布された資料とノートをよく見直しておくこと。
3 回	授業内容：孔子の思想について（『論語』） 事前学修：テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修：テキストを再読し、配布された資料とノートをよく見直しておくこと。
4 回	授業内容：孔子の思想について（宗教観、殷周革命） 事前学修：テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修：テキストを再読し、配布された資料とノートをよく見直しておくこと。
5 回	授業内容：孔子の思想について（宗教観、『論語』） 事前学修：テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修：テキストを再読し、配布された資料とノートをよく見直しておくこと。
6 回	授業内容：孔子の思想について（儒教） 事前学修：テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修：テキストを再読し、配布された資料とノートをよく見直しておくこと。
7 回	授業内容：孔子の思想について（『詩経』） 事前学修：テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修：テキストを再読し、配布された資料とノートをよく見直しておくこと。
8 回	授業内容：孔子の思想について（運命観） 事前学修：テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修：テキスト、ノート、プリントなどで、孔子の思想についてまとめておくこと。
9 回	授業内容：孟子の思想について（人物・生涯） 事前学修：テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修：テキストを再読し、配布された資料とノートをよく見直しておくこと。
10 回	授業内容：孟子の思想について（人性論） 事前学修：テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修：テキストを再読し、配布された資料とノートをよく見直しておくこと。
11 回	授業内容：孟子の思想について（運命論） 事前学修：テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修：テキスト、ノート、プリントなどで、孟子の思想についてまとめておくこと。
12 回	授業内容：墨子の思想について（人物・年代） 事前学修：テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修：テキストを再読し、配布された資料とノートをよく見直しておくこと。
13 回	授業内容：墨子の思想について（非命説） 事前学修：テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修：テキストを再読し、配布された資料とノートをよく見直しておくこと。
14 回	授業内容：墨子の思想について（〈天〉と〈命〉） 事前学修：テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修：テキスト、ノート、プリントなどで、墨子の思想についてまとめておくこと。
15 回	授業内容：試験及び解説 事前学修：これまでにまとめた、孔子の思想、孟子の思想、墨子の思想について再確認すること。 事後学修：改めて、東洋思想史を学ぶ意義について考えてみる。

- ◆**教科書** 教材『東洋思想史Ⅰ P 20300』通信教育教材（教材コード 000392）
〔当日資料配布〕当日プリント配布 漢和辞典を用意してください。
- ◆**参考書** なし
- ◆**成績評価基準** 授業への取り組み（発表など）・レポート・テストにより総合的に評価します。

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

(西洋史入門)

高草木 邦人

◆**授業概要** 本科目では、西洋の地理的特徴を踏まえながら、①「外国史 (西洋史)」学修の意義、②原始・古代から現代に至る史実や解釈への様々なアプローチ、③資料を使った「外国史 (西洋史)」学修と研究方法の知識の習得を通じて、「外国史 (西洋史)」研究に対する知識や態度を身につけます。

◆**学修到達目標** 本講義は、西洋史を学ぶ上で必要とされる知識と技術の基礎を学習します。本講義の学習により、受講生は自立的に西洋史を研究するためのスタート地点に立つことができます。前期においては、近代西洋において発展してきた「歴史学」の特質とこの学問への接近方法について学習します。なお、前期と後期は内容が異なりますので、半期のみ受講も可能ですが、学習効果をあげるためには、前期・後期の連続受講が望ましいです。

◆**授業方法** 本講義は、基本的に講義形式をとりますが、演習的な要素も盛り込んでいきます。具体的には、研究文献や史料の講読、授業内のレポート作成、学習した知識・技術の実践などを予定しています。また、学習した内容の理解度を高めるために、各講義の最後にリアクション・ペーパーを作成してもらいます。リアクション・ペーパーのフィードバックは次の回で回答します。なお、受講者の人数とその理解度に応じて、下記の授業計画を若干修正することがあります。

◆授業計画 (各 90 分)

1回	授業内容：ガイダンス：歴史学とは何か？ 事前学修：高等学校の世界史の教科書を復習しておくこと 事後学修：復習用プリントを使い、講義の復習をしておくこと
2回	授業内容：歴史学の叙述①：歴史の父ヘロドトスと歴史叙述 事前学修：予習用プリントを使い、講義の予習をしておくこと 事後学修：復習用プリントを使い、講義の復習をしておくこと
3回	授業内容：歴史学の叙述②：歴史学と歴史小説との違い 事前学修：予習用プリントを使い、講義の予習をしておくこと 事後学修：復習用プリントを使い、講義の復習をしておくこと
4回	授業内容：歴史学の叙述③：ホロコーストに関する学説論争 事前学修：予習用プリントを使い、講義の予習をしておくこと 事後学修：復習用プリントを使い、講義の復習をしておくこと
5回	授業内容：歴史学の根拠①：近代歴史学の父ランケと実証史学 事前学修：予習用プリントを使い、講義の予習をしておくこと 事後学修：復習用プリントを使い、講義の復習をしておくこと
6回	授業内容：歴史学の根拠②：歴史学における史料の意義 事前学修：予習用プリントを使い、講義の予習をしておくこと 事後学修：復習用プリントを使い、講義の復習をしておくこと
7回	授業内容：歴史学の根拠③：アレクサンドロス大王の歴史に関する史料 事前学修：予習用プリントを使い、講義の予習をしておくこと 事後学修：復習用プリントを使い、講義の復習をしておくこと
8回	授業内容：歴史学の客観性①：E. H. カーク「歴史とは何か」における客観性 事前学修：予習用プリントを使い、講義の予習をしておくこと 事後学修：復習用プリントを使い、講義の復習をしておくこと
9回	授業内容：歴史学の客観性②：歴史学における事実と解釈 事前学修：予習用プリントを使い、講義の予習をしておくこと 事後学修：復習用プリントを使い、講義の復習をしておくこと
10回	授業内容：歴史学の客観性③：フランス革命の研究史 事前学修：予習用プリントを使い、講義の予習をしておくこと 事後学修：復習用プリントを使い、講義の復習をしておくこと
11回	授業内容：歴史学の有用性①：戦後日本における大塚史学 事前学修：予習用プリントを使い、講義の予習をしておくこと 事後学修：復習用プリントを使い、講義の復習をしておくこと
12回	授業内容：歴史学の有用性②：暹塚忠躬『史学概論』における「歴史学の効用」 事前学修：予習用プリントを使い、講義の予習をしておくこと 事後学修：復習用プリントを使い、講義の復習をしておくこと
13回	授業内容：歴史学の有用性③：日本における西洋史学 事前学修：予習用プリントを使い、講義の予習をしておくこと 事後学修：復習用プリントを使い、講義の復習をしておくこと
14回	授業内容：西洋史研究のテーマと問題設定 事前学修：予習用プリントを使い、講義の予習をしておくこと 事後学修：復習用プリントを使い、講義の復習をしておくこと
15回	授業内容：試験及び解説 事前学修：本講義で配布したプリント・資料などを使い、講義全体を復習しておくこと 事後学修：本講義の内容を確認・理解して、歴史学の研究書や論文を講読すること

◆**教科書** [当日資料配布] 講義では、プリントを配布します。

◆**参考書** [丸沼] 下田淳『歴史学「外」論—いかに考え、どう書くか』青木書店、2005年

[通材] 「史学概論 Q30100」

[丸沼] 中谷功治『歴史を冒険するために』関西学院大学出版会、2008年

◆**成績評価基準** 成績の評価基準は、試験 (60%)、授業への参画度 (40%) です。参画度は、授業中に配布するリアクション・ペーパー、授業中におこなうレポート、そして授業態度などを参考に評価します。なお、毎回出席していることを前提として評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔日本史概説 / 日本史概論〕

鍋本 由徳

◆**授業概要** 本科目では、①「日本史」とは何か、②原始・古代～現代までの歴史の変遷、③「歴史事実」の多様性への理解などを、世界のなかでの日本を意識しながら学び、「日本史」全体を考える技術と態度の修得をめざします。政治や経済の内容を中心に据えながら、社会や文化の背景への理解を深めます。また、史料専門調査員としての経験を活かし、各時代の史料を使った歴史復原や意義付けの方法について指導します。

◆**学修到達目標** 1. 日本史を知るため、全時代を通じた時代の流れを説明できるようにする。
2. 各時代の主なできごとの背景や意義、着眼点について説明できるようにする。
3. 各時代の歴史事実を裏づける歴史資料の読解や歴史学的考察の成果を理解できるようにする。
4. 将来卒業論文を書く、あるいは教壇に立つ者としての必要な知識と姿勢を身につける。

◆**授業方法** 適宜高等学校の日本史Bの教科書内容、スクリーン投影資料、音声・映像資料、文献資料の原本、デジタル・アーカイブズなどを併用しながら、教科書の内容を掘り下げ、プリント内容を説明します。各回終了前に理解度チェック（小テスト）と理解度自己評価をおこない、次回授業の冒頭でテストと自己評価を踏まえて講評します。なお、授業計画は「予定」であり、変更する場合があります。

◆**履修条件** 令和元年度昼間スクーリング（前期）・令和元年度夜間スクーリング（春期）「日本史概説」修得済の学生は積み重ね不可

◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容 日本史概説の特性と学びの意味 事前学修 シラバスを熟読し、講義全体の流れをおさえておく。 事後学修 各回の意図を振り返り、今後の自身の学修目標を立てる。
2回	授業内容 先史時代の特徴 ～旧石器から弥生時代～ 事前学修 教科書の先史時代の範囲を読み、事前シートに取り組み。 事後学修 ノートと教科書を見返し、概説書を使って自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
3回	授業内容 ヤマト王権 ～倭王武から推古朝～ 事前学修 教科書の古墳～飛鳥時代の範囲を読み、事前シートに取り組み。 事後学修 ノートと教科書を見返し、概説書を使って自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
4回	授業内容 奈良時代の政治 ～政争～ 事前学修 教科書の奈良時代政治史の範囲を読み、事前シートに取り組み。 事後学修 ノートと教科書を見返し、概説書を使って自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
5回	授業内容 平安時代の政治 ～遷都と聖俗～ 事前学修 教科書の平安時代政治史を読み、事前シートに取り組み。 事後学修 ノートと教科書を見返し、概説書を使って自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
6回	授業内容 鎌倉幕府の成立 ～東国王権と西国王権～ 事前学修 教科書の鎌倉時代政治史の範囲を読み、事前シートに取り組み。 事後学修 ノートと教科書を見返し、概説書を使って自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
7回	授業内容 室町幕府の特徴 ～建武新政から観応の擾乱～ 事前学修 教科書の室町時代政治史の範囲を読み、事前シートに取り組み。 事後学修 ノートと教科書を見返し、概説書を使って自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
8回	授業内容 戦国時代の様相 ～統一政権への布石～ 事前学修 教科書の戦国・織田政権の範囲を読み、事前シートに取り組み。 事後学修 ノートと教科書を見返し、概説書を使って自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
9回	授業内容 天下統一と徳川政権 ～朝廷との関係～ 事前学修 教科書の近世朝廷に関わる範囲を読み、事前シートに取り組み。 事後学修 ノートと教科書を見返し、概説書を使って自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
10回	授業内容 明治新政府の施政方針 ～江戸幕府の遺制～ 事前学修 教科書の幕末維新期の範囲を読み、事前シートに取り組み。 事後学修 ノートと教科書を見返し、概説書を使って自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
11回	授業内容 条約改正問題と帝国議会 ～成果と課題～ 事前学修 教科書の幕末開国と条約改正の範囲を読み、事前シートに取り組み。 事後学修 ノートと教科書を見返し、概説書を使って自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
12回	授業内容 大正デモクラシー ～政変と普選～ 事前学修 教科書の大正政変に関わる範囲を読み、事前シートに取り組み。 事後学修 ノートと教科書を見返し、概説書を使って自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
13回	授業内容 太平洋戦争と国際関係 ～日本の対米英意識～ 事前学修 教科書の昭和外交と太平洋戦争の範囲を読み、事前シートに取り組み。 事後学修 ノートと教科書を見返し、概説書を使って自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
14回	授業内容 戦後日本の歩み ～戦後改革と歴史学～ 事前学修 教科書の戦後改革の範囲を読み、事前シートの課題に取り組み。 事後学修 ノートと教科書を見返し、概説書を使って自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
15回	授業内容 講義総括 日本史概説の振り返りと今後の課題 事前学修 第1回から第14回の学修内容の要点をまとめておく。 事後学修 当日配付されたプリントから自身の弱点を知り、重点復習箇所を確認する。

◆**教科書** 教材 『日本史概説 / 日本史概論 Q30200 / K32200』 通信教育教材（教材コード 000382）
〔当日資料配布〕 参照プリントを1～2枚配付

◆**参考書** 〔当日資料配布〕 配布プリントで適宜紹介します

◆**成績評価基準** 授業内提出レポート（60%）、授業内小テスト（30%）、授業への参画度（10%）の総合評価
※15回全出席を前提とした評価です。

注意 E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔経営学 A〕

山田 敏之

◆**授業概要** 企業は我々の生活と密接に結びつく必要不可欠な存在です。本講義では、経営学の全体像と基礎的な考え方・方法論の解明に焦点を当てます。前期は企業の基本的目的や仕組み、本質的活動、経営学の特徴と発展、モチベーション、リーダーシップ、チーム・マネジメント等のテーマを取り上げます。財団法人機械振興協会経済研究所での調査研究の経験を基に、経営学の理論の理解を深めるため、具体例を用いて講義に反映させていきます。

◆**学修到達目標** 1. 新聞、雑誌、ニュース等で扱われる現実の企業行動を経営学の多角的な視点から分析し、自分の言葉で説明しながら、討議できる。
2. 企業活動の本質を理解した上で、現代企業が直面する諸課題について分析し、自分の言葉で説明しながら、討議できる。
3. モチベーション、リーダーシップ、チーム・マネジメント等の理論や手法を用いて、個人の創造性発揮、チーム業績への貢献等の問題を分析し、自分の言葉で説明しながら、討議できる。

◆**授業方法** 概ね指定したテキストに従い、黒板での板書による講義形式の授業を行います。具体的な企業経営の事例やグラフ等の関連資料については配布資料等を使用します。理論の説明と事例を組み合わせることで、より実践性の高い内容にしていきたいと思っております。なお、講義の終了前に、その日の講義の内容あるいは経営の時事的な問題に関する小テストを数回実施します。本授業の事前学修・事後学修の時間は各2時間を目安としています。

◆**履修条件** 昼間スクーリング(前期)「経営学B」との積み重ね不可。

◆**授業計画 (各90分)**

1回	授業内容 事前学修 事後学修	イントロダクション：授業の進め方、評価、経営学とは何か？まずは、本授業の進め方や評価方法等について説明する。次に、経営学とはどのような学問なのか、何を知ることができるのか、等について解説する。 テキスト13～17頁の「企業を対象とする学」をよく読んでおくこと。 授業内容をノートにまとめ、テキストの該当部分を復習し、授業内容を理解しておくこと。
2回	授業内容 事前学修 事後学修	企業の誕生と形態(タイプ) 企業の誕生を歴史的に振り返ると同時に、様々な企業形態の特徴について説明する。 テキスト20～28頁を読み「組織としての企業」の性質を把握しておくこと。 配布資料によって、企業の様々な形態と特質を理解しておくこと。
3回	授業内容 事前学修 事後学修	企業の本質的活動と社会的責任 企業の基本的な目的及び本質的活動としてイノベーションの活動を説明し、その基盤となる企業の社会的責任の本質について解説する。 前回配布資料により、多様なステークホルダーについて理解しておくこと。 配布資料の内容をノートにまとめると共に、企業の社会的責任に関する具体的な事例を調べておくこと。
4回	授業内容 事前学修 事後学修	現代企業を取り巻く環境 現代企業を取り巻くマクロ環境について、経済要因、社会的要因、政治・法的要因、技術的要因の4つの観点から説明する。 企業を取り巻くマクロ環境について、具体的な事例を探しておくこと。 授業の内容をノートに整理し、企業を取り巻く4つのマクロ環境の現代的な特徴について確認しておくこと。
5回	授業内容 事前学修 事後学修	企業の仕組みと運営機関：コーポレート・ガバナンス 株式会社の仕組みと運営のための機関(株主総会、取締役会、監査役会等)について解説し、コーポレート・ガバナンスのあり方を議論する。 前回の授業のノートを確認し、配布資料に目を通しておくこと。 授業の内容をノートに整理し、株式会社の仕組みや運営機関について理解すると同時に、最近のコーポレート・ガバナンスにおける実際の企業の事例を探し問題点を説明できるようにしておくこと。
6回	授業内容 事前学修 事後学修	経営者の仕事と役割 経営トップに固有な仕事とは何か、という点を踏まえた上で、伝統的な経営トップの役割と現代的な経営トップの役割の違いについて解説する。 前回の授業のノートを確認し、配布資料に目を通しておくこと。 授業の内容をノートに整理し、経営トップにしかできない仕事とは何か、伝統的な経営トップと現代的な経営トップの役割の違いを説明できるようにしておくこと。
7回	授業内容 事前学修 事後学修	経営学理論の歴史の変遷 経営学理論の発展について、テイラーの科学的管理法、ホーソン実験、人間関係論、バーナード・サイモンの近代組織理論を中心に概説する。 前回の授業のノートを確認し、配布資料に目を通しておくこと。 授業の内容をノートに整理し、経営学の古典的な理論の流れと視点の移行について理解しておくこと。さらに、現代企業の経営において実際に使える部分とそうでない部分を議論できるようにしておくこと。
8回	授業内容 事前学修 事後学修	モチベーションの基礎的概念とコンテント理論 モチベーションの定義、構成要素、研究の発展を踏まえ、コンテント理論として、欲求階層説、X-Y論、二要因理論等について解説する。 前回の授業のノートを確認し、テキスト49～58頁をよく読んでおくこと。 授業の内容をノートに整理し、モチベーションの基礎的な概念を理解すると同時にモチベーションのコンテント理論の代表的理論について説明できるようにしておくこと。
9回	授業内容 事前学修 事後学修	モチベーションのプロセス理論 モチベーションのプロセス理論の代表的な理論として、目標管理制度、期待理論を取り上げ、内容、問題点について解説する。 前回の授業のノートを確認し、テキスト59～60頁をよく読むと共に、配布資料に目を通しておくこと。 授業の内容をノートに整理し、目標管理制度と期待理論の概要、問題点等について理解しておくこと。
10回	授業内容 事前学修 事後学修	集団活動の基礎概念 集団(チーム)の定義、タイプ、集団への参加の理由、集団におけるコミュニケーション等、集団活動のマネジメントの基礎的な概念について解説する。 テキスト60～63頁及び68～73頁をよく読んでおくこと。 授業の内容をノートに整理し、集団における活動でパフォーマンスを上げるために必要な基礎的項目について理解しておくこと。
11回	授業内容 事前学修 事後学修	集団の意思決定とダイナミクス 集団の意思決定の特性を個人の意思決定との対比で説明すると共に、集団のダイナミクスとして、集団凝集性、同調圧力、集団浅慮を取り上げ解説する。 前回の授業のノートを確認し、テキスト64～68頁をよく読んでおくことと共に、配布資料にも目を通しておくこと。 授業の内容をノートに整理し、集団の意思決定の特徴、集団のダイナミクスの代表的な例として集団凝集性、同調圧力、集団浅慮とはどのような現象か、具体的な事例を基に説明できるようにしておくこと。
12回	授業内容 事前学修 事後学修	リーダーシップの基礎的概念と資質理論 リーダーシップの定義、リーダーシップの機能、リーダーシップの役割の変化、リーダーシップ研究の変遷等の基礎的な概念の説明を踏まえ、リーダーシップの資質理論の概要と問題点について解説する。 テキスト74～75頁をよく読んでおくことと共に、配布資料にも目を通しておくこと。 授業の内容をノートに整理し、リーダーシップの基礎的な概念及びリーダーシップの資質理論に関する概要と問題点を説明できるようにしておくこと。
13回	授業内容 事前学修 事後学修	リーダーシップの行動理論 リーダーシップの行動理論の代表的な理論として、アイオワ研究、ミシガン研究、オハイオ研究を取り上げ、研究目的、結果、特徴、問題点等について解説する。 前回の授業のノートを確認し、テキスト75～76頁をよく読んでおくことと共に、配布資料にも目を通しておくこと。 授業の内容をノートに整理し、リーダーシップの行動理論としてアイオワ研究、ミシガン研究、オハイオ研究の概要、問題点等を説明できるようにしておくこと。
14回	授業内容 事前学修 事後学修	リーダーシップのコンティンジェンシー理論 リーダーシップのコンティンジェンシー理論の代表的な理論として、フィードラー理論、SL理論、パス・ゴール理論を取り上げ、研究目的、結果、特徴、問題点等について解説する。 前回の授業のノートを確認し、テキスト76～79頁をよく読んでおくことと共に、配布資料にも目を通しておくこと。 授業の内容をノートに整理し、コンティンジェンシー理論としてフィードラー理論、SL理論、パス・ゴール理論の概要、問題点等を説明できるようにしておくこと。
15回	授業内容 事前学修 事後学修	試験及び解説 授業のノート、配布資料を復習し、これまでの学習内容を理解しておくこと。 授業内容を再度確認し、理解し、自己の学習成果を点検すること。

◆**教科書** 丸沼『経営学入門 [上] (第2版)』 榊原清則 日本経済新聞出版社

◆**参考書** 丸沼『経営学イノベーション1 経営学入門 第2版』 十川廣國 中央経済社
丸沼『経営学イノベーション3 経営組織論 第2版』 十川廣國編著 中央経済社
丸沼『経営学イノベーション2 経営戦略論 第2版』 十川廣國編著 中央経済社

◆**成績評価基準** 小テスト(10%)、試験(90%)。毎回出席することを前提として評価します。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔経済学 B〕

谷川 孝美

◆**授業概要** 私たちの日常生活は、景気、雇用、失業、租税、株価など、さまざまな経済に関するニュースであふれています。この講義では、経済学概論などの経済学関連科目の入門および基礎として、市場の動きを中心に、消費者（家計）、企業の行動に関する経済分析について、基本的な事柄や内容および基礎理論を理解し、現代の社会問題について、経済を通して考える基礎を養うことを目的とします。

◆**学修到達目標** 経済学関連の基礎および入門として、ミクロ経済学に関する基本的な事柄や基礎理論に関連する以下のことを目標とする。

1. 経済学の基本的な見方、考え方を理解し、説明できるようになる。
2. 需要、供給および市場の動きを理解し、説明できるようになる。
3. 企業や消費者の行動について経済的な見方の基礎を理解し、説明できるようになる。
4. 情報の非対称性などの不完全市場に対する基本的な考えを理解し、説明できるようになる。

◆**授業方法** 授業計画にそって、パワーポイントを利用した講義形式で行います。講義では基礎的な事柄を中心に、平易な解説をする予定です。講義の進行状況によって授業計画が前後することもあります。なお、ミクロ経済学を中心としますので、マクロ経済学の詳細については取り扱いません。

◆**履修条件** 令和元年、2年昼間スクーリング（前期）『経済学』との積み重ね不可。
前期のみの受講、後期のみの受講も可能だが、学修効果を上げるため、前期・後期の連続受講が望ましい。

◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容	授業の進め方・オリエンテーション・経済学の対象と課題
	事前学修	新聞の経済欄などをよく読み、経済時事問題に注目しておくこと。また、参考書に指定している『スティグリッツ入門経済学第4版』の第1章第1節をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業内で用いられた専門用語や説明を確認し、理解すること。
2回	授業内容	経済学の主要な概念 トレードオフ、インセンティブ、交換
	事前学修	参考書の第1章第1節をよく読んでおくこと。
	事後学修	配付資料や参考書をもとに、授業で説明した専門用語などを確認すること。
3回	授業内容	経済学的な考え方、情報、機会集合、費用
	事前学修	参考書の第2章をよく読んでおくこと。
	事後学修	配付資料や参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
4回	授業内容	経済学におけるミクロ的な見方とマクロの見方
	事前学修	参考書第1章第2、3節をよく読んでおくこと。
	事後学修	配付資料や参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
5回	授業内容	需要と需要曲線
	事前学修	参考書の第3章をよく読んでおくこと。
	事後学修	配付資料や参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
6回	授業内容	供給と供給曲線
	事前学修	参考書の第3章をよく読んでおくこと。また、前回の講義を再確認すること。
	事後学修	配付資料や参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
7回	授業内容	需要と供給の法則、価格、費用、価格弾力性
	事前学修	参考書第4章をよく読んでおくこと。また、第4、5回の講義を再確認すること。
	事後学修	配付資料や参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。また、講義時で紹介する問題を解くこと。
8回	授業内容	市場と効率性、消費者余剰と生産者余剰
	事前学修	参考書第5章をよく読んでおくこと。
	事後学修	配付資料や参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
9回	授業内容	パレート効率性、一般均衡分析
	事前学修	参考書第5章をよく読んでおくこと。また、前回の講義を再確認すること。
	事後学修	配付資料や参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
10回	授業内容	不完全市場と不完全情報
	事前学修	参考書第6章をよく読んでおくこと。
	事後学修	配付資料や参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
11回	授業内容	不完全市場と外部性、公共財
	事前学修	参考書第6章をよく読んでおくこと。また、前回の講義を再確認すること。
	事後学修	配付資料や参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
12回	授業内容	公共部門 政府が経済に入する理由
	事前学修	参考書第7章をよく読んでおくこと。
	事後学修	配付資料や参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
13回	授業内容	政府の失敗
	事前学修	参考書第7章をよく読んでおくこと。また、前回の講義を再確認すること。
	事後学修	配付資料や参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
14回	授業内容	理解度の確認
	事前学修	予め配布された資料を熟読し、内容を確認しておくこと。
	事後学修	配付資料や参考書などで、講義内容をよく確認し理解すること。
15回	授業内容	試験および解説
	事前学修	前回の講義時に説明した内容を良く確認し理解しておくこと。
	事後学修	前期の授業内容を再確認し、理解を深めること。

◆**教科書** 〔当日資料配布〕

◆**参考書** 〔函沼〕『スティグリッツ入門経済学第4版』
ジョセフ・E・スティグリッツ、カール・E・ウォルシュ著、敷下史郎訳、東洋経済新報社、2012年
講義時に適宜紹介します。

◆**成績評価基準** 毎回出席することを前提として、最終試験を中心に授業への取り組み、平常点などにより総合的に評価します。

注意 E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔英語基礎 C〕

大庭 香江

◆**授業概要** 本授業では、英語学修の基礎・基本を学習します。中学校卒業程度の文法事項を、一つ一つ丁寧に解説致します。テキストには、平易な語彙が用いられたポピュラーソングが収録されています。英語に苦手意識を持つ方にも、自然に親しんで頂ける内容となります。今後の英語学習の土台を築くべく、予習復習を怠らず、多くの練習問題を解いて頂きます。

◆**学修到達目標** 曲の歌詞を聞くことで、オーセンティックな、実際に使われる英語に触れ、学習者自身が英語を使えるようになることを目標とします。

◆**授業方法** 毎回品詞を一つ、文法事項を一つ、のペースで進めます。予習復習の仕方について、詳しく指示しますので、毎回事前学習事後学習を必ず行い、授業の理解度を深めて頂きます。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回	授業内容：be 動詞 事前学修：テキスト p. 6 の表を完成させておく 事後学修：テキスト p. 13 の復習問題を解く
2 回	授業内容：一般動詞 (現在形) 事前学修：テキスト p. 14 の表を完成させておく 事後学修：テキスト p. 21 の復習問題を解く
3 回	授業内容：一般動詞 (過去形) 事前学修：テキスト p. 22 の表を完成させておく 事後学修：テキスト p. 29 の復習問題を解く
4 回	授業内容：進行形 事前学修：テキスト p. 30 の表を完成させておく 事後学修：テキスト p. 37 の練習問題を解く
5 回	授業内容：未来形 事前学修：テキスト p. 39 の日本語訳を完成させておく 事後学修：テキスト p. 45 の復習問題を解く
6 回	授業内容：助動詞 事前学修：テキスト p. 47 の日本語訳を完成させておく 事後学修：テキスト p. 53 の復習問題を解く
7 回	授業内容：受動態 事前学修：テキスト p. 55 の表と日本語訳を完成させておく 事後学修：テキスト p. 66 の復習問題を解く
8 回	授業内容：現在完了形 事前学修：テキスト p. 63 の日本語訳を完成させておく 事後学修：テキスト p. 69 の復習問題を解く
9 回	授業内容：比較 事前学修：テキスト p. 71 の表と日本語訳を完成させておく 事後学修：テキスト p. 77 の復習問題を解く
10 回	授業内容：分詞 事前学修：テキスト p. 79 の日本語訳を完成させておく 事後学修：テキスト p. 85 の復習問題を解く
11 回	授業内容：不定詞 事前学修：テキスト p. 87 の日本語訳を完成させておく 事後学修：テキスト p. 93 の復習問題を解く
12 回	授業内容：関係詞 事前学修：テキスト p. 95 の日本語訳を完成させておく 事後学修：テキスト p. 101 の復習問題を解く
13 回	授業内容：接続詞・前置詞 事前学修：テキスト p. 103 の日本語訳を完成させておく 事後学修：テキスト p. 109 の復習問題を解く
14 回	授業内容：動名詞 事前学修：テキスト p. 111 の日本語訳を完成させておく 事後学修：テキスト p. 117 の復習問題を解く
15 回	授業内容：テスト及びまとめ 事前学修：第 14 回迄に学習した内容を復習しておく 事後学修：全ての学習内容を再度復習する

◆**教科書** 丸岡『ポップスでスタート！基礎英語』 角山他著 成美堂

◆**参考書** なし

◆**成績評価基準** 評価は試験で行いますが、前提として、出席、授業への参画度を満たすことが必要となります。予習復習、授業への取り組みがしっかりと行われているかを授業時に確認し、授業への参画度をみます。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔フランス語Ⅰ・Ⅱ〕

大庭 克夫

◆**授業概要** 前期はまず、仏語のアルファベと発音の規則（＝綴り字と発音との関係）をしっかりと習得することから始まり、その後基本的な名詞、冠詞の使い分け、提示の仕方、形容詞の変化、3種類の動詞の活用（＝人称変化）を身に付けて、簡単な文章が作れるようにします。

◆**学修到達目標** 単にフランス語の基礎的な知識の習得に留まらず、将来的なフランス語学習のベースとなる、「発音の規則」「綴り字と発音との関係」を徹底して身に付けます。ただし前期15回の授業が終わった時点でも、きちんと取り組まれた方であれば、英語にすれば中1レベルの内容が、言えて・書けて・聞き取れるようになるはずで。

◆**授業方法** 中学の英語をベースに、基本的な単語、提示の仕方、動詞の人称変化などを学習します。なお授業は<講義形式>ではなく<ゼミ形式>で進めていきます。1回の授業で最低4～5回は当てて答えてもらいます。また当然の話ですが、授業は<説明>することしかできません。仏語習得には授業で習った事柄を、翌週までに徹底してインプットする努力が必要不可欠です（<覚える努力>を伴わない出席は全く無意味です）。

◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容 事前学修 事後学修	フランス語のアルファベ、綴り字と発音との関係1（青色プリント配布） まずはフランス語のアルファベを徹底して覚えること（英語式の「エー」「ビー」「シー」は全く問題外）
2回	授業内容 事前学修 事後学修	綴り字と発音との関係2：青色プリント左側を使って具体例とともに説明します。 青色プリントの左側のページに目を通して頂くこと。 青色プリント左側の具体例の単語を、その「発音」「綴り」「意味」とともに覚える。
3回	授業内容 事前学修 事後学修	綴り字と発音との関係3：母音と母音の特別な組み合わせ（＝「複合母音」）は5種類、これを青色プリントの右側上半分を使って具体例とともに説明します。 青色プリントの右側のページ上段（「複合母音」の部分）に目を通して頂くこと。 5種類の「複合母音」をその具体例とともに徹底して覚えること。
4回	授業内容 事前学修 事後学修	綴り字と発音との関係4：母音と<n>との特別な組み合わせ（＝「鼻母音」）は2種類、これを青色プリントの右側下半分を使って具体例とともに説明します。 青色プリントの右側のページ下段（「鼻母音」の部分）に目を通して頂くこと。 2種類の「鼻母音」をその具体例とともに徹底して覚えること。
5回	授業内容 事前学修 事後学修	B4判10ページから成るプリント集とCDを配布：そのプリントの1P～2P目を説明します。 授業で具体例として挙げた名詞の「発音」「綴り」「意味」「性別」を覚えること。
6回	授業内容 事前学修 事後学修	プリント3P目：3種類の「冠詞」の使い分けをその具体例とともに説明します。 プリント3P目（「不定冠詞」「部分冠詞」「定冠詞」）に目を通して頂くこと。 プリント3P目に具体例として挙げた「名詞」を、「冠詞」とともに覚えること。
7回	授業内容 事前学修 事後学修	プリント4P目：数詞（1～10）と、「前置形容詞」「後置形容詞」の区別をその具体例とともに説明。また次週の「中間試験」のための演習を行います。 プリント4P目（「数詞」「前置形容詞」と「後置形容詞」）に目を通して頂くこと。 プリント4P目に具体例として挙げた単語・表現をしっかりと身に付けること。
8回	授業内容 事前学修 事後学修	前期中間試験 前期中間試験に向け、基本的な「名詞」「形容詞」などをしっかりと身に付けること。 試験終了後「解答」を配布するので、間違えた箇所を各自しっかりフォローすること。
9回	授業内容 事前学修 事後学修	中間試験返却／解説。プリント5P目：「指示形容詞」と「所有形容詞」、3種類の「提示の仕方」を、配布したCDを使いながら説明します。 プリント4P目（「数詞」「前置形容詞」と「後置形容詞」）に目を通して頂くこと。 プリント5P目の内容を、その具体的な用例・例文とともに覚えること。
10回	授業内容 事前学修 事後学修	プリント6P目：「動詞」< être >（＝be動詞）の活用と用例を説明します。 配布したCDを聞きながら、プリント6P目の< être >の活用に目を通すこと。 「動詞」< être >の活用（「肯定形」と「否定形」とその用例を徹底して覚えること。
11回	授業内容 事前学修 事後学修	プリント7P目：「動詞」< avoir >（＝have）の活用と用例を説明します。 配布したCDを聞きながら、プリント7P目の< avoir >の活用に目を通すこと。 「動詞」< avoir >の活用（「肯定形」と「否定形」とその用例を徹底して覚えること。
12回	授業内容 事前学修 事後学修	プリント7P～8P目：「第1群規則動詞」の活用と用例を説明します。 配布したCDを聞きながら、「第1群規則動詞」の活用と用例に目を通すこと。 「第1群規則動詞」の活用と用例をしっかりと覚えること。
13回	授業内容 事前学修 事後学修	プリント9P～10P目：「基本的な前置詞の整理」とヒヤリング演習14題。 10P目の<ヒヤリング演習>用の14題を、自宅でしっかり取り組んで頂くこと。 プリント9P～10P目の内容をしっかりと身に付けること。
14回	授業内容 事前学修 事後学修	前期期末試験 前期期末試験に向け、3種類の動詞の活用・用例などをしっかりと覚えること。 試験終了後「解答」を配布するので、間違えた箇所を各自しっかりフォローすること。
15回	授業内容 事前学修 事後学修	期末試験返却／解説。成績の開示。後期の学習内容を簡単に概括します。 期末試験で間違えた箇所・できなかった箇所を徹底してフォローすること。

◆**教科書** **〔当日資料配布〕** 初回に、フランス語の綴り字と発音との関係を分かりやすくまとめたB4判青色プリントを配布します：初学者にとっては大切なフランス語学習の原点です。

〔当日資料配布〕 5回目授業時に、前期の学習内容をまとめたB4判10Pのプリント（CD付き）を配布します：市販の教科書よりはずっとよくできているという自負はあります。履修が確定したなら、授業時には仏和辞典を必ず1冊用意してください。現在お持ちの方はそれで結構ですが、新しく購入される方には4～5回目の授業時に使いやすいものを何冊か紹介します。

◆**参考書** **〔教材〕** 『フランス語Ⅰ E10100』 通信教育教材（教材コード000372） ※この教材は市販の『新・ゼフィール』E.E.F.L.E.U.K（早美出版社）と同一です。スクーリングの授業レベルを超えて<仏検4級>以上を目指そうとする人には文法面でお薦めです。

〔教材〕 『フランス語Ⅱ E10200』 通信教育教材（教材コード000373） ※この教材は市販の『フランス語基本500語』（財）フランス語教育振興協会（朝日出版社）と同一です。同じく<仏検4級>以上を目指そうとする人には単語面で非常に有用な参考書です〔添えられたイラストがとても可愛い〕。

◆**成績評価基準** 試験は中間と期末の2回行い、成績はこの試験の結果で判定します。なお試験は全問<和文仏訳>と<ヒヤリング形式>（＝原文を書き取ったのち和訳）で出題します。安直な和訳・穴埋め・択一などは出題しません。

注意 E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

【英語学演習】

小澤 賢司

◆**授業概要** 本授業では、「卒業論文」作成の一助となるよう、以下の項目を扱います。

- ①論文とは何かを知る。
- ②進行形の各種用法を知る(文献精読)。
- ③疑問点等を整理する。
- ④受講者同士で意見を交わし合う。
- ⑤進行形にみられる多彩な特徴を体系的に理解する。

◆**学修到達目標** 本授業では、次の能力育成を目指します。

- (a)論文の構成を理解し、説明することができる。
- (b)文献を正確に読み解き、まとめることができる。
- (c)疑問を捻出することができる。
- (d)協働作業(グループワーク)を通して解決策(案)を創出することができる。
- (e)体裁の整った読みやすいレポートを作成することができる。

◆**授業方法** 輪読形式でテキスト(プリント)を読み進めていきます。適宜、受講者を指名します。テキスト(プリント)には、英語で書かれた文献が多数ありますので、事前に精読および適切な(日本語として変ではない)日本語に訳しておいてください。きれいな日本語にすることも重要ですが、書かれている内容の理解をより重視してください。音読はとも重要です。既知の単語でも発音とアクセント(特にアクセント)はしっかり調べ、発音できるようにしておいてください。なお、受講者の様子(理解度)を見ながら授業を進めていきますので、全 15 回の「授業計画」はあくまで「目安」とお考えください。

◆**履修条件** 令和元年(2019年)度夏期スクーリング『英語学演習A』(小澤賢司)とは積み重ね不可。

◆**授業計画(各 90 分)**

1 回	授業内容: ガイダンス(授業概要等の確認、テキスト等の確認、レポートについて、辞書について)、論文とは何かを知る 事前学修: 本授業のシラバスを熟読しておくこと 事後学修: 論文とは何かを正しく理解しておくこと。プリントを読み進めておくこと
2 回	授業内容: 論文を読む(「Will / Can / Would / Could」 you ~? の意味の違い) 事前学修: 「Will / Can / Would / Could」 you ~? の意味の違いについて、手持ちの辞書や文法書などで調べてくること 事後学修: 論文の構成(話の展開や論法)を再度確認しておくこと
3 回	授業内容: (終わっていないければ)論文の続きを読む、進行形の各種用法 事前学修: 0 節および 1 節を精読(和訳)しておくこと 事後学修: 学修した内容を整理し、疑問点を含め、しっかりまとめておくこと
4 回	授業内容: 進行中の状況、状態動詞 be の進行形、思考や知覚を表す状態動詞の進行形 事前学修: ①2.1 節、2.2 節、2.3 節を精読(和訳)しておくこと。② Question 1、2 を考えておくこと 事後学修: ①学修した内容を整理し、疑問点を含め、しっかりまとめておくこと。②第 1 回レポート作成準備
5 回	授業内容: 未完了性 事前学修: ①2.4 節、2.4.1 節を精読(和訳)しておくこと。② Question 3 を考えておくこと 事後学修: ①学修した内容を整理し、疑問点を含め、しっかりまとめておくこと。②第 1 回レポート作成準備
6 回	授業内容: 未来を表す進行形 事前学修: ①2.5 節を精読(和訳)しておくこと。② Question 4 を考えておくこと 事後学修: ①学修した内容を整理し、疑問点を含め、しっかりまとめておくこと。②第 1 回レポート作成準備(次週提出)
7 回	授業内容: 時間幅の付与 事前学修: ①3.1 節、3.1.1 節を精読(和訳)しておくこと。② Question 5、6 を考えておくこと 事後学修: ①学修した内容を整理し、疑問点を含め、しっかりまとめておくこと。②第 2 回レポート作成準備
8 回	授業内容: 時間幅の制限、感情の表出 事前学修: ①3.2 節、3.3 節、3.3.1 節を精読(和訳)しておくこと。② Question 7、8、9 を考えておくこと 事後学修: ①学修した内容を整理し、疑問点を含め、しっかりまとめておくこと。②第 2 回レポート作成準備
9 回	授業内容: 丁寧表現としての進行形、'i'm lovin' it. 事前学修: ①3.4 節、3.5 節を精読(和訳)しておくこと。② Question 10 を考えておくこと 事後学修: ①学修した内容を整理し、疑問点を含め、しっかりまとめておくこと。②第 2 回レポート作成準備(次週提出)
10 回	授業内容: 「時間枠」(temporal frame) 事前学修: 4.1 節、4.2 節、4.3 節、4.4 節を精読(和訳)しておくこと 事後学修: ①学修した内容を整理し、疑問点を含め、しっかりまとめておくこと。②第 3 回レポート作成準備
11 回	授業内容: アスペクトと動詞の種類、状態系動詞 事前学修: 5.1 節、5.2 節、5.2.1 節を精読(和訳)しておくこと 事後学修: ①学修した内容を整理し、疑問点を含め、しっかりまとめておくこと。②第 3 回レポート作成準備
12 回	授業内容: 動態系動詞 その 1 (atelic) 事前学修: 5.2.2 節、5.2.3 節を精読(和訳)しておくこと 事後学修: ①学修した内容を整理し、疑問点を含め、しっかりまとめておくこと。②第 3 回レポート作成準備(次週提出)
13 回	授業内容: 動態系動詞 その 2 (telic)、位置系動詞 事前学修: 5.2.4 節、5.2.5 節を精読(和訳)しておくこと 事後学修: 学修した内容を整理し、疑問点を含め、しっかりまとめておくこと
14 回	授業内容: 試験 1 (持ち込みアリ) およびまとめ 事前学修: これまでの学修内容を復習しておくこと 事後学修: 漏れのある学修内容を確認しておくこと
15 回	授業内容: 試験 2 (持ち込みナシ) とその解説 事前学修: これまでの学修内容をすべて復習しておくこと 事後学修: 卒業論文作成に努めること

◆**教科書** [当日資料配布] プリントを配布します。

◆**参考書** 大学生・社会人向けの辞書を必ず持参してください。2003 年以降に発行された辞書が望ましいです。新しい辞書の購入をお考えの方には授業中にいくつかご紹介いたします。

◆**成績評価基準** 試験 1 (20%)、試験 2 (20%)、授業参画度 (20%)、レポート (40%)
※いわゆる出席点はない。3 分の 2 以上の出席と 2 回以上のレポート提出を前提として総合的に評価する。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔西洋思想史Ⅰ〕

関谷 雄磨

- ◆**授業概要** 「西洋思想史Ⅰ」では、西洋の学問の原点ともいえる古代ギリシア・ローマの思想、およびそれと密接な関連にある中世の思想を歴史的展開に沿って学びます。彼らが一体どのような問題意識を持ち、どのような答えを見出してきたのかを学んでいきます。なお、それらの思想は西洋文化全般の要となる基礎的な教養となっており、それらを学ぶことによって、価値観が多様化する現代を見つめる視座を獲得する一助となるよう心がけます。
- ◆**学修到達目標** 「ギリシア神話」や「英雄物語」を通じてギリシア人の思考の文化的背景を学んだ後に、古代ギリシアの思想（古典期まで）を、主に「存在」の問題を軸に歴史的展開に沿って学びます。「自己をとりまく世界は一体どのようなものになっているのか」、「世界には一体何が存在するのか」、「存在するとは一体どのようなことなのか」といった問題に対して、彼らがどのような答えを見出してきたのかを体系的に理解できるようになることを目標とします。
- ◆**授業方法** 授業は配布プリントを用いて講義形式で行います。本講座では、いわゆるギリシア古典期までのさまざまな思想家（さらには神々や英雄たち）が登場しますが、理論としての思想だけでなく、彼らのエピソードや人物像をできるかぎり紹介し、なるべくリアリティのある授業を行いたいと思います。
- ◆**履修条件** 前期のみ、後期のみを受講も認めますが、学習効果を上げるため、なるべく前期・後期と通して受講してください。また、平成31年度（令和元年度）前期昼間スクーリング「西洋思想史Ⅰ」（関谷担当）との積み重ねを不可とします。
- ◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容：ガイダンスおよび古代ギリシアについての一般的説明 事前学修：通信教育教材「西洋思想史Ⅰ」pp.1～6を読むこと 事後学修：配布プリントに基づいて、紀元前8～6世紀ごろまでのギリシアの歴史を振り返ること
2回	授業内容：古代ギリシア神話＜宇宙生成の物語（ヘシオドス『神統記』）、神々のプロフィール＞ 事前学修：オリンポス12神が、それぞれ何を象徴しどのような性格付けがなされた神々なのかを調べておくこと 事後学修：配布プリントに基づいて、神々の物語とそこに現れる人間観・世界観を振り返ること
3回	授業内容：英雄物語＜トロイア戦争の物語（ホメロス『イーリアス』など）＞ 事前学修：トロイア戦争の大まかなストーリーを把握しておくこと。 事後学修：配布プリントに基づいて、英雄たちの物語とそこに現れる人間観・世界観を振り返ること
4回	授業内容：古代ギリシア文字の読み方 事前学修：配布プリントに基づいて、古代ギリシア語のアルファベットとローマンアルファベットの対応を見ておくこと 事後学修：配布プリントに基づいて、古代ギリシア語の音読を復習しておくこと
5回	授業内容：ミレトス学派＜万物の「アルケー」は何か＞ 事前学修：哲学史の参考書の「ミレトス学派」の箇所を読むこと 事後学修：配布プリントに基づいて、ミレトス学派の思想を振り返ること
6回	授業内容：ピュタゴラスおよびピュタゴラス学団＜数と数の比例による世界＞ 事前学修：哲学史の参考書の「ピュタゴラスおよびピュタゴラス学団」の箇所を読むこと 事後学修：配布プリントに基づいて、ピュタゴラスおよびピュタゴラス学団の思想を振り返ること
7回	授業内容：ヘラクレイトス＜「万物は流れる」＞ 事前学修：哲学史の参考書の「ヘラクレイトス」の箇所を読むこと 事後学修：配布プリントに基づいて、ヘラクレイトスの思想を振り返ること
8回	授業内容：エレア学派＜生成消滅・運動はあり得ない＞ 事前学修：哲学史の参考書の「エレア学派」の箇所を読むこと 事後学修：配布プリントに基づいて、エレア学派の思想を振り返ること
9回	授業内容：多元論者とデモクリトス＜古代原子論へ＞ 事前学修：哲学史の参考書の「多元論者とデモクリトス」の箇所を読むこと 事後学修：配布プリントに基づいて、多元論者とデモクリトスの思想を振り返ること
10回	授業内容：ソフィストたち＜「〇〇であると思われる」と「〇〇である」＞ 事前学修：哲学史の参考書の「ソフィスト」の箇所を読むこと 事後学修：配布プリントに基づいて、ソフィストの思想を振り返ること
11回	授業内容：ソクラテス＜無知の自覚と主知主義＞ 事前学修：哲学史の参考書の「ソクラテス」の箇所を読むこと 事後学修：配布プリントに基づいて、ソクラテスの思想を振り返ること
12回	授業内容：プラトン＜永遠に変わらず、なくならない世界＞ 事前学修：哲学史の参考書の「プラトン」の箇所を読むこと 事後学修：配布プリントに基づいて、プラトンの思想を振り返ること
13回	授業内容：アリストテレス＜四原因説と目的論的世界観＞ 事前学修：哲学史の参考書の「アリストテレス」の箇所を読むこと 事後学修：配布プリントに基づいて、アリストテレスの思想を振り返ること
14回	授業内容：総まとめ（質問コーナー） 事前学修：全回を振り返り、疑問点を整理しておくこと 事後学修：話題になったことから振り返り、理解を深めておくこと
15回	授業内容：試験と振り返り 事前学修：試験範囲についての理解を深めておくこと 事後学修：試験範囲以外の部分についての理解を深めておくこと

- ◆**教科書** 〔当日資料配布〕
- ◆**参考書** 〔通材〕『西洋思想史Ⅰ P20200』通信教育教材（教材コード000569）
〔通材〕『哲学 B10700』通信教育教材（教材コード000404）
（例えば上記二書のような哲学史の参考書が一冊手元にあるとよいでしょう。）
- ◆**成績評価基準** 最終回に実施する試験によって評価します。

注意 E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔英語 R〕☆☆☆

石川 勝

◆**授業概要** 初級レベルだが、あくまで大学レベルである。基本的な文法の復習をもとに、平易な英文を読めるようにする。そのうえで細かな文法知識を学び少し難しい文章に挑戦していく。テキストはヨーロッパの文化と歴史に関するもので、学生には興味を持ち野生内容だと思われる。

◆**学修到達目標** 基本的な文法から始め、その知識に基づいて平易な英文を読めるようになる。それができたら、さらに具体的な文法知識を理解し、やや難しい英文も読めるようになることを目標とする。

◆**授業方法** 先に文法の説明を行い、そのあとでテキストを読み進めていく。アトランダムに指名するので必ず予習したうえで出席すること。2回予習していないと不可とする。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回	授業内容：五文系の説明 事前学修：テキストの購入 事後学修：授業内容の整理
2 回	授業内容：五文型とテキストの訳 事前学修：テキストの予習 事後学修：訳の修正
3 回	授業内容：不定詞とテキストの訳 事前学修：テキストの予習 事後学修：訳の修正
4 回	授業内容：ing の説明とテキストの訳 事前学修：テキストの予習 事後学修：訳の修正
5 回	授業内容：that 節の説明 事前学修：テキストの予習 事後学修：訳の修正
6 回	授業内容：関係代名詞とテキストの訳 事前学修：テキストの予習 事後学修：訳の修正
7 回	授業内容：テキストの訳、小テスト 事前学修：試験の準備 事後学修：問題の復習
8 回	授業内容：仮定法とテキストの訳 事前学修：テキストの予習 事後学修：訳の修正
9 回	授業内容：前置詞と接続詞 事前学修：テキストの予習 事後学修：訳の修正
10 回	授業内容：発音記号とテキストの訳 事前学修：テキストの予習 事後学修：訳の修正
11 回	授業内容：五文系とテキストの役 事前学修：テキストの予習 事後学修：訳の修正
12 回	授業内容：五文型の復習とテキストの訳 事前学修：テキストの予習 事後学修：訳の修正
13 回	授業内容：文法のおさらいとテキストの訳 事前学修：テキストの予習 事後学修：訳の修正
14 回	授業内容：テキストの訳、小テスト 事前学修：試験勉強 事後学修：問題の復習
15 回	授業内容：個々の課題に関する質疑応答 事前学修：自分の課題を見つける 事後学修：課題の復習

◆**教科書** 丸沼 ヨーロッパの国と人々 (金星堂)

◆**参考書** なし

◆**成績評価基準** 小テスト (2回)。理由のない欠席は認めない。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔政治学原論〕

吉野 篤

- ◆**授業概要** 政治概念の歴史の変容を概観することを通じて、政治という現象の特質を把握する。
- ◆**学修到達目標** 政治とはどのような営みなのかを過去の学問的営為を振り返ることで把握できるようにする。
- ◆**授業方法** 基本的に講義形式で行う。また、ジャーナルな政治問題を考えるために主として新聞報道を素材としてコピーを配布し、授業の材料としたい。
- ◆**履修条件** 令和元年度昼間スクーリング（前期）「政治学原論」（吉野篤）とは積み重ね不可。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容：オリエンテーションとして前期の全体像を示す 事前学修：テキストに目を通すこと 事後学修：内容を確認すること
2 回	授業内容：古典古代の政治概念：プラトン 事前学修：テキストの該当箇所をチェックすること 事後学修：ノートを整理し、論点を確認すること
3 回	授業内容：古典古代の政治概念：アリストテレス 事前学修：テキストで内容を事前にチェックすること 事後学修：ノートを整理して論点を確認すること
4 回	授業内容：中世の政治像 事前学修：中世の政治状況について事前に概要を把握すること 事後学修：ノートを整理するとともに論点を確認すること
5 回	授業内容：マキャベリの画期的概念 事前学修：ルネサンスの意義について学習しておくこと 事後学修：ノートを改めて整理して論点を明確化すること
6 回	授業内容：社会契約説の歴史的意義 事前学修：該当箇所をチェックすること 事後学修：ノートを改めて整理し論点を明確化すること
7 回	授業内容：古典的自由主義の政治概念 事前学修：市民革命の概要を学習すること 事後学修：論点を改めて整理すること
8 回	授業内容：市民革命の政治過程：イギリス革命 事前学修：17 世紀のイギリスの状況を事前にチェックすること 事後学修：改めて論点を整理すること
9 回	授業内容：アメリカ独立革命の意義 事前学修：18 世紀のアメリカ植民地の状況を調べること 事後学修：論点を改めて整理すること
10 回	授業内容：フランス革命の政治過程 事前学修：革命の位置づけについて事前に調べておくこと 事後学修：論点を改めて整理すること
11 回	授業内容：保守主義の歴史的意義 事前学修：保守という概念について事前に確認すること 事後学修：論点を改めて整理すること
12 回	授業内容：19 世紀の政治概念 マルクスの政治理論 事前学修：テキストで事前にチェックすること 事後学修：論点を改めて整理すること
13 回	授業内容：20 世紀の政治概念 国家像の変遷 事前学修：大衆社会の政治状況について事前に学習すること 事後学修：論点を改めて整理すること
14 回	授業内容：丸山眞男の政治概念 事前学修：丸山について事前に調べること 事後学修：論点を再整理すること
15 回	授業内容：1980 年代の政治潮流、最終試験 事前学修：1980 年代の政治的特質について事前に調べておくこと 事後学修：改めて論点を確認・整理すること

- ◆**教科書** 丸沼 吉野篤編『政治学 第2版』弘文堂 2018 年
- ◆**参考書** 講義の際に指示する。
- ◆**成績評価基準** 授業への取り組み・最終試験により総合的に評価する。

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔国文学講義Ⅴ (近代)〕

榎本 正樹

◆**授業概要** 現代日本文学を原作として映画化された作品の一部を観賞した上で、原作の小説を講読します。2019年に劇場公開された作品から厳選して、7作品をとりあげる予定です。文学表現と映像表現を比較対照し、分析することで、言葉と映像それぞれのメディア固有の表現や技法について考えを深め、「文学固有の表現とは何なのか?」という視点から小説を読む力の獲得を目指します。

◆**学修到達目標** 現代日本文学の多様なジャンルの小説を深く読むことで、作品の中核となる要素を抽出し、整理し、分析し、論述することができるようになります。個人の生き方や、社会的な諸問題について考える力を養います。言語表現と映像表現を比較対照することで、メディア固有の表現やメディア間の相互接続性についても理解を深めます。

◆**授業方法** 講義形式です。映画の一部を観賞した後、原作小説を精読し、作品分析を行っていきます。映像メディアである映画と言語メディアである小説を比較検討することによって、情報提示や叙述の方法や人物設定や物語構成の違いなど、表現上の相違点を明らかにしていきます。

◆**履修条件** 小説を事前に読んでいなくても理解できる形で授業を進めていきますが、取りあげる作品については、事前に読んで授業に臨むのがベストです。

◆授業計画 (各 90 分)

1回	授業内容: チェ・ヒョンヨン監督『デッドエンドの思い出』を観る 事前学修: 監督やキャストについて調べましょう。 事後学修: 印象に残ったシーンを書き留めておきましょう。
2回	授業内容: よしもとばなな『デッドエンドの思い出』を読む 事前学修: よしもとばななとその作品世界についてまとめましょう。 事後学修: 表題作以外の短編も読んでおきましょう。
3回	授業内容: 今泉力哉監督『愛がなんだ』を観る 事前学修: 監督やキャストについて調べましょう。 事後学修: 印象に残ったシーンを書き留めておきましょう。
4回	授業内容: 角田光代『愛がなんだ』を読む 事前学修: 角田光代とその作品世界についてまとめましょう。 事後学修: 映像と小説の表現の違いが際立ったシーンを抜き出しましょう。
5回	授業内容: 風間太樹監督『チア男子!!』を観る 事前学修: 監督やキャストについて調べましょう。 事後学修: 青春群像劇としての魅力について考えてみましょう。
6回	授業内容: 朝井リョウ『チア男子!!』を読む 事前学修: 朝井リョウの作品とその内容についてまとめてみましょう。 事後学修: 「小説ならではの表現」が行われている箇所を抜き出しましょう。
7回	授業内容: 中野量太監督『長いお別れ』を観る 事前学修: 監督やキャストについて調べておきましょう。 事後学修: タイトルの意味について、自分の考えをまとめましょう。
8回	授業内容: 中島京子『長いお別れ』を読む 事前学修: 中島京子の代表作を調べ、どのような作家であるか調べましょう。 事後学修: 家族小説として、どのような読み解きができるか自分の考えをまとめましょう。
9回	授業内容: 石川慶監督『蜜蜂と遠雷』を観る 事前学修: 監督やキャストについて調べましょう。 事後学修: 物語内容を整理し直してみましょう。
10回	授業内容: 恩田陸『蜜蜂と遠雷』を読む 事前学修: 恩田陸とその作品世界についてまとめてみましょう。 事後学修: 言葉で音楽を表現する表象の意味について考えてみましょう。
11回	授業内容: 瀬々敬久監督『楽園』を観る 事前学修: 瀬々敬久監督のフィルモグラフィを調べましょう。 事後学修: 人物関係をまとめてみましょう。
12回	授業内容: 吉田修一『犯罪小説集』を読む 事前学修: 吉田修一とその作品世界についてまとめましょう。 事後学修: 「事件」を通して何が描かれたのか、考えてみましょう。
13回	授業内容: 西谷弘監督『マチネの終わりに』を観る 事前学修: 監督やキャストについて調べましょう。 事後学修: 印象に残ったシーンを書き留めておきましょう。
14回	授業内容: 平野啓一郎『マチネの終わりに』を読む 事前学修: 平野啓一郎とその作品世界についてまとめましょう。 事後学修: 主人公二人の「心」の変化のプロセスをまとめてみましょう。
15回	授業内容: これまでのまとめ 事前学修: レポートを完成させる 事後学修: レポートに取りあげなかった他の作家・作品について、もう一度振り返ってみましょう。

◆**教科書** 丸沼 授業で取りあげる各小説の文庫本
[当日資料配布] プリント

◆**参考書** 授業時にお知らせします。

◆**成績評価基準** 授業への参加度 (20%) とレポート提出 (80%) で評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔英作文Ⅱ〕

大庭 香江

- ◆**授業概要** 映画を題材として、アカデミックライティングを行う。学問的な文章を書く為に必要なスキルを、テーマの考え方、段落構成等を学習し、一定の分量の、学問的文章を書く。
- ◆**学修到達目標** テーマを決め、段落構成（Introduction, Body, Conclusion）、正しい句読点法、引用の仕方等について学習し、アカデミックライティングのスキルを身に着ける。
- ◆**授業方法** テキスト及び配布資料を用いて、アカデミックライティングについて学ぶ。実際に幾つかの映画作品を視聴し、また、その原作との比較を行うなどして、テーマを決め、作文する。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	アカデミックライティングとはどのようなものかについての解説
	事前学修	テキスト第一章全体に目を通し、映画『風と共に去りぬ』のあらすじを把握しておくこと
	事後学修	テキスト付属の DVD で映画を視聴しておくこと
2 回	授業内容	構成についての解説（Introduction）
	事前学修	段落構成についての配布資料に目を通しておくこと
	事後学修	これまでに見た映画や文学、芸術作品等について、短い紹介文を書く
3 回	授業内容	構成についての解説（Body）
	事前学修	これまでに見た映画や文学、芸術作品等について、短い紹介文を書いてみる。感想文ではない。
	事後学修	選んだ作品の背景を調べる
4 回	授業内容	構成についての解説（Conclusion）
	事前学修	選んだ作品の背景を調べ、要点をまとめておく
	事後学修	作品の背景を、英文でまとめる
5 回	授業内容	句読点法について
	事前学修	作品の背景を、英文でまとめ、句読点を打った箇所を確認しておく
	事後学修	これまでに書いたものが、正しい句読点法に基づいて書かれているか、確認する
6 回	授業内容	テーマの決定
	事前学修	今期の課題として提出する作文の、テーマについて考えておくこと
	事後学修	選んだテーマでどの様に英文を構成するか、ドラフトを作る
7 回	授業内容	クラスメートと共に、各自のテーマを紹介し、ドラフトを読みあってこれまでの学習内容に沿っているかを確認する
	事前学修	英文でドラフトを書いておくこと
	事後学修	クラスメートや教員のアドバイスを元に、テーマ及びアイデアをより深め、洗練されたものにする
8 回	授業内容	引用の仕方について
	事前学修	引用する文献や資料を準備しておくこと
	事後学修	正しく引用がされているか、確認すること
9 回	授業内容	参考文献の書き方について
	事前学修	引用する文献、参考文献を整理しておくこと
	事後学修	参考文献が正しく記載されているか、確認すること
10 回	授業内容	アブストラクト、要約について
	事前学修	キーワードを確認しておくこと
	事後学修	アブストラクトを書く
11 回	授業内容	クラスメートとアブストラクトを確認する
	事前学修	アブストラクトを準備しておくこと
	事後学修	アブストラクトを点検し、校正する
12 回	授業内容	文体について
	事前学修	改めて英文化したものを見なおし、文体について気付いた点を確認しておく
	事後学修	学問的文章の文体として適当か、段落校正等を確認する
13 回	授業内容	クラスメートと文章を交換し、確認する
	事前学修	段落構成の確認、スペルチェック等を行っておくこと
	事後学修	英作文の校正を行う
14 回	授業内容	アブストラクトを確認し、提出する
	事前学修	アブストラクトを読み返し、スペルチェック等を行っておくこと
	事後学修	次回授業時のテストの為、作文を読み直して確認しておくこと
15 回	授業内容	テスト及びまとめ
	事前学修	作文を読み返し、語彙、文法等、正しく用いられているか等を確認しておくこと
	事後学修	これまで学修した内容全てを復習すること

- ◆**教科書** 丸沼『名作映画で学ぶアメリカの心』石塚他著 成美堂
- ◆**参考書** なし
- ◆**成績評価基準** 授業内レポート、最終試験、授業参画度を、均等な割合で評価する

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔哲学基礎講読〕

石井 友人

- ◆**授業概要** 17世紀西洋思想の古典アルノー、ニコル共著『論理学、別名思考の技法』及び関連する諸テクストを読んでいきます。デカルトからの影響下に執筆された同書第一部「観念について」の読解を通して、近代哲学の基礎概念と基本問題（主にデカルト哲学とその周辺思想）を確認し、近代哲学がその黎明期にもっていた可能性を考察していきます。
- ◆**学修到達目標** 西洋哲学の基本用語と問題意識を学び、基礎的な哲学書を独力で読んでいくための力を身につけていく事を目的とします。また、併せて、近代的な人間の思考法の特徴を理解することを目的とします。
- ◆**授業方法** 教科書と配布プリントにより講義形式で行いますが、質疑応答を取り入れ、受講者からの積極的な参加を期待します。最初は、内容を大づかみにしながら読んでいきます。本文が分かりにくい場合は、部分的に、デカルトたちのより分かりやすいテクストに切り替えるなど、内容把握を優先します。何回かは、教科書を離れて、哲学的な背景を説明する事になるでしょう（講読の進度によっては授業計画を変更することもある）。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1回	授業内容：『論理学、別名思考の技法』「第一序説」を読む。この本は何についての本なのか。良識について。 事前学修：教科書の当該部分を読んでおくこと。 事後学修：配布プリント等、授業内容を確認しておくこと。
2回	授業内容：デカルト『精神指導の規則』第一規則を読む。デカルトの何が新しかったのか。デカルトのアリストテレス・スコラ批判。デカルトにおける良識について。 事前学修：デカルト『精神指導の規則』の第一規則を読んでおくこと。 事後学修：配布プリント等、授業内容を確認しておくこと。
3回	授業内容：「前文」及び第一部第一章「諸観念の本性と起源とについて」を読む。観念が単純であるとはどのような事か。観念の本質について。観念の定義を確認する。 事前学修：教科書の当該部分を読んでおくこと。また第一章を段落分けしておくこと。 事後学修：配布プリント等、授業内容を確認しておくこと。
4回	授業内容：観念の起源について。 事前学修：教科書の当該部分を読んでおくこと。 事後学修：配布プリント等、授業内容を確認しておくこと。
5回	授業内容：再び「前文」を読む。また第四章「事物の観念と記号の観念」を読む。観念と記号の関係について。 事前学修：教科書の当該部分を読んでおくこと。 事後学修：配布プリント等、授業内容を確認しておくこと。
6回	授業内容：記号の三分類。 事前学修：教科書の当該部分を読んでおくこと。 事後学修：配布プリント等、授業内容を確認しておくこと。
7回	授業内容：観念と記号の関係について再び考える。ホッブズの唯名論について。 事前学修：教科書第一部第一章のホッブズについての記載を読んでおくこと。 事後学修：配布プリント等、授業内容を確認しておくこと。
8回	授業内容：ホッブズの哲学について。 事前学修：ホッブズの哲学の基本について各自で確認しておくこと。 事後学修：配布プリント等、授業内容を確認しておくこと。
9回	授業内容：第 10 章には何が書いてあるのか 事前学修：第十章の内容を精読し、何が問題になっているのかを考えておくこと。 事後学修：配布プリント等、授業内容を確認しておくこと。
10回	授業内容：権力と真理 1. ラ・フォンテーヌ「狼と子羊」を読む 事前学修：第十章の内容を精読し、何が問題になっているのかを考えておくこと。 事後学修：配布プリント等、授業内容を確認しておくこと。
11回	授業内容：権力と真理 2. パスカル『パンセ』を読む 事前学修：授業内容を踏まえて、第十章の内容を考えておくこと。 事後学修：配布プリント等、授業内容を確認しておくこと。
12回	授業内容：心身問題について。 事前学修：第九章を読んでおくこと。 事後学修：配布プリント等、授業内容を確認しておくこと。
13回	授業内容：ギルバート・ライル『心の概念』におけるデカルト批判。心身問題は偽の問題なのか？ 事前学修：心身問題について基本的な事柄を確認しておくこと。 事後学修：配布プリント等、授業内容を確認しておくこと。
14回	授業内容：動物機械論について デカルト『方法序説』「第五部」を読む。 事前学修：デカルト『方法序説』「第五部」を読んでおくこと。動物と人間の差異はどこにあるとされているのか？ 事後学修：配布プリント等、授業内容を確認しておくこと。
15回	授業内容：試験（通常授業へ変更することもある） 事前学修：試験は記述式で行い、範囲、問題はあらかじめ告知する。ノートに要点をあらかじめまとめておくことが望ましい。 事後学修：前期の中心問題であった「観念」について、あらかじめ確認しておくこと。この言葉は 17 世紀の哲学のキーワードです。デカルトやロック、マルブランシュ、ライブニッツといったアルノー—以外の著者たちの文章にも触れて、なぜこの言葉がそれほど重要性を持ちえたのかを考えてみて下さい。

- ◆**教科書** 教材『哲学基礎講読 P20100』通信教育教材（教材コード 000042）
〔当日資料配布〕当日プリント配布
- ◆**参考書** なし
- ◆**成績評価基準** 三分の二以上の出席を前提に、試験（80%）と授業への参加度（20%）により評価、尚、試験はレポートへの変更の場合もある

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔哲学 C〕

中澤 瞳

- ◆**授業概要** 本授業は、古代ギリシャの哲学者の思想を通して、古代西洋哲学についての一般的な知識を修得することを目的とする。なお授業の進行具合によっては、授業計画に記載した内容に若干の変更がある場合がある。その際は、随時授業中に指示する。
- ◆**学修到達目標** この授業の目標は、古代ギリシャの哲学者を代表する、ソクラテス、プラトン、アリストテレスの基本的な考え方を説明することができるようになることである。また、哲学者の考え方を理解し、自分ひとりでも考えることができるようになることも目標とする。授業計画の事後学修の個所に、授業内容に関連する参考文献を挙げているので、自分ひとりでも考える際には参照してほしい（なお、授業回の内容と参考文献が直接対応しているわけではない）。
- ◆**授業方法** 本授業は講義形式で行う。教科書を中心としながら、適宜プリントも使用して解説を行う。受講者は各自で事前に教科書を読んでおくこと。授業計画を目安にして読み、一度に教科書すべてを読まなくてもよい。場合によっては、授業中に教科書を参加者に読んでもらう場合もある。また、複数回の小レポート（授業内で目録し、提出する簡単なレポート）を行う。
- ◆**履修条件** 昼間S（前期）他の「哲学」との積み重ね不可。
- ◆**授業計画〔各90分〕**

回数	学修	授業内容
1回	事前学修	ガイダンス（授業の内容の概要の説明、最終日に行う授業内試験の説明）、哲学とはどのような学問なのかについての説明
	事後学修	教科書 pp. 3-13（プロローグ）に目を通す。また時間に余裕があれば、教科書 pp. 22-44（第1章いちばんさいしょの哲学者）にも目を通す。
	事後学修	他の人が哲学についてどのように説明しているか、関連する文献や記事を読み、哲学とはどのような学問かについて、自分なりの流れを作って説明できるようにする。
2回	事前学修	自然哲学について（自然哲学とはどのような背景のもと生まれたのか、自然哲学者たちにはどのような人たちがいるのか、どのようなことを考えていたのかを説明する。）
	事後学修	教科書 pp. 22-44（第1章いちばんさいしょの哲学者）に目を通す。
	事後学修	参考文献『ギリシア哲学者列伝』や『ソクラテス以前の哲学者』などを読み、自然哲学について説明できるようにする。
3回	事前学修	ソクラテスについて1（ソクラテス1,2を通じて、ソクラテスの思想の背景と、その内容を説明する。参考文献はソクラテス2にも対応する。）
	事後学修	教科書 pp. 46-97（第2章ソクラテスとは何者か）に目を通す。
	事後学修	参考文献『ソクラテス』、『ソフィストとは誰か』、『哲学の饗宴』、『ギリシア哲学入門』などを読み、ソフィストやソクラテスの人物像について説明できるようにする。
4回	事前学修	ソクラテスについて2（参考文献はソクラテス1にも対応する。）
	事後学修	教科書 pp. 46-97（第2章ソクラテスとは何者か）に目を通す。
	事後学修	参考文献『ソクラテスの弁明』や『クリトン』、『パイドン』、『ソクラテスの思い出』などを読み、ソクラテスの思想について説明できるようにする。
5回	事前学修	プラトンについて1（プラトン1~4を通じて、プラトンの思想の背景、プラトンの徳倫理、イデア論について説明する。参考文献はプラトン2,3,4にも対応する。）
	事後学修	教科書 pp. 100-184（第3章プラトンの思想的挑戦）に目を通す。
	事後学修	参考文献『プラトン』やプラトンの著作を読み、ソクラテスとの関係や、プラトンの思想の背景を説明できるようにする。
6回	事前学修	プラトンについて2（参考文献はプラトン1,3,4にも対応する。）
	事後学修	教科書 pp. 100-184（第3章プラトンの思想的挑戦）に目を通す。
	事後学修	参考文献『現代思想としてのギリシア哲学』やプラトンの著作を読み、プラトンの政治思想や徳倫理について説明できるようにする。
7回	事前学修	プラトンについて3（参考文献はプラトン1,2,4にも対応する。）
	事後学修	教科書 pp. 100-184（第3章プラトンの思想的挑戦）に目を通す。
	事後学修	参考文献『プラトンの哲学』やプラトンの著作を読み、プラトンの政治思想や徳倫理について説明できるようにする。
8回	事前学修	プラトンについて4（参考文献はプラトン1,2,3にも対応する。）
	事後学修	教科書 pp. 100-184（第3章プラトンの思想的挑戦）に目を通す。
	事後学修	参考文献『プラトン哲学への旅』、『プラトンを学ぶ人のために』やプラトンの著作を読み、プラトンのイデア論について説明できるようにする。
9回	事前学修	アリストテレスについて1（アリストテレス2~6を通じて、アリストテレスの思想の背景、自然学、倫理学について説明する。参考文献はアリストテレス2~6にも対応する。）
	事後学修	教科書 pp. 186-261（第4章アリストテレスの精密思考「新たに登場した哲学の三つの派」の前まで）にも目を通す。
	事後学修	参考文献『アリストテレス』やアリストテレスの著作を読み、アリストテレスの思想について調べる。
10回	事前学修	アリストテレスについて2（参考文献はアリストテレス1,3,4,5,6にも対応する。）
	事後学修	教科書 pp. 186-261（第4章アリストテレスの精密思考「新たに登場した哲学の三つの派」の前まで）にも目を通す。
	事後学修	参考文献『ヨーロッパ思想入門』やアリストテレスの著作を読み、アリストテレスの思想について調べる。
11回	事前学修	アリストテレスについて3（参考文献はアリストテレス1,2,4,5,6にも対応する。）
	事後学修	教科書 pp. 186-261（第4章アリストテレスの精密思考「新たに登場した哲学の三つの派」の前まで）にも目を通す。
	事後学修	参考文献『西洋哲学の10冊』やアリストテレスの著作を読み、アリストテレスの思想について調べる。
12回	事前学修	アリストテレスについて4（参考文献はアリストテレス1,2,3,5,6にも対応する。）
	事後学修	教科書 pp. 186-261（第4章アリストテレスの精密思考「新たに登場した哲学の三つの派」の前まで）にも目を通す。
	事後学修	参考文献『アリストテレス入門』やアリストテレスの著作を読み、アリストテレスの思想について調べる。
13回	事前学修	アリストテレスについて5（参考文献はアリストテレス1,2,3,4,6にも対応する。）
	事後学修	教科書 pp. 186-261（第4章アリストテレスの精密思考「新たに登場した哲学の三つの派」の前まで）にも目を通す。
	事後学修	参考文献『西洋哲学史』やアリストテレスの著作を読み、アリストテレスの思想について調べる。
14回	事前学修	アリストテレスについて6（参考文献はアリストテレス1,2,3,4,5にも対応する。）
	事後学修	教科書 pp. 186-261（第4章アリストテレスの精密思考「新たに登場した哲学の三つの派」の前まで）にも目を通す。
	事後学修	参考文献『アリストテレス倫理学入門』やアリストテレスの著作を読み、アリストテレスとプラトンの違いについて説明できるようにする。
15回	事前学修	まとめ・筆記試験（論述形式）
	事後学修	これまでの授業を振り返り、古代ギリシャの代表的な哲学者たちの考え方を整理する。
	事後学修	古代ギリシア哲学の概説書を通読し、それぞれの哲学者の要点を復習する。

- ◆**教科書** 丸沼『初級者のためのギリシア哲学の読み方・考え方』左近司祥子 大和書房 1997年
- ◆**参考書** なし
- ◆**成績評価基準** 授業への参加、貢献（20%）、小レポート（20%）、筆記試験（60%）により総合的に評価する。なお、評価を行う際には、毎回出席していることを前提とする。

注意 E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔ドイツ語 I・II〕

中島 伸

◆**授業概要** ドイツ語文を書くために必要な初級レベルのドイツ語文法と語順 (ドイツ語文の語順は日本語とよく似ています) を習得することによって、平易なドイツ語文が書けるようになることを目標とします。前期のみの受講、後期のみの受講も可能だが、学修効果を上げるため、前期・後期の連続受講が望ましい。

◆**学修到達目標** 1. 正しいドイツ語の発音ができる。2. 語彙力が身に付くようになる。3. 基本的なドイツ語文法と語順の理解によって、平易なドイツ語文が書ける。

◆**授業方法** 授業計画で挙げられている文法事項の説明後、練習問題で定着させていきます。更に、ドイツ語の語順を理解してもらうために、該当する文法事項を含む独作文の問題プリントを解いてもらいます。また、毎回授業終了直前にリアクションペーパー (授業の感想や質問事項等) を書いてもらい、これを基にして次の授業を進めていきます。そして、授業時に中間テストを行い、間違っただ箇所と確認のために個別に解説を添えて答案を返却いたします。本授業の事前学修・事後学修の時間は各2時間を目安としています。

◆授業計画 (各 90 分)

1回	授業内容: 授業の進め方・オリエンテーション・音と文字: まず、本授業の進め方を説明する。次に、ドイツ語のアルファベットの読み方、アクセントの位置、母音の長短、そして注意すべき母音と子音の読み方について説明する。 事前学修: 教科書 1~2 頁を読んでおくこと。 事後学修: 授業の内容をノートに整理し、教科書の該当箇所を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
2回	授業内容: 名詞: 名詞の性の種類、そして名詞の性の識別について説明する。 事前学修: 前回の授業内容を整理したノートを確認し、教科書 3~4 頁を読んでおくこと。 事後学修: 授業の内容をノートに整理し、教科書の該当箇所を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
3回	授業内容: 動詞の現在人称変化: 不定詞と定動詞の形式の違い、そして動詞の現在人称変化について説明する。 事前学修: 前回の授業内容を整理したノートを確認し、教科書 6~8 頁を読んでおくこと。 事後学修: 授業の内容をノートに整理し、教科書の該当箇所を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
4回	授業内容: 定動詞の位置と疑問文: 平叙文と疑問文の違い、そして両者における定動詞の位置について説明する。 事前学修: 前回の授業内容を整理したノートを確認し、教科書 15 頁を読んでおくこと。 事後学修: 授業の内容をノートに整理し、教科書の該当箇所を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。そして、授業時に配布したプリントの問題を解いておくこと。
5回	授業内容: 定冠詞と不定冠詞: 定冠詞と不定冠詞の用法、そして両者の格変化について説明する。 事前学修: 前回の授業内容を整理したノートを確認し、前回の授業時に配布したプリントの問題を再度確認しておくこと。そして、教科書 10~12 頁を読んでおくこと。 事後学修: 授業の内容をノートに整理し、教科書の該当箇所を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。そして、授業時に配布したプリントの問題を解いておくこと。
6回	授業内容: 定冠詞類と所有冠詞: 定冠詞類と所有冠詞の用法、そして両者の格変化について説明する。 事前学修: 前回の授業内容を整理したノートを確認し、前回の授業時に配布したプリントの問題を再度確認しておくこと。そして、教科書 13~14 頁を読んでおくこと。 事後学修: 授業の内容をノートに整理し、教科書の該当箇所を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。そして、授業時に配布したプリントの問題を解いておくこと。
7回	授業内容: 不規則な現在人称変化をする動詞(1): 主語の種類に応じて不規則な現在人称変化をする動詞について説明する。 事前学修: 前回の授業内容を整理したノートを確認し、前回の授業時に配布したプリントの問題を再度確認しておくこと。そして、教科書 16~17 頁を読んでおくこと。 事後学修: 授業の内容をノートに整理し、教科書の該当箇所を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。そして、授業時に配布したプリントの問題を解いておくこと。
8回	授業内容: 不規則な現在人称変化をする動詞(2): 第7回の授業時に扱わなかった不規則な現在人称変化をする動詞について説明する。 事前学修: 前回の授業内容を整理したノートを確認し、前回の授業時に配布したプリントの問題を再度確認しておくこと。そして、教科書 18~19 頁を読んでおくこと。 事後学修: 授業の内容をノートに整理し、教科書の該当箇所を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。そして、授業時に配布したプリントの問題を解いておくこと。
9回	授業内容: 名詞の複数形: 複数名詞の5つの種類の語尾について説明する。 事前学修: 前回の授業内容を整理したノートを確認し、前回の授業時に配布したプリントの問題を再度確認しておくこと。そして、教科書 21 頁を読んでおくこと。 事後学修: 授業の内容をノートに整理し、教科書の該当箇所を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。そして、授業時に配布したプリントの問題を解いておくこと。
10回	授業内容: 人称代名詞: 人称代名詞の形式と用法について説明する。 事前学修: 前回の授業内容を整理したノートを確認し、前回の授業時に配布したプリントの問題を再度確認しておくこと。そして、教科書 22~23 頁を読んでおくこと。 事後学修: 授業の内容をノートに整理し、教科書の該当箇所を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。そして、授業時に配布したプリントの問題を解いておくこと。
11回	授業内容: 命令形: 動詞の命令形の作り方とそれを含む命令文の用法について説明する。 事前学修: 前回の授業内容を整理したノートを確認し、前回の授業時に配布したプリントの問題を再度確認しておくこと。そして、教科書 25 頁を読んでおくこと。 事後学修: 授業の内容をノートに整理し、教科書の該当箇所を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。そして、授業時に配布したプリントの問題を解いておくこと。
12回	授業内容: 否定表現: 否定表現である否定冠詞 kei n と否定詞 nicht の用法について説明する。 事前学修: 前回の授業内容を整理したノートを確認し、前回の授業時に配布したプリントの問題を再度確認しておくこと。そして、教科書 27~28 頁を読んでおくこと。 事後学修: 授業の内容をノートに整理し、教科書の該当箇所を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。そして、授業時に配布したプリントの問題を解いておくこと。
13回	授業内容: 前置詞(1): 2格支配・3格支配・4格支配の前置詞の種類と用法について説明する。 事前学修: 前回の授業内容を整理したノートを確認し、前回の授業時に配布したプリントの問題を再度確認しておくこと。そして、教科書 29 頁を読んでおくこと。 事後学修: 授業の内容をノートに整理し、教科書の該当箇所を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。そして、授業時に配布したプリントの問題を解いておくこと。
14回	授業内容: 前置詞(2): 3・4格支配の前置詞の種類と用法について説明する。 事前学修: 前回の授業内容を整理したノートを確認し、前回の授業時に配布したプリントの問題を再度確認しておくこと。そして、教科書 30 頁を読んでおくこと。 事後学修: 授業の内容をノートに整理し、教科書の該当箇所を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。そして、授業時に配布したプリントの問題を解いておくこと。
15回	授業内容: 試験及び解説 事前学修: 予め配布された資料を熟読し、テキスト・プリントの該当箇所をまとめておくこと。 事後学修: 授業内容を確認・理解して、自身が解いた問題の解答が適切かどうかを再確認すること。

◆**教科書** 丸沼『必要最低限のドイツ語文法 改訂版』中島伸著 DTP 出版 2019年

◆**参考書** 独和辞典が必要となります。推奨独和辞典は初回授業時に紹介します。

◆**成績評価基準** 試験 (50%)、中間テスト (30%)、授業参画度 (20%) により総合的に評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔国文学概論〕

山崎 泉

◆**授業概要** グローバル化の中、国文学の定義も徐々に変容しつつあります。本講義では国文学とは何かに関する概説を行った後、近世小説を代表する作品の一つである上田秋成の『雨月物語』の中から「吉備津の釜」を講読します。一つの作品とじっくり向き合う中で、国文学の神髄に触れ、国文学とは何かについて具体的に考察することを主眼とします。

◆**学修到達目標** 古典作品の読解力が向上し、国文学に対する理解が深まります。近世文学と先行する時代の文学との関連性が理解できるようになります。国文学を学ぶ上での基本的なスキルが向上します。

◆**授業方法** 主に講義形式で行います。まず、国文学の定義について考察した後、近世小説のジャンルとおおまかな歴史を学びます。その上で、上田秋成と『雨月物語』に関する概説を行い、「吉備津の釜」の本文を読み進めていきます。講読に際しては、原文の音読を受講生の皆さんにそれぞれ担当して頂く予定です。

◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容	授業の進め方・オリエンテーション・国文学とは何か？ 授業の進め方について説明します。その上で、国文学の定義について考察し、多様化する国文学の現在に関する解説を行います。
	事前学修	テキストに一通り目を通して下さい。
	事後学修	再度テキストに目を通して下さい。
2回	授業内容	近世小説 その歴史とジャンル 配布するレジュメを参照しつつ、多種多様なジャンルを生み出した近世小説の流れ及び代表的な作品について解説します。
	事前学修	前回の授業内容をノートにまとめておいて下さい。
	事後学修	レジュメの内容を再確認して下さい。
3回	授業内容	上田秋成 その生涯と作品 『雨月物語』の作者である上田秋成の人物像及び代表的な作品について解説します。
	事前学修	テキストの解説を読んでおいて下さい。
	事後学修	配布したレジュメの内容を元に、これまでの授業内容を再確認して下さい。
4回	授業内容	「吉備津の釜」講読(1)「吉備津の釜」の本文を講読します。まず原文を読んだ後、現代語訳を参照、再び原文に戻って作品内容の解説を行います。
	事前学修	原文が読めるように予め準備しておいて下さい。
	事後学修	講読した本文の内容を確認し、ノートにまとめて下さい。
5回	授業内容	「吉備津の釜」講読(2)前回講読した内容を確認した後、引き続き「吉備津の釜」の本文を講読します。逐一、現代語訳も参照し、的確に内容を把握しながら読み進めていきます。
	事前学修	前回講読した内容を再確認して下さい。
	事後学修	講読した本文の内容を確認し、ノートにまとめて下さい。
6回	授業内容	「吉備津の釜」講読(3)引き続き「吉備津の釜」の本文を講読します。講読と同時に、本文中に引用される和歌や先行文学作品に関する調査も行います。
	事前学修	前回講読した内容を再確認して下さい。
	事後学修	講読した本文の内容を確認し、ノートにまとめて下さい。
7回	授業内容	「吉備津の釜」講読(4)引き続き「吉備津の釜」の本文を講読します。講読と同時に、典拠とされた先行文学作品に関する学修も行います。
	事前学修	前回講読した内容を再確認して下さい。
	事後学修	講読した本文の内容を確認し、ノートにまとめて下さい。
8回	授業内容	「吉備津の釜」講読(5)引き続き「吉備津の釜」の本文を講読します。現代語訳に頼る比率を少しずつ下げ、原文のみで読み進めることができるようにしていきます。
	事前学修	前回講読した内容を再確認して下さい。
	事後学修	講読した本文の内容を確認し、ノートにまとめて下さい。
9回	授業内容	「吉備津の釜」講読(6)引き続き「吉備津の釜」の本文を講読します。主人公の人物造形等、作品内容の深い部分にまで考察しながら、講読を進めていきます。
	事前学修	前回講読した内容を再確認して下さい。
	事後学修	講読した本文の内容を確認し、ノートにまとめて下さい。
10回	授業内容	「吉備津の釜」講読(7)引き続き「吉備津の釜」の本文を講読します。自分なりに疑問点、問題点を見つけ、それらについて考察しながら読み進めることができるようにしていきます。
	事前学修	前回講読した内容を再確認して下さい。
	事後学修	講読した本文の内容を確認し、ノートにまとめて下さい。
11回	授業内容	「吉備津の釜」講読(8)引き続き「吉備津の釜」の本文を講読します。最後まで講読した後、全体の内容確認を行います。
	事前学修	前回講読した内容を再確認して下さい。
	事後学修	前回講読した本文の内容を確認し、ノートにまとめて下さい。
12回	授業内容	『雨月物語』その他の章について(1)『雨月物語』のその他の章について解説します。
	事前学修	『雨月物語』のその他の章の内容を確認して下さい。
	事後学修	口語訳でよいので、その他の章に目を通して下さい。
13回	授業内容	『雨月物語』その他の章について(2)引き続き、『雨月物語』のその他の章について解説します。
	事前学修	その他の章に目を通し、その内容を確認して下さい。
	事後学修	『雨月物語』各章の連関について理解して下さい。
14回	授業内容	まとめ・理解度の確認 これまで学修してきた内容の総括を行い、試験に備えます。
	事前学修	これまで学修してきた内容を改めて確認して下さい。
	事後学修	ノートの内容を確認し、問題点を整理して下さい。
15回	授業内容	試験及び解説
	事前学修	試験に備えた資料収集を行って下さい。
	事後学修	授業で学んだことを振り返り、その内容をもう一度確認して下さい。

◆**教科書** 丸沼『改訂版 雨月物語 現代語訳付き』上田秋成著 鶴月洋訳注 角川学芸出版(角川ソフィア文庫) 864円(税込)
[当日資料配布] 当日プリントを配布します。

◆**参考書** 丸沼 授業時に紹介します。

◆**成績評価基準** 平常点(20%)、試験(80%)により、総合的に評価します。毎回出席することを前提として採点します。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔宗教学概論〕

合田 秀行

◆**授業概要** 異文化を理解する上で、その宗教文化を理解することは、重要な要素と言えます。この講義では世界における五大宗教の理解を軸として、それぞれの開祖・主要な教義・聖典・歴史的展開を概説していきます。その過程で、諸宗教に共通して見られる概念について理解を深め、宗教学という学問の特徴や宗教学における基本的な概念・用語について取り上げます。

◆**学修到達目標** 世界三大宗教でもある東洋を代表する仏教、インドの民族宗教であるヒンドゥー教の歴史と主な教義を理解することを主たる目的とします。さらに、その他の宗教では、日本の民族宗教である神道をはじめ、儒教・道教・アイヌの宗教など、その他の東洋の宗教についてもその特徴の理解を目指します。

◆**授業方法** 指定した市販教科書に基づいて講義形式で進めます。第1章「仏教」、第2章「ヒンドゥー教」、第6章「その他の宗教」を取り上げます。テキストの内容によっては、補足資料を用いて、より理解を深めていきます。また、適時、関連する映像資料「仏教」「ヒンドゥー教」を鑑賞して理解を深めます。2～3回程度、小テストを実施します。

◆授業計画 (各 90 分)

1回	授業内容: 講義の進め方全般に関してガイダンスを行う。仏教① 釈迦の生涯、初期仏教と大乘仏教の歴史的展開を概説する。 事前学修: テキストの 20～27 ページを予め読み、仏教の概観を予習しておくこと。 事後学修: テキストと講義内容を踏まえ、釈迦伝・仏教の歴史を整理して確認しておくこと。
2回	授業内容: 仏教② 初期仏教における煩惱・菩提・中道・四諦・八正道等を解説する。 事前学修: テキストの 28～29、34～41 ページを予め読み、初期仏教の教理を予習しておくこと。 事後学修: テキストと講義内容を踏まえ、初期仏教の教理を整理して確認しておくこと。
3回	授業内容: 仏教③ 大乘仏教の空・六波羅蜜の教義や大乘仏教の諸仏・諸菩薩を解説する。 事前学修: テキストの 30～33、42～55 ページを予め読み、大乘仏教の特徴を予習しておくこと。 事後学修: テキストと講義内容を踏まえ、大乘仏教の特徴を整理して確認しておくこと。
4回	授業内容: 仏教④ パーリ初期仏典の成立過程を学び、ダンマパダなどの仏典を講読する。 事前学修: テキストの 56～61 ページを予め読み、初期仏典について予習しておくこと。 事後学修: テキストと講義内容を踏まえ、初期仏典の特徴を整理して確認しておくこと。
5回	授業内容: 仏教⑤ 大乘仏典の成立、特に日本人に親しまれている般若心経を概説する。 事前学修: テキストの 62～65 ページを予め読み、大乘仏典について予習しておくこと。 事後学修: テキストと講義内容を踏まえ、大乘仏典の特徴を比較・整理して確認しておくこと。
6回	授業内容: 仏教⑥ 大乘仏典で日本の宗派に影響を及ぼした法華経・浄土三部経を概説する。 事前学修: テキストの 62～77 ページを予め読み、大乘仏典について予習しておくこと。 事後学修: テキストと講義内容を踏まえ、大乘仏典の特徴を比較・整理して確認しておくこと。
7回	授業内容: 仏教⑦ 日本仏教の特徴を概観し、南都六宗・密教(奈良・平安時代)の教義を解説する。 事前学修: テキストの 78～81 ページを予め読み、日本仏教の特徴を予習しておくこと。 事後学修: テキストと講義内容を踏まえ、日本仏教の特徴を整理して確認しておくこと。
8回	授業内容: 仏教⑧ 日本仏教の浄土信仰・法華信仰・禅の諸宗派(鎌倉時代)を概説する。 事前学修: テキストの 82～89 ページを予め読み、日本仏教の諸宗派を予習しておくこと。 事後学修: テキストと講義内容を踏まえ、日本仏教の諸宗派の特徴を整理して確認しておくこと。
9回	授業内容: ヒンドゥー教① ヒンドゥー教の特徴、その歴史的展開を概観する。 事前学修: テキストの 92～101 ページを予め読み、ヒンドゥー教について予習しておくこと。 事後学修: テキストと講義内容を踏まえ、ヒンドゥー教の歴史を整理して確認しておくこと。
10回	授業内容: ヒンドゥー教② ヒンドゥー教の教義(輪廻・解脱・儀礼)を解説する。 事前学修: テキストの 102～109 ページを予め読み、ヒンドゥー教の教義を予習しておくこと。 事後学修: テキストと講義内容を踏まえ、ヒンドゥー教の教義を整理して確認しておくこと。
11回	授業内容: ヒンドゥー教③ ヴィシュヌ神とシヴァ神、諸叙事詩の特徴を概説する。 事前学修: テキストの 110～119 ページを予め読み、神々と叙事詩について予習しておくこと。 事後学修: テキストと講義内容を踏まえ、ヒンドゥー教の神々と叙事詩を整理して確認しておくこと。
12回	授業内容: その他の宗教① ゾロアスター教・ジャイナ教・シク教などの特徴について概説する。 事前学修: テキストの 266～274 ページを予め読み、東洋の諸宗教について予習しておくこと。 事後学修: テキストと講義内容を踏まえ、東洋の諸宗教の特徴を整理して確認しておくこと。
13回	授業内容: その他の宗教② 神道における古代・中世の特徴を補足資料も併用して概説する。 事前学修: テキストの 276～277 ページ、補足資料を予め読み、神道について予習しておくこと。 事後学修: テキストと講義内容を踏まえ、記紀神話・本地垂迹説などを整理して確認しておくこと。
14回	授業内容: その他の宗教③ 神道における近世・近代の特徴を補足資料も併用して概説する。 事前学修: テキストの 276～277 ページ、補足資料を予め読み、神道の展開を予習しておくこと。 事後学修: テキストと講義内容を踏まえ、国学・教派神道・国家神道を整理して確認しておくこと。
15回	授業内容: その他の宗教④ 琉球の宗教・アイヌの宗教・日本の新宗教を概説する。授業内レポート提出。 事前学修: テキストの 278～285 ページを予め読み、琉球・アイヌの宗教などを予習しておくこと。 事後学修: テキストと講義内容を踏まえ、その他の宗教の特徴を整理して確認しておくこと。

◆**教科書** 丸沼『図解世界5大宗教全史』中村圭志著 ディスカヴァー・トゥエンティワン 2,376 円(税込)

◆**参考書** 選材『宗教学 B11000』通信教育教材(教材コード 000004)

選材『宗教学概論 P30400』通信教育教材(教材コード 000139)

◆**成績評価基準** 講義内で実施する小テスト(30%)と前期末に講義内で提出してもらう 2000 字程度のレポート(70%)とによって総合的に評価する。レポートは、前期に取り上げた内容の中から、各自がテーマを決めて作成してもらいます。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔商業史〕 オープン受講：不可

竹内 真人

- ◆**授業概要** 商業史（前期）では、西洋商業史の発展について学修するが、特にイギリスで最初に確立し、その後周辺諸国に拡大した近代資本主義の世界的展開過程について考察する。イギリスで近代資本主義がどのように成立し、その後全世界に拡大したのかを解説する。グローバルな観点から、近現代の政治・経済・文化現象を総合的に把握できるようにすることを目的としている。
- ◆**学修到達目標**
 1. イギリスで封建制から近代資本主義がどのように成立してきたのかを歴史的観点から説明することができる。
 2. 近代資本主義における資本増殖のメカニズムを説明できる。
 3. 近代資本主義が周辺諸国を巻き込みながら、どのように世界的に拡大してきたのかを説明できる。
 4. 近代資本主義が帝国主義とどのように関係してきたかを説明できる。
- ◆**授業方法** プリント（資料）や映像資料（DVD、パワーポイント）を活用して授業を行う。第1～2回目では、世界経済を捉える視点について説明する。第3～5回目では、プリントに沿いながら、近代資本主義の資本増殖のメカニズムについて解説する。第6回目以降は、地図や映像資料も活用しながら、近代資本主義が帝国主義と関係しながら、どのように世界的に拡大してきたかを説明する。本授業の事前学修・事後学修の時間は各2時間を目安としています。
- ◆**履修条件** 前期のみの受講、後期のみの受講も可能だが、学修効果を上げるため、前期・後期の連続受講が望ましい。令和元年度昼間スクーリング（前期）「商業史」（竹内真人）とは積み重ね不可。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1回	授業内容：「商業史（前期）」の課題と方法 事前学修：百科事典等を活用し、産業革命について調べておくこと。 事後学修：授業内容をノートに整理し、理解しておくこと。
2回	授業内容：大塚史学と近代世界システム論 事前学修：大塚久雄とウォーラステインについてインターネット等で調べておくこと。 事後学修：授業内容をノートに整理し、理解しておくこと。
3回	授業内容：産業革命と工業化(1)資本の本源的蓄積 事前学修：資本の本源的蓄積についてインターネット等で調べておくこと。 事後学修：プリント（資料）と授業内容をノートに整理し、理解しておくこと。
4回	授業内容：産業革命と工業化(2)産業資本の循環 事前学修：百科事典等を活用し、カール・マルクスについて調べておくこと。 事後学修：プリント（資料）と授業内容をノートに整理し、理解しておくこと。
5回	授業内容：産業革命と工業化(3)欧米諸国の産業革命 事前学修：世界史事典等を活用し、欧米諸国の産業革命について調べておくこと。 事後学修：プリント（資料）と授業内容をノートに整理し、理解しておくこと。
6回	授業内容：「大西洋三角貿易」の構造と展開 事前学修：世界史事典等を活用し、奴隷貿易について調べておくこと。 事後学修：プリント（資料）と授業内容をノートに整理し、理解しておくこと。
7回	授業内容：「アヘン三角貿易」の構造と展開 事前学修：世界史事典等を活用し、アヘン戦争について調べておくこと。 事後学修：プリント（資料）と授業内容をノートに整理し、理解しておくこと。
8回	授業内容：汽船ネットワークの世界的拡大 事前学修：インターネット等を活用して、イギリスの海運会社について調べておくこと。 事後学修：プリント（資料）と授業内容をノートに整理し、理解しておくこと。
9回	授業内容：鉄道ネットワークの世界的拡大 事前学修：インターネット等を活用して、鉄道の歴史を調べておくこと。 事後学修：プリント（資料）と授業内容をノートに整理し、理解しておくこと。
10回	授業内容：アジア人移民労働者の世界的展開 事前学修：世界史事典やインターネット等で、苦力（クーリー）について調べておくこと。 事後学修：プリント（資料）と授業内容をノートに整理し、理解しておくこと。
11回	授業内容：福音主義と奴隷貿易規制の展開 事前学修：世界史事典やインターネット等で、奴隷貿易廃止について調べておくこと。 事後学修：プリント（資料）と授業内容をノートに整理し、理解しておくこと。
12回	授業内容：武器＝労働力交易規制と帝国主義 事前学修：世界史事典等で、アフリカと太平洋の分割について調べておくこと。 事後学修：プリント（資料）と授業内容をノートに整理し、理解しておくこと。
13回	授業内容：インド大反乱と電信ネットワークの世界的拡大 事前学修：世界史事典等で、インド大反乱について調べておくこと。 事後学修：プリント（資料）と授業内容をノートに整理し、理解しておくこと。
14回	授業内容：日本の近代化、帝国主義、戦後経済 事前学修：世界史事典等で、日本の帝国主義について調べておくこと。 事後学修：プリント（資料）と授業内容をノートに整理し、理解しておくこと。
15回	授業内容：試験及びまとめ 事前学修：これまでの授業内容を確認し、ノートをよく復習しておくこと。 事後学修：授業内容を確認・理解すること。

- ◆**教科書** 〔当日資料配布〕 特に教科書は指定せず、当日にプリント（資料）を配布する。
- ◆**参考書** 〔教材〕『商業史 S 32100』 通信教育教材（教材コード 000555）
〔丸沼〕『世界流通史』 谷澤毅著 昭和堂 2017年
- ◆**成績評価基準** 試験の結果（80%）、授業への取り組み（授業内レポート等、20%）をもって総合的に評価する。

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔市場調査論〕

最上 健児

- ◆**授業概要** 市場調査とはマーケティングに必要な情報を集め、整理し、発見を提示する一連のプロセスである。現在はビックデータと呼ばれるすでに集められている大量なデータがあり、あとはそこから何を発見できるかということが重要な課題となっている。本講義では代表的な統計量を紹介し、その意味を数学的に解説する。さらに二つの値の関係を表す方法として回帰分析を数学的に紹介する。
- ◆**学習到達目標** 平均・分散・共分散・相関係数の意味を知り、それぞれの関係を理解できる。線型回帰分析を数学的に理解できる。具体的な数値に基づき線形回帰分析を適用できる。推定されたパラメータの意味を適切に解釈できる。
- ◆**授業方法** 授業は数回ごとにまとまった内容の講義となっている。ある程度区切りのいい部分で毎回の授業を構成するが、前回の内容を踏まえ当日の授業を進める形式をとるため当日の資料を入手するだけにとどまらず前回の内容を確認しておくことが好ましい。提示している資料を配信するが、併せてノートを取ることを強く勧める。ノートは資料は写すのではなく、式の変換などを自ら行い、資料と同じ結果が導かれていることを確認していくようにしてください。
- ◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容：マーケティングと市場調査 事前学修：資料配信元を確認しておくことが好ましい。必要ならば、資料をダウンロード・印刷しておいてください。 事後学修：資料配信元「最上資料館」を確認しておくこと。URL http://mogami-labo.sakura.ne.jp/nichidai/index.htm
2回	授業内容：市場調査の基礎概念 事前学修：「最上資料館」から資料を入手しておくことが好ましい。 事後学修：資料と講義内容を照らし合わせておくことが好ましい。資料を振り返り、授業内容を再現することが好ましい。
3回	授業内容：市場調査のプロセス 事前学修：「最上資料館」から資料を入手しておくことが好ましい。 事後学修：資料と講義内容を照らし合わせておくことが好ましい。資料を振り返り、授業内容を再現することが好ましい。
4回	授業内容：集計と分析 事前学修：「最上資料館」から資料を入手しておくことが好ましい。 事後学修：資料と講義内容を照らし合わせておくことが好ましい。資料を振り返り、授業内容を再現することが好ましい。
5回	授業内容：平均と分散 事前学修：「最上資料館」から資料を入手しておくことが好ましい。 事後学修：「ゆっくり市場調査論」の該当動画「総和と平均」を視聴する。ノートに自分の手で定義を写し、式の変換を行う。
6回	授業内容：共分散と相関係数 事前学修：「最上資料館」から資料を入手しておくことが好ましい。 事後学修：「ゆっくり市場調査論」の該当動画「共分散と相関係数」を視聴する。ノートに自分の手で定義を写し、式の変換を行う。
7回	授業内容：相関係数の範囲 事前学修：「最上資料館」から資料を入手しておくことが好ましい。 事後学修：「ゆっくり市場調査論」の該当動画「相関係数の範囲」を視聴する。ノートに自分の手で定義を写し、式の変換を行う。
8回	授業内容：直線状に並んだ値の共分散と相関係数 事前学修：「最上資料館」から資料を入手しておくことが好ましい。 事後学修：「ゆっくり市場調査論」の該当動画「線型結合された値の相関係数」を視聴する。ノートに自分の手で定義を写し、式の変換を行う。
9回	授業内容：直線の当てはめと誤差 事前学修：「最上資料館」から資料を入手しておくことが好ましい。 事後学修：「ゆっくり市場調査論」の該当動画「直線の当てはめ」を視聴する。ノートに自分の手で定義を写し、式の変換を行う。
10回	授業内容：誤差の二乗和の導関数 事前学修：「最上資料館」から資料を入手しておくことが好ましい。 事後学修：「ゆっくり市場調査論」の該当動画「直線の当てはめ」を視聴する。ノートに自分の手で定義を写し、式の変換を行う。
11回	授業内容：最小二乗会の導出 事前学修：「最上資料館」から資料を入手しておくことが好ましい。 事後学修：「ゆっくり市場調査論」の該当動画「直線の当てはめ」を視聴する。ノートに自分の手で定義を写し、式の変換を行う。
12回	授業内容：決定係数 事前学修：「最上資料館」から資料を入手しておくことが好ましい。 事後学修：「ゆっくり市場調査論」の該当動画「決定係数」を視聴する。ノートに自分の手で定義を写し、式の変換を行う。
13回	授業内容：統計的検定 事前学修：「最上資料館」から資料を入手しておくことが好ましい。 事後学修：「ゆっくり市場調査論」の該当動画「パラメータβの統計的検定」を視聴する。ノートに自分の手で定義を写し、式の変換を行う。
14回	授業内容：線形回帰分析の多変数化 事前学修：「最上資料館」から資料を入手しておくことが好ましい。 事後学修：「ゆっくり市場調査論」の該当動画「重回帰分析」を視聴する。ノートに自分の手で定義を写し、式の変換を行う。
15回	授業内容：数値例をもとにした演習 事前学修：「最上資料館」から資料を入手しておくことが好ましい。 事後学修：自ら入手したデータに対して回帰分析を当てはめる。統計ソフトまたは表計算ソフトを使い数値例を当てはめてみる。

- ◆**教科書** 〔当日資料配布〕「最上資料館」より配信。閲覧には PowerPoint Keynote を使用してください。
URL <http://mogami-labo.sakura.ne.jp/>
〔事前資料送付〕「最上資料館」より配信。閲覧には PowerPoint Keynote を使用してください。
URL <http://mogami-labo.sakura.ne.jp/>

◆**参考書** なし

◆**成績評価基準** 最終レポート（100%）によって評価する。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔経営学 B〕

所 伸 之

- ◆**授業概要** 経営学は実践的な学問であるが、現実の企業活動を理解するためには理論的な背景を知っておくことが重要である。経営学ではこれまでに戦略論、組織論、人的資源管理論等の領域において有為な理論の蓄積がなされており、それらの理論を学ぶことで現実の企業活動の正確な把握や問題点を知ることが可能になる。授業では、経営学でこれまで開発された古典的な理論から最新の研究成果に基づく知見まで幅広い理論を解説するとともに、それらを現実の企業活動の分析に援用することで浮かび上がる諸問題について考えていく。
- ◆**学修到達目標** 1. 戦略論、組織論、人的資源管理論等の分野で開発された理論を理解し、説明することができる。2. 現実の企業活動を経営学の理論を用いて説明することができる。3. 経営学の専門用語を正確に理解することができる。
- ◆**授業方法** 授業はパワーポイントを用いて行う。90分の授業を2つのパートに分け、前半部分（70分）はパワーポイントを用いた授業、後半部分（20分）は授業内容に関する小テストを実施する。小テストの目的は、授業内容をより深く理解することであり、参考書、ノート等全て参照可で行う。また授業ではトヨタの国際化戦略等を取り上げたDVDを視聴し、映像を通じて現実の企業活動を理解することも行う予定である。
- ◆**履修条件** 昼間スクーリング（前期）「経営学A」との積み重ね不可。
- ◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容 ガイダンス：授業の進め方、評価の方法、授業で取り上げる内容について説明する。経営学の対象・方法について基本的な解説を行う。
	事前学修 シラバス全体に目を通し、授業の全体の流れや取り上げる内容について事前に理解しておくこと。
	事後学修 経営学の対象・方法についてノートを整理し、理解を深めておくこと。
2回	授業内容 現代産業社会の特質：経済のサービス化、知識集約化、情報化、国際化、高齢化等、企業を取り巻く環境について解説する。
	事前学修 参考書 PP.31-39 に目を通し、現代産業社会の特質について理解を深めておくこと。
	事後学修 授業ノートを復習し、さらに関連文献を調べてより深い理解に努めること。
3回	授業内容 株式会社の仕組み①：株主の利益、株主総会、株主と経営者の関係等、株式会社の基本的な仕組みについて解説を行う。
	事前学修 株式会社について事前に調べ、理解を深めておくこと。
	事後学修 授業ノートを整理し、株式会社の仕組みについて理解を深めるとともに、株式会社の問題点について考えてみる。
4回	授業内容 株式会社の仕組み②：有限責任、無限責任、取締役会、監査役会、委員会等設置会社等、株式会社の仕組みについてさらに詳しく解説する。
	事前学修 参考書 PP.40-57 を読み、株式会社についての専門的な知識の取得に努めておくこと。
	事後学修 株式会社以外の企業形態についても調べてみる。
5回	授業内容 現代企業の所有・経営・支配：所有と経営の分離、コーポレートガバナンスについて日米企業の比較を視野に入れながら解説を行う。
	事前学修 参考書 PP.77-94 を読み、基本的な理解を深めておくこと。
	事後学修 日米企業のガバナンスの仕組みの違いから、企業に対する考え方の違いについて考えてみる。
6回	授業内容 DVD「ホリエモン 虚飾の膨張」を視聴し、株式会社の問題点やその存在意義について考えていく。
	事前学修 2000年代前半に起きたライブドア事件について事前に調べておくこと。
	事後学修 株式会社の問題点やその存在意義について改めて自らの考えを整理しておくこと。
7回	授業内容 企業の目的と経営目標：企業の活動目的に関する各ステークホルダー（株主、従業員、顧客等）の捉え方の総意について解説していく。
	事前学修 参考書 PP.95-108 を読み、内容を理解しておくこと。
	事後学修 株主主権論、ステークホルダーアプローチの考え方について各々のメリット、デメリットを整理しておくこと。
8回	授業内容 経営戦略①：ドメイン、多角化戦略、競争戦略など経営戦略の基本的な考え方を解説する
	事前学修 参考書 PP.109-123 に目を通し、戦略論の基本的な考え方を理解しておくこと。
	事後学修 低価格戦略に潜む罠について詳しく調べてみる。
9回	授業内容 経営戦略②：PPM、M&Aについて多角化戦略との関連において事例を交えながら解説する。
	事前学修 参考書 PP.124-139 に目を通し、PPMの考え方を理解するとともにM&Aに関する専門用語を調べておくこと。
	事後学修 敵対的M&Aの成功事例、失敗事例について調べてみる。
10回	授業内容 DVD「トヨタ世界一の条件」を視聴し、グローバル化の中で現地に受け入れられる企業について考えておく。
	事前学修 トヨタの国際化戦略、海外展開について事前に調べておくこと。
	事後学修 現地に受け入れられる企業、ローカライゼーションの実践について他の企業の事例を調べてみる。
11回	授業内容 組織の諸形態：ライン、スタッフ、機能別部門組織、事業部制組織、マトリックス組織等、組織の諸形態について解説する。
	事前学修 参考書 PP.150-169 に目を通し、組織の形態や構造についての理解を深めておくこと。
	事後学修 授業ノートを整理し、事業部制組織のメリット、デメリットについてまとめる。
12回	授業内容 組織メンバーの動機づけ：経済人、情緒人、XY理論、動機づけ一衛生理論等、産業心理学の知見を踏まえて開発されたモチベーション理論について解説する。
	事前学修 モチベーション理論にはどのようなものがあるのか、事前に資料に当たり調べておくこと。
	事後学修 モチベーションに関する理論は現実の企業活動においてどの程度有用であるのかについて考えてみる。
13回	授業内容 企業経営の機能とマネジメント：マネジメントプロセスや意思決定、マネージャーとリーダーの違い等について解説する。
	事前学修 参考書第10章および第8章を事前に読み、内容について理解しておくこと。
	事後学修 マネージャーとリーダーの違いについて現実の企業活動の中に置き換えて考えてみる。
14回	授業内容 企業経営の日米比較：日本とアメリカの企業経営の比較をトップマネジメントや従業員、株主との関係等、多角的な視点から行う。
	事前学修 日本企業の社長とアメリカ企業のCEOの平均年収について調べておくこと。
	事後学修 日本企業、アメリカ企業の経営スタイルの違いとその背景について考えてみる。
15回	授業内容 期末試験
	事前学修 過去14回の授業内容について復習し、ノートを整理しておくこと。
	事後学修 全体の授業内容を再度、復習し、総括すること。

- ◆**教科書** なし
- ◆**参考書** 〔凡例〕『現代企業経営学の基礎 上』 松本芳男 同文館 2014年
- ◆**成績評価基準** 試験（70%）、平常点（小テスト 30%）により総合的に評価する。

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」[学生番号] および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔社会学 B〕

服部 慶巨

◆**授業概要** 人間は、独りで生きてゆくことの出来ない弱い存在である。ゆえに、共同生活を営む者（仲間）が必要不可欠となる。また、社会生活は（必ずしも）自分の思い通りにゆくものではない。担当者が中学・高校の教員として学校生活や進路選択に悩む生徒たちに触れた経験や、担当者自身の人生経験を理論的にまとめ、受講者自身の現実を実践的に理解し、「人間としていかに評価されるか？」というテーマについて考えてゆく。

◆**学修到達目標** 「大学で学んだことは、日常で役に立たない」という声を聞くが、本当にそうだろうか？ そんな疑問と対峙しつつ、学問が自分の日常生活や人生の現在・過去・未来と密接に関わっていることを理解し、社会（科）学的な視点で自分自身をとらえる技術を身につける。

◆**授業方法** 教科書・プリント・板書（パワーポイント）などを用い、受講生自身も陥りがちな問題点を指摘・解説する。必要に応じて視聴覚資料（CD、DVD、マンガ、その他）を多用する。また、学生に質問を投げかけ、対話とシミュレーションを展開しながら講義を進めていく。講義を単に「聴く」のではなく、講義に「参加」する意欲が求められる。なお、本授業の事前学修・事後学修の時間は、各2時間を目安とする。

◆**履修条件** 令和2年度昼間（前期）開講の「社会学A」との積み重ね履修不可。また、昨年度昼間（前期）開講分の社会学を合格した者も、履修不可。

◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容：前期ガイダンス（講義の方針、展開方法、目標などを確認する） 事前学修：シラバスを読んで、講義の目的・目標を理解する。 事後学修：キストを入手し、「もくじ」に目を通しておく。
2回	授業内容：状況（情況）判断①「レディネス」(readiness) について 事前学修：前回の講義内容を確認しておく。 事後学修：講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
3回	授業内容：状況（情況）判断② 絶対と相対 事前学修：前回までの講義内容を確認しておく。 事後学修：講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
4回	授業内容：社会的自我① 鏡に映った自我 事前学修：前回までの講義内容を確認しておく。 事後学修：講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
5回	授業内容：社会的自我① 鏡に映った自我② 主我と客我 事前学修：前回までの講義内容を確認しておく。 事後学修：講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
6回	授業内容：社会的人間としての人間① 行為と行動 事前学修：前回までの講義内容を確認しておく。 事後学修：講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
7回	授業内容：社会的動物としての人間② 「社会」とは？ 事前学修：これまでの講義内容をふまえて、自身の「今まで」を振り返っておく。 事後学修：講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
8回	授業内容：社会的動物としての人間③ 生理的早産 事前学修：これまでの講義内容をふまえて、自身の「今まで」を振り返っておく。 事後学修：講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
9回	授業内容：Human Being ① 「人間」について 事前学修：これまでの講義内容をふまえて、「人間とは何か？」という問いに対する答えを考えておく。 事後学修：講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
10回	授業内容：Human Being ② 不完全体（態）と完全体（態） 事前学修：前回までの講義内容を確認しておく。 事後学修：講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
11回	授業内容：Human Being ③ 地位 事前学修：前回までの講義内容を確認しておく。 事後学修：講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
12回	授業内容：「人間」について④ 役割 事前学修：前回までの講義内容を確認しておく。 事後学修：講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
13回	授業内容：Human Being ⑤ 「地位」の諸性質 事前学修：前回までの講義内容を確認しておく。 事後学修：講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
14回	授業内容：理解度確認（まとめ） 事前学修：これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。 事後学修：試験に向けて、これまでの講義内容を復習しておく。
15回	授業内容：試験および解説 事前学修：これまでの講義内容について、テキストやノート、資料を読んで、自身でまとめておく。 事後学修：今後の受講、または日常生活改善に向けて、講義内容を再確認する。

◆**教科書** 丸沼『人間生活の理論と構造』夏川康男（ほか）学文社
丸沼『補強版ストレス・スパイラル』服部慶巨 人間の科学社
（他の講座でこの本を入手済みの人は、それを使います。なお、再販時期が未定のため、未入手の人には後日指示します）

◆**参考書** 〔当日資料配布〕必要に応じてプリント配布

◆**成績評価基準** 終講試験（70%）、授業参加度（20%）、レポート類（10%）で評価する。なお、全講義回数の3分の2以上の出席が原則（公欠などは申し出ること）。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔日本史特講Ⅰ〕

坂口 太助

◆授業概要 全体テーマ：日清・日露戦争と日本の近代

日本の近代は、欧米諸国を参考に「近代化」が進む一方で、多くの戦争が行われた時代でもあった。本講義は、主に明治時代（日清・日露戦争）に注目し「近代化」と戦争との関連、戦争に至った理由とその後への影響等について理解し、また考えることを目的とする。なお、平成30年度東京スクーリング11月期「日本史特講Ⅱ」（坂口太助担当）と同一内容のため、受講希望者は注意すること。

- ### ◆学修到達目標
1. 近代の日本は様々な戦争（及び事変）にかかわり、その影響は現在でも残っていると言える。それらの戦争のうち、本講義で扱う日清戦争・日露戦争についてその概要を理解する。
 2. 結果を見るだけでなく「過程」を考えることで、歴史学的（実証的）な考え方・分析を行う力を養う。
 3. 国際環境を把握し、そのうえで日本が選択した対応や進路について考えることで、「世界の中の日本」という視点から物事を見る力を養う。

- ### ◆授業方法
- プリントを配布して講義形式で行い、要点については板書する。また理解を深めるため映像資料も使用する予定である。最終日に筆記試験を実施するほか、授業内アンケート（小テストではなく、出欠確認を兼ねた感想シートのようなもの）を数回実施する。なお、受講者の状況（受講者数等）によっては授業の内容・方法を変更する場合もある。

◆授業計画〔各90分〕

回数	授業内容	ガイダンス及び総論①：この講義の目的・到達目標・評価方法等について解説するとともに、日本の「近代」という時代の概要・特徴を確認する。
1回	事前学修	これまでに近代史関係の講義を受講していた場合には、その内容を簡単に振り返っておくこと。
	事後学修	歴史は話が続いていくので確認・復習が大切となる。プリントをもとに授業内容を整理しておくこと。
2回	授業内容	総論②：近代の日本がかかわった様々な戦争について確認する。
	事前学修	前回の授業で使用したプリントの内容を確認しておくこと。
3回	授業内容	総論③：第一次世界大戦という戦争と「総力戦」について確認する。
	事前学修	前回の授業で使用したプリントの内容を確認しておくこと。教科書の153～155,167頁を読んでおくこと。
4回	授業内容	近代の始まり①：江戸時代末期（ペリー来航前後）の日本を取り巻く国際的な環境を考えていく。
	事前学修	第2回の授業で使用したプリントの内容を確認しておくこと。
5回	授業内容	近代の始まり②：国際的な環境を踏まえ、どのような状況の中で日本の近代が始まったのかを考えていく。
	事前学修	前回の授業で使用したプリントの内容を確認しておくこと。テキストの9～14頁を読んでおくこと。
6回	授業内容	「近代化」の推進と日清戦争①：日清戦争について考える前提として、19世紀中盤の東アジアの状況を確認する。
	事前学修	前回の授業で使用したプリントの内容を確認しておくこと。テキストの86～92頁を読んでおくこと。
7回	授業内容	「近代化」の推進と日清戦争②：日清戦争に至る過程を、中国（清国）側の視点から考えていく。
	事前学修	前回の授業で使用したプリントの内容を確認しておくこと。
8回	授業内容	「近代化」の推進と日清戦争③：日清戦争に至る過程を、日本側の視点から考えていく。
	事前学修	前回の授業で使用したプリントの内容を確認しておくこと。
9回	授業内容	「近代化」の推進と日清戦争④：日清戦争の結果とその後の国際関係について考えていく。
	事前学修	前回の授業で使用したプリントの内容を確認しておくこと。テキストの97～102頁を読んでおくこと。
10回	授業内容	日露戦争と「大国」日本①：日露戦争に至る過程を、ロシア側の視点から考えていく。
	事前学修	前回の授業で使用したプリントの内容を確認しておくこと。テキストの103～106頁を読んでおくこと。
11回	授業内容	日露戦争と「大国」日本②：日露戦争に至る過程を、日本側の視点から考えていく。
	事前学修	前回の授業で使用したプリントの内容を確認しておくこと。
12回	授業内容	日露戦争と「大国」日本③：日本・ロシアを巡るほかの列強諸国の動向と「日英同盟」について考えていく。
	事前学修	前回の授業で使用したプリントの内容を確認しておくこと。
13回	授業内容	日露戦争と「大国」日本④：日露戦争の結果とその後の国際関係について考えていく。
	事前学修	前回の授業で使用したプリントの内容を確認しておくこと。テキストの107～111頁を読んでおくこと。
14回	授業内容	まとめ：日本の「近代化」を考える 前期の講義をまとめを行うとともに、日本の「近代化」の特徴・問題点について考えていく。
	事前学修	前回の授業で使用したプリントの内容を確認しておくこと。
15回	授業内容	試験及び解説：筆記試験を実施するとともに解説を行う。
	事後学修	これまでの14回の内容を復習しておくこと。

- ### ◆教科書
- 丸沼『もういちど読む山川日本近代史』鳥海靖、山川出版社、2013年。

- ### ◆参考書
- 授業内で紹介する。

- ### ◆成績評価基準
- 筆記試験80%、授業参画度20%。授業参画度は授業内アンケートの内容等から判断する。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔商業政策〕

花田 哲郎

◆**授業概要** この授業では、商業政策について、商業そのものも含めたその歴史を辿るとともに、現在の商業が抱える課題を把握した上で、「町おこし」や「地域活性化」について、その歴史や現状を学びます。さらに「町おこし」や「地域活性化」を行う際に利用すべき経営学やマーケティング論の考え方や手法などについても学んでいきます。

◆**学修到達目標** 商業のはじまりから現代の商業まで、どのような政策が実行されてきたのかを踏まえて、「町おこし」や「地域活性化」とはどのようなことなのか、現状はどのようにになっているのか、将来を見据えた課題は何かを理解できるようになること。また「町おこし」や「地域活性化」を実行する際に利用できるマーケティングの考え方や手法も理解できるようになること。

◆**授業方法** パワーポイントで作成した講義資料をスクリーンに投影しながら講義を進めます。また中間と最終の2回、授業内テストを実施します。

◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容: ガイダンスとインダクション, 授業の構成, 商業政策とは何か 事前学修: 新聞や雑誌などで関連した記事を読み、日頃から現実の最新動向にふれること 事後学修: 講義で学んだ内容について、配布資料やノート見直して整理しておくこと。
2回	授業内容: 世界の商業の歴史 事前学修: 新聞や雑誌などで関連した記事を読み、日頃から現実の最新動向にふれること 事後学修: 講義で学んだ内容について、配布資料やノート見直して整理しておくこと。
3回	授業内容: 日本の商業の歴史(1)―古代より江戸時代まで 事前学修: 新聞や雑誌などで関連した記事を読み、日頃から現実の最新動向にふれること 事後学修: 講義で学んだ内容について、配布資料やノート見直して整理しておくこと。
4回	授業内容: 日本の商業の歴史(2)―幕末より第二次世界大戦まで 事前学修: 新聞や雑誌などで関連した記事を読み、日頃から現実の最新動向にふれること 事後学修: 講義で学んだ内容について、配布資料やノート見直して整理しておくこと。
5回	授業内容: 日本の商業の歴史(3)―第二次世界大戦終戦より現代まで 事前学修: 新聞や雑誌などで関連した記事を読み、日頃から現実の最新動向にふれること 事後学修: 講義で学んだ内容について、配布資料やノート見直して整理しておくこと。
6回	授業内容: 日本の商業政策の歴史 事前学修: 新聞や雑誌などで関連した記事を読み、日頃から現実の最新動向にふれること 事後学修: 講義で学んだ内容について、配布資料やノート見直して整理しておくこと。
7回	授業内容: 前半のまとめ + 中間テスト 事前学修: 1～6回の授業で学んだことを整理し理解を確かなものにしておくこと。 事後学修: テストで正解でなかったところについて、関係する授業で配布された資料やメモしたノートを読み返し知識や考え方を整理しておくこと。
8回	授業内容: 商業政策と流通政策 事前学修: 新聞や雑誌などで関連した記事を読み、日頃から現実の最新動向にふれること 事後学修: 講義で学んだ内容について、配布資料やノート見直して整理しておくこと。
9回	授業内容: 二つの流通政策―公共的流通政策と私的流通政策 事前学修: 新聞や雑誌などで関連した記事を読み、日頃から現実の最新動向にふれること 事後学修: 講義で学んだ内容について、配布資料やノート見直して整理しておくこと。
10回	授業内容: 私的流通政策としてのマーケティング戦略―消費者 事前学修: 新聞や雑誌などで関連した記事を読み、日頃から現実の最新動向にふれること 事後学修: 講義で学んだ内容について、配布資料やノート見直して整理しておくこと。
11回	授業内容: 私的流通政策としてのマーケティング戦略―外部環境分析とマーケティング・リサーチ 事前学修: 参考書などで関連した箇所を読み、整理しておくこと。 事後学修: 講義で学んだ内容について、配布資料やノート見直して整理しておくこと。
12回	授業内容: 私的流通政策としてのマーケティング戦略―マッコーシーの4P 事前学修: 参考書などで関連した箇所を読み、整理しておくこと。 事後学修: 講義で学んだ内容について、配布資料やノート見直して整理しておくこと。
13回	授業内容: 私的流通政策としてのマーケティング戦略―ブランド 事前学修: 参考書などで関連した箇所を読み、整理しておくこと。 事後学修: 講義で学んだ内容について、配布資料やノート見直して整理しておくこと。
14回	授業内容: 私的流通政策としてのマーケティング戦略―マーケティング戦略の進化 事前学修: 参考書などで関連した箇所を読み、整理しておくこと。 事後学修: 講義で学んだ内容について、配布資料やノート見直して整理しておくこと。
15回	授業内容: 後半のまとめ + 最終テスト 事前学修: 1～14回の授業で学んだことを整理し理解を確かなものにしておくこと。 事後学修: テストで正解でなかったところについて、関係する授業で配布された資料やメモしたノートを読み返し知識や考え方を整理しておくこと。

◆**教科書** 特になし

◆**参考書** 丸沼『マーケティング基礎の基礎 (改訂版)』井原久光・花田哲郎 桜門書房

◆**成績評価基準** 平常点評価 100%

<内訳>授業内テスト: 100% (中間: 50% / 最終: 50%)

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔簿記論Ⅰ〕 オープン受講：不可

青木 隆

◆**授業概要** この講義では、主に簿記を初めて学ぶ方を対象として、複式簿記の基礎を学びます。簿記一巡の手続を学修し、特に重要な決算手続に関して理解を深めるとともに、最終的には、日本商工会議所主催の簿記検定3級の合格を目指します。講義内では可能な限り問題演習に時間を割いて、理解度を深めます。

◆**学修到達目標** (1)複式簿記に関する基本的な用語や概念を理解できる。(2)簿記一巡の手続を理解し、各手続において帳簿等への記入ができる。(3)精算表や財務諸表（貸借対照表および損益計算書）が作成できる。(4)日本商工会議所主催の簿記検定3級に合格できる。

◆**授業方法** 講義形式を基本とします。また問題演習を可能な限り取り入れます。また第2回講義以降、講義の冒頭に前回の講義内容をおさらいする確認テストを行います。問題演習においては電卓が必要ですので用意しておいてください。電卓についてはどのメーカーのでも構いませんが、少なくとも10桁対応の電卓が望ましいです。

◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容 事前学修 事後学修	簿記の意義としくみ① 簿記の基本的な意義としくみを説明したうえで貸借対照表の基本的な内容を説明します。 テキスト1～10ページを通読 ワークブック2～4ページを復習
2回	授業内容 事前学修 事後学修	簿記の意義としくみ② 前回の授業内容を踏まえたうえで損益計算書の基本的な内容および貸借対照表と損益計算書との関係について説明します。 テキスト10～18ページを通読 ワークブック4～5ページを復習
3回	授業内容 事前学修 事後学修	複式簿記における仕訳と転記① 複式簿記の基本的な構造を説明したうえで複式簿記の最初の手続きである仕訳について説明します。 テキスト19～29ページを通読 ワークブック6～9ページを復習
4回	授業内容 事前学修 事後学修	複式簿記における仕訳と転記② 前回の授業内容を踏まえたうえで仕訳に続いて行われる転記の手続きについて説明します。 テキスト29～36ページを通読 ワークブック10～13ページ
5回	授業内容 事前学修 事後学修	仕訳帳と元帳① 前回の授業内容を踏まえたうえで仕訳を行う帳簿である仕訳帳および転記を行う帳簿である総勘定元帳の基本的な構造について説明します。 テキスト37～43ページを通読 ワークブック14～17ページを復習
6回	授業内容 事前学修 事後学修	仕訳帳と元帳② 前回の授業内容を踏まえたうえで仕訳帳への仕訳および総勘定元帳への転記の問題演習を中心に授業を行います。 テキスト37～43ページを通読 ワークブック14～17ページを復習
7回	授業内容 事前学修 事後学修	基本的な決算手続① 複式簿記における決算手続のうち試算表の作成および帳簿の締切について説明します。 テキスト44～60ページを通読 ワークブック18～20ページを復習
8回	授業内容 事前学修 事後学修	基本的な決算手続② 前回の授業内容の復習および精算表の作成について説明します。 テキスト60～63ページを通読 ワークブック21～28ページを復習
9回	授業内容 事前学修 事後学修	現金取引の処理 現金取引に関する処理を説明するとともに現金過不足の処理についても説明します。 テキスト64～71ページを通読 ワークブック29～32ページを復習
10回	授業内容 事前学修 事後学修	当座預金取引と小口現金の処理 当座預金取引に関する処理を説明するとともに小口現金の処理についても説明します。 テキスト71～83ページを通読 ワークブック33～37ページを復習
11回	授業内容 事前学修 事後学修	商品売買取引の処理① 商品売買取引の処理のうち記帳方法である分記法および三分法について説明します。 テキスト84～94ページを通読 ワークブック38～40ページを復習
12回	授業内容 事前学修 事後学修	商品売買取引の処理② 商品売買取引の処理のうち仕入帳、売上帳および商品有高帳について説明します。 テキスト94～104ページを通読 ワークブック41～45ページを復習
13回	授業内容 事前学修 事後学修	売掛金と買掛金の処理 主に商品売買取引において生じる債権債務である売掛金および買掛金の処理について説明します。 テキスト105～120ページを通読 ワークブック46～55ページを参照
14回	授業内容 事前学修 事後学修	その他の債権と債務の処理 主たる営業活動以外の活動において生じる債権債務の処理について説明します。 テキスト121～137ページを通読 ワークブック56～63ページを参照
15回	授業内容 事前学修 事後学修	期末試験 テキストおよびレジュメを参照

◆**教科書** 丸沼『検定簿記講義3級商業簿記〔2020年度版〕』 渡部裕巨・片山覚・北村敬子編 中央経済社
丸沼『検定簿記ワークブック3級商業簿記〔最新版〕』 渡部裕巨・片山覚・北村敬子編 中央経済社
〔当日資料配布〕

◆**参考書** なし

◆**成績評価基準** 全体の3分の2以上の出席を前提条件として学修到達目標(1)(2)(3)を評価するための試験80%、確認テスト20%

注意 E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

1 講座受講時の注意点

①ポータルサイト及び 掲示板で最新情報の 確認	登校の際は、通信教育部1号館1階学生ホールにある掲示板で最新情報を確認してから講義に出席してください。 また、「講堂変更」・「休講」等、日々の授業に関する情報についても随時、ポータルサイトや掲示板でお知らせします。
②受講上の注意 (出席・欠席・遅刻等)	<p>【出席について】 スクーリングは、毎回出席することを原則としています。 交通機関の遅れや特別な事情がある場合以外での遅刻はしないよう心掛けてください。 ※授業を途中から受講することは、担当教員や周りの受講者に対しても迷惑な行為です。時間に余裕を持って行動してください。</p> <p>【欠席について】 止むを得ぬ事情によりスクーリングを欠席した場合は、次回の出席時に直接、担当教員へ欠席した旨を伝えてください。事務局及び講師室では、欠席の連絡は受け付けません。</p>
③受講上の注意 (休講・補講)	<p>【休講について】 スクーリング期間中、担当教員の都合や天候により授業を休講する場合があります。</p> <p>① 事前に情報を得ている場合は、ポータルサイト及び掲示板にてお知らせします。</p> <p>② 当日、急きょ、担当教員の体調不良等の理由により休講する場合は、現地でお知らせします。</p> <p>③ その他、天候により急きょ、休講となる場合はホームページ、ポータルサイトにてお知らせします。</p> <p>【補講について】 スクーリング期間中に休講した場合、必ず補講を実施します。補講は、下記の①もしくは②の日程で実施します。</p> <p>① 補講日程に実施 7月20日(月)</p> <p>② スクーリング期間中のその他日程</p>

「スクーリング試験」受験上の注意

- 1 「学生証」及び「領収書（銀行領収印の押印されているもの）」を机上通路側の監督者が見やすいところに置くこと。受講手続及び受講料納入がない場合、受験できない。
- 2 「学生証」を忘れた場合又は未更新の場合は、事前に教務課（講師室）に申し出て指示を受けること。
- 3 携帯電話等は、電源を切り、鞆等に収納し身体から離しておくこと。時計・電卓としての使用も禁止する。
- 4 持ち込みを許可されたもの以外は机の上に置かないこと。
- 5 解答用紙は、1人1枚とし、再交付はしない。
- 6 解答用紙の下段、太線枠内※印の事項については、必ずペン又はボールペンで記入すること。当該事項について記載がない場合又は誤記等は採点の対象にならない場合がある。
- 7 試験開始後20分以上遅刻した者は受験することができない。
- 8 途中退場は、試験監督者の指示がある場合に限り、試験開始30分後から認める。解答用紙を試験監督者に提出して退場すること。なお、用紙の持ち帰りは一切認めない。
- 9 試験場では、試験監督者の指示に従うこと。
- 10 不正行為（不正とみなされる行為含む）は絶対行わないこと。不正行為を行った場合は、学則により処分（停学・退学等）される。

※試験中の参照物等の貸し借りは不正行為とみなす。

2 スクーリング結果の確認

スクーリングの結果は、令和2年度授業料及びスクーリング受講料を納入した学生に対し、ポータルサイトでお知らせします。ただし、スクーリングの申込を「受講届」にて行った場合には、教務課から、結果通知を郵送します。ポータルサイトから申込みを行った場合には送付されませんので、あらかじめご了承ください。掲載の開始はポータルサイトの「お知らせ」に掲載します。

電話・郵便による問い合わせには一切応じません。また、スクーリング結果通知の再発行はいたしません。天災による郵便の遅延・未着や、その他の事故に対していかなる配慮も行いませんので、スクーリング結果通知を紛失した場合などはポータルサイトで確認、又は「単位照合票」の交付を受け、確認してください。

結果内容に疑義がある場合は、結果通知日から3か月以内に教務課まで問い合わせてください。なお、それ以降の疑義に関しては対応いたしません。

結果発表時期	令和2年8月下旬
--------	----------

① 結果の表示

結果は、「合格」、「不合格」、「未受講」で発表します。

受講許可のない講座を受験した場合には「無効」とし、単位は修得できません。

② 単位数

結果が「合格」の場合、開講講座表に記載されている開講単位数を修得したことになり、また同時にスクーリング単位も修得したことになります。

VI 申込講座の許可と不許可

1 講座振り分け及び受講不許可について

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者が定員を超えた場合、以下の①から③のいずれかで対応させていただきます。

① **超過した人数分の学生を他講師担当の同一科目講座へ振り分ける**

② **新たに他講師担当の同一科目講座を増設し、超過した人数分の学生をその講座へ振り分ける**

※①及び②の場合、振り分けられた講座を受講することになります。担当講師、授業内容は振り分けられた講座の内容に変更されますのでご注意ください。

③ **超過した人数分の学生を受講不許可にする**

※希望した講座が受講できないこととなります。また、原則的に新たに代替りの講座を申し込むこともできません。あらかじめご了承ください。

振り分けられた講座の受講を辞退する場合には、「3 許可講座を辞退する」を参照し、辞退手続きを行ってください。なお、①及び②についても受講辞退後、新たに代替りの講座を申し込むことはできません。あらかじめご了承ください。

1 通学定期券の購入手続

通学定期券は、正科生がスクーリング受講を目的として通学する場合に限り購入できます。通学定期券購入の手続き等は、以下のとおりです。

学生証裏面シールへの記入	① 「学生番号」, 「氏名」, 「現住所」を黒のボールペンで記入してください。 ② 「通学区間」欄に対象区間及び経由(乗り換え駅)を記入してください。また、定期券が2枚に分かれる場合は2行に分けて記入してください。
学生課窓口で記入する所定用紙について	① 通学定期乗車券発行控(全員必要) ② 通学証明書(都営地下鉄, 都電, 各路線バス等を利用する場合及び三崎町キャンパスに通学する場合に必要)
対象区間	自宅(又は滞在先)の最寄駅から「通信教育部最寄の駅」までの最短経路
購入手続	① 上記「通学定期乗車券発行控」を記入の上、学生証持参で事務取扱時間内に学生課窓口にて「経路確認」印の押印を受けてください。 ② 通学定期券取扱駅の窓口にて定期券購入用紙に必要事項を記入し、押印済の学生証を提示することで通学定期券が購入できます。
その他注意事項	① 通学区間が変更となった場合は、学生課に届け出てください。 ② 年度内に学生証裏面シールの「通学定期乗車券発行控」欄が不足となった場合は、学生課へ届け出てください。 ③ 「経路確認」印は、スクーリング期間内に限り有効です。 ④ 科目履修生は対象外です。

【通信教育部最寄り駅】

鉄道会社	最寄駅(市ヶ谷キャンパス)
JR東日本	総武線 市ヶ谷駅
都営地下鉄	新宿線 市ヶ谷駅
東京メトロ	有楽町・南北線 市ヶ谷駅

※最短経路とは所要の時間が最短、交通費が最安、乗換が最少である等の合理的な経路のことをいいます。

※途中経路や迂回経路は一切認められません。

【注意事項】

通学定期券を不正に使用してはいけません。不正使用したことが発覚すると、鉄道会社等の営業規則に基づき定期運賃の数倍の罰則金等が科せられます。また、大学自体も通学定期券発行の指定から外され、他の学生に多大な迷惑をかけることとなります。不正使用は絶対に行わないでください。

【不正使用の例】

① 通学以外の目的で使用すること。	③ 記名人以外が使用すること。
② 現住所及び通学区間を偽ること。	④ 他人に譲渡・貸与すること。

VIII 体育実技の受講について

体育実技は他の講座と異なり、日本大学文理学部にて実施されます。申込締切日程、授業時間等も異なりますので、以下の事項をよく確認してください。

1 開講講座表・シラバス

時 限	講 座 コ ー ド	開 講 講 座 名	担 当 講 師 名	単 開 位 数 講	充 当 科 目		制 限 ・ 注 意			受 オ ー プ ン 講
					科 目 コ ー ド	科 目 名	併 用	配 当 学 年	受 講 条 件	
別 日 程	AT11	体 育 実 技 I ・ II	高 橋 正 則	1	J101S0	体 育 実 技 I	×	1 年	・スクーリング1回の合格 で単位完成する科目です。	×
					J102S0	体 育 実 技 II				

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔体育実技 I・II〕 オープン受講：不可

高橋 正則

◆**授業概要** 現代の高齢社会において、健康を維持・増進するためには、適度な運動習慣を生活習慣に取り込むことが求められます。そこで、まず自己の体力の現状を把握し、身体運動の継続的な必要性について認識を高めます。そして、年齢や体力レベルに応じた運動参加への具体的な方法を理解し、スポーツ実践に取り組みるとともに、それらを通して、他者とコミュニケーションを活発に図ることで社会的スキルも養います。そのためにも、日頃より1日20分以上の連続歩行や軽い柔軟運動の実施を心がけ、コンディションの維持が大切となります。特に、トレーニングコーチ（日本オリンピック委員会強化スタッフ・医科学）として体カトレーニングやメンタルトレーニングの指導実績を生かし、実践的で効果的な方法論を実践に反映させています。

◆**学修到達目標** 多くの運動やスポーツの実践を通して、その楽しさや具体的方法を他者とともに学び、自らが身体活動を継続して実施することの重要性を認識できるようにする。また、スポーツを通して、他者とのコミュニケーションを深め、社会的スキルを向上させることができるようになる。

◆**授業方法** 原則、天候に左右されない体育館内（アリーナおよび卓球場）での授業とし、いくつかの小グループに分かれ、体力測定をはじめとする様々な運動や、ネット型スポーツやニュースポーツを中心としたスポーツを体験します。体力測定結果については、性や年齢に応じた基準値と比較照合して、自己評価を実施します。また、各グループでのネット型スポーツやニュースポーツでは、学生個々の年齢や体力レベルに配慮するとともに、入念なウォーミングアップとクールダウンを徹底して行います。なお、本授業の事前学修・事後学修の時間は各2時間を目安としています。

◆**履修条件**

◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容 事前学修 事後学修	ガイダンス：集中授業における運動の効果とリスク・施設の使用法・注意事項の説明、グループ分けと準備体操の実施。 前日までに各自で体力の維持・向上を図り、コンディションの維持に留意しておくこと。 運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
2回	授業内容 事前学修 事後学修	体力測定の実施と評価：5種目（閉眼片足立ち、握力、長座体前屈、上体起こし、反復横跳び）、具体的な説明の実施。測定後、各測定項目の基準値と比較照合し、自己評価する。 前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。 運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
3回	授業内容 事前学修 事後学修	卓球：用具の理解、フォアハンドとバックハンド、サーブ、ボールの回転とショットとの関係、ラリー（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）。 前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。 運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
4回	授業内容 事前学修 事後学修	卓球：ダブルスにおけるペアとのコンビネーション（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）。 前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。 運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
5回	授業内容 事前学修 事後学修	卓球：ルールの理解、ダブルスの試合（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）。 前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。 運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
6回	授業内容 事前学修 事後学修	バドミントン：用具の理解、フォアハンドとバックハンド、ラリー（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）。 前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。 運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
7回	授業内容 事前学修 事後学修	バドミントン：サーブ、ハイクリアー、ダブルスにおけるペアとのコンビネーション（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）。 前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。 運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
8回	授業内容 事前学修 事後学修	バドミントン：ルールの理解、ダブルスの試合（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）。 前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。 運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
9回	授業内容 事前学修 事後学修	ミニテニス：用具の理解、フォアハンドとバックハンド、ボールの回転とショットとの関係、ラリー（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）。 前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。 運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
10回	授業内容 事前学修 事後学修	ミニテニス：サーブ、ダブルスにおけるペアとのコンビネーション（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）。 前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。 運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
11回	授業内容 事前学修 事後学修	ミニテニス：ルールの理解、ダブルスの試合（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）。 前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。 運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
12回	授業内容 事前学修 事後学修	バレーボール：用具の理解、アンダーハンドおよびオーバーハンドパス、レシーブ、ラリー（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）。 前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。 運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
13回	授業内容 事前学修 事後学修	バレーボール：ルールの理解、パスワーク、チームビルディング、試合（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）。 前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。 運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
14回	授業内容 事前学修 事後学修	ソフトバレーボール：ルールの理解、パス、サーブ、チームビルディング、試合（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）。 前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。 運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
15回	授業内容 事前学修 事後学修	グループ別対抗ソフトバレーボール大会：4コートに分かれ、各コート内でグループ別に総当たり戦を行う（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）。 前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。 運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。

◆**教科書**

◆**参考書** 丸沼『健康・スポーツ教育論』日本大学文理学部体育学研究室編、八千代出版

◆**成績評価基準** 授業への取り組み（貢献度）および自己の体力に合った運動への理解と遂行の程度によって、総合的に評価します。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

2 日程・会場等

① 日程

【雨天決行】

講座名	日 程	授業時間
体育実技Ⅰ・Ⅱ	9月15日(火)～9月17日(木)	9:00～17:30

※上記すべての日程に出席すること。

② 実施会場

体 育 実 技：日本大学文理学部総合体育館及び百周年記念館

住 所 東京都世田谷区桜上水 3-25-40

交通案内 京王線下高井戸駅及び桜上水駅下車徒歩約10分…次頁案内図参照

③ 持参物

- ・運動のできる服装（トレーニングウェア等）
- ・室内用運動靴
- ・健康保険証
- ・学生証
- ・筆記用具
- ・スクーリングの手引
- ・領収書（初回出席時は必携のこと）

④ 体育実技の集合場所・集合時間

日本大学文理学部総合体育館入口 8:45 から受付開始

※毎回、総合体育館入口に集合し、遅くとも授業開始5分前までに出席確認を受け、更衣後、実施会場に移動してください。

⑤ 受講について

体育実技は必修科目となっていますが、疾病及び身体等の障害により実技を行うことが困難であると思われる方は、受講申込前に教務課までお問い合わせください。

⑥ 注意事項

(1) 体育実技の単位は9月卒業の単位には算入できません。

(2) 体育実技はジーンズや普段着での受講はできません。

(3) 文理学部周辺は住宅地で付近に食事をする場所が少なく、また、当日、文理学部内の食堂は利用できない可能性があるため、食事は事前に済ませるか、持参することをお勧めいたします。

(4) 体育実技の更衣室は文理学部総合体育館及び百周年記念館内にあります。ただし、更衣室内のロッカーは使用できないため、更衣後、荷物は受講会場へ持参してください。

(5) 貴重品は各自で管理してください。

(6) 体育実技は授業開始15分前から出席をとります。受付及び更衣の時間を考慮の上、必ず遅れることのないようにしてください。

(7) このスクーリングに関するお問い合わせは、必ず通信教育部にしてください。

文理学部はあくまで校舎の貸出をしているだけなので、授業講堂等のお問い合わせには回答できかねます。あらかじめご了承ください。

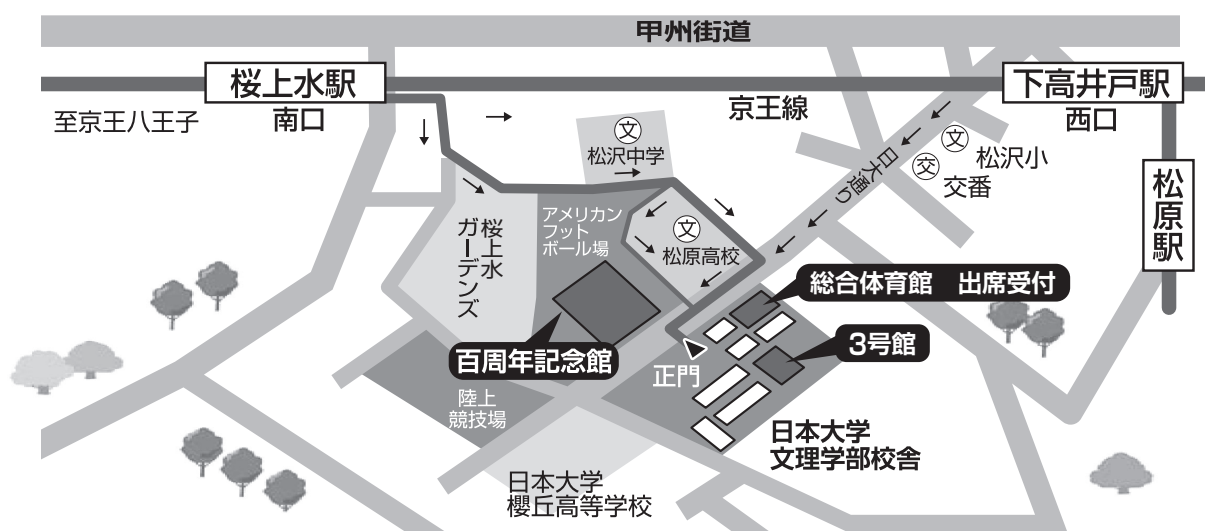
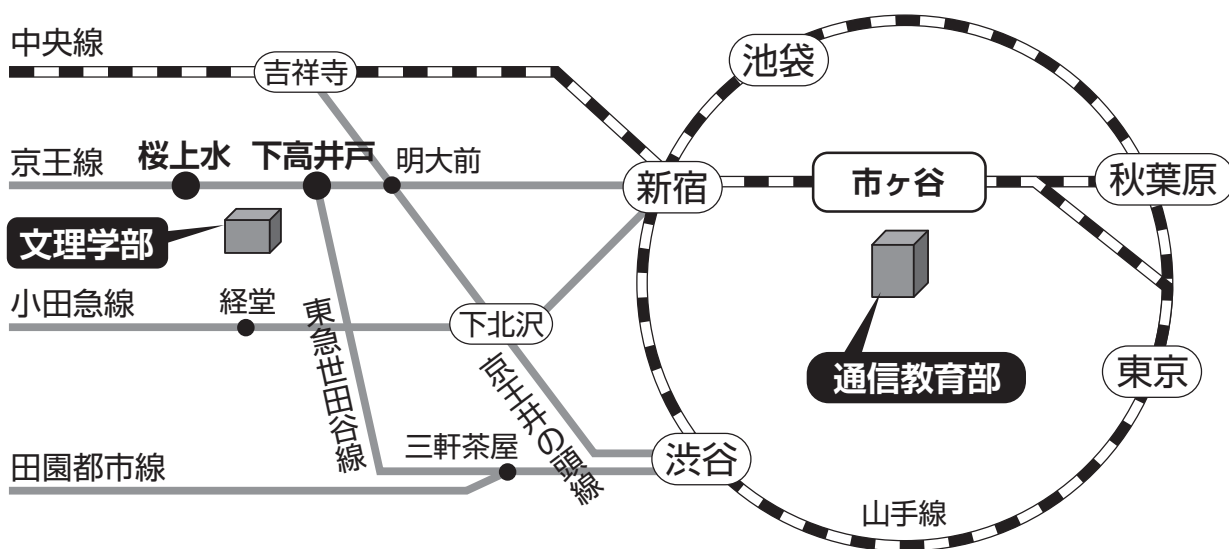
文理学部までの交通

○JR市ヶ谷駅から

JR 総武線・中央線各駅停車（新宿・中野方面）で新宿駅下車。京王線各駅停車，快速及び急行のいずれかに乗り換え，下高井戸駅及び桜上水駅下車徒歩約10分。通信教育部から約45分。

○都営地下鉄新宿線市ヶ谷駅から

新宿・笹塚方面，笹塚駅下車。京王線各駅停車，快速及び急行のいずれかに乗り換え，下高井戸駅及び桜上水駅下車徒歩約10分。通信教育部から約40分。



3 スクーリング結果の確認

スクーリングの結果は、教務課から令和2年度授業料及びスクーリング受講料を納入した学生に対し、ポータルサイトでお知らせします。掲載の開始はポータルサイトの「お知らせ」に掲載します。

電話・郵便による問合せには一切応じることができません。ポータルサイトで確認、又は「単位照合票」の交付を受け、確認してください。

結果内容に疑義がある場合は、結果通知日から3か月以内に問い合わせください。なお、それ以降の疑義に関しては対応いたしません。

結果発表時期	令和2年10月上旬
--------	-----------

※9月卒業の単位には算入できません。

① 結果の表示

結果は、「合格」、「不合格」、「未受講」で発表します。

受講許可のない講座を受験した場合には「無効」とし、単位は修得できません。

② 単位数

結果が「合格」の場合、開講講座表に記載されている開講単位数を修得したことになり、また同時にスクーリング単位も修得したことになります。「講座内容（シラバス）」に記載されている単位数が、それぞれの科目（講座）のスクーリング単位数です。

IX 胸部X線検査

肺結核等の感染症予防を目的として、「胸部X線間接撮影」を実施しています。大学では集団感染を防止する義務があるので、必ず受診してください。また、毎年受診が必要です。

1 対象者

対象者	①昼間スクーリング受講者 ②夜間スクーリング受講者
受診対象から除く者	上記①②対象者であっても、次に該当する場合は受診対象から除く。 ・令和2年度に教育実習又は介護等体験を受講する場合。 ・検査実施日の6か月以内に医療機関において検査を受けている場合。該当する場合は、検査の結果を証明できる診断書（コピー可）を提出する。 ・妊娠等の理由により検査を受けることができない場合。該当する場合は任意の理由書を提出する。 ・就職活動用の健康診断を受診予定の場合。

2 受診日及び時間

令和2年5月12日（火）～5月15日（金）4日間（予定）

10時00分～18時30分（13時00分～14時00分を除く）

※男女別に受診時間を分けて実施します。

3 場所及び受診方法

1階学生ホールに受付を設置します。事前申込は不要。各自都合の良い日・時間に受診してください。

4 受診料

無料（大学負担）

5 受診結果

全員に通知します。なお、受診・健康診断証明書は発行できません。

6 その他注意事項

女性は下着の金属類が写ってしまうため、白無地のTシャツ等を用意していただく方が無難です（検診車内で着替え可）。その他、相談は学生課（03-5275-8921）までお問い合わせください。

- ・ 昼間スクーリング（前期）受講届
- ・ 昼間スクーリング（前期）体育実技受講届
- ・ 「スクーリング」受講講座変更届
- ・ 受講申込辞退願
- ・ 体育実技受講申込辞退願
- ・ 通学定期乗車券発行控

「為替」送付時の注意事項

「証明書交付願」「教材購入願」等の各種手続において、手数料等を郵送にて「定額小為替証書」又は「普通為替証書」で納入する場合には、以下のことに注意してください。

なお、「定額小為替証書」又は「普通為替証書」をゆうちょ銀行又は郵便局窓口で購入する際は、手数料がかかります（詳細は郵便局窓口でご確認ください）。

注意事項①
「証書」と「払渡票」は切り離さないでください。

見本表	定額小為替証書	定額小為替払渡票
	01234-567890	01234-567890
	指定受取人 おなまえ	300円
	おとこ おなまえ	300円
	発行日付印	発行日付印

注意事項②
これらの欄には何も記入しないでください。

「普通為替証書」も同様に、何も記入しないでください。

注意事項④
この欄には何も記入しないでください。

注意事項③
為替の有効期間は発行日から6か月以内ですが、金融機関への手続き等があるため、有効期間が2週間以上残っているものを送付してください。

見本裏	ご 注 意
委任欄	<ol style="list-style-type: none"> この証書をお受取人に送られる際は、表面の指定受取人欄にお受取人のおなまえをご記入下さい。なお、お受取人の指定がない証書については、証書の持参人にお受取人をお支払いすることとし、これにより生じた損害については、当行及び郵便局株式会社（郵便局株式会社）が委託した者を含みます。は責任を負いません。 この証書は、他の銀行等の銀行が定める金融機関以外の銀行に振り出すことができません。 当行または当行と同一の手形交換所に参加している他の銀行等の金融機関にお受取人のご名義の口座をお持ち等の場合、同日中の振金への入金等を行うことができます。なお、証書の発行日から一定期間経過後は、このお取扱いができません。 為替金をお受け取りになるときは、表面の所定の欄におとこ、おなまえを記入し、押印またはご署名をしてください。 為替金をお受け取りを代理の方に委任される場合は、委任欄に代理の方のおなまえと委任者（お受取人）のおとこ、おなまえを記入し、押印を押してください。 代理の方がお受取人になる場合は、表面の所定の欄に「○○○代理人」のように肩書をつけて、代理の方のおとこ、おなまえを記入し、押印を押してください。 ゆうちょ銀行または郵便局内では、お受取人本人であることを確認させていただくため、運転免許証または健康保険証等の書類のご提示をお願いすることがあります。なお、代理の方が為替金をお受け取りになる場合は、代理の方の書類のご提示をお願いすることや、お受取人と代理の方両方の書類のご提示をお願いすることがあります。 発行の日から6か月以内に為替金をお受け取りにならないときは、お申出により証書を再交付いたします。なお、発行の日から5年間が過ぎた場合は、再交付の請求を請求する権利及び為替金を受け取る権利がなくなります。
委任欄	(代理人) おなまえ 上記の者を代理人としてこの証書の金額を受け取ることを委任します。 (委任者) おとこ おなまえ

注意事項⑤
右「受領書」は送付せず、各自で保管してください。郵便事故等で「為替」が行方不明になった場合、この「受領書」が必要になりますので、各種手続が完了するまで大切に保管してください。

見本表	定額小為替金受領証書
01234-567890	300円
	料金 100円
	発行日付印

(お客さま控)

(お客さま控)

□内をすべて記入してください。

提出年月日	令和	年	月	日
-------	----	---	---	---

昼間スクーリング（前期）受講届新入生用

学生番号						フリガナ	
						氏名	

種別コード	A1
-------	----

	曜日	時限	講座コード	講座名	充当科目コード
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
合計		講座（ <u>14講座</u> まで登録できます。）			

<記入例>

	曜日	時限	講座コード	講座名	充当科目コード
1	火	1	A B 1 1	政治学	B 1 1 7 0 0

- ※ 書き損じた場合は修正テープ、修正液で訂正してください。
- ※ 本票で他のスクーリングの受講申込はできません。
- ※ 履修登録を行っていない科目は、本用紙のみでは申込が完了しません。
必ず、履修登録を行ってください。

提出締切日：[窓口] 4月10日（金）事務取扱時間内厳守

事務局使用欄

内をすべて記入してください。

令和 年 月 日

令和2年度昼間スクーリング（前期） 体育実技受講届

講座名 (講座コード)	充当科目名 (充当科目コード)	
体育実技 (AT11)	<input type="checkbox"/>	体育実技Ⅰ (J101S0)
	<input type="checkbox"/>	体育実技Ⅱ (J102S0)



充当科目をどちらか選択し、
○をつけてください。

- 提出締切日 **〔7月24日（金） 必着〕**
- 郵送又は窓口にて、提出してください。
- **これは、昼間スクーリング体育実技の受講届です。**それ以外のスクーリングをこの受講届で申し込んだ場合、無効となります。
- 令和2年9月卒業の単位には算入できません。
- 本受講届は、上記スクーリングの受講に関する事項について使用します。
- 履修登録を行っていない科目は、本用紙のみでは申込が完了しません。必ず、履修登録を行ってください。

学 生 番 号	<input type="text"/>
フ リ ガ ナ	<input type="text"/>
氏 名	<input type="text"/>
自 宅 電 話 番 号	<input type="text"/>
緊 急 時 電 話 番 号	<input type="text"/>

令和 年 月 日

日本大学通信教育部 御中

令和2年度スクーリング受講講座変更届

標記のことについて、既に「受講届」にて申し込んだ受講講座を下記のとおり変更いたしたく、本書面をもってお願いいたします。

記

(当初の受講講座)

スクーリング 開講期	講 座 コード	講座名	充当科目 コード

(変更後の受講講座)

スクーリング 開講期	講 座 コード	講座名	充当科目 コード

上記のとおり相違ありません。

学 生 番 号							
フリガナ	-----						
氏 名							
自宅電話番号							
緊急時電話番号							

教務課受付印

提出締切日： [窓口] 3月13日（金）事務取扱時間内厳守
[郵送] 3月13日（金）必着

併せて提出するもの

全講座辞退→振込用紙

一部講座辞退→振込用紙

返信用封筒（長形3号, 374円切手貼付）

令和 年 月 日

日本大学通信教育部 御中

令和2年度昼間スクーリング（前期）受講申込辞退願

1 学 生 番 号 _____

2 氏 名(フリガナ) _____

3 連絡先電話番号 _____ - _____

- 4 辞 退 内 容 全講座辞退
 (にチェック) ⇒ 振込用紙記載講座すべてを辞退する場合
- 一部講座辞退
 ⇒ 振込用紙記載講座の一部を辞退する場合, 辞退講座のみ を
 以下へ記入

講座コード	講座名	講座コード	講座名

5 辞 退 理 由 (詳述)

※ 提出期限【教務課必着】4 / 10 (金) ※提出期限以降の辞退手続きはできません。

※ 振込用紙と一緒に送付すること。

※ この「辞退願」は「令和2年度昼間スクーリング(前期)」専用です。他のスクーリングの辞退手続きには使用できませんので、各スクーリング専用の「辞退願」を使用してください。

※ 一部講座辞退の場合、374円分の郵便切手(大学からの再送付時の速達郵便料を貼付した長形3号(A4判三つ折の用紙が入る大きさ)の返信用封筒(自分の郵便番号・住所・氏名を明記)を同封すること。

※ 辞退手続きは1回しかできません。

教務課受付印	会計課受付印

令和 年 月 日

日本大学通信教育部 御中

令和2年度昼間スクーリング（前期） 体育実技受講申込辞退願

1 学 生 番 号 _____

2 氏 名(フリガナ) _____

3 連絡先電話番号 _____ - _____

4 辞 退 内 容

講座コード	講座名

5 辞 退 理 由 (詳述)

- ※ 提出期限【教務課必着】8/21（金）
- ※ 提出期限以降の辞退手続きはできません。
- ※ 振込用紙と一緒に送付すること。
- ※ この「辞退願」は「令和2年度昼間スクーリング（前期）体育実技」専用です。他のスクーリングの辞退手続きには使用できませんので、各スクーリング専用の「辞退願」を使用してください。
- ※ 辞退手続きは1回しかできません。

教務課受付印	会計課受付印





通学定期乗車券発行控

令和 年 月 日

学 科	学 年	学 生 番 号		
大 学 院				
フリガナ		性 別	年 齢	
氏 名		男・女	才	
現 住 所				
電 話	()			
通学区間	会社線名	駅～	駅	經由
	会社線名	駅～	駅	經由

※記入後、学生課に提出すること。

日本大学通信教育部長 殿

令和2年度スクーリング受講に係る通学定期券の使用について

私は、令和2年度 以下のスクーリングを受講する予定です。
つきましては、当該スクーリングを受講しなくなった場合には、学生課に申し出た上、通学定期券の使用を中止いたします。

なお、万一、不正使用した場合は、学則に基づき処分を受けることを誓約いたします。

また、本件について、大学から呼び出しされた場合は、その指示に従うことを併せて誓約いたします。

受講スクーリング：

学生番号

氏 名

以 上

XI 付 録

受講申込から受講料
納入までの流れ

講座の選定

時間割

開講講座表・
シバスと授業料
(火曜日)

開講講座表・
シバスと授業料
(水曜日)

開講講座表・
シバスと授業料
(木曜日)

開講講座表・
シバスと授業料
(金曜日)

受講及び試験

申込講座の
許可と不許可

受講準備

体育実技の
受講について

胸部X線検査

各種用紙

付 録

校舎案内 **市ヶ谷キャンパス** 【所在地】〒102-8005 東京都千代田区九段南 4-8-28



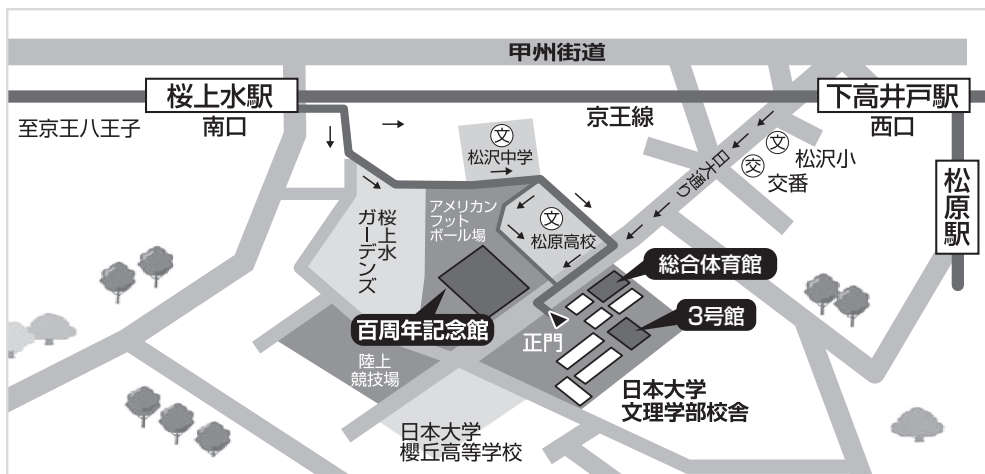
JR 中央・総武線 (各駅停車)

市ヶ谷駅下車 徒歩3分

都営地下鉄新宿線, 東京メトロ有楽町線・南北線

市ヶ谷駅 A2 出口から 徒歩2分

世田谷キャンパス 【所在地】〒156-8550 東京都世田谷区桜上水 3-25-40



京王線下高井戸駅 又は、桜上水駅から 徒歩約10分

丸沼書店案内図 【所在地】〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町 2-8-12



JR 中央・総武線 (各駅停車), 都営地下鉄三田線
水道橋駅東口から 徒歩2分

都営地下鉄三田線・新宿線, 東京メトロ半蔵門線
神保町駅 A4 出口から 徒歩5分

スクーリング手続 チェックシート

このシートは、受講届の記入からスクーリングを受講するまでの確認用です。

チ ャ ッ ク 項 目	参 照
◆受講届の記入	
<input type="checkbox"/> 希望する科目の履修登録は済んでいますか	VI-1 履修登録をする表紙 (③履修登録締切日)
<input type="checkbox"/> 申し込む「受講届」用紙の選択に間違いはありませんか	巻末「受講届」
<input type="checkbox"/> <input type="text"/> 内の必要事項の記入漏れはありませんか (講座コード・講座名・充当科目コード・学生番号・氏名・電話番号)	VI-2 講座を申し込む ◆各スクーリングの開講講座表
<input type="checkbox"/> 講座コード・講座名・充当科目コードは一致していますか	◆各スクーリングの開講講座表
<input type="checkbox"/> 希望科目の受講条件は満たしていますか (配当学年・適用カリキュラム・その他受講条件)	IV-1 「開講講座表」の見方 ◆各スクーリングの開講講座表
<input type="checkbox"/> 申し込む開講曜日、開講時限は間違っていないですか	◆各スクーリングの開講講座表
<input type="checkbox"/> 修得済科目を申し込んでいませんか	・単位照合票 ・単位修得状況確認 (ポータルサイト)
◆受講届の提出	
<input type="checkbox"/> 提出締切日に間に合いますか (郵送の場合は締切日必着)	表紙 (③受講申込締切日) VI-2 講座を申し込む
<input type="checkbox"/> 〈推奨〉 申込内容の控えはありますか (受講届のコピー)	
<input type="checkbox"/> 申込完了のメールは届いていますか(ポータルサイトからの申込の場合のみ)	
<input type="checkbox"/> 〈推奨〉 特定記録郵便で発送しましたか	VI-2 講座を申し込む
◆受講料の納入	
<input type="checkbox"/> ポータルサイト「スクーリング・メディア情報一覧」又は、受講資格審査結果通知の内容と振込用紙の内容に間違いはありませんか	VII-1 受講許可を確認する
<input type="checkbox"/> 受講料の納入期限は厳守していますか	VIII 受講料等の納入



各種連絡先

- | | |
|---------------------------------------|--|
| ○スクーリングの手續等に関する事項
教務課 03-5275-8911 | ○各種学修相談に関する事項
学修支援センター 03-5275-8857 |
| ○受講料の振込に関する事項
会計課 03-5275-8925 | ○通学定期・学割に関する事項
学生課 03-5275-8921 |
| ○教材（教科書）に関する事項
研究事務課 03-5275-8890 | |

DISTANCE LEARNING DIVISION, NIHON UNIVERSITY

〒102-8005 東京都千代田区九段南4-8-28 日本大学通信教育部